

平成21年度
東海地震についての
県民意識調査

東海地震についての県民意識調査

目 次

I 調査の概要と調査結果の要約

1 調査の概要	1
1-1 調査目的	1
1-2 調査内容	1
1-3 調査実施概要	1
1-4 標本構成	3
1-5 集計・分析におけるパターン分類の説明	4
1-6 摘要と標本誤差	5
2 調査結果の要約	6
2-1 東海地震について	6
2-2 日ごろの防災対策について	6
2-3 住宅の耐震補強について	7
2-4 自主防災組織・防災訓練について	7
2-5 東海地震が突然発生したときの行動について	8
2-6 警戒宣言が発せられたときの行動について	8
2-7 地震に関する情報について	9
2-8 緊急地震速報について	10
2-9 8月11日に発生した駿河湾を震源とする地震について	10

II 東海地震についての県民意識調査結果

1 東海地震について	11
1-1 東海地震への関心度	11
1-2 2～3年前に比べての関心度	14
1-3 東海地震発生メカニズムの認知と情報の入手先	17
1-4 東海地震による家屋の被害程度	22
1-5 東海地震発生時の津波の速さの認知	26
1-6 東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法	29
2 日ごろの防災対策について	32
2-1 非常持出し用食料の備蓄日数	32
2-2 飲料水の備蓄	38
2-3 家具類の固定	44
2-4 ブロック塀・門柱などの安全対策	47
2-5 東海地震に備えての防災対策	48

3	住宅の耐震補強について	56
3-1	家屋の構造と耐震診断	56
3-2	プロジェクト「TOUKAI-0」の認知	60
3-3	耐震化に対する行政への要望	64
4	自主防災組織・防災訓練について	68
4-1	町内会への加入	68
4-2	自主防災組織への加入と活動状況	69
4-3	自主防災組織の活性化のための方策	74
4-4	地震防災訓練への参加状況	76
4-5	指定避難地の認知	82
4-6	避難所で避難生活を送る場合の心配ごと	84
5	東海地震が突然発生したときの行動について	85
5-1	突然地震が発生したときの行動	85
5-2	地震発生後の防災活動への参加	87
5-3	突然地震が発生したときの自分自身の安全性	89
5-4	突然地震が発生したときの避難行動	92
6	警戒宣言が発せられたときの行動について	94
6-1	警戒宣言発令時の行動	94
6-2	避難該当地域であるかの認識	96
6-3	居宅で警戒宣言が発せられた場合の避難	97
7	地震に関する情報について	100
7-1	情報体系の認知	100
7-2	東海地震予知の可能性	104
7-3	注意情報発表時の行動	106
7-4	注意情報発表時の行政への要望	107
7-5	地震防災情報の入手	109
8	緊急地震速報について	112
8-1	緊急地震速報についての認知	112
8-2	緊急地震速報入手時の行動	117
9	8月11日に発生した駿河湾を震源とする地震について	119
9-1	地震発生時の状況	119
9-2	地震直後の情報入手手段	127
9-3	地震の被害状況	130
9-4	地震直後に入手したい情報	134
9-5	地震経験後に新たに実施した準備や行動	139
付.	調査票（単純集計入り）	143

Ⅰ 調査の概要と調査結果の要約

1 調査の概要

1-1 調査目的

静岡県民の東海地震に対する防災対策の実施状況や東海地震注意情報及び警戒宣言発表時の対応・行動等を調査し、その意識の実態や経年的な変化等を把握することにより、地震防災に係る施策を検討するうえでの基礎資料を得るため。

1-2 調査内容

本調査の質問内容の概要は、以下のとおりである。詳細については巻末の「付 調査票」を参照。

- 1 東海地震について
- 2 日ごろの防災対策について
- 3 住宅の耐震補強について
- 4 自主防災組織・防災訓練について
- 5 東海地震が突然発生したときの行動について
- 6 警戒宣言が発せられたときの行動について
- 7 地震に関する情報について
- 8 緊急地震速報について
- 9 8月11日に発生した駿河湾を震源とする地震について

1-3 調査実施概要

本調査は、以下の要領で実施した。

- | | |
|----------|---|
| (1) 母集団 | 県内に居住する満20～69歳の男女（抽出時点） |
| (2) 標本数 | 2,000サンプル |
| (3) 標本抽出 | 住民基本台帳より無作為2段抽出（平成21年11月1日現在） |
| (4) 調査地域 | 賀茂地域（3市町）
…下田市、河津町、南伊豆町
東部地域（13市町）
…沼津市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、富士市、御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、小山町、清水町、長泉町
中部地域（6市町）
…静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町
西部地域（8市町）
…浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市、森町
以上30市町 |

(5) 調査期間 平成21年11月9日～12月17日

(6) 調査方法 郵送調査法

(7) 回収状況

地 域	標本数	回収数	回収率(%)
賀茂地域	86	52	60.5%
東部地域	602	321	53.3%
中部地域	638	348	54.5%
西部地域	674	361	53.6%
無 回 答	-	13	-
合 計	2,000	1,095	54.8%

※但し、上記回収数は集計対象数。

(8) 調査機関 (株)サーベイリサーチセンター 静岡事務所

1-4 標本構成

《性別》

	標本数 (人)	男性	女性	無回答
賀茂地域	52	23	27	2
東部地域	321	139	179	3
中部地域	348	182	163	3
西部地域	361	165	194	2
無回答	13	5	3	5
全体	1,095	514	566	15

《年代》

	標本数 (人)	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 歳 以上	無回答
賀茂地域	52	4	2	12	12	20	2
東部地域	321	27	50	61	86	94	3
中部地域	348	15	40	59	99	132	3
西部地域	361	52	56	69	83	99	2
無回答	13	0	1	1	3	3	5
全体	1,095	98	149	202	283	348	15

《職業》

	標本数 (人)	正社員として勤務 (会社社員、公務員、 医療関係を含む)	正社員以外として 勤務(パート、フレ キシブルを含む)	自営業	農林漁業経営者	学生	無職	その他	無回答
賀茂地域	52	9	10	14	1	0	16	0	2
東部地域	321	109	67	41	4	2	87	8	3
中部地域	348	120	63	49	6	2	93	11	4
西部地域	361	141	80	40	6	8	73	11	2
無回答	13	3	2	0	0	0	3	0	5
全体	1,095	382	222	144	17	12	272	30	16

《居住年数》

	標本数 (人)	1 年未 満	1 ～ 10 年未 満	10 年 以上	無回答
賀茂地域	52	2	9	39	2
東部地域	321	17	67	234	3
中部地域	348	14	67	264	3
西部地域	361	11	92	256	2
無回答	13	0	1	7	5
全体	1,095	44	236	800	15

1-5

集計・分析におけるパターン分類の説明

「防災準備度」については、日ごろの防災対策の準備度に関連する質問を設定し、それぞれに得点を与えてスケール化し、パターン分類を行った。

パターン分類は、以下の通りである。

1	非常持出し用としての 食料の備蓄日数 問7	1 1日分 } 1点 2 2日分 } 3 3日分 } 4 4日分 } 5 5日分 } 2点 6 6日分 } 7 7日以上 } 8 用意していない 0点
2	飲料水の備蓄日数 問8	1 1日分 } 1点 2 2日分 } 3 3日分 } 4 4日分 } 2点 5 5日以上 } 6 備蓄していない 0点
3	家具類の固定 問9	1 大部分固定している 2点 2 一部固定している 1点 3 固定していない 0点
4	東海地震に対する防災対策 問11	1~14の記入合計が 1~3個 ... 1点 4~7個 ... 2点 8~12個 ... 3点 13~15個 ... 4点 1~14の記入がない場合 } 15 特に備えていない } 0点
5	耐震診断の実施 問12-3	1 ある 1点 2 検討中 } 0点 3 ない }
6	自主防災組織への加入 問16	1 入っている 1点 2 入っていない 3 自主防災組織はない ... 0点 4 わからない
7	地震防災訓練への参加 問18	1 参加した(1~3) 各1点(計3点) 4 機会がなかった(訓練はなかった) } 5 参加しなかった } 0点
合 計		15点

上表の質問について、それぞれの回答の得点を加算し、防災準備度を次のように

「高」「中」「低」に分類した。

得点合計が「11~15点」の者・・・防災準備度「高」

「6~10点」の者・・・防災準備度「中」

「0~5点」の者・・・防災準備度「低」

- (1) 図中の「N」は、回答総数 (Number) を示し、「M. A.」は、複数回答可 (Multi Answer) を示す。
- (2) すべての集計は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても、100%にならず、1%の範囲で増減することがある。
- (3) 回答比率 (%) は、その設問の回答者数を基数 (N) として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超える。
- (4) 標本誤差 (サンプル誤差) はおおよそ下表のとおりである。

$$\varepsilon = 2 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

ε : 標本誤差
 n : 標本の大きさ
 P : 回答比率

回答比率	基数	標本誤差	信頼範囲
10% (90%)	1,095	±1.8	8.2~11.8 (88.2~91.8)
20% (80%)	1,095	±2.4	17.6~22.4 (77.6~82.4)
30% (70%)	1,095	±2.8	27.2~32.8 (67.2~72.8)
40% (60%)	1,095	±3.0	37.0~43.0 (57.0~63.0)
50%	1,095	±3.1	46.9~53.1

この表の見方は次のとおりである。

「ある設問の回答者が1,095人であり、その設問中の選択肢の回答率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.0である。」

- (5) 選択肢において、「その他」の具体的記述欄に同じ内容の回答が多数あった場合は、グラフ中で新たな回答項目として整理し、比較している。

2 調査結果の要約

2-1 東海地震について

東海地震についての関心度については、「非常に関心がある」（49.8%）と「多少関心がある」（45.8%）を合わせた95.6%が関心を示している。「非常に関心がある」は、平成19年度調査（以下「前回」と表記する）より6.6ポイント上回っている。

2～3年前に比べての関心度の変化については、「2～3年前よりも関心を持つようになった」（58.0%）が、前回より22.3ポイント上回っている。また、「変わらない」（38.0%）が前回より15.6ポイント下回っている。

東海地震発生メカニズムについては、「よく知っている」（8.1%）と「ある程度知っている」（62.4%）を合わせた70.5%がメカニズムを認知している。女性61.5%より男性80.2%の認知率が高くなっている。

東海地震発生メカニズムに関する情報の入手経路については、「テレビ・ラジオ」（89.8%）が8割以上を占め、次いで、「新聞」（53.9%）、「県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等」（25.5%）の順となっている。性・年代別でみると、「県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等」は、年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られる。

東海地震による家屋の被害程度については、「家の一部が壊れる」（42.6%）と「家のほとんどが壊れる」（26.4%）を合わせた69.0%が何らかの被害があると予想している。

東海地震発生時の津波の速さの認知については、「5分以内」（49.7%）と「10分以内」（25.9%）を合わせた75.6%が津波の速さは10分以内であることを認知している。

東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法については、「テレビによる報道」（71.9%）が7割以上を占めている。

2-2 日ごろの防災対策について

非常持出し用食料の備蓄については、「3日分」以上用意している家庭が34.9%で、平均備蓄日数は1.9日となっている。「3日分」以上の備蓄率を経年比較すると、この数年では増加している。また、居住年数別でみると、居住年数が長いほど備蓄率は高くなっている。

食料を備蓄していない人の食料確保の手段については、「考えていない」（44.8%）、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」（18.2%）の割合が高くなっている。

飲料水の備蓄については、「3日分」以上用意している家庭が33.1%で、平均備蓄日数は1.9日となっている。「3日分」以上の備蓄率を経年比較すると前回より7.5ポイント上回っている。また、居住年数別でみると、居住年数が長いほど備蓄率は高くなっている。

飲料水を備蓄していない人の飲料水確保の手段については、「考えていない」（43.7%）、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」（18.1%）の割合が高くなっている。

家具類の固定については、「大部分固定している」（14.6%）と「一部固定している」（54.7%）を合わせた69.3%が固定を実施している。固定実施率を経年比較すると年々高くなる傾向が見られる。

家具を固定していない理由については、「手間がかかるから」（20.0%）、「固定をしても被害は出ると思うから」（15.2%）と固定しない理由は分散している。

ブロック塀や門柱などの安全対策の実施状況については、「点検した」が20.7%で、点検結果は「安全」が62.1%となっている。

ブロック塀や門柱を所有しながらも点検していない理由については、「点検方法が分からないから」（25.6%）、「点検しなくても大丈夫だと思うから」（23.6%）が主な理由としてあげられている。

東海地震に備えての防災対策については、「非常持出し品を用意している」（49.8%）が最も高く、次いで「消火器などを用意している」（42.1%）、「警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている」（32.4%）、「風呂にいつも水を入れている」（27.1%）の順となっている。

用意している非常持出し品の品目については、「懐中電灯」（92.5%）が最も高く、次いで「携帯ラジオ」（71.2%）、「飲料水」（69.4%）、「非常食」（67.9%）の順となっており、平均準備品目数は9.3品となっている。

2-3 住宅の耐震補強について

家屋の構造については、「木造住宅」（71.4%）が最も高く、次いで「鉄骨造住宅」（15.5%）、「鉄筋コンクリート造住宅」（8.6%）の順となっている。

「木造住宅」の建築時期については、「昭和56年5月以前」（37.6%）は3割となっており、「昭和56年5月以前」に建築された木造住宅の無料耐震診断の認知度については、「知っている」が（71.0%）と7割以上を占めている。

「木造住宅」の耐震診断の実施率については、「ない」（80.1%）が8割を超えており、「ある」（12.4%）は1割程度となっている。

木造住宅の耐震診断の結果については、「補強が必要」（54.6%）が5割を超えており、補強の実施の有無については、「した」（37.7%）と「検討中」（24.5%）を合わせた62.2%が補強に積極的となっている。

補強を行わない理由については、「費用がかかるから」（57.9%）が前回より22.9ポイント下回っている。

プロジェクト「TOUKAI-0」の認知については、「内容までよく知っている」（5.8%）と、「一部知っている」（34.3%）を合わせた40.1%がある程度内容まで認知している。

認知経路については、「県や市町の広報誌」（55.7%）が最も高く、次いで「新聞記事」（33.0%）、「テレビ・ラジオ」（32.7%）の順となっている。

知ってからの行動については、「専門家による耐震診断を実施した」（10.9%）、「今後、自宅の耐震補強をしたいと考えている」（8.0%）、「簡易耐震診断を自分で行った」（6.4%）、「今の自宅を建て替えることにした」（3.2%）、「が1割であるのに対し、「自宅は木造住宅であるが、特に何もしていない」（27.5%）が高くなっている。

耐震化に対する行政への要望については、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」（49.9%）が最も高く、次いで「相談窓口の設置」（33.2%）、「専門家の派遣」（25.5%）の順となっている。

2-4 自主防災組織・防災訓練について

町内会への加入については、「入っている」（92.5%）が9割を超えている。居住年数別で見ると、10年以上では94.0%、1年未満では81.8%となっており、居住年数が長いほど加入率は高くなっている。

自主防災組織への加入については、「入っている」（71.8%）が約7割となっている。活動状況は、「まあまあ活動している」（63.1%）と「活発である」（12.7%）を合わせた75.8%が活動は活発だと認めている。

自主防災組織の活性化のための方策については、「自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする」（62.3%）が6割を占めている。

過去1年間における何らかの地震防災訓練への参加については、訓練参加率は63.3%である。性別でみると、女性（58.3%）より男性（68.5%）の参加率が高くなっている。

地震防災訓練に参加しなかった理由については、「仕事や用事があったから」（55.7%）が最も高く、次いで「訓練実施を知らなかったから」（10.7%）、「毎回同じ訓練内容だから」（6.9%）、「面倒だったから」（6.0%）の順となっている。性・年代別でみると、「仕事や用事があったから」が男性20代（70.6%）、男性40代（70.0%）で特に高くなっている。

指定避難地の認知については、「どこが避難地であるか知っている」（73.4%）が7割を超えているが、居住年数別でみると、1年未満では52.3%と低くなっている。

避難所で避難生活を送る場合の心配ごとについては、心配あり（「非常に心配」と「ある程度心配」の数字を合わせた項目）と答えた上位5項目では、「自分や家族が病気になったときの医療問題」（91.1%）と「トイレの問題」（90.7%）が9割以上となっている。次いで「食料や水の問題」と「離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる」（87.3%）、「洗濯や入浴の問題」（84.8%）の順となっており、いずれも8割以上となっている。

2-5 東海地震が突然発生したときの行動について

突然地震が発生したときの行動については、まず最初にすることは「テレビやラジオで正確な情報を得る」（40.3%）と「家の中の整理や火の始末をする」（21.4%）の2つの行動が主となっている。

※ 突発地震時、警戒宣言発令時、注意情報発表時の行動比較は86ページを参照。

地震発生後の防災活動への参加については、「わからない」（53.0%）が最も高く、次いで「参加する」（38.3%）となっている。

突然地震が発生したときの自分自身の安全性については、「軽いけがぐらいはするかもしれない」（43.9%）が最も高く、次いで「死ぬ恐れもあると思う」（24.8%）、「大けがをする危険があると思う」（16.3%）、「まず無事だと思う」（12.4%）の順となっている。

突然地震が発生したときの避難行動については、「市町が指定した避難地」（46.3%）が最も高く、次いで「避難しない」（32.8%）、「自宅周辺の広場など指定された避難地以外の場所」（15.6%）の順となっている。

2-6 警戒宣言が発せられたときの行動について

警戒宣言発令時の行動については、まず最初にすることは「テレビやラジオで正確な情報を得る」（52.4%）が最も高くなっており、次いで「家の中の整理や火の始末をする」（14.6%）となっている。次にすることについては、「非常持出し品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」（55.2%）が最も高くなっており、次いで「家族と電話で連絡をとる」（46.6%）、「家の中の整理や火の始末をする」（38.1%）の順となっている。

※ 突発地震時、警戒宣言発令時、注意情報発表時の行動比較は86ページを参照。

警戒宣言が発せられたとき、避難が必要な地域に住んでいるかについては、「わからない」（48.5%）が4割を超えている。

警戒宣言時の避難場所については、「市町で指定した避難地」（50.4%）が最も高く、次いで「自宅にいる」（37.6%）となっている。

避難するときの交通手段については、「徒歩」（85.1%）が8割を超えている。また、避難時に「自家用車」を使用すると答えた人は6.2%で、自家用車で避難する理由については、「子ども

や高齢者がいるから」(42.5%)が最も高くなっている。

避難地における生活については、「体育館や学校校舎など屋内での生活になると思う」(54.2%)が5割を超えている。

市町で指定した避難地へ避難しない理由については、「避難地自体が安全だと思わないから」(13.0%)、「避難の際、住民の間でパニックなどの混乱が予想されるから」(9.8%)、「高齢者や病人がいるから」(9.2%)などとなっている。

2-7 地震に関する情報について

情報体系の認知については、「情報名は知っているが内容までは知らない」(64.5%)が過半数を超えている。

東海地震の予知の可能性については、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」(59.3%)が6割弱を占め、予知への期待はあまり高くない。経年比較でみると、平成13年12月の調査以降、「5割くらいの確率で予知できると思う」の割合が低下傾向にあり、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」の割合が上昇傾向にある。

東海地震注意情報発表時の行動については、**まず最初にすることは**「テレビやラジオで正確な情報を得る」(61.6%)が6割を超えている。

次にすることについては、「非常持出し品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(60.7%)が最も高く6割を超えており、次いで「家族と電話で連絡をとる」(43.8%)、「家の中の整理や火の始末をする」(41.2%)、「飲料水の用意や風呂に水をためる」(39.4%)の順となっている。

※ 突発地震時、警戒宣言発令時、注意情報発表時の行動比較は86ページを参照。

東海地震注意情報発表時の行政への要望については、「緊急物資(食料・飲料水・医薬品等)を準備してほしい」(53.7%)が最も高く過半数を超えており、次いで「情報発表後に予想される社会的混乱(交通・通信・物価等)を防止してほしい」(43.6%)、「地震発生までの県民のとるべき行動の広報・啓発をしてほしい」(38.4%)の順となっている。

地震防災に関する情報の入手について19項目を「はい」「いいえ」で聞いたところ、「町内の防災倉庫がある場所を知っている」(73.2%)、「地震防災に関するパンフレットを読んだことがある」(71.6%)、「「自主防災」新聞を見たことがある」(63.7%)、「災害用伝言ダイヤル「171」を知っている」(62.7%)が6割以上と高いが、半数以上の人を知っていると回答したものは、全19項目中6項目と全体的に知らない情報が多い傾向が見られる。

緊急地震速報の認知については、「名前も内容も知っていた」（51.5%）が前回より35.7ポイント上回っており、認知度が高くなっている。

緊急地震速報の精度の誤差については、「知っている」（65.9%）が過半数を超えており、「知らない」（20.4%）は2割程である。

緊急地震速報を受け取った時の行動を考えたことがあるかについては、「考えたことがある」（67.3%）が7割弱となっており、「考えたことがない」（28.3%）を大きく上回っている。東海地震への関心度では、関心が高いほど割合が高くなっており、「非常に関心がある」（71.8%）で7割となっている。防災準備度別でみると、「防災準備度「高」」（81.3%）で8割となっている。地震メカニズム認知別でみると、地震メカニズムの認知度が高いほど割合が高くなっており、「よく知っている」（83.1%）と「まったく知らない」（53.8%）では、29.3ポイントの差が見られる。

緊急地震速報を入手時の行動については、「その場で身の安全を図る」（74.0%）が最も高く、次いで「屋外へ避難する」（20.5%）、「何もしない」（1.6%）の順となっている。

地震発生時の状況については、「寝ていたが気がついた」（72.4%）と、「起きていたので気がついた」（20.9%）を合わせた93.3%が地震に気がついている。地震発生から揺れがおさまるまでにとった最初の行動は、「じっと様子をみていた」（48.8%）が過半数となっている。2番目にとった行動は「就寝中の家族を起こした」（16.7%）、3番目にとった行動は「まわりの人の安全を確かめようとした」（13.6%）が高くなっている。

地震直後の、地震情報の入手手段は、「テレビ」（91.8%）が大半を占めている。

地震の被害状況については、「被害がなかった」（74.3%）が7割を超えており、「被害があった」と答えた人は2割程度となっている。被害があったと答えた人の被害状況は、「棚の上のものが落ちた」（55.9%）が最も高くなっている。次いで「瓦がずれたり落ちたりした」（39.0%）、「食器棚の中のものが落ちた」（34.6%）と、いずれも3割を超えている。

地震直後に入手したい情報については、「まもなく大きな地震が来る前ぶれかどうか」（66.9%）、「余震の可能性」（60.4%）、「今回の地震についての、震源地や規模など」（59.5%）、「今回の地震が東海地震かどうか」（55.0%）がいずれも過半数を超えている。

地震を経験した直後に、防災対策に対する準備や行動で実施したことは、「食料・飲料水を備蓄した」（24.6%）が最も高く、次いで「棚の上の重いものをおろした」（17.1%）、「非常持出し品を用意した」（16.9%）、「家具が倒れないように固定した」（16.0%）などとなっている。

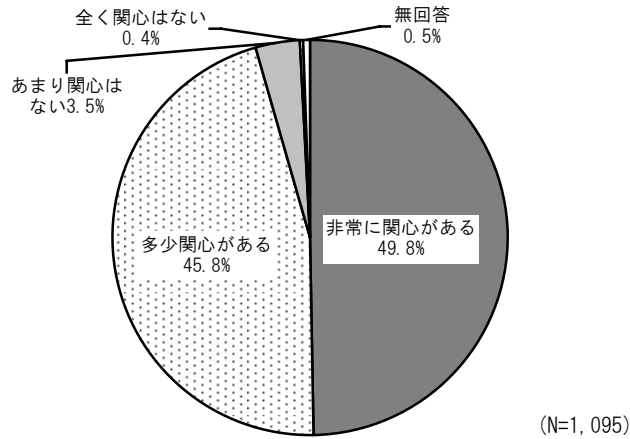
今後実施する予定の準備や行動は、「非常持出し品を用意した」（29.0%）、「食料・飲料水を準備した」（21.6%）が2割を超えている。

II 東海地震についての県民意識調査結果

1 東海地震について

1-1 東海地震への関心度

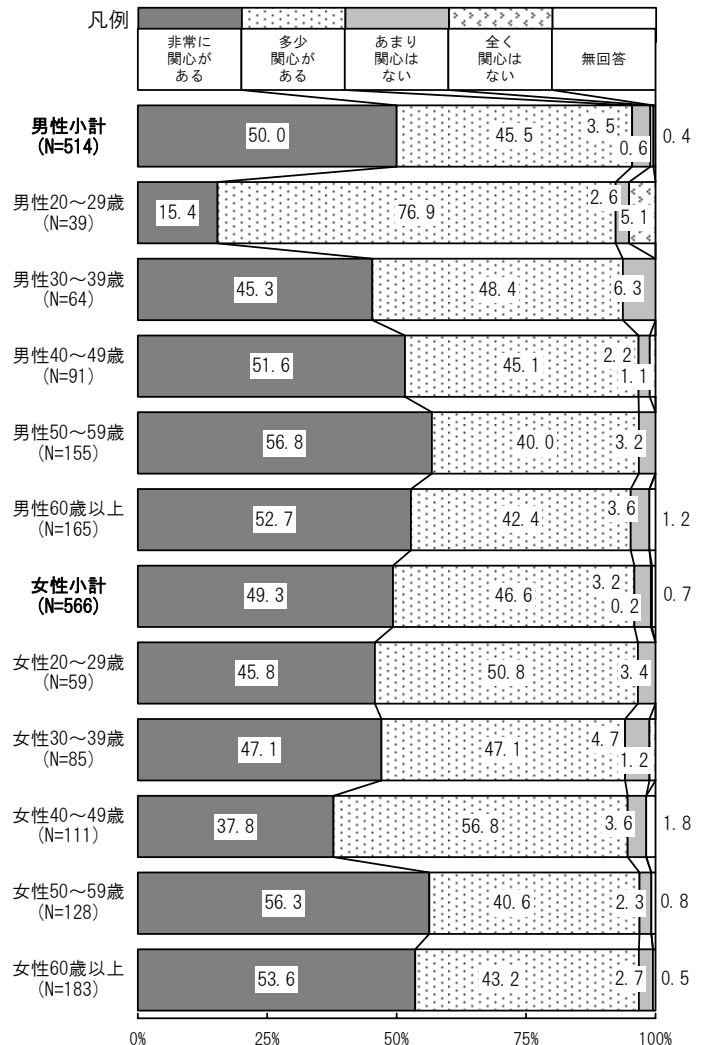
問1 あなたは現在、東海地震にどの程度の関心を持っていますか。



東海地震への関心度についてたずねたところ、「非常に興味がある」(49.8%)と「多少興味がある」(45.8%)を合わせた95.6%が関心を持っている。

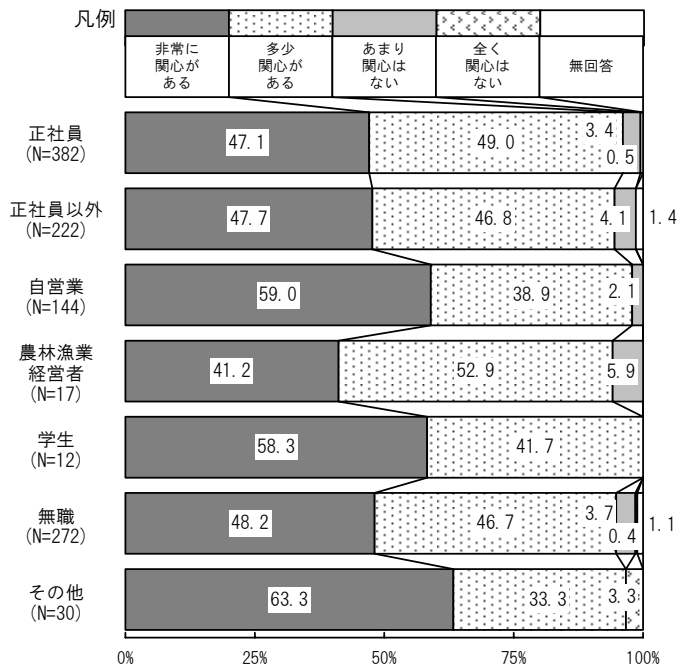
性・年代別でみると、「非常に興味がある」については、男性では、『50代』(56.8%)の割合が最も高くなっている。女性においても、『50代』(56.3%)の割合が最も高くなっている。「非常に興味がある」は、年代が若いほど関心が低い傾向が見られ、特に『男性20代』(15.4%)は2割を下回っている。

東海地震への関心度 <性・年代別>



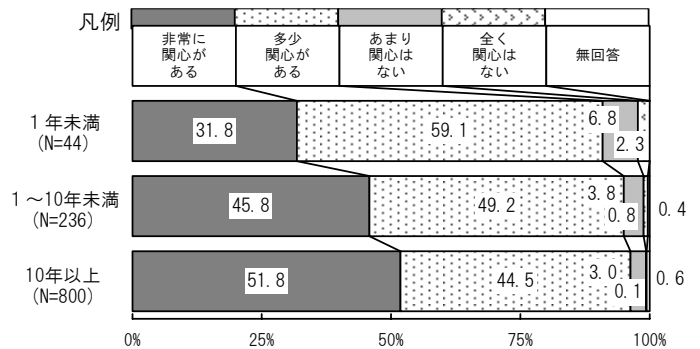
東海地震への関心度 <職業別>

職業別でみると、「非常に関心がある」は、『自営業』(59.0%)、『学生』(58.3%)が過半数を超えている。



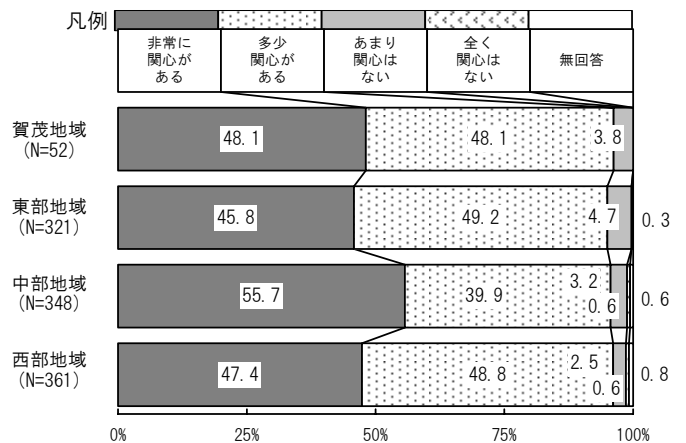
<居住年数別>

居住年数別でみると、「非常に関心がある」は、最も高い『10年以上』(51.8%)と最も低い『1年未満』(31.8%)では20.0ポイントの差が見られる。



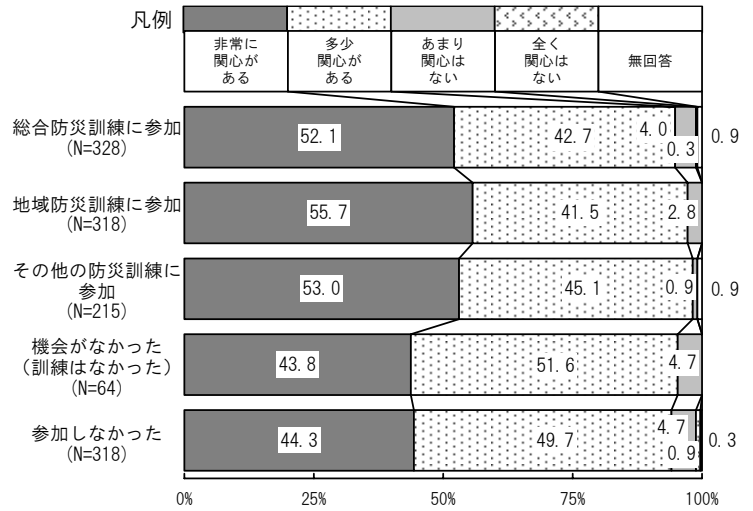
<地域別>

地域別でみると、「非常に関心がある」は、『中部』(55.7%)が過半数を超えており、他の地域(『賀茂』、『東部』、『西部』)においては4割強となっている。



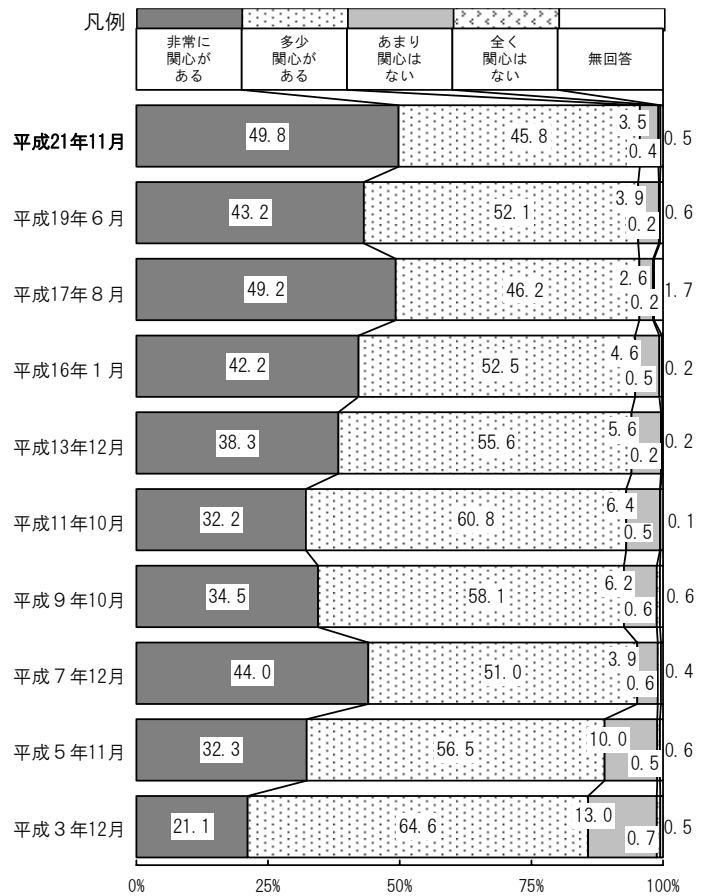
東海地震への関心度 ＜防災訓練参加状況別＞

防災訓練参加状況別でみると、「非常に関心がある」は、『地域防災訓練に参加』(55.7%)、『その他の防災訓練に参加』(53.0%)と、いずれも過半数を超えている。一方、訓練に『参加しなかった』(44.3%)、『機会がなかった(訓練はなかった)』(43.8%)は、やや低くなっている。



＜経年比較＞

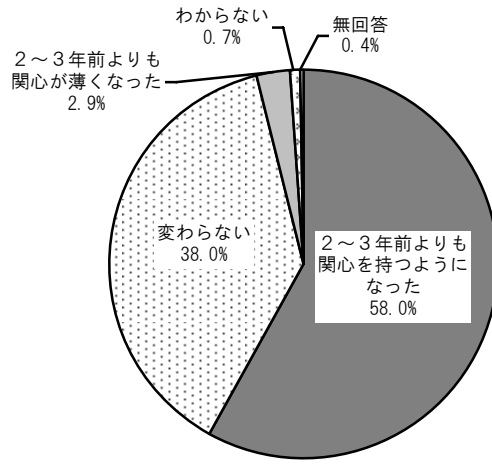
経年比較でみると、「非常に関心がある」は、前回調査(43.2%)に比べると6.6ポイント上回っている。



この調査項目は平成3年度調査から設定した。

1-2 2～3年前に比べての関心度

問2 あなたは、東海地震に対して、2～3年前に比べて関心を持つようになりましたか。

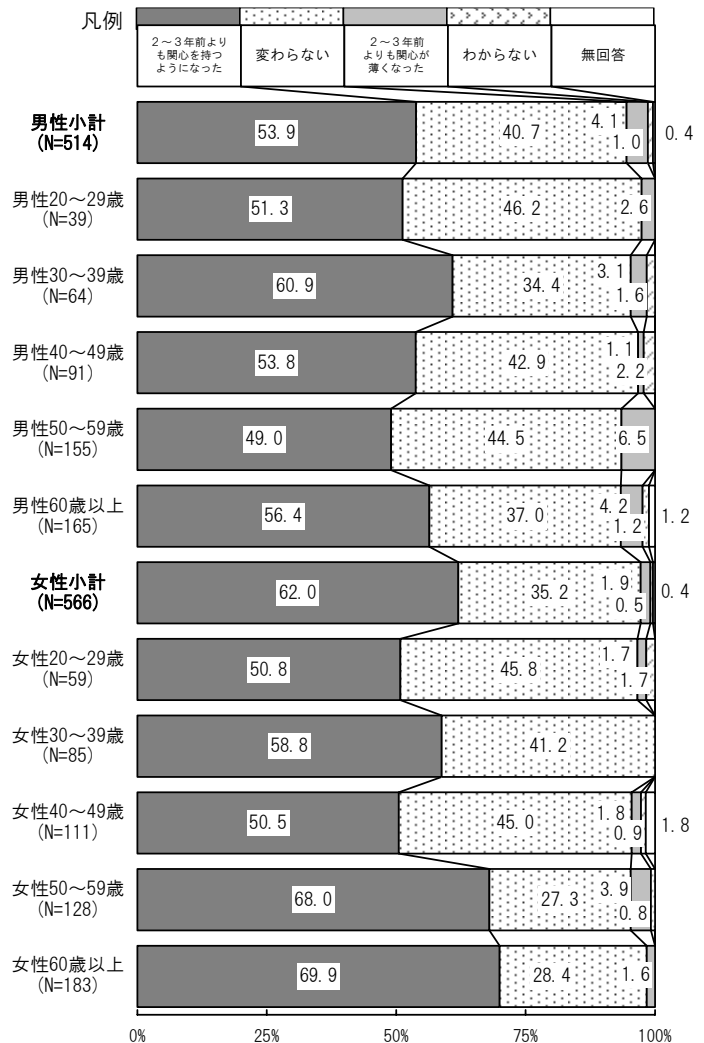


(N=1,095)

2～3年前からの関心度の変化についてたずねたところ、「2～3年前よりも関心を持つようになった」(58.0%)の割合が最も高く、次いで「変わらない」(38.0%)、「2～3年前よりも関心が薄くなった」(2.9%)の順となっている。

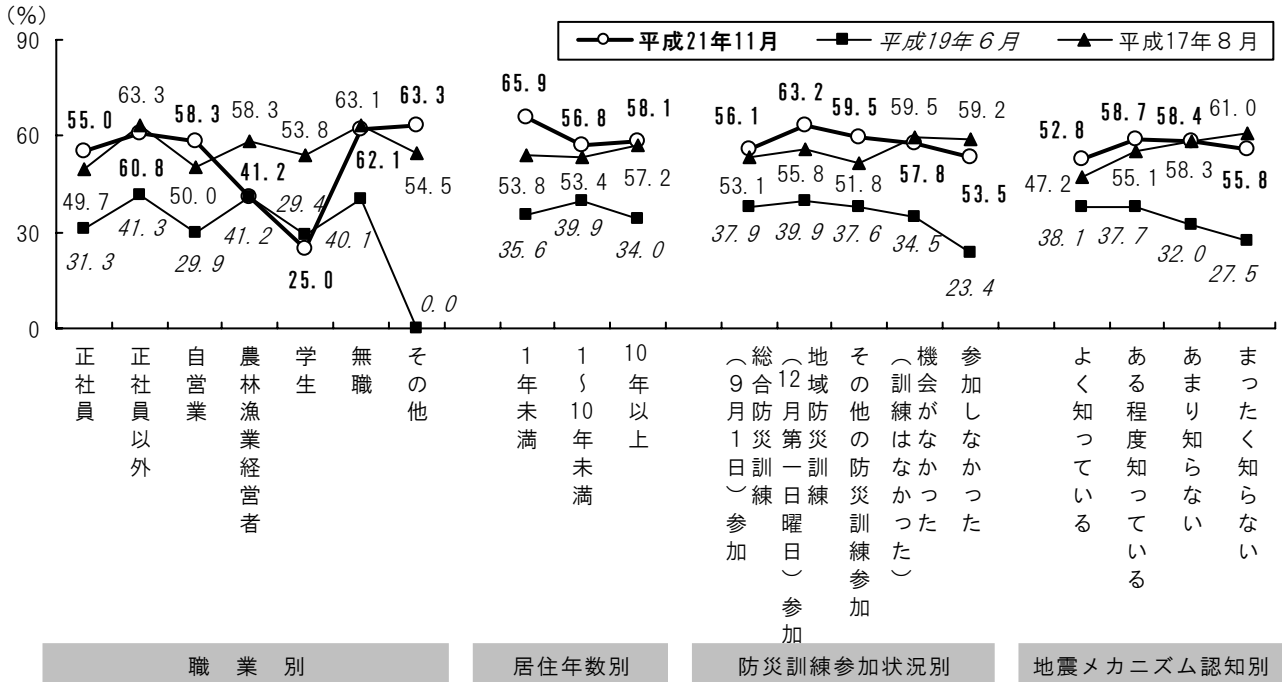
性・年代別でみると、「2～3年前よりも関心を持つようになった」は、男性では『30代』(60.9%)が、女性では『60歳以上』(69.9%)と『50代』(68.0%)が、いずれも6割を超えている。

2～3年前からの関心度の変化
＜性・年代別＞



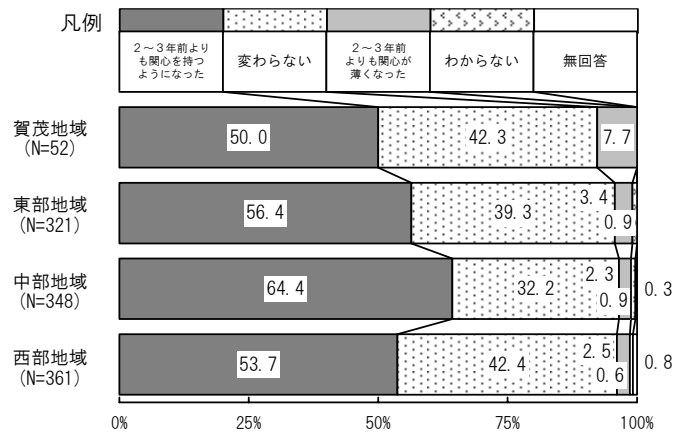
「2～3年前よりも関心を持つようになった」の割合を各属性別でみると、**職業別**では『無職』（62.1%）、『正社員以外』（60.8%）、『自営業』（58.3%）が他と比較すると高くなっている。
居住年数別でみると、『1年未満』（65.9%）が他と比較すると高くなっている。
防災訓練参加状況別でみると、『地域防災訓練に参加』（63.2%）が他と比較して高くなっている。

「2～3年前よりも関心を持つようになった」の割合 <属性別>



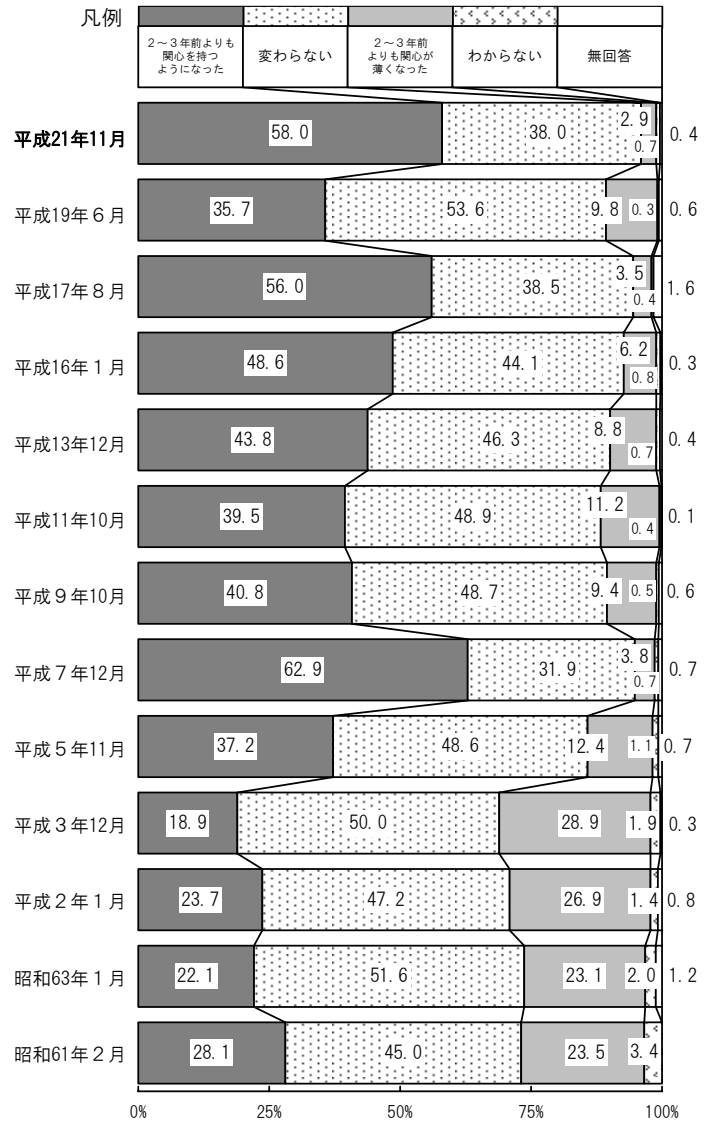
地域別でみると、「2～3年前よりも関心を持つようになった」は、最も高い『中部』（64.4%）と、最も低い『賀茂』（50.0%）では14.4ポイントの差が見られる。

2～3年前からの関心度の変化 <地域別>



2～3年前からの関心度の変化 ＜経年比較＞

経年比較でみると、阪神・淡路大震災が起きた年の調査（平成7年12月）で「2～3年前よりも関心を持つようになった」（62.9%）が最も高くなっている。今回調査（58.0%）では駿河湾を震源とする地震（平成21年8月）が起きたこともあり、前回調査（35.7%）より22.3ポイント上回っている。また、「変わらない」（38.0%）が前回調査（53.6%）より15.6ポイント減少している。



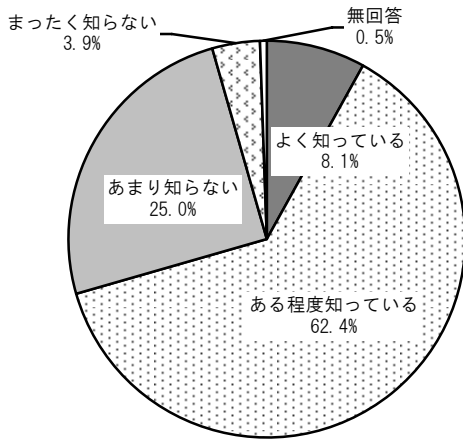
1-3 東海地震発生メカニズムの認知と情報の入手先

問3 あなたは、東海地震が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。

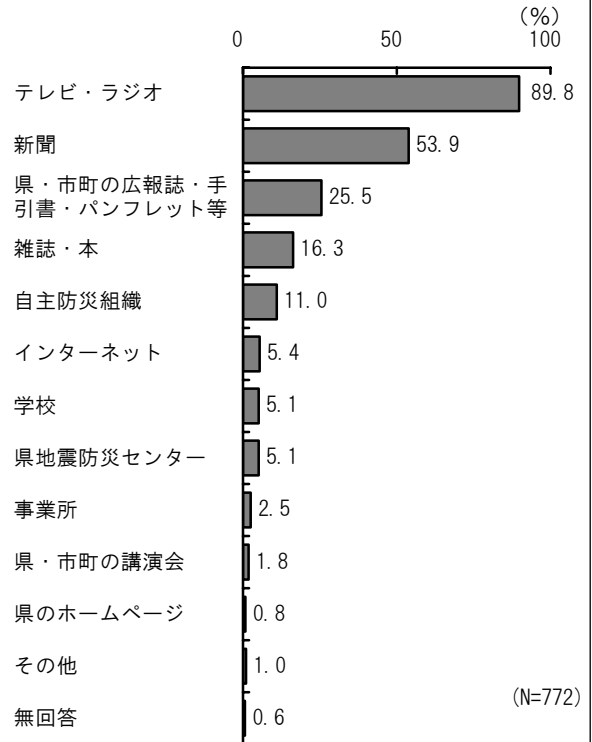
問3-1 <問3で「1 よく知っている」「2 ある程度知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

その知識はどこから入手しましたか。

(M. A.)



(N=1,095)



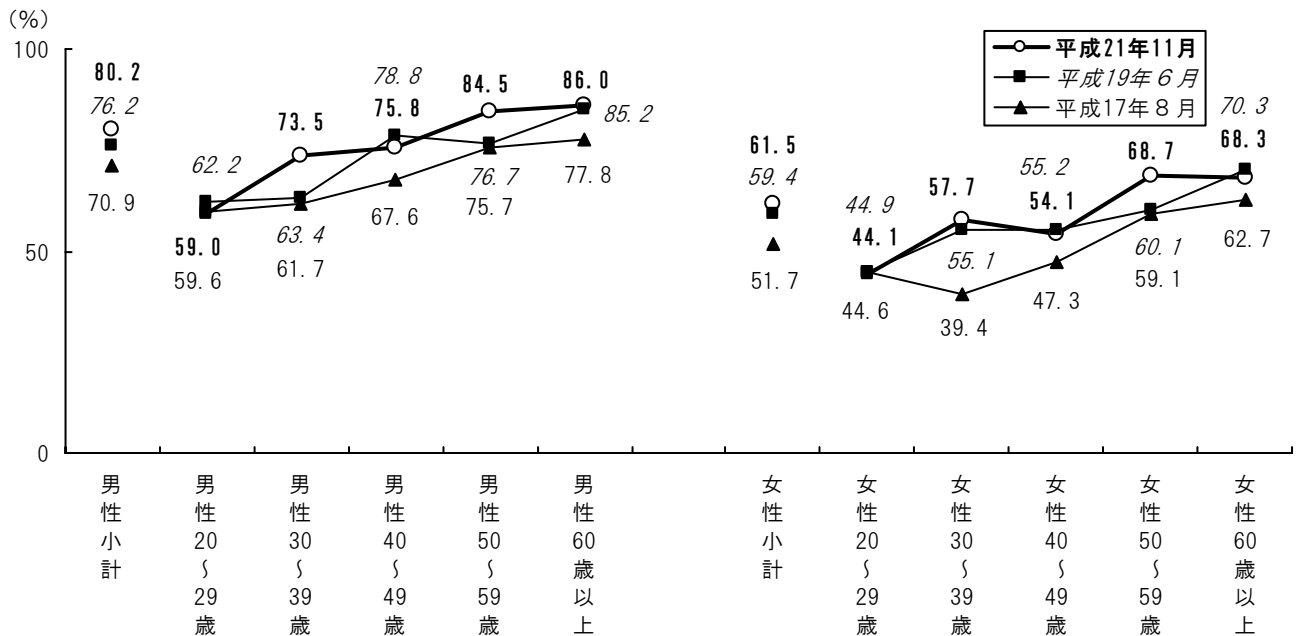
(N=772)

東海地震発生メカニズムの認知についてたずねたところ、「ある程度知っている」（62.4%）の割合が最も高く、次いで「あまり知らない」（25.0%）、「よく知っている」（8.1%）、「まったく知らない」（3.9%）の順となっている。

東海地震発生メカニズムの知識の入手については、「テレビ・ラジオ」（89.8%）、「新聞」（53.9%）が過半数を超えている。以下、「県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等」（25.5%）、「雑誌・本」（16.3%）、「自主防災組織」（11.0%）の順となっている。

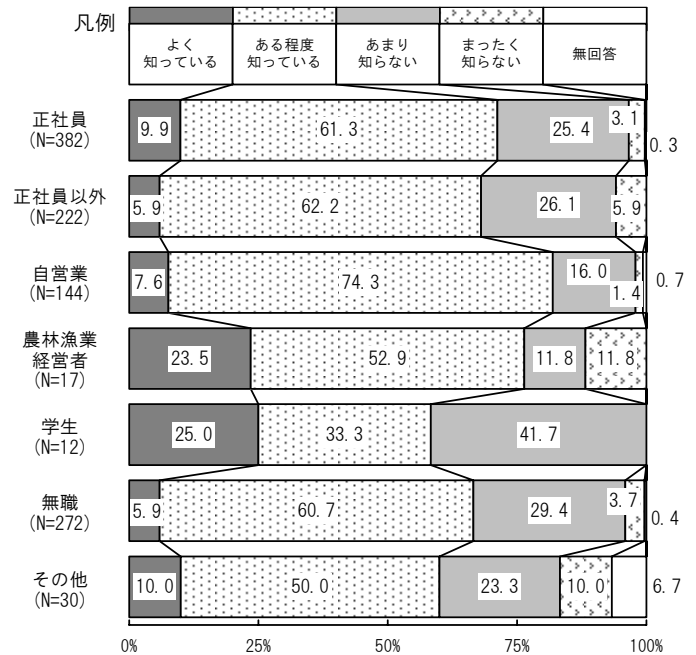
性・年代別でみると、「認知合計」（「よく知っている」＋「ある程度知っている」）は、いずれの年代においても男性が女性を上回っている。特に、『男性60歳以上』（86.0%）、『男性50代』（84.5%）で非常に高くなっている。年代が若いほど「認知合計」は低い傾向が見られ、特に『女性20代』（44.1%）は「認知合計」が最も低くなっている。

東海地震のメカニズムの認知 <性・年代別>



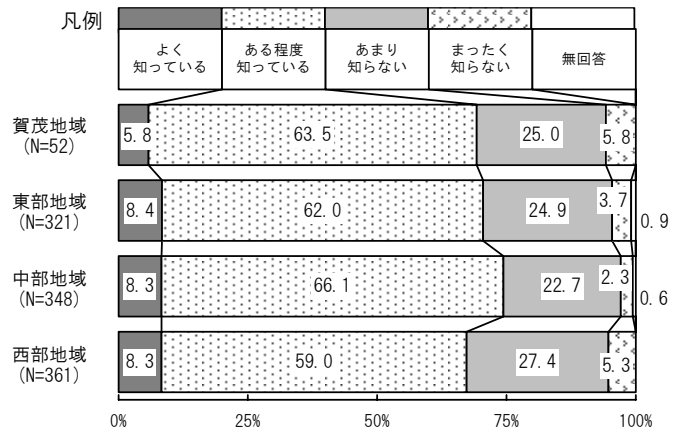
<職業別>

職業別でみると、「認知合計」（「よく知っている」＋「ある程度知っている」）においては、『自営業』（81.9%）が最も高く、次いで『農林漁業経営者』（76.4%）、『正社員』（71.2%）の順となっている。



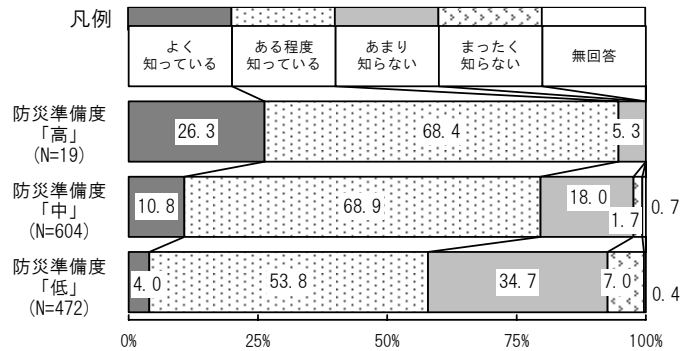
東海地震のメカニズムの認知 <地域別>

地域別でみると、地域による東海地震のメカニズムの認知には差が見られない。



<防災準備度別>

防災準備度別でみると、「認知合計」（「よく知っている」＋「ある程度知っている」）は、『防災準備度「高」』（94.7%）が他よりも高くなっている。一方、『防災準備度「低」』は、「あまり知らない」＋「まったく知らない」（41.7%）が他よりも高くなっている。



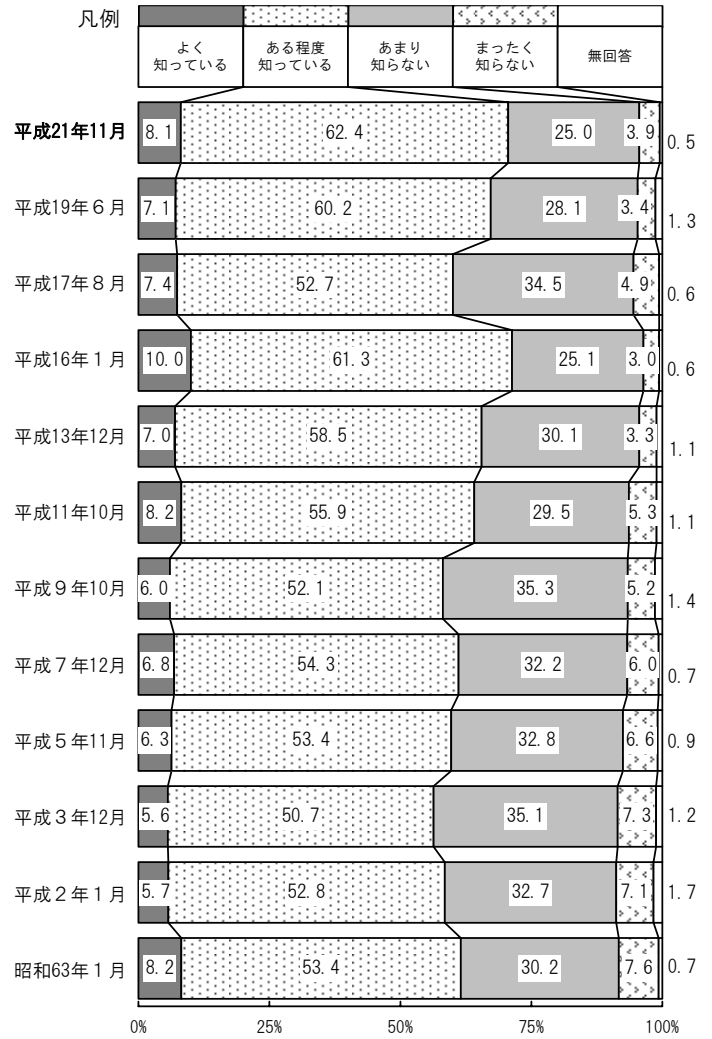
東海地震のメカニズムの認知 ＜経年比較＞

経年比較でみると、「認知合計」（「よく知っている」＋「ある程度知っている」）は、おおよそ増加傾向にあり、今回調査（70.5%）は前回調査（67.3%）より3.2ポイント上回っている。

東海地震発生メカニズムの 認知合計 経年比較

「よく知っている」
＋
「ある程度知っている」

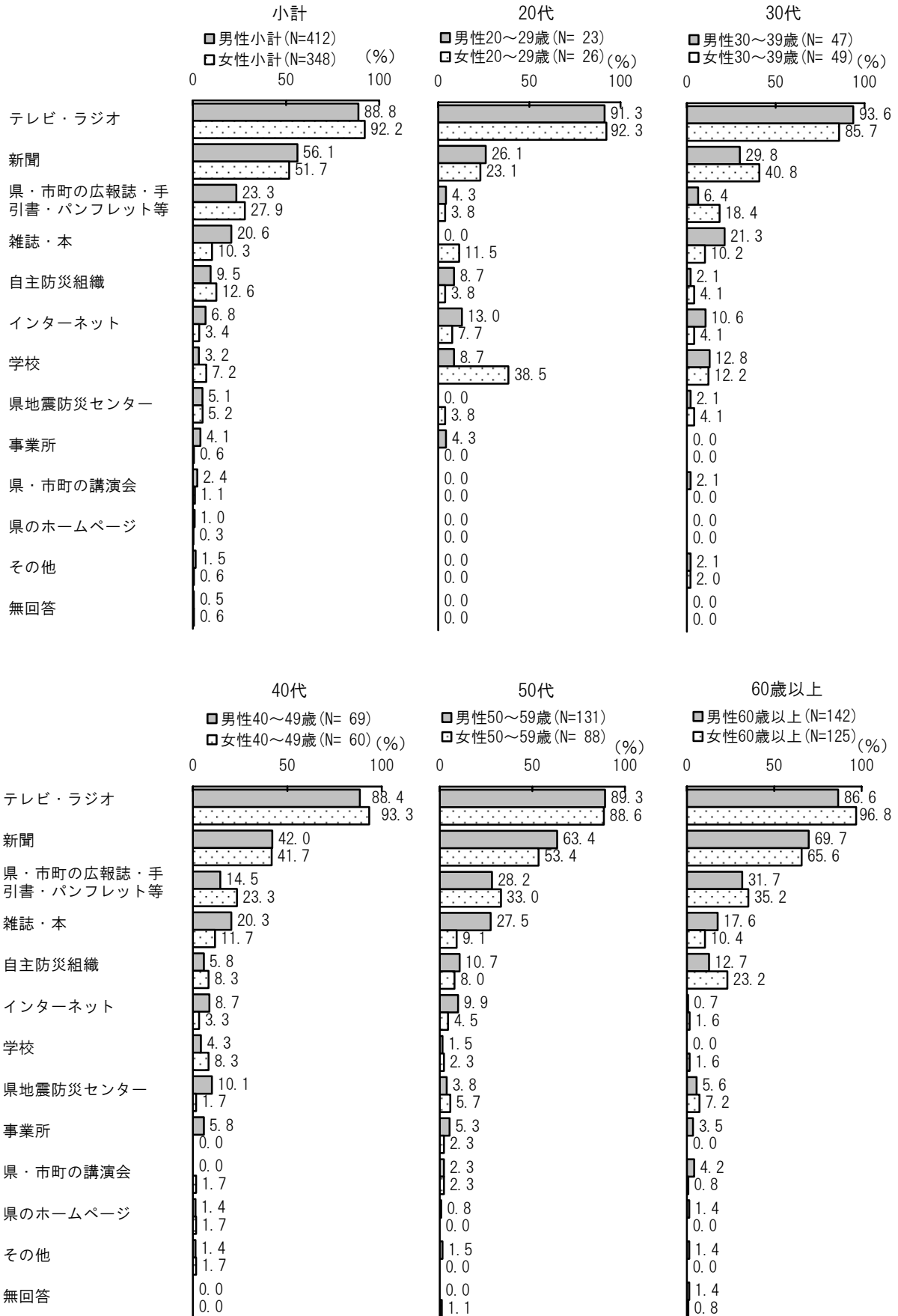
平成 21 年 11 月	70.5%
平成 19 年 6 月	67.3%
平成 17 年 8 月	60.1%
平成 16 年 1 月	71.3%
平成 13 年 12 月	65.5%
平成 11 年 10 月	64.1%
平成 9 年 10 月	58.1%
平成 7 年 12 月	61.1%
平成 5 年 11 月	59.7%
平成 3 年 12 月	56.3%
平成 2 年 1 月	58.5%
昭和 63 年 1 月	61.6%



この調査項目は昭和62年度調査から設定した。

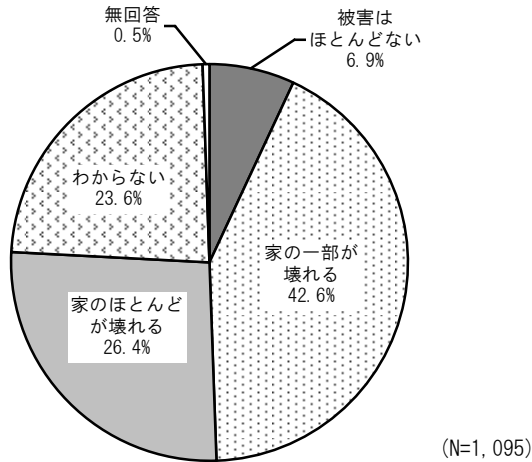
東海地震のメカニズムの知識の入手先について性・年代別でみると、「テレビ・ラジオ」がいずれの性・年代においても圧倒的に多くっており、最も高いのは『女性60歳以上』（96.8%）となっている。2位の「新聞」、3位の「県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等」は、男女ともに年代が上がるほど高い傾向が見られる。

東海地震のメカニズムの知識の入手先 <性・年代別>



1-4 東海地震による家屋の被害程度

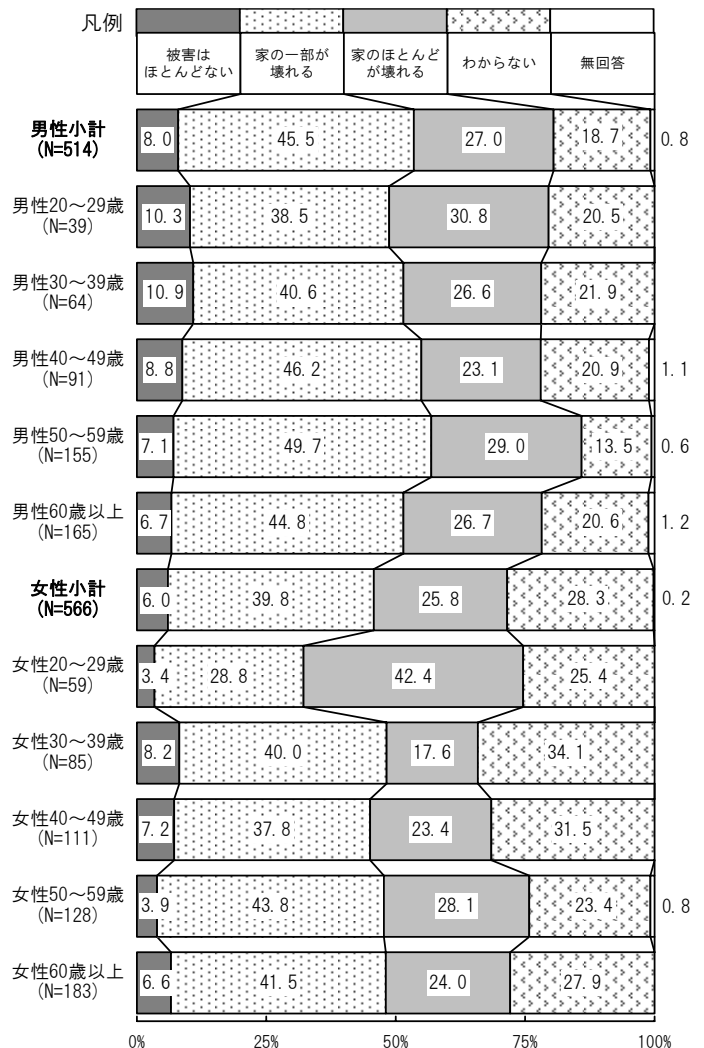
問4 東海地震が起きた場合、あなたのお住まいの家は、どのような被害を受けるとお考えですか。



東海地震による家屋の被害程度についてたずねたところ、「家の一部が壊れる」（42.6%）の割合が最も高く、次いで「家のほとんどが壊れる」（26.4%）、「わからない」（23.6%）、「被害はほとんどない」（6.9%）の順となっている。

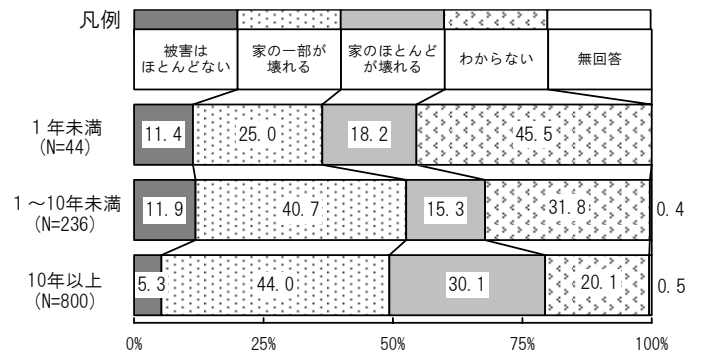
性・年代別でみると、「家のほとんどが壊れる」は『女性20代』（42.4%）が最も高く、最も低い『女性30代』（17.6%）とは24.8ポイントの差が見られる。

東海地震による家屋の被害 <性・年代別>



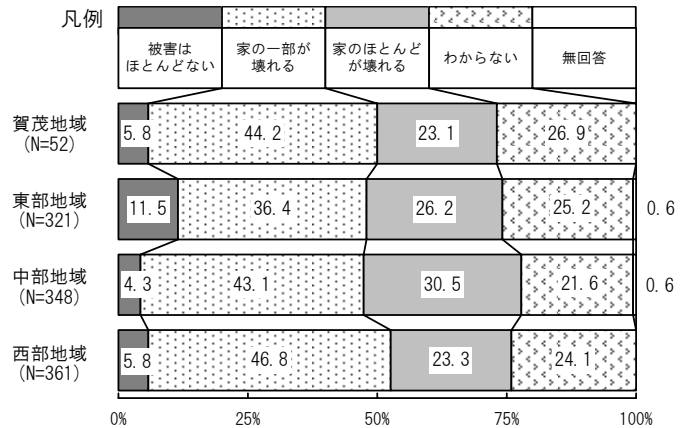
東海地震による家屋の被害 ＜居住年数別＞

居住年数別で見ると、「家の一部が壊れる」＋「家のほとんどが壊れる」は、『10年以上』（74.1%）が高く、『1年未満』（43.2%）とは30.9ポイントの差が見られる。



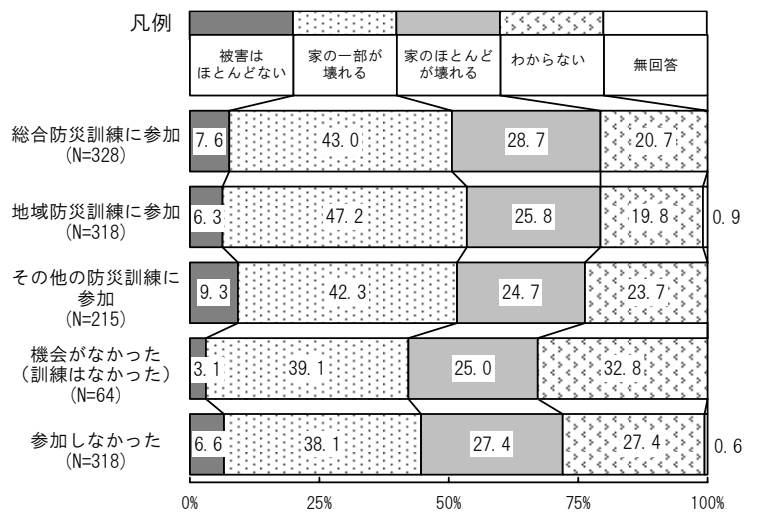
＜地域別＞

地域別で見ると、「被害はほとんどない」は、最も高い『東部』（11.5%）と、最も低い『中部』（4.3%）では7.2ポイントの差が見られる。



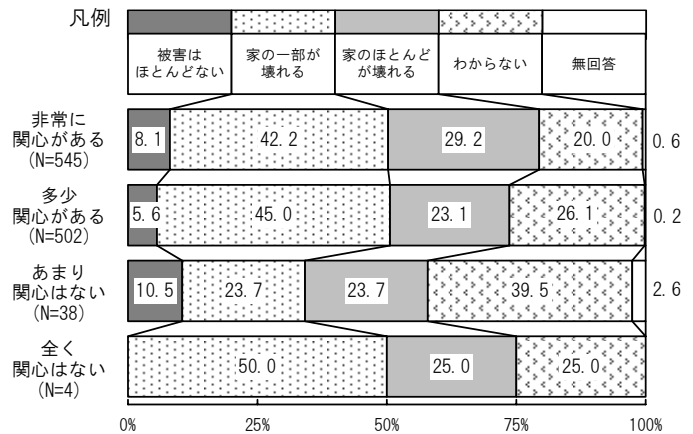
＜防災訓練参加状況別＞

防災訓練参加状況別で見ると、参加状況によって東海地震における家屋の被害想定に大きな違いは見られない。



東海地震による家屋の被害 ＜東海地震への関心度別＞

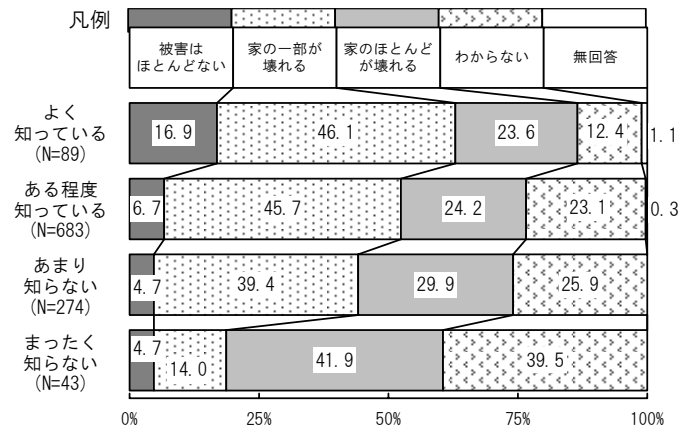
東海地震への関心度別でみると、『あまり関心はない』と答えた人は、「家の一部が壊れる」＋「家のほとんどが壊れる」が他よりも低くなっている。



＜地震メカニズム認知別＞

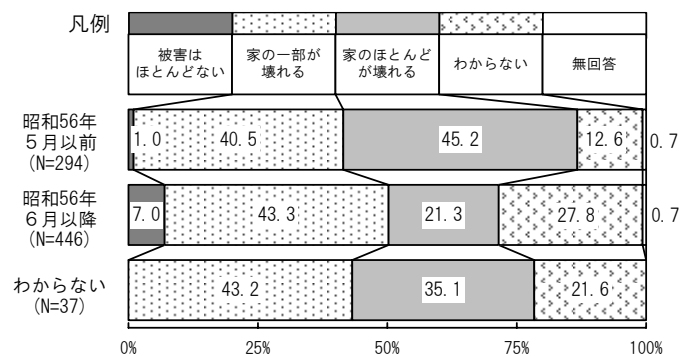
地震メカニズム認知別でみると、「被害はほとんどない」と「家の一部が壊れる」は、よく認知している人ほど高くなっている。

『まったく知らない』と答えた人では、「家のほとんどが壊れる」(41.9%) が他よりも高くなっている。



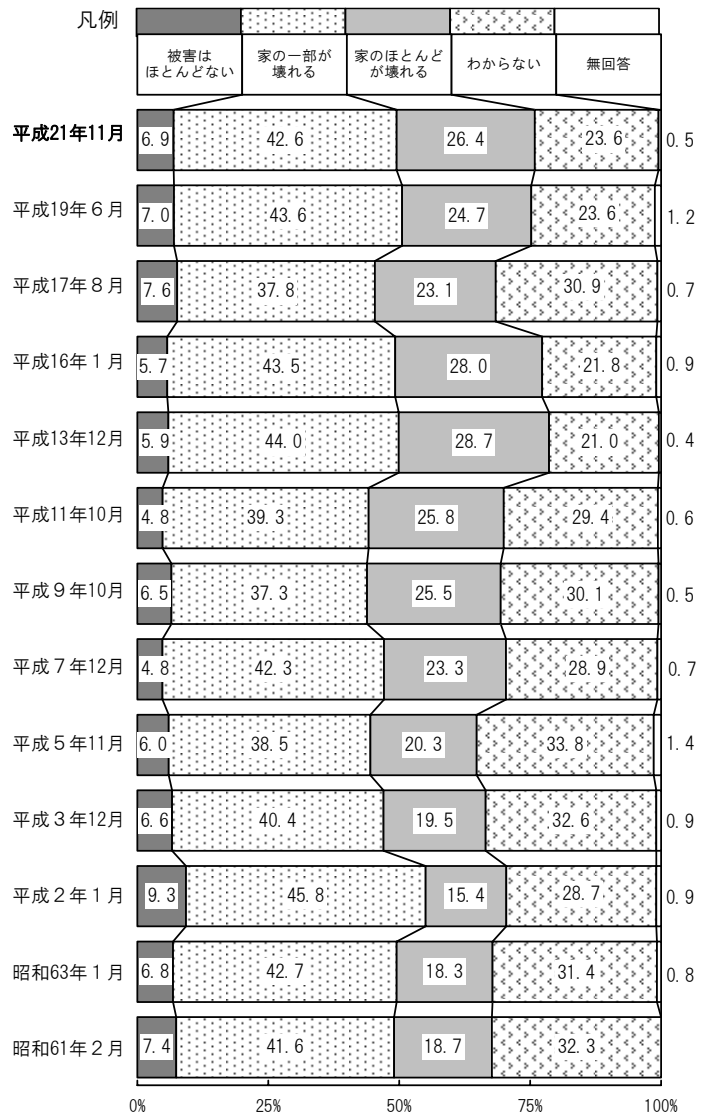
＜木造住宅建築時期別＞

木造住宅建築時期別でみると、「家のほとんどが壊れる」は、『昭和56年5月以前』(45.2%) で、『昭和56年6月以降』(21.3%) の2倍以上となっている。また、「被害はほとんどない」は、『昭和56年6月以降』(7.0%)、『昭和56年5月以前』(1.0%) となっている。



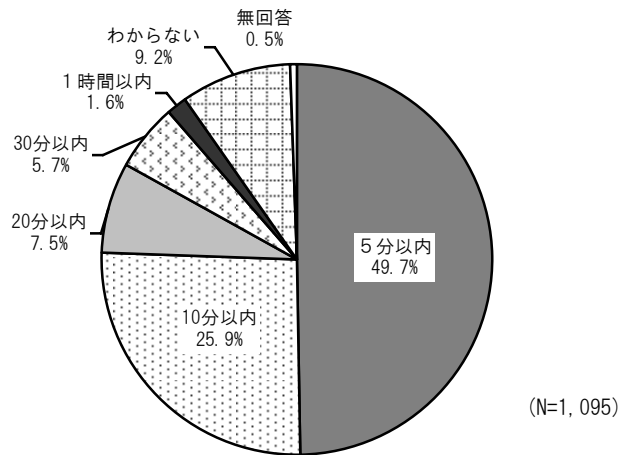
東海地震による家屋の被害 <経年比較>

経年比較でみると、「家のほとんどが壊れる」+「家の一部が壊れる」(69.0%)は、前回調査(68.3%)と比べても大きな差は見られない。



1-5 東海地震発生時の津波の速さの認知

問5 駿河湾内で東海地震が発生した場合、津波は、一番はやいところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来ると思いますか。

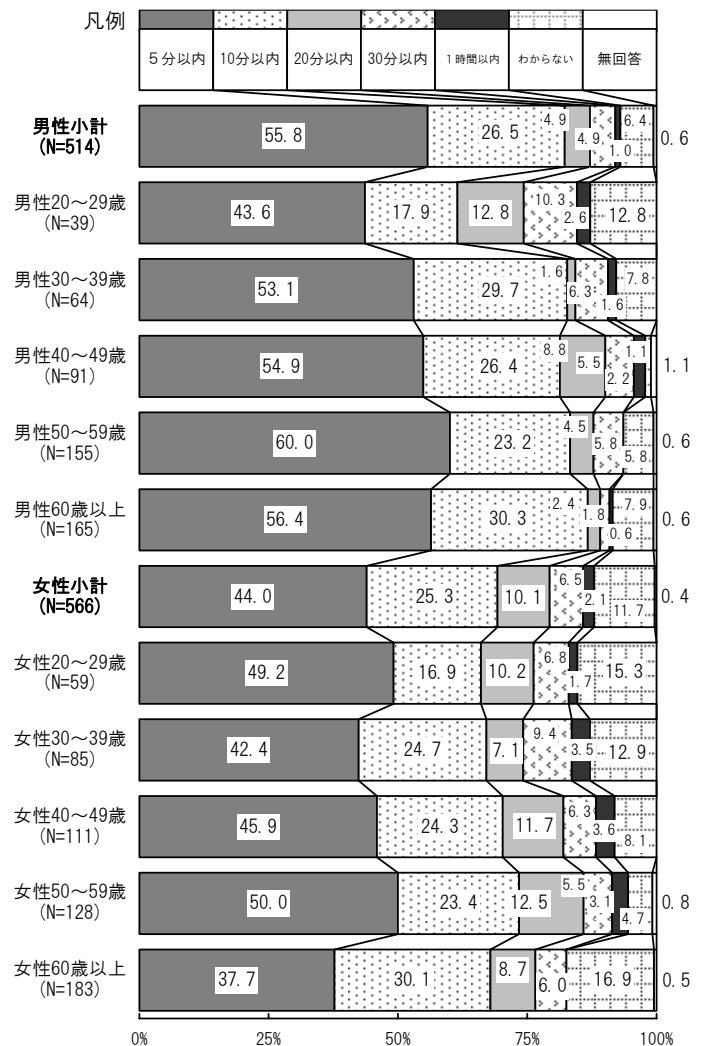


予想される津波の到達時間は、駿河湾や遠州灘の沿岸では地震発生直後～5分程度であるが、東海地震発生時の津波の速さの認知についてたずねたところ、「5分以内」（49.7%）の割合が最も高く、次いで「10分以内」（25.9%）、「20分以内」（7.5%）の順となっている。

津波の沿岸到達時間 <性・年代別>

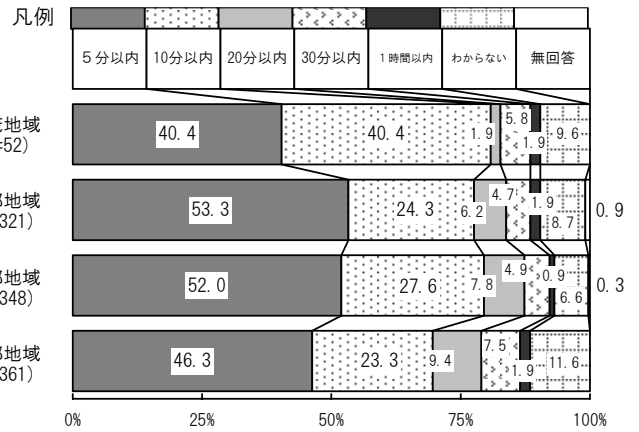
性・年代別でみると、「5分以内」と答えた人は男性のほうが高く、『男性50代』（60.0%）、『男性60歳以上』（56.4%）、『男性40代』（54.9%）、『男性30代』（53.1%）と、いずれも過半数を超えている。

一方、『女性60歳以上』（37.7%）では、「5分以内」と答えた人が全体で最も低く、次いで『女性30代』（42.4%）、『男性20代』（43.6%）の順となっている。



津波の沿岸到達時間 <地域別>

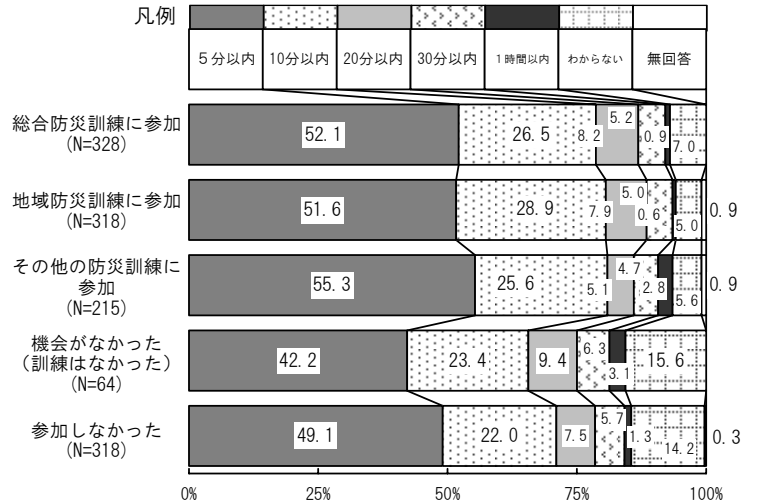
地域別でみると、「5分以内」は『東部』(53.3%)、『中部』(52.0%)といずれも過半数を超えている。



<防災訓練参加状況別>

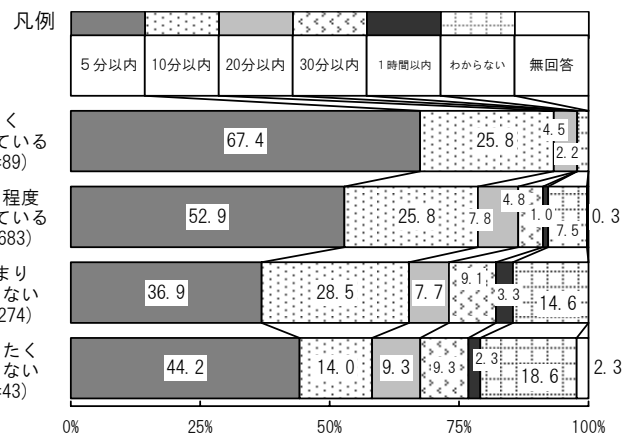
防災訓練参加状況別でみると、「5分以内」は『機会がなかった(訓練はなかった)』(42.2%)が他よりも低くなっている。

「わからない」では、『機会がなかった(訓練はなかった)』(15.6%)や『参加しなかった』(14.2%)が、他よりもやや高くなっている。



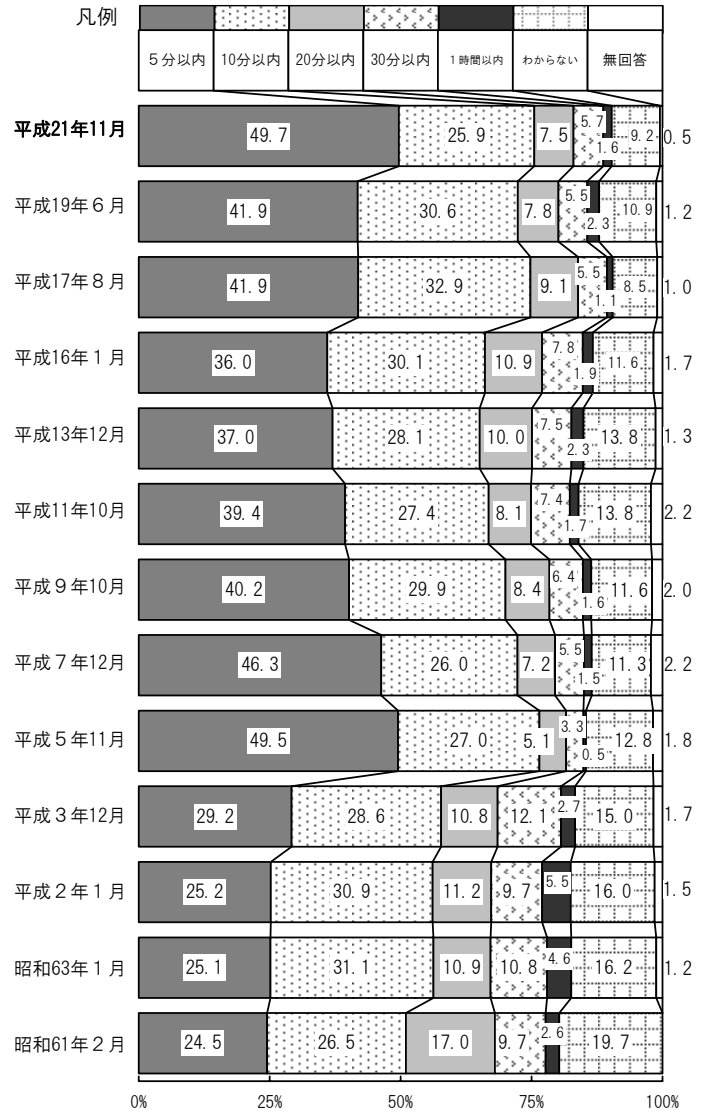
<地震メカニズム認知別>

地震メカニズム認知別でみると、東海地震が発生するメカニズムを『知っている』ほど「5分以内」が高くなる傾向が見られる。一方、東海地震が発生するメカニズムを『知らない』ほど「わからない」が高くなる傾向が見られる。



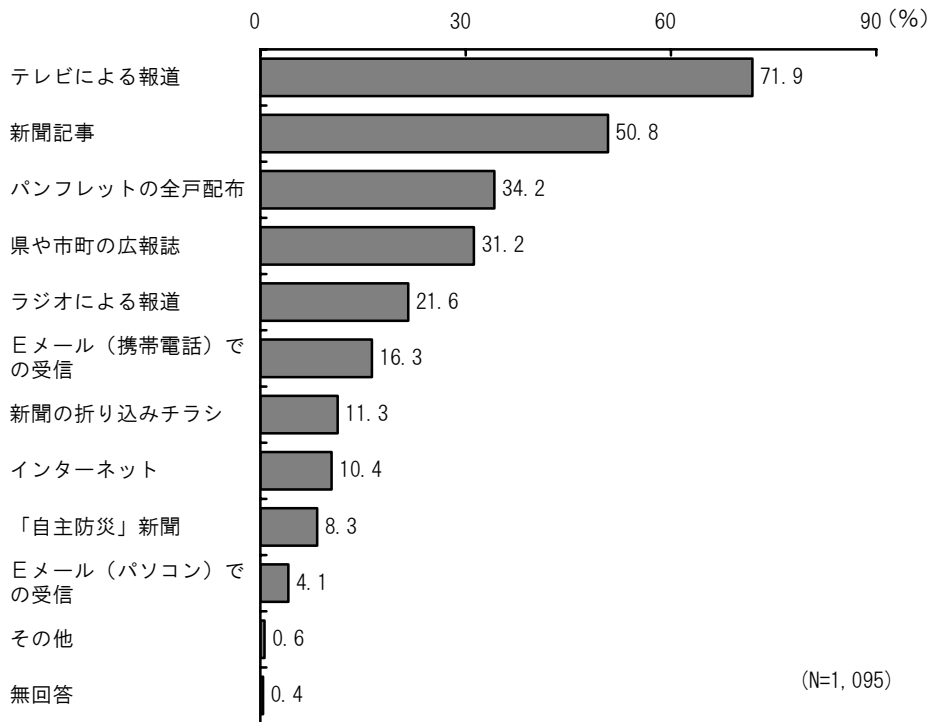
津波の沿岸到達時間 <経年比較>

経年比較でみると、北海道南西沖地震（平成5年7月）の起きた『平成5年11月調査』（49.5%）と、駿河湾を震源とする地震（平成21年8月）の起きた今回調査（49.7%）で、「5分以内」が高くなっている。



1-6 東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法

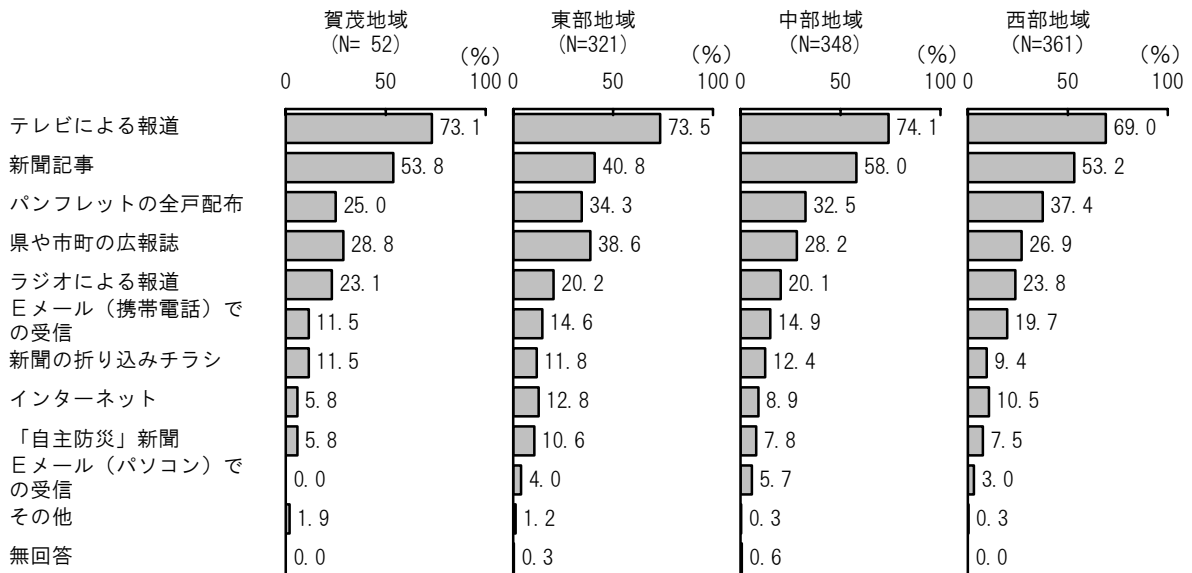
問6 東海地震を中心とした情報を定期的に皆様へ提供する方法について、確実に情報が手に入る方法は次のどれですか。(M. A.)



東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法についてたずねたところ、「テレビによる報道」(71.9%)の割合が最も高く、次いで「新聞記事」(50.8%)、「パンフレットの全戸配布」(34.2%)、「県や市町の広報誌」(31.2%)の順となっている。

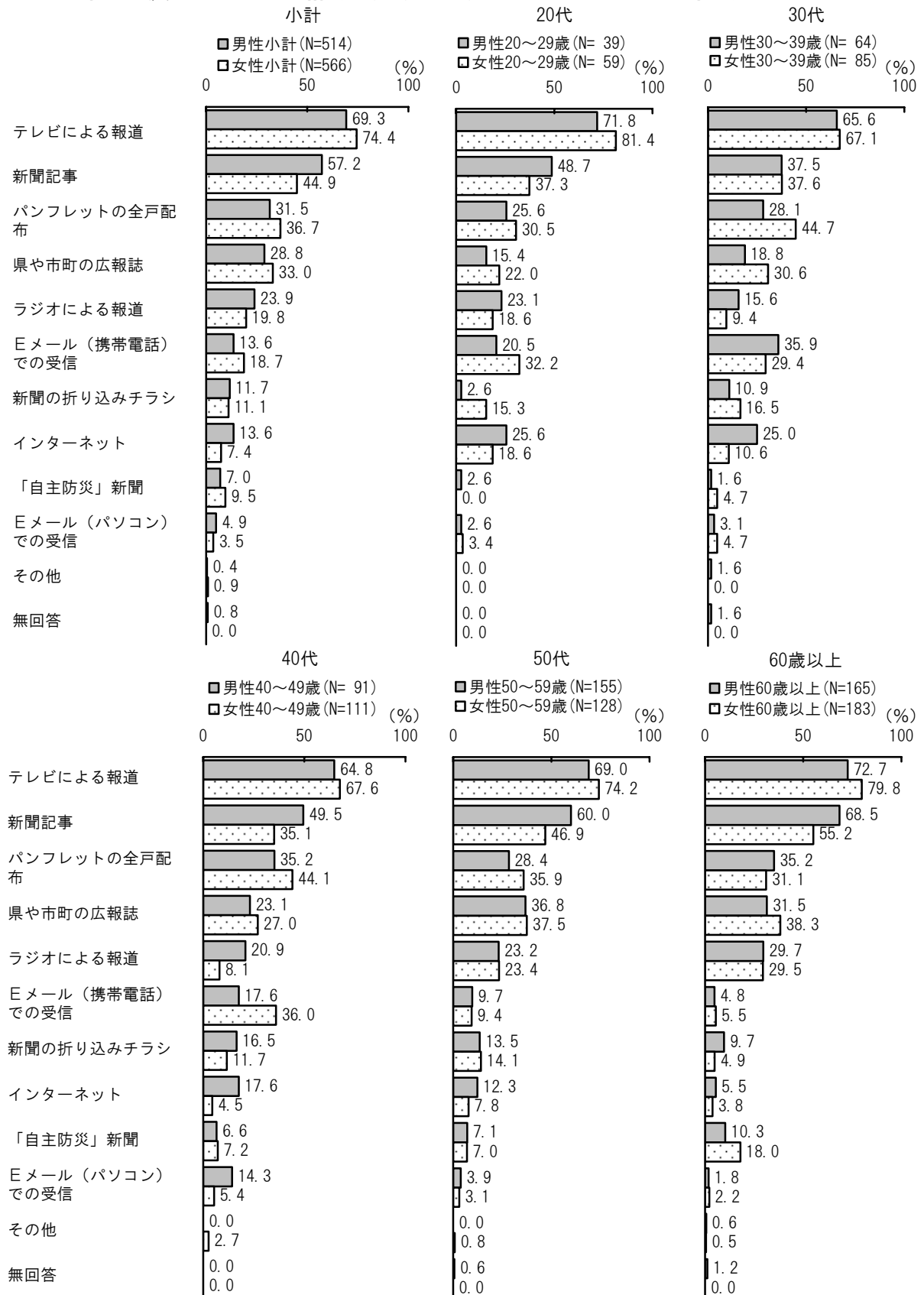
地域別でみると、「新聞記事」は『東部』(40.8%)が他よりも低く、4割程度となっている。

東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法 <地域別>



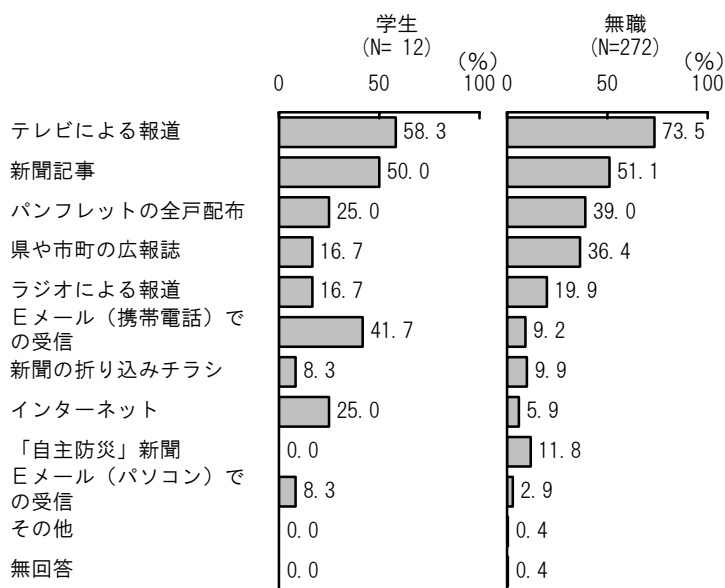
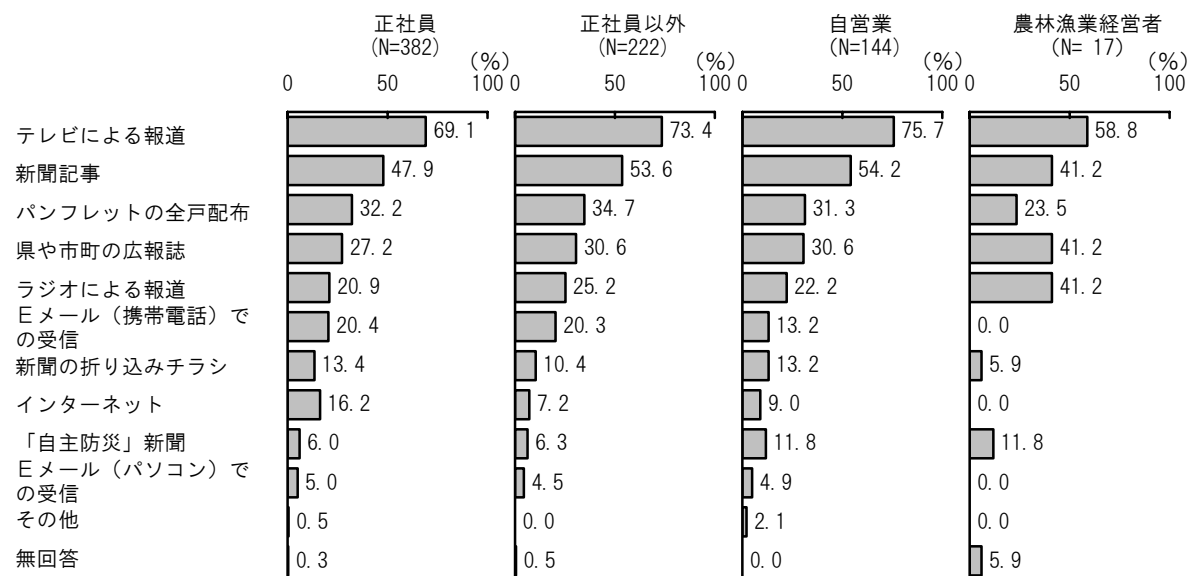
性・年代別でみると、「テレビによる報道」が全年代で最も高くなっている。「新聞記事」は、『男性60歳以上』（68.5%）が最も高く、『女性』より『男性』に高い傾向が見られる。「パンフレットの全戸配布」は、『女性30代』（44.7%）、『女性40代』（44.1%）が4割を超えており、『男性』より『女性』に高い傾向が見られる。「Eメール（携帯電話）での受信」は、どの性・年代においても「Eメール（パソコン）での受信」を上回っている。

東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法 <性・年代別>



職業別でみると、「テレビによる報道」が全職業で最も高くなっている。「新聞記事」は、『自営業』（54.2%）と、『正社員以外』（53.6%）、『無職』（51.1%）が半数を超えている。「インターネット」や「Eメール（携帯電話）での受信」は「学生」に高い傾向が見られる。

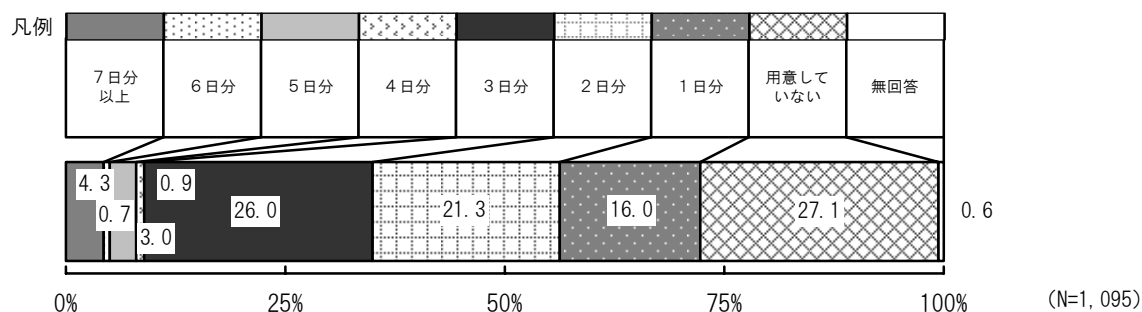
東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法 <職業別>



2 日ごろの防災対策について

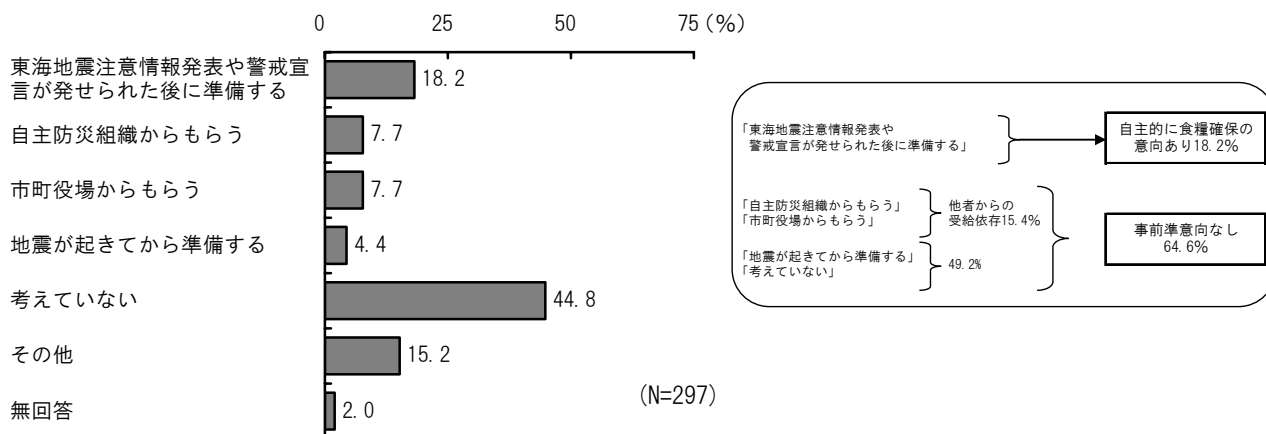
2-1 非常持出し用食料の備蓄日数

問7 あなたのお宅では、非常持出し用を含めて家族の何日分の食料を用意していますか。



● 3日分以上の備蓄率 34.9%
平均：1.9日（前回：1.8日）

問7-1 <問7で「8 用意していない」を選んだ方にお伺いします。>
食料はどのようにして確保するつもりですか。

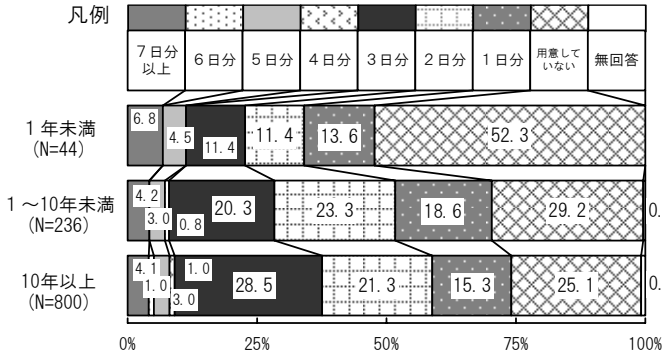


非常持出し用食料の備蓄日数についてたずねたところ、「3日分以上」用意している家庭は34.9%で、平均備蓄日数は1.9日である。

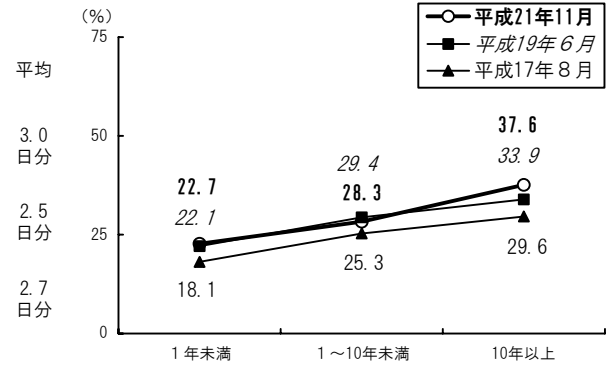
また、問7で「用意していない」と回答した人に、食料確保の手段をたずねたところ、「考えていない」(44.8%)が4割を超えている。

居住年数別でみると、「用意していない」は、『1年未満』（52.3%）が最も高く、3日以上の上の備蓄率を居住年数別でみると、居住年数が長くなるにつれて備蓄率も上昇しており、『10年以上』（37.6%）は『1年未満』（22.7%）を14.9ポイント上回っている。

非常持出し用食料の備蓄日数 <居住年数別>



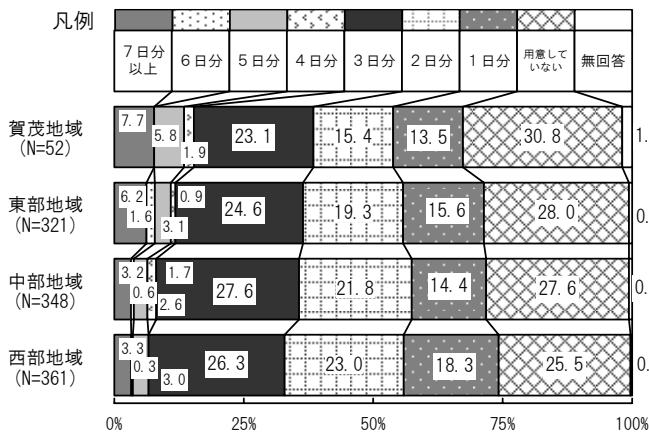
3日分以上の備蓄率 <居住年数別>



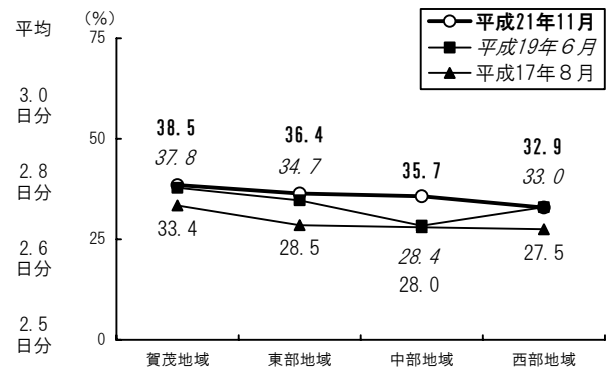
3日分以上の備蓄率を地域別でみると、最も高い『賀茂』（38.5%）と、最も低い『西部』（32.9%）では5.6ポイントの差が見られる。

「用意していない」は、最も高い『賀茂』（30.8%）と、最も低い『西部』（25.5%）で5.3ポイントの差が見られる。

<地域別>



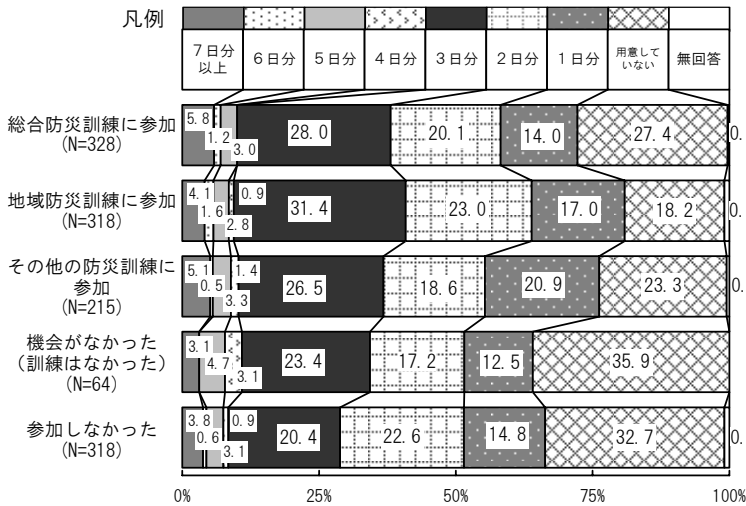
<地域別>



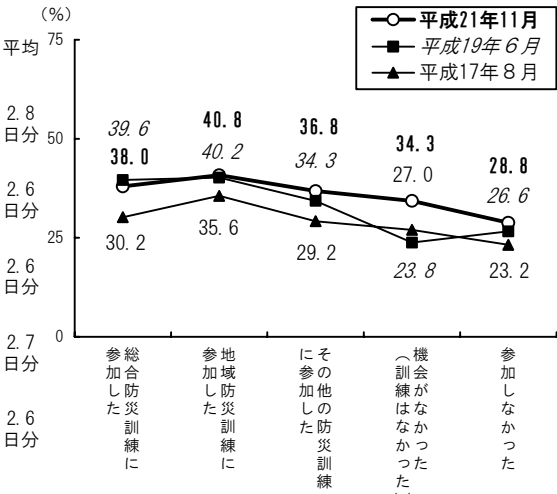
防災訓練参加状況別でみると、「用意していない」は、最も高い『機会がなかった（訓練はなかった）』（35.9%）と、最も低い『地域防災訓練に参加』（18.2%）では17.7ポイントの差が見られる。

3日分以上の備蓄率を防災訓練参加状況別でみると、最も高い『地域防災訓練に参加』（40.8%）と、最も低い『参加しなかった』（28.8%）では12.0ポイントの差が見られる。

非常持出し用食料の備蓄日数 <防災訓練参加状況別>



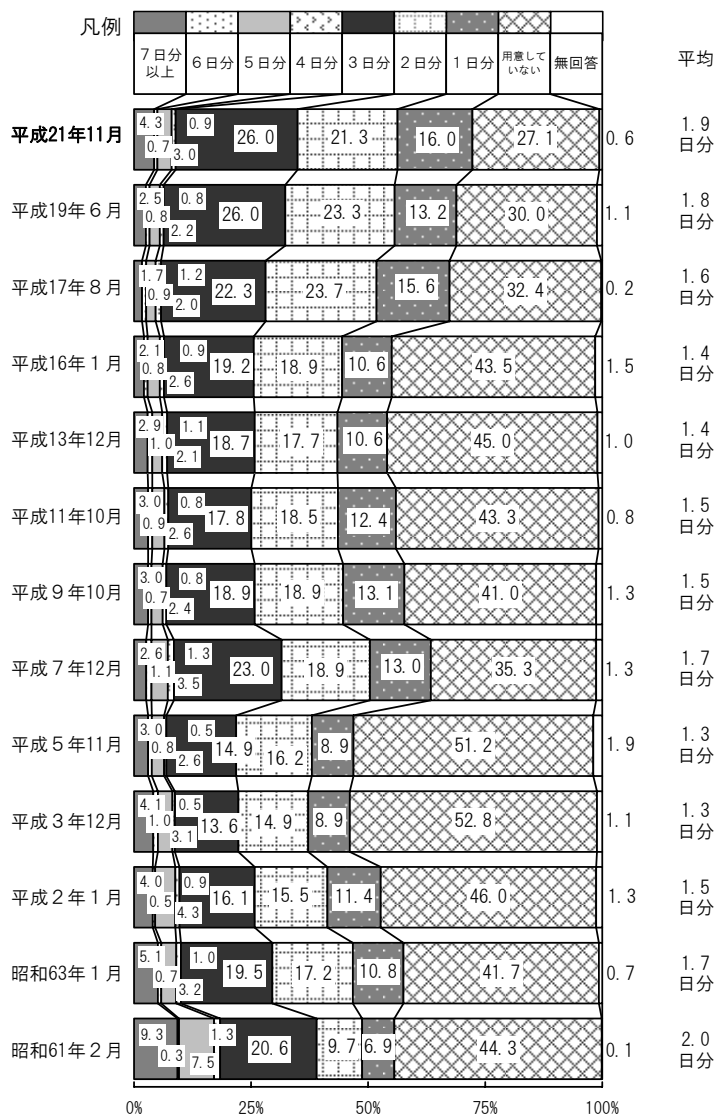
3日分以上の備蓄率 <防災訓練参加状況別>



経年比較でみると、平成7年12月の調査では阪神・淡路大震災（平成7年1月）をきっかけに、備蓄率が急増した。しかしながらそれ以降、備蓄率は徐々に低下していたが、平成16年の新潟県中越地震（平成16年10月）、スマトラ沖地震（平成16年12月）、能登半島地震（平成19年3月）、駿河湾を震源とする地震（平成21年8月）などが発生したこともあり、平成17年以降、「用意していない」が減少し『非常持出し用食料3日分以上』が増加している。また、『非常持出し用食料3日分以上』は、今回調査（34.9%）では、前回調査（32.3%）より2.6ポイント増加している。

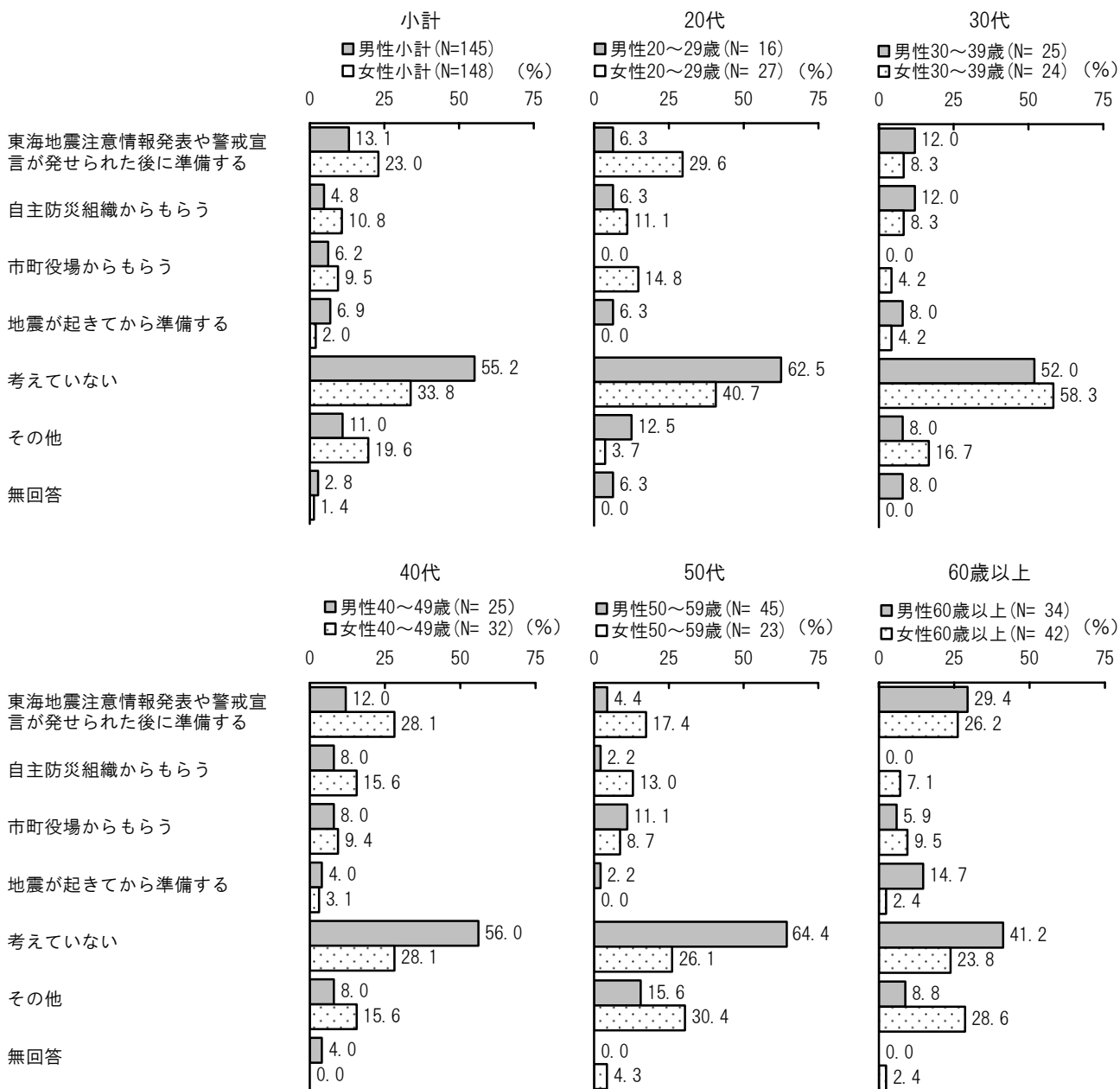
非常持出し用食料の備蓄日数 ＜経年比較＞

非常持出し用食料3日分以上 備蓄率 経年比較	
平成21年11月	34.9%
平成19年6月	32.3%
平成17年8月	28.1%
平成16年1月	25.6%
平成13年12月	25.8%
平成11年10月	25.1%
平成9年10月	25.8%
平成7年12月	31.5%
平成5年11月	21.8%
平成3年12月	22.3%
平成2年1月	25.8%
昭和63年1月	29.5%
昭和61年2月	39.0%



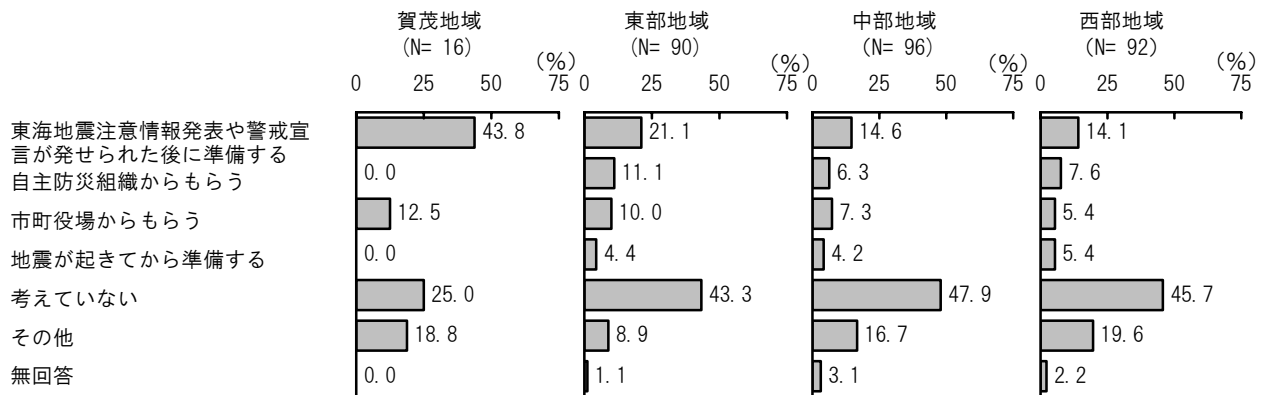
性・年代別でみると、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」は、『女性20代』(29.6%)が最も高く、次いで『男性60歳以上』(29.4%)、『女性40代』(28.1%)の順となっている。「考えていない」は、最も高い『男性50代』(64.4%)と、最も低い『女性60歳以上』(23.8%)では40.6ポイントの差が見られ、女性の方が食糧確保の手段を考慮している傾向が見られる。

非常持出し用食料を用意していない人の食料確保の手段 <性・年代別>



地域別でみると、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」が最も高いのは、『賀茂』（43.8%）で、他の地域は「考えていない」が最も高くなっている。

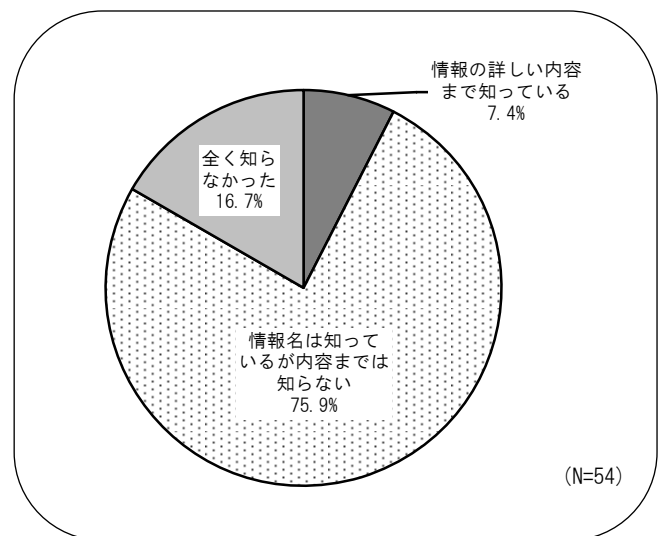
非常持出し用食料を用意していない人の食料確保の手段 <地域別>



情報体系の認知度

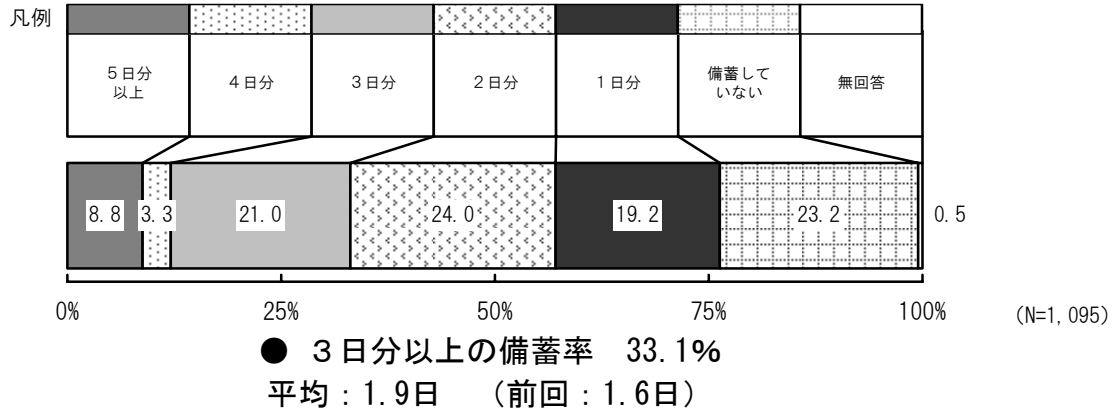
<「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」と回答した人の内訳>

「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」と回答した人のみで情報体系の認知度をみると、「情報は知っているが内容までは知らない」（75.9%）が最も高く、次いで「全く知らなかった」（16.7%）、「情報の詳しい内容まで知っている」（7.4%）の順となっている。

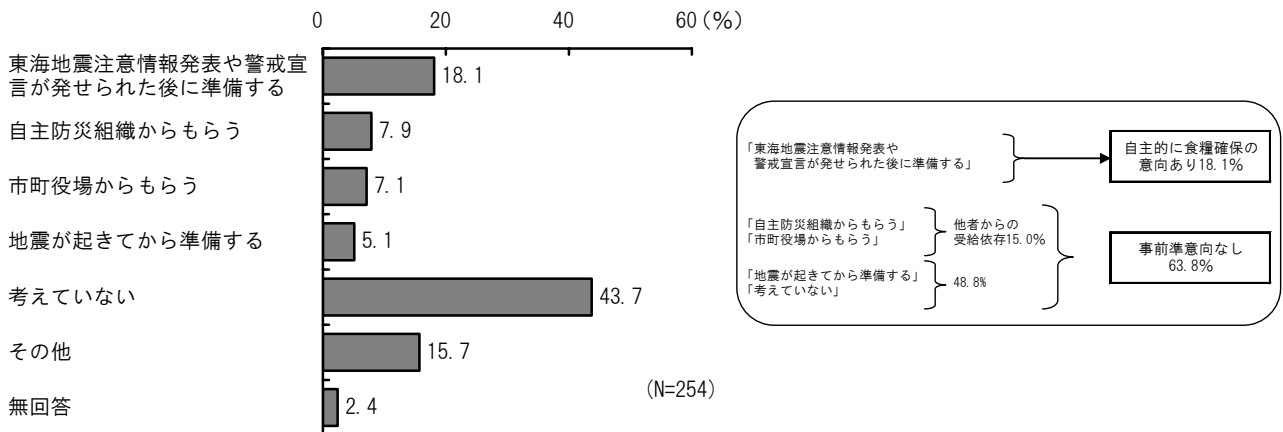


2-2 飲料水の備蓄

問8 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。



問8-1 <問8で「6 備蓄していない」を選んだ方にお伺いします。>
飲料水はどのようにして確保するつもりですか。



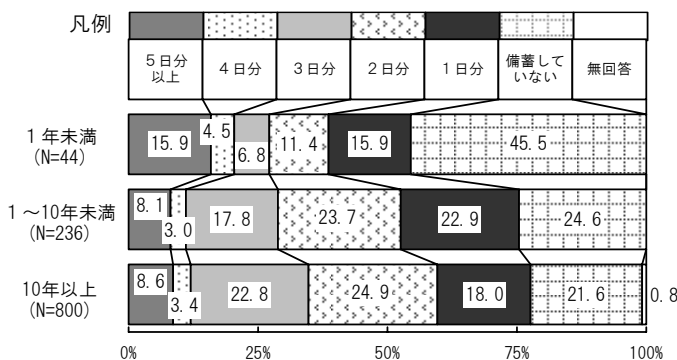
飲料水の備蓄日数についてたずねたところ、「2日分」（24.0%）の割合が最も高く、3日分以上用意している家庭は33.1%で、平均備蓄日数は1.9日である。

また、問8で「備蓄していない」と回答した人に、飲料水確保の手段をたずねたところ、「考えていない」（43.7%）が最も高く、次いで「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」（18.1%）、「自主防災組織からもらう」（7.9%）の順となっている。

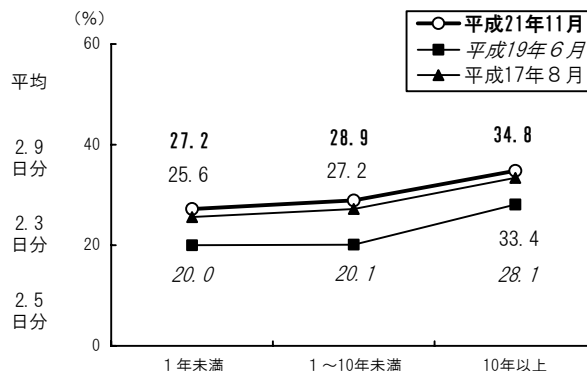
居住年数別でみると、「備蓄していない」は居住年数が長くなるにつれて減少しており、『1年未満』(45.5%)と『10年以上』(21.6%)では、23.9ポイントの差が見られる。

3日分以上の備蓄率を居住年数別でみると、居住年数が長くなるにつれて備蓄率も上昇しており、『10年以上』(34.8%)と『1年未満』(27.2%)では、7.6ポイントの差が見られる。

飲料水備蓄日数 <居住年数別>



3日分以上の備蓄率 <居住年数別>

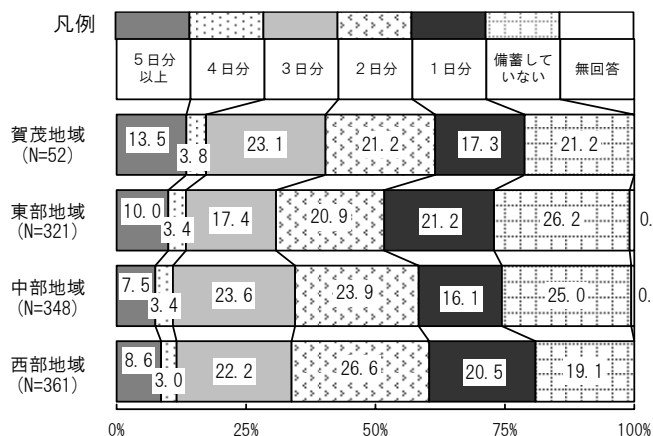


地域別でみると、「備蓄していない」は、最も高い『東部』(26.2%)と、最も低い『西部』(19.1%)では、7.1ポイントの差が見られる。

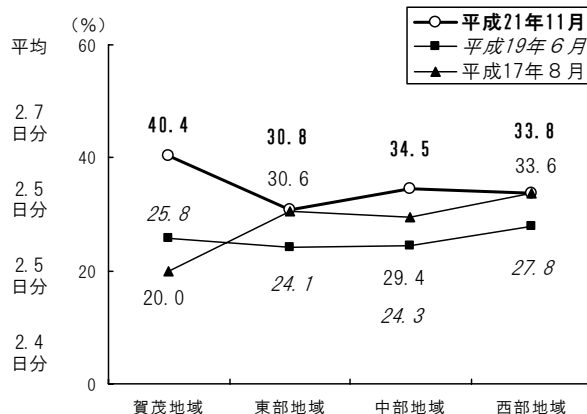
3日分以上の備蓄率を地域別でみると、最も高い『賀茂』(40.4%)と、最も低い『東部』(30.8%)では9.6ポイントの差が見られる。

また、過去2回の調査と比較すると、いずれの地域でも今回調査での3日分以上の備蓄率が高くなっており、中でも『賀茂』(40.6%)では前回調査よりも14.6ポイント増加している。

<地域別>



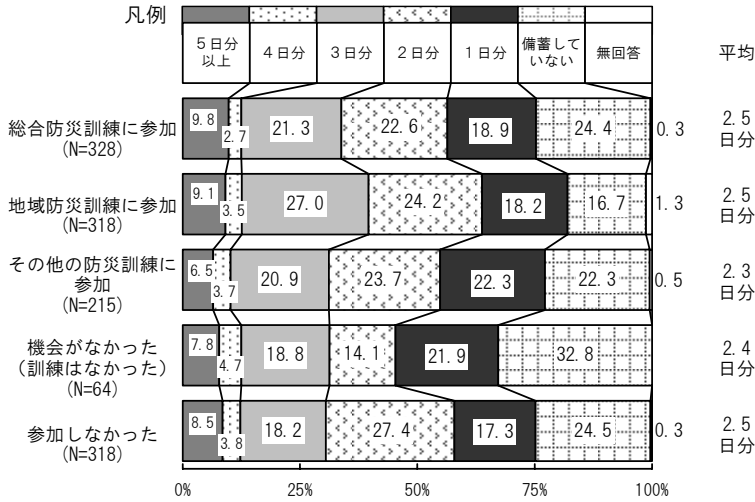
<地域別>



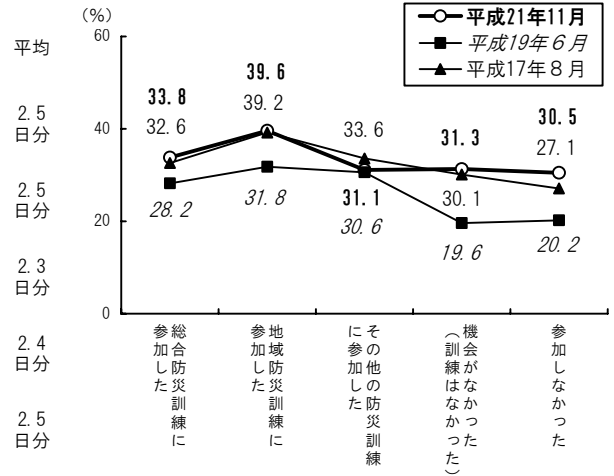
防災訓練参加状況別でみると、「備蓄していない」は、『機会がなかった（訓練はなかった）』（32.8%）で3割を超えており、いずれかの訓練に参加した人と比較すると、やや高くなっている。

3日分以上の備蓄率を防災訓練参加状況別でみると、最も高い『地域防災訓練に参加』（39.6%）と、最も低い『参加しなかった』（30.5%）では9.1ポイントの差が見られる。

飲料水備蓄日数
＜防災訓練参加状況別＞



3日分以上の備蓄率
＜防災訓練参加状況別＞

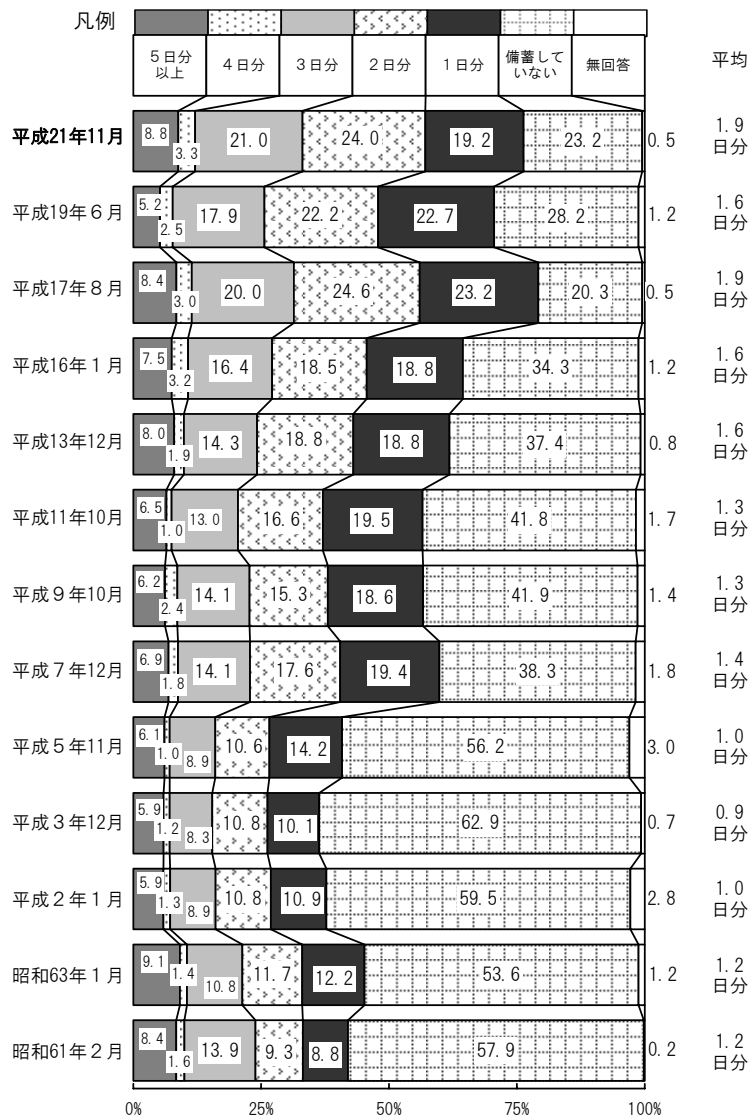


経年比較でみると、「備蓄していない」は、今回調査（23.2%）で、前回調査（28.2%）より5.0ポイント減少している。また、『飲料水3日分以上の備蓄率』では、今回調査（33.1%）は、前回調査（25.6%）より7.5ポイント増加している。

飲料水の備蓄日数 <経年比較>

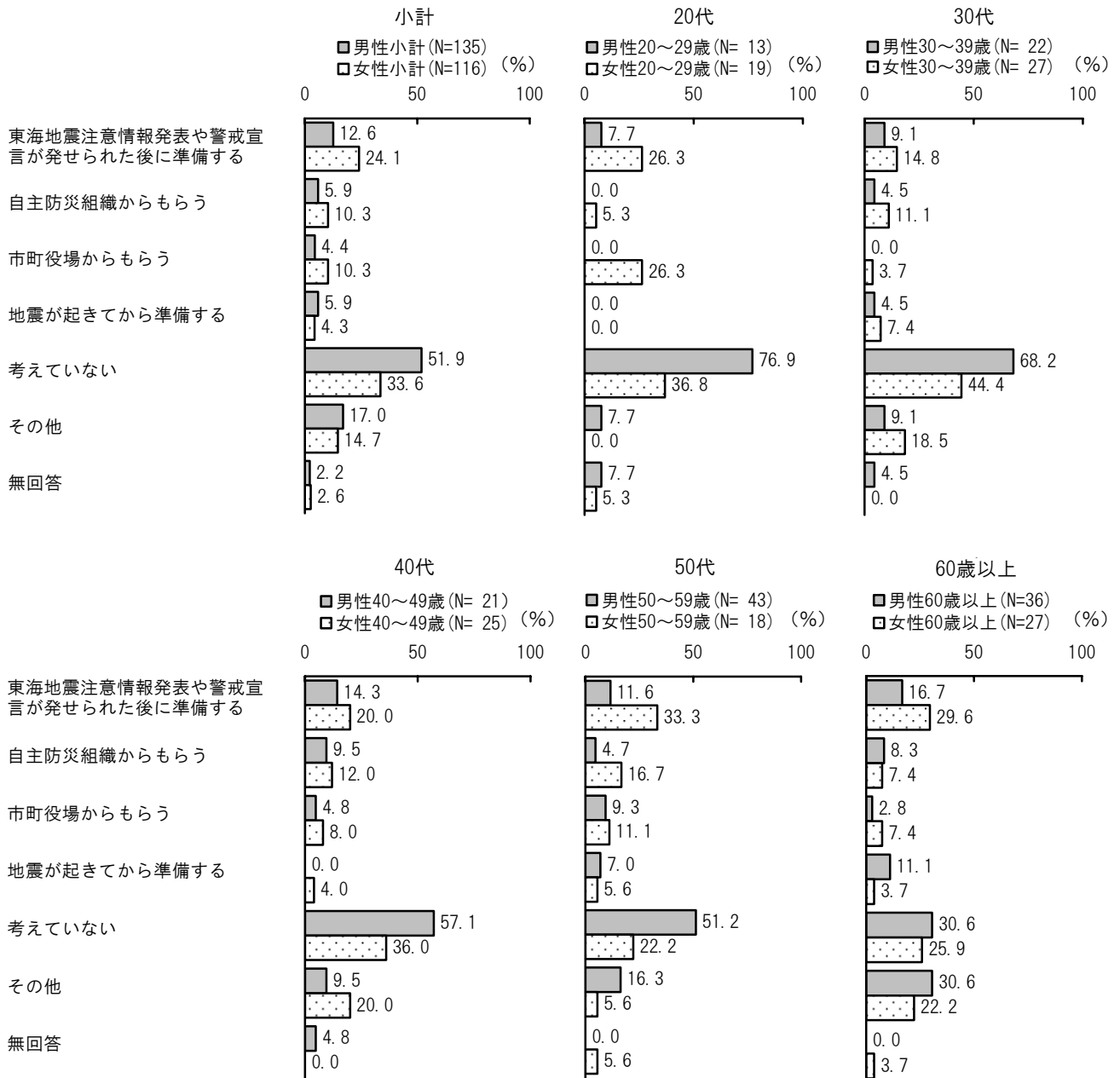
飲料水3日分以上 備蓄率 経年比較

平成21年11月	33.1%
平成19年6月	25.6%
平成17年8月	31.4%
平成16年1月	27.1%
平成13年12月	24.2%
平成11年10月	20.5%
平成9年10月	22.7%
平成7年12月	22.8%
平成5年11月	16.0%
平成3年12月	15.4%
平成2年1月	16.1%
昭和63年1月	21.3%
昭和61年2月	23.9%



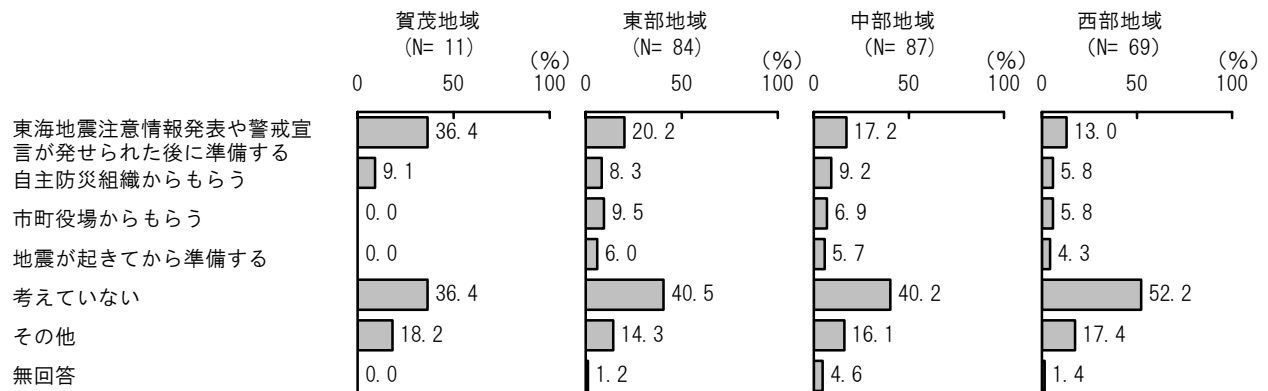
性・年代別で見ると、男性は『60歳以上』を除いて「考えていない」が最も高くなっている。女性は、『20代』から『40代』では、「考えていない」が最も高くなっており、『50代』、『60歳以上』では、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」が最も高くなっている。

飲料水確保の手段 <性・年代別>



地域別でみると、「考えていない」は、最も高い『西部』（52.2%）と、最も低い『賀茂』（36.4%）では15.8ポイントの差が見られる。

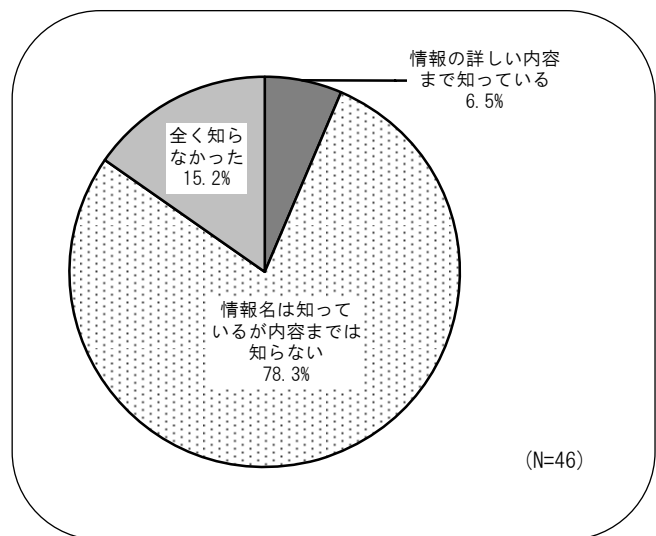
飲料水確保の手段 <地域別>



情報体系の認知度

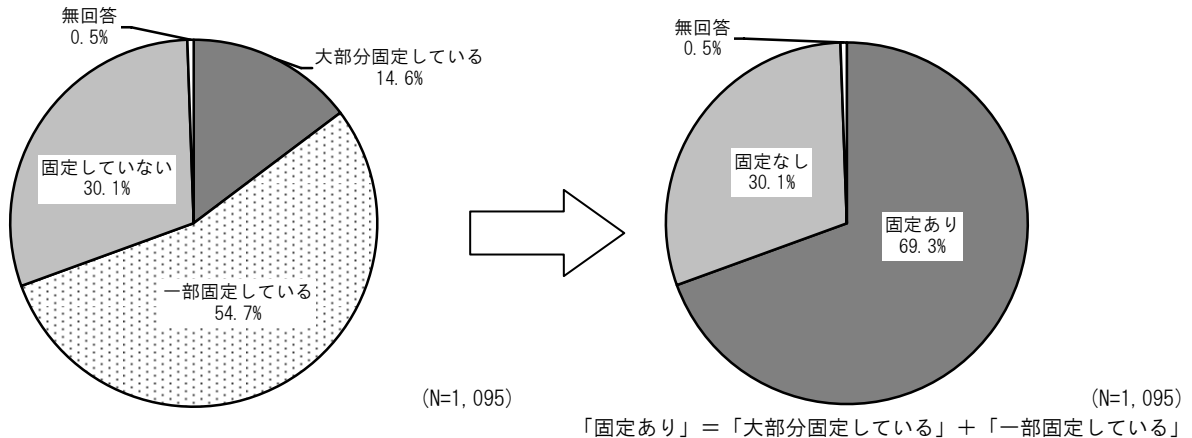
<「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」と回答した人の内訳>

「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」と回答した人のみで情報体系の認知度をみると、「情報は知っているが内容までは知らない」（78.3%）が最も高く、次いで「全く知らなかった」（15.2%）、「情報の詳しい内容まで知っている」（6.5%）の順となっている。

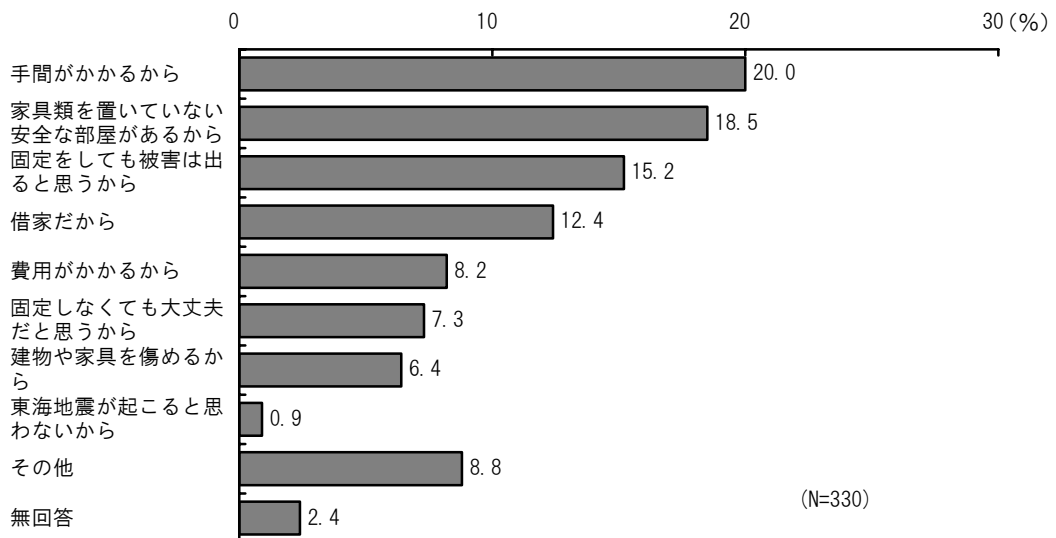


2-3 家具類の固定

問9 あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。



問9-1 <問9で「3 固定していない」を選んだ方にお伺いします。>
なぜですか。



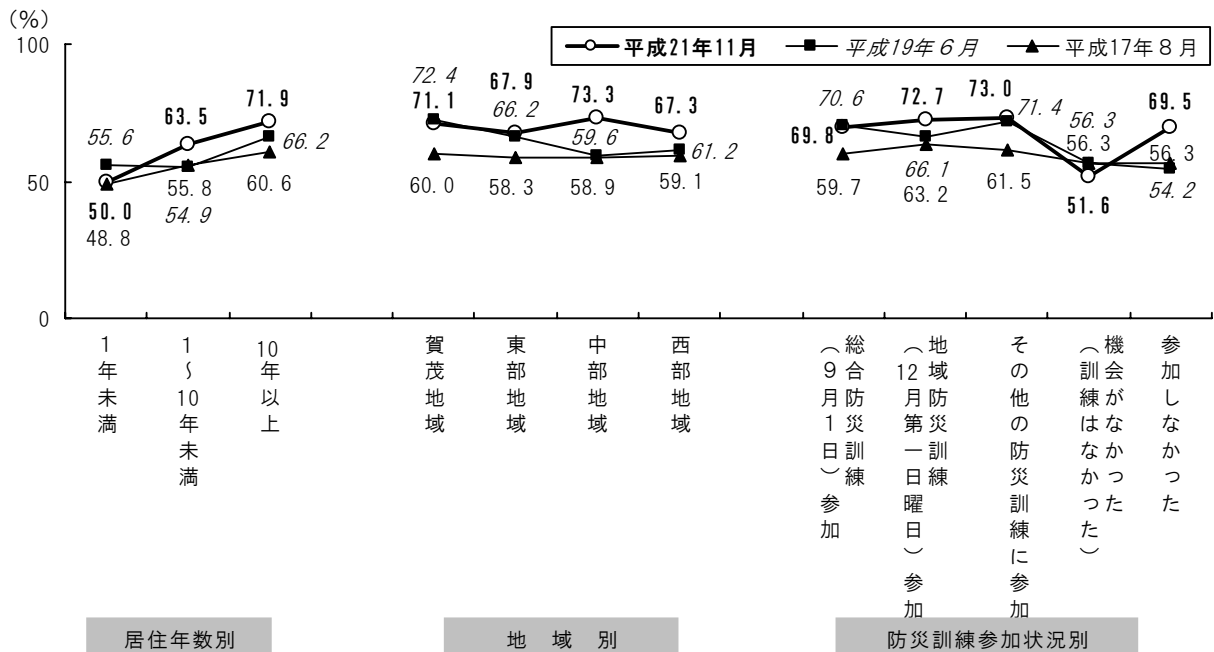
家具類の固定状況についてたずねたところ、「大部分固定している」(14.6%)と「一部固定している」(54.7%)を合わせると、固定実施率は69.3%である。

また、問9で「固定していない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「家具類を置いていない安全な部屋があるから」(18.5%)と固定しなくてもできる対策を行っている一方で、「手間がかかるから」(20.0%)、「固定をしても被害は出ると思うから」(15.2%)、「借家だから」(12.4%)と固定に否定的であった。

家具類の固定実施率を属性別でみると、**居住年数別**では、『10年以上』（71.9%）が、『1年未満』（50.0%）を21.9ポイント上回っている。**防災訓練参加状況別**でみると、いずれかの防災訓練に参加している人は、参加していない人よりも固定実施率が高い傾向が見られる。

また、**過去2回の調査と比較**すると、「1～10年未満」、「10年以上」の居住年数において、固定実施率が高まっている。

家具類の固定実施率（「大部分固定している」＋「一部固定している」） <属性別>

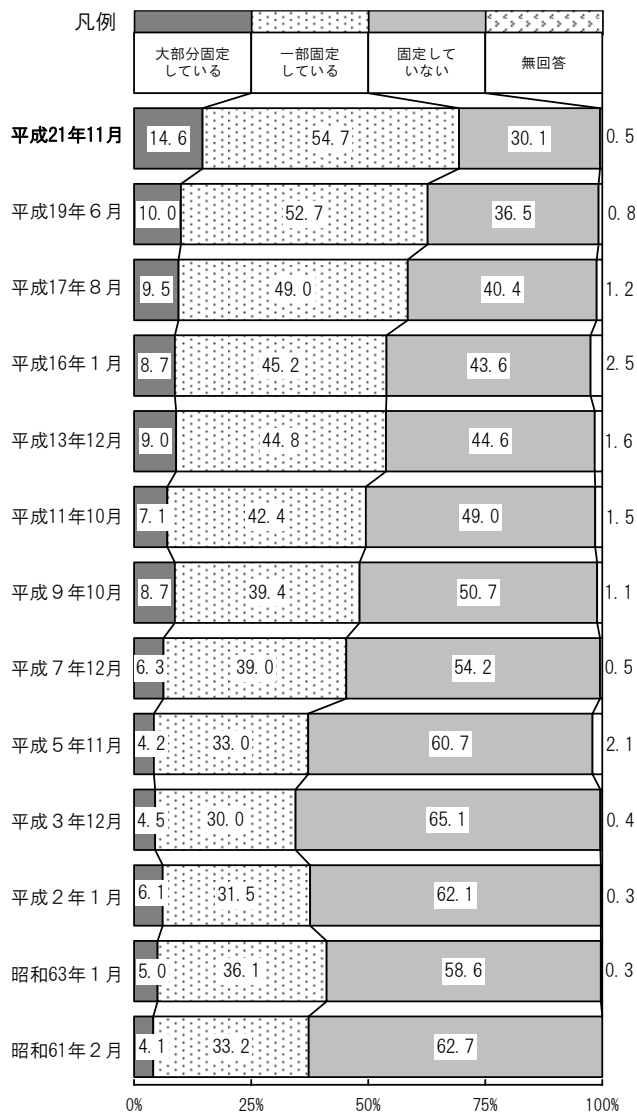


家具類の固定実施状況 <経年比較>

経年比較でみると、家具の固定実施率（「大部分固定している」＋「一部固定している」）は平成3年以降、年々増加傾向となっている。今回調査（69.3%）は、前回調査（62.7%）より6.6ポイント上回っている。

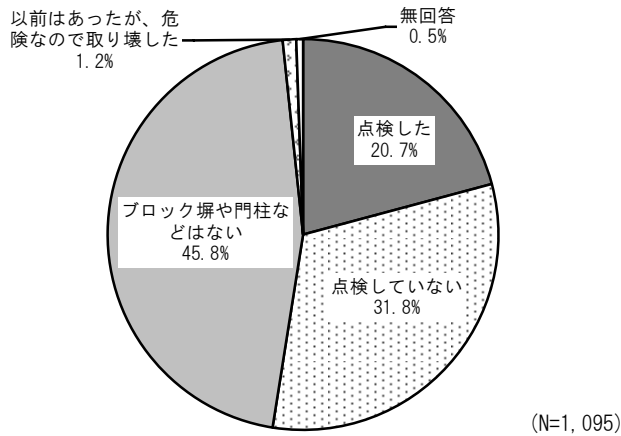
家具固定の実施率 経年比較

平成 21 年 11 月	69.3%
平成 19 年 6 月	62.7%
平成 17 年 8 月	58.5%
平成 16 年 1 月	53.9%
平成 13 年 12 月	53.8%
平成 11 年 10 月	49.5%
平成 9 年 10 月	48.1%
平成 7 年 12 月	45.3%
平成 5 年 11 月	37.2%
平成 3 年 12 月	34.5%
平成 2 年 1 月	37.6%
昭和 63 年 1 月	41.1%
昭和 61 年 2 月	37.3%



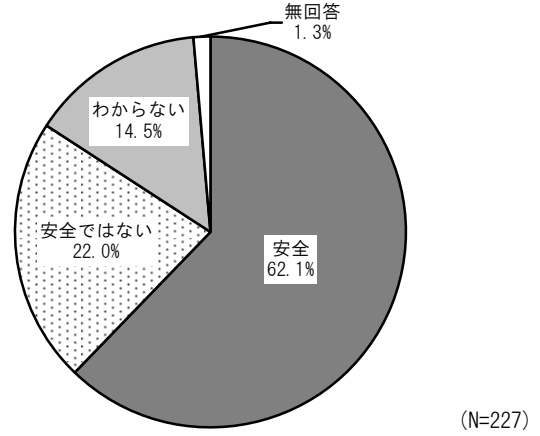
2-4 ブロック塀・門柱などの安全対策

問10 あなたのお宅では、ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。

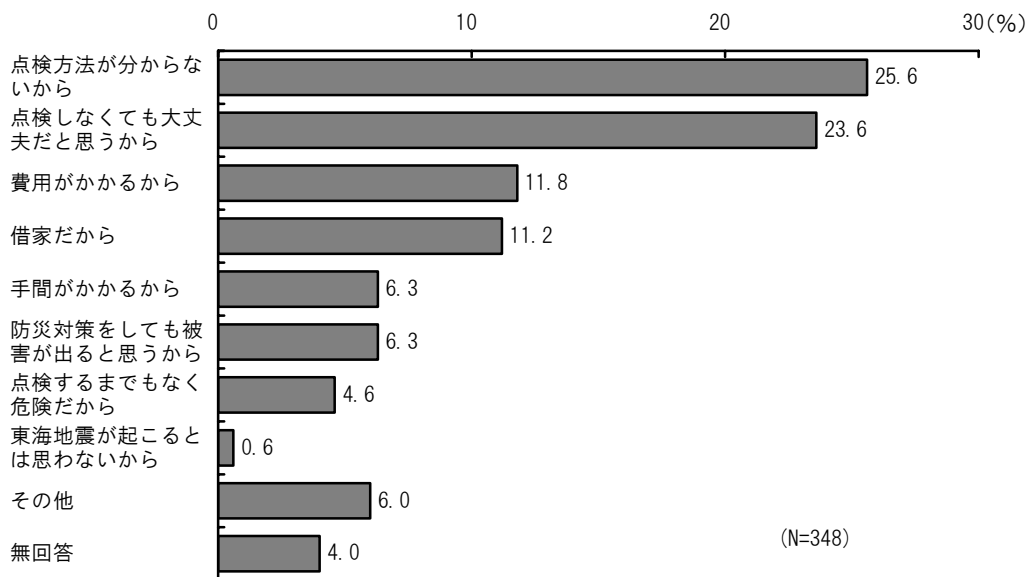


問10-1 <問10で「1 点検した」を選んだ方にお伺いします。>

点検結果はいかがでしたか。



問10-2 <問10で「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。>
どのような理由からですか。

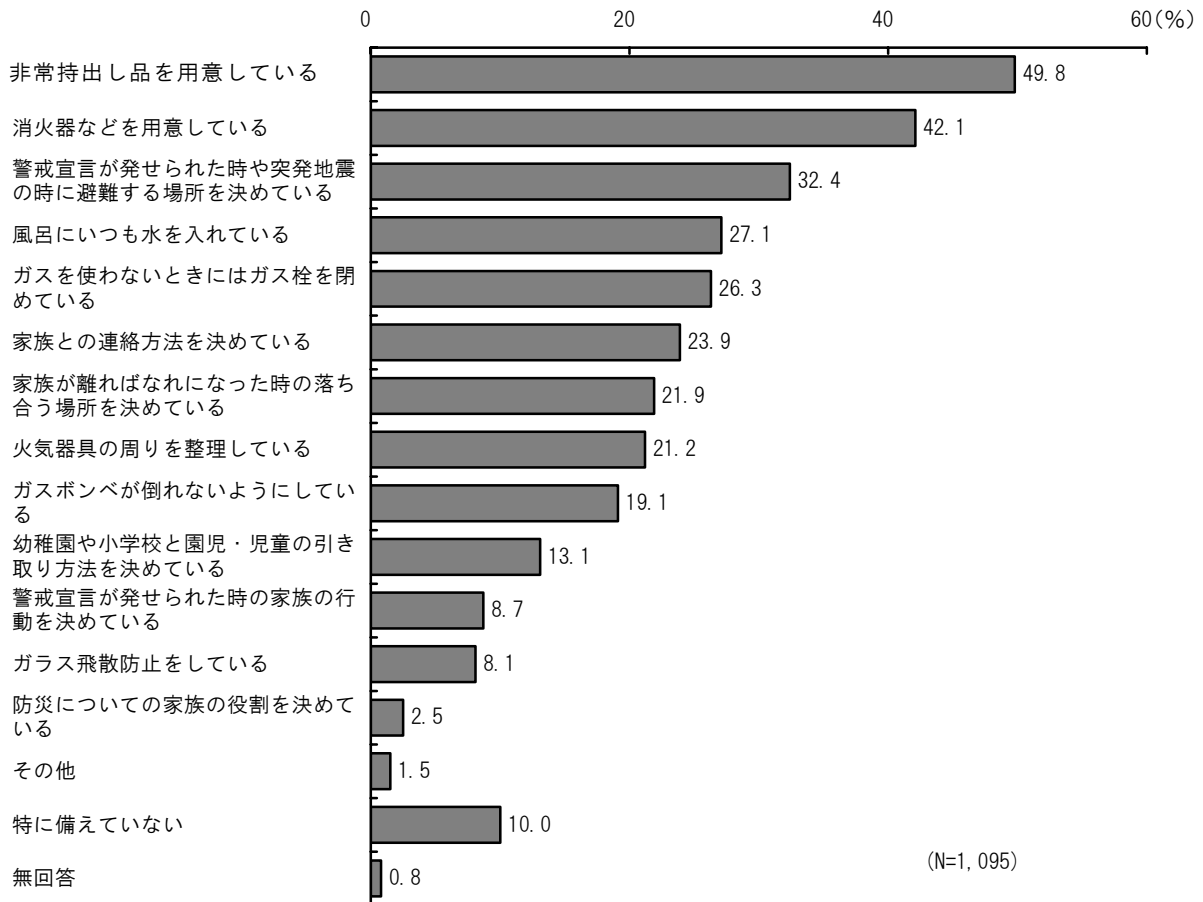


ブロック塀・門柱などの安全性の点検についてたずねたところ、「ブロック塀や門柱などはない」(45.8%)の割合が最も高く、次いで「点検していない」(31.8%)、「点検した」(20.7%)、「以前はあったが、危険なので取り壊した」(1.2%)の順となっている。

問10で「点検をした」と回答した人に、結果をたずねたところ、「安全」(62.1%)が最も高く、次いで「安全ではない」(22.0%)、「わからない」(14.5%)の順となっている。また、問10で「点検していない」と回答した人の理由については、「点検方法が分からないから」(25.6%)が最も高く、次いで「点検しなくても大丈夫だと思うから」(23.6%)、「費用がかかるから」(11.8%)の順となっている。

2-5 東海地震に備えての防災対策

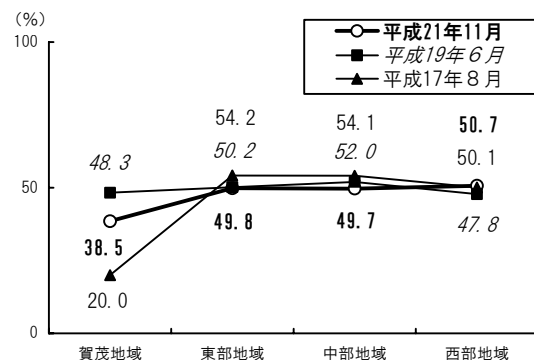
問11 次にあげるものの中で、東海地震に備えてあなたのお宅で行っているものについて、いくつでもお答えください。(M. A.)



東海地震に備えて行っている防災対策についてたずねたところ、「非常持出し品を用意している」(49.8%)の割合が最も高く、次いで「消火器などを用意している」(42.1%)、「警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている」(32.4%)、「風呂にいつも水を入れている」(27.1%)の順となっている。

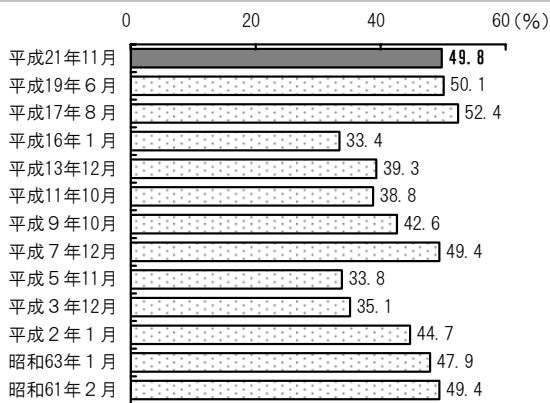
非常持出し品の準備率 <地域別>

地域別でみると、最も高い『西部』(50.7%)と、最も低い『賀茂』(38.5%)では12.2ポイントの差が見られる。

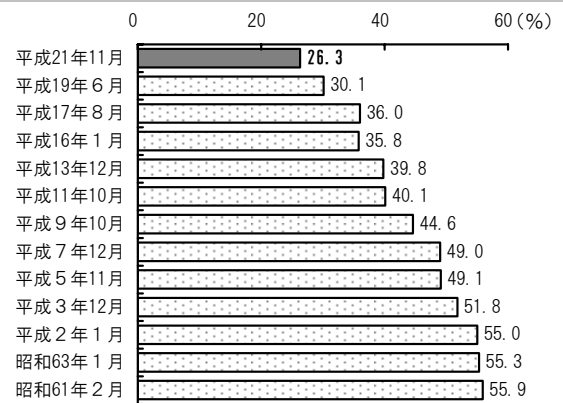


東海地震に対する防災対策 <経年比較>

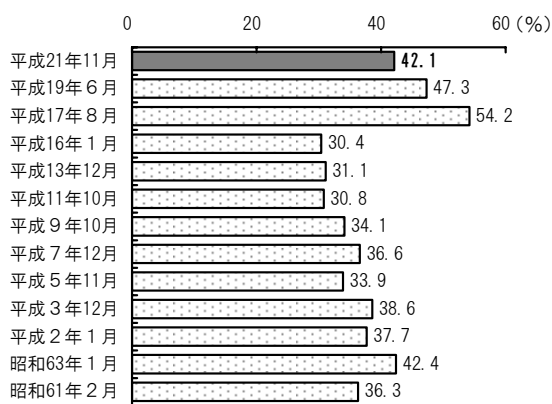
非常持出し品を用意している



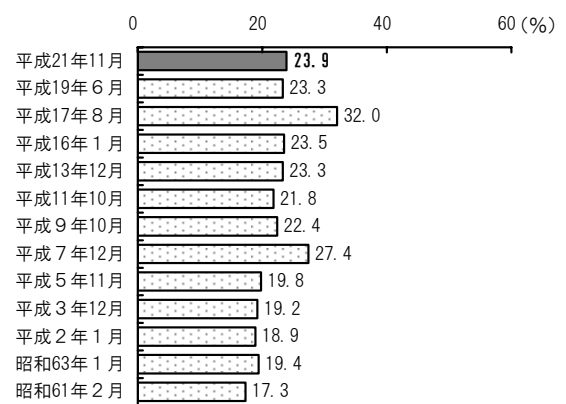
ガスを使わないときにはガス栓を閉めている



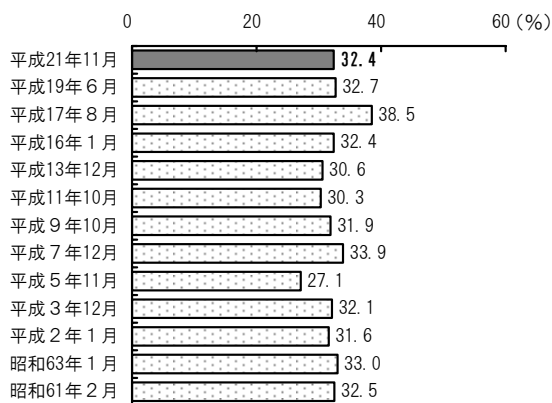
消火器などを用意している



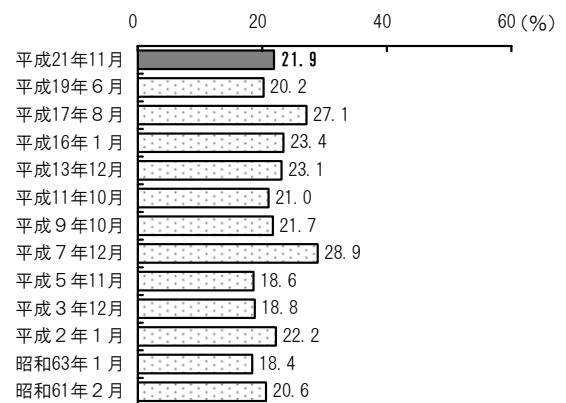
家族との連絡方法を決めている



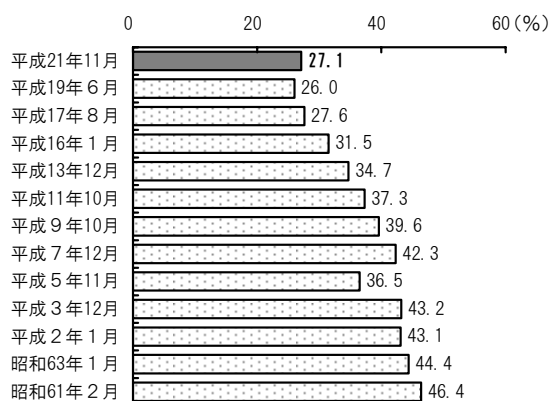
警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている



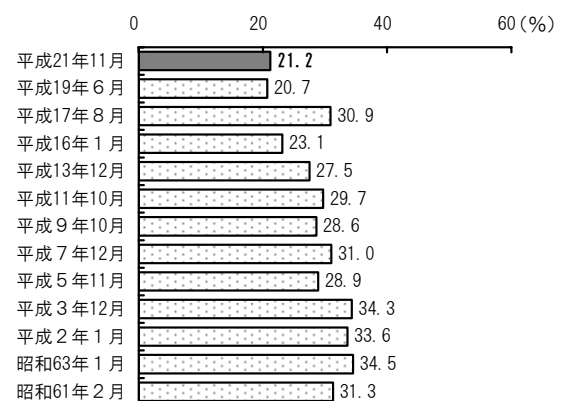
家族が離ればなれになった時の落ち合う場所を決めている



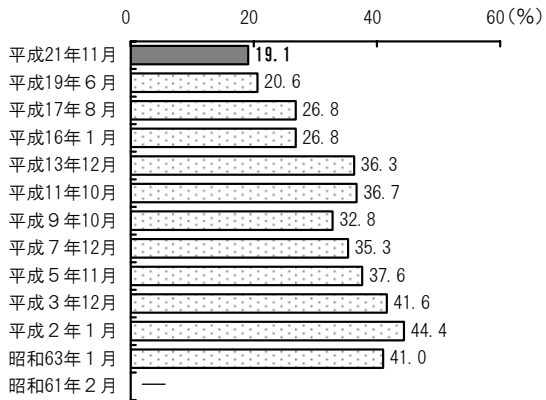
風呂にいつも水を入れている



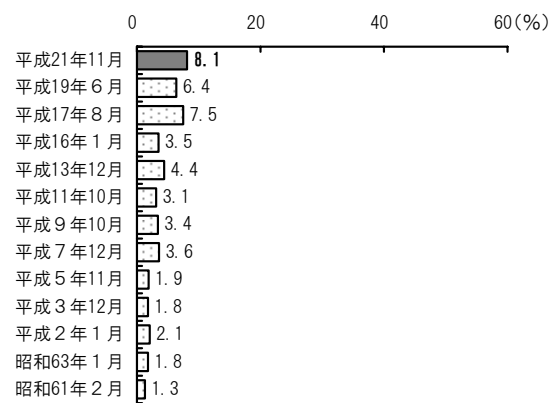
火気器具の周りを整理している



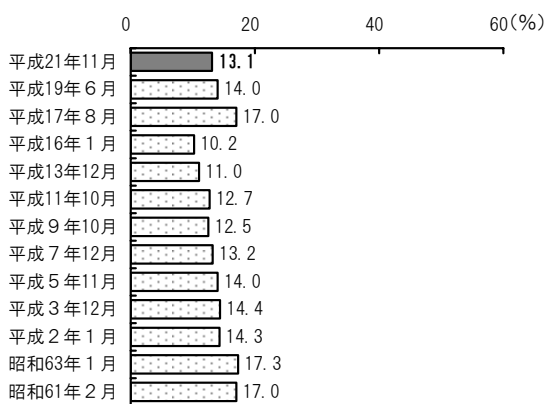
ガスボンベが倒れないようにしている



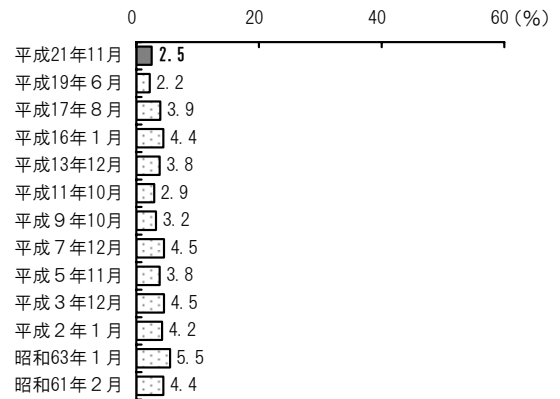
ガラス飛散防止をしている



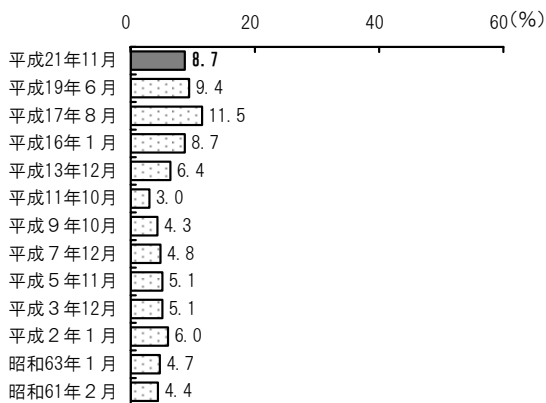
幼稚園や小学校と園児・児童の引き取り方法を決めている



防災についての家族の役割を決めている



警戒宣言が発せられた時の家族の行動を決めている



経年比較でみると、日常面での備えの「消火器などを用意している」は、今回調査（42.1%）が前回調査（47.3%）より5.2ポイント減少している。平成3年12月調査まで半数を超えていた「ガスを使わないときにはガス栓を閉めている」は、平成16年1月調査まで1位だったものの、平成17年8月調査で3位（36.0%）、平成19年6月調査で3位（30.1%）、今回調査では4位（26.3%）と順位を落としている。行動面での備えは、前回調査とほぼ同様の結果となっている。

日常面での備え 上位5位（平成21年） <経年比較>

上位5位項目	平成21年 11月	前回比	平成19年 6月	平成17年 8月	平成16年 1月	平成13年 12月	平成11年 10月	平成9年 10月	平成7年 12月	平成5年 11月	平成3年 12月	平成2年 1月	昭和63年 1月	昭和61年 2月
1位 非常持出し品を用意している	49.8	(-0.3)	50.1	52.4	33.4	39.3	38.8	42.6	49.4	33.8	35.1	44.7	47.9	49.4
2位 消火器などを用意している	42.1	(-5.2)	47.3	54.2	30.4	31.1	30.8	34.1	36.6	33.9	38.6	37.7	42.4	36.3
3位 風呂にいつも水を入れている	27.1	(1.1)	26.0	27.6	31.5	34.7	37.3	39.6	42.3	36.5	43.2	43.1	44.4	46.4
4位 ガスを使わないときにはガス栓を閉めている	26.3	(-3.8)	30.1	36.0	35.8	39.8	40.1	44.6	49.0	49.1	51.8	55.0	55.3	55.9
5位 火気器具の周りを整理している	21.2	(0.5)	20.7	30.9	23.1	27.5	29.7	28.6	31.0	28.9	34.3	33.7	34.5	31.3

行動面での備え 上位5位（平成21年） <経年比較>

上位5位項目	平成21年 11月	前回比	平成19年 6月	平成17年 8月	平成16年 1月	平成13年 12月	平成11年 10月	平成9年 10月	平成7年 12月	平成5年 11月	平成3年 12月	平成2年 1月	昭和63年 1月	昭和61年 2月
1位 警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている	32.4	(-0.3)	32.7	38.5	32.4	30.6	30.3	31.9	33.9	27.1	32.1	31.6	33.0	32.5
2位 家族との連絡方法を決めている	23.9	(0.6)	23.3	32.0	23.5	23.3	21.8	22.4	27.4	19.8	19.2	18.9	19.4	17.3
3位 家族が離ればなれになった時の落ち合う場所を決めている	21.9	(1.7)	20.2	27.1	23.4	23.1	21.0	21.7	28.9	18.6	18.8	22.2	18.4	20.6
4位 幼稚園や小学校と園児・児童の引き取り方法を決めている	13.1	(-0.9)	14.0	17.0	10.2	11.0	12.7	12.5	13.2	14.0	14.4	14.3	17.3	17.0
5位 警戒宣言が発せられた時の家族の行動を決めている	8.7	(-0.7)	9.4	11.5	8.7	6.4	3.0	4.3	4.8	5.1	5.1	6.0	4.7	4.4

東海地震に備えた防災対策で実施している項目1項目につき1点というポイントを与え、各属性ごとに平均ポイントを算出し、防災準備数にて比較を行う。なお、全体平均は3.3ポイントとなっている。

性・年代別でみると、男女ともに年代が上がるにつれて防災準備数は多くなる傾向が見られる。最も得点が高い『女性60歳以上』（4.0ポイント）と、最も得点が高い『男性30代』（2.6ポイント）では1.4ポイントの差が見られる。

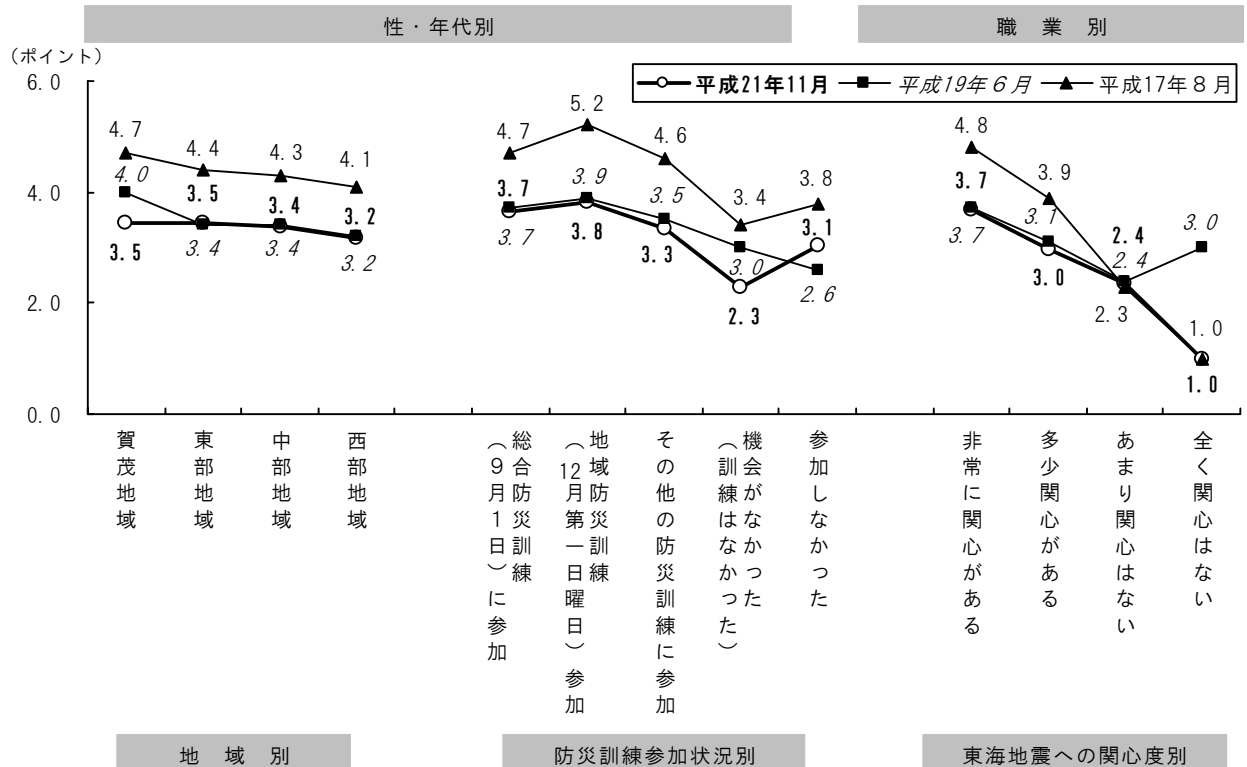
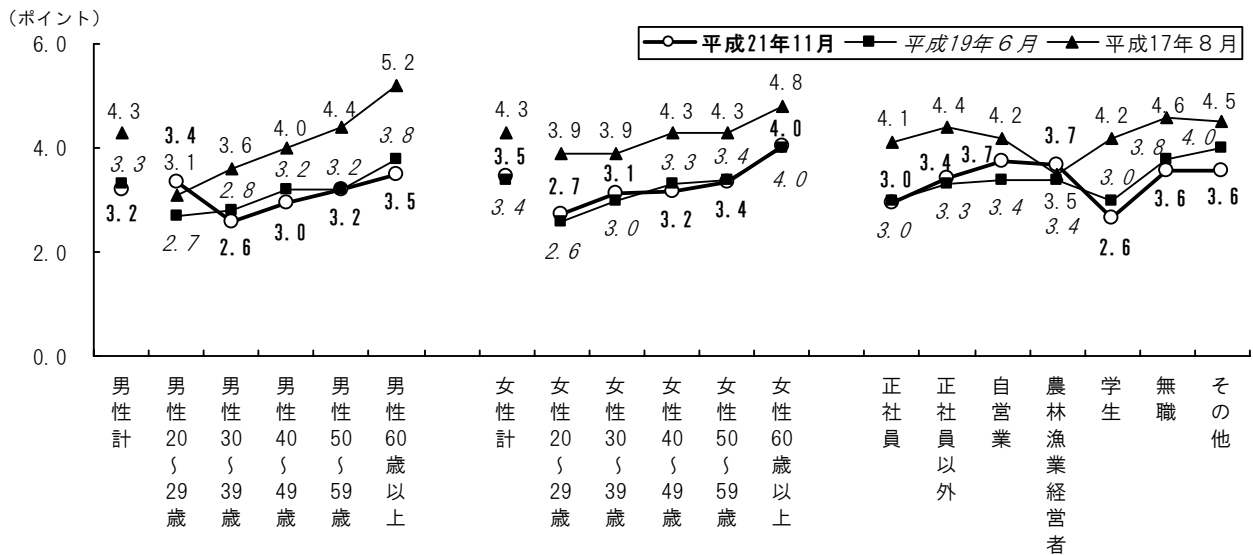
職業別でみると、『自営業』・『農林漁業経営者』（3.7ポイント）が他に比べて高くなっている。

地域別でみると、どの地域も大きな差は見られない。

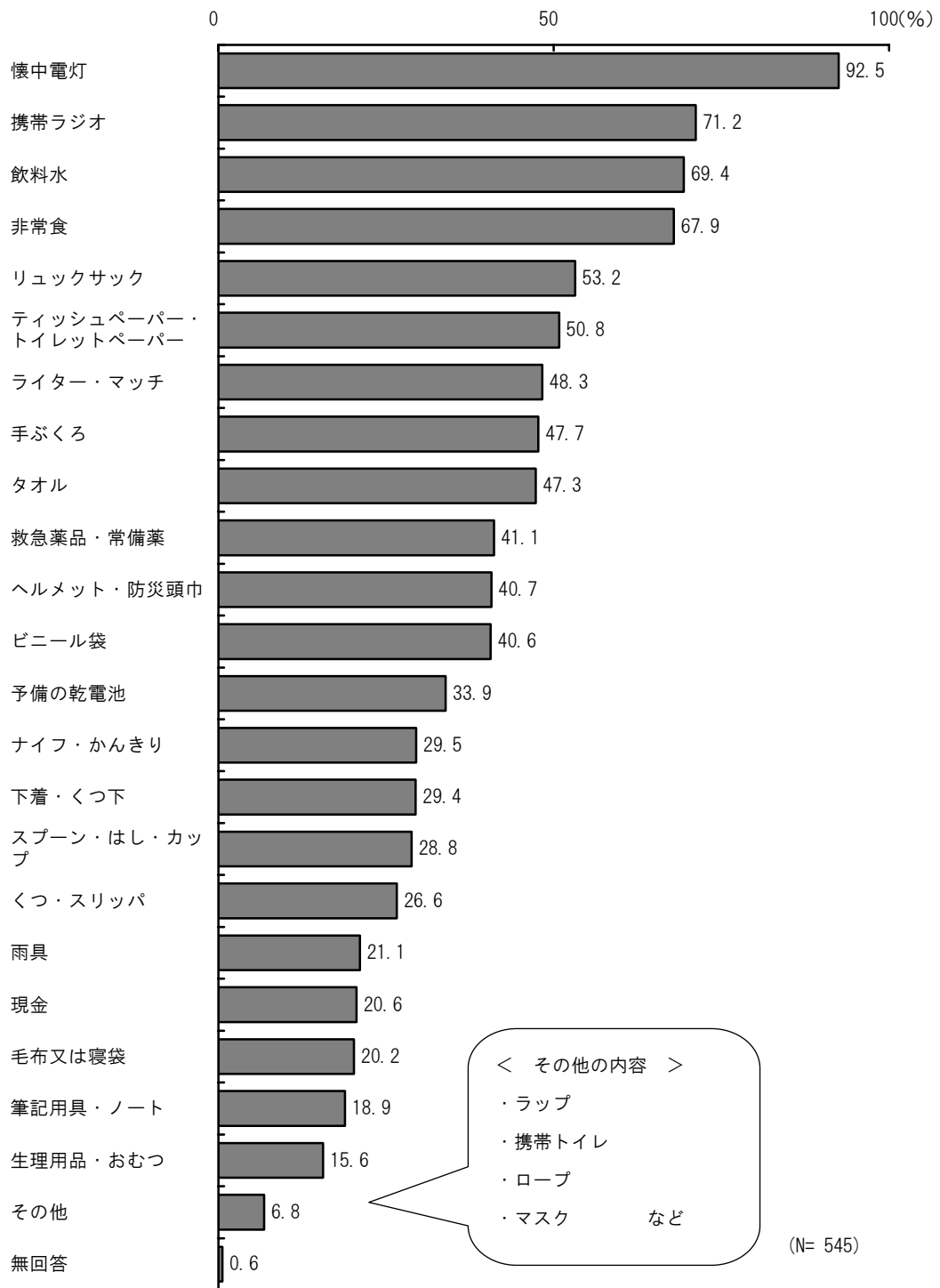
防災訓練参加状況別でみると、最も高い『地域防災訓練に参加』（3.8ポイント）と、最も低い『機会がなかった（訓練はなかった）』（2.3ポイント）では1.5ポイントの差が見られる。

東海地震への関心度別でみると、最も高い『非常に関心がある』（3.7ポイント）と、最も低い『全く関心はない』（1.0ポイント）では2.7ポイントの差が見られる。

防災準備数平均 <属性別> 全体平均 3.3ポイント



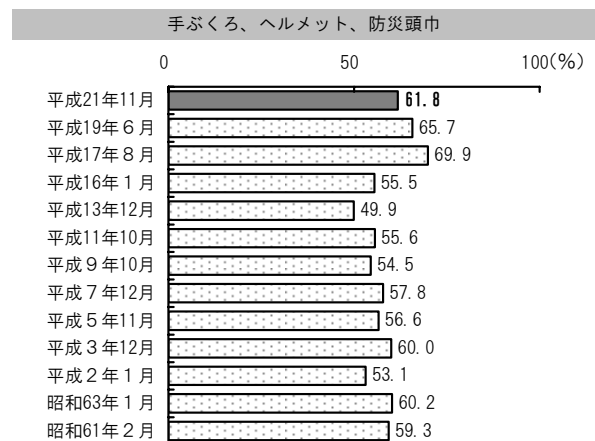
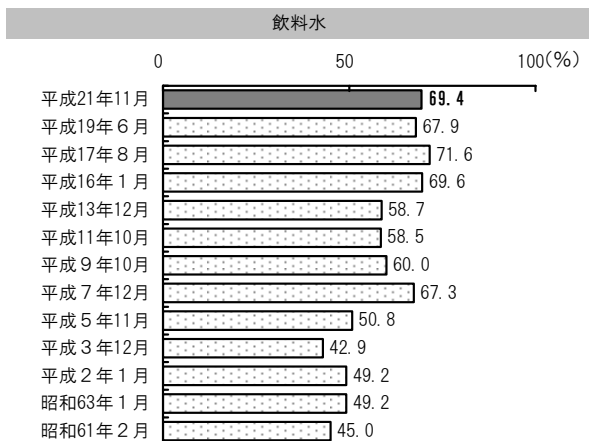
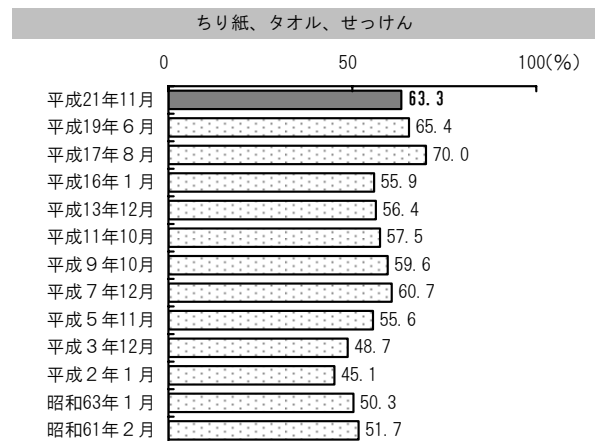
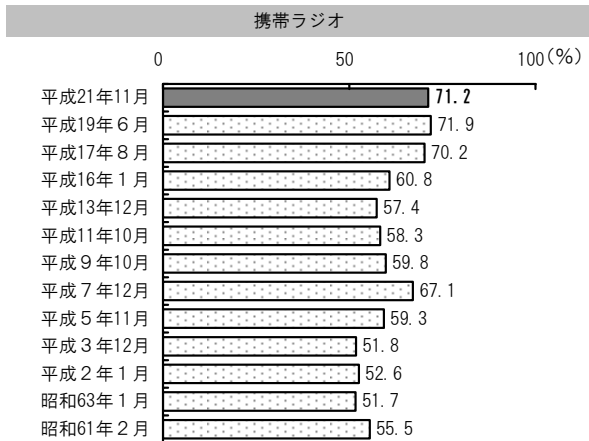
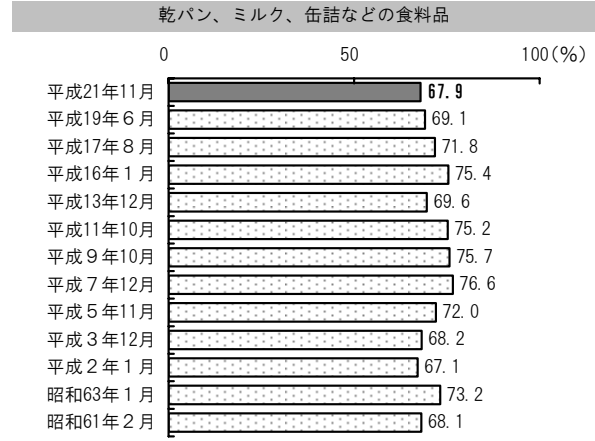
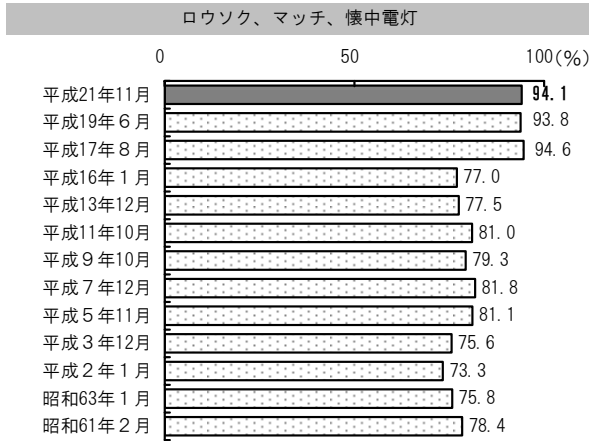
問11-1 <問11で「13 非常持出し品を用意している」を選んだ方にお伺いします。>
 非常持出し品として何を用意していますか。(M. A.)



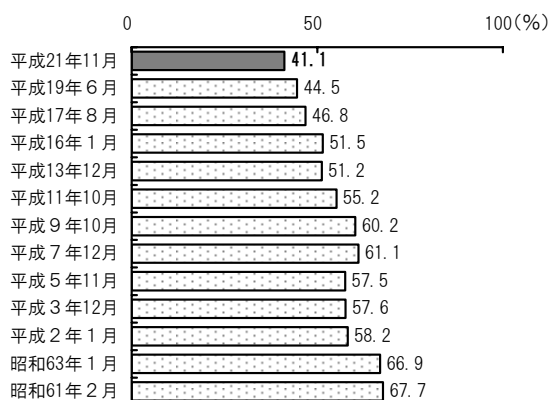
問11で「非常持出し品を用意している」と回答した人に何を用意しているかをたずねたところ、「懐中電灯」(92.5%)の割合が最も高く、次いで「携帯ラジオ」(71.2%)、「飲料水」(69.4%)、「非常食」(67.9%)の順となっている。

用意している非常持出し品を**経年比較**でみると、今回調査では「ろうソク、マッチ、懐中電灯」（94.1%）と「飲料水」（69.4%）が前回調査よりわずかに増加しているものの、他の非常持出し品ではポイントが減少している。

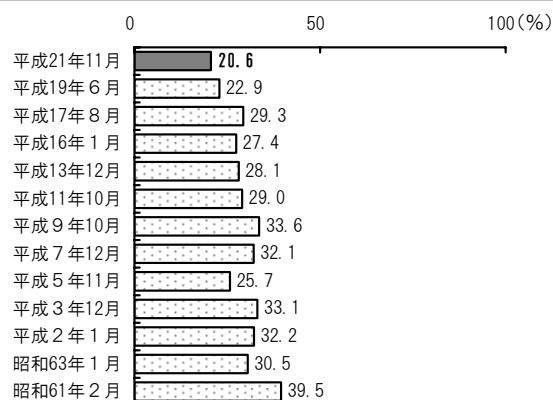
用意している非常持出し品 <経年比較>



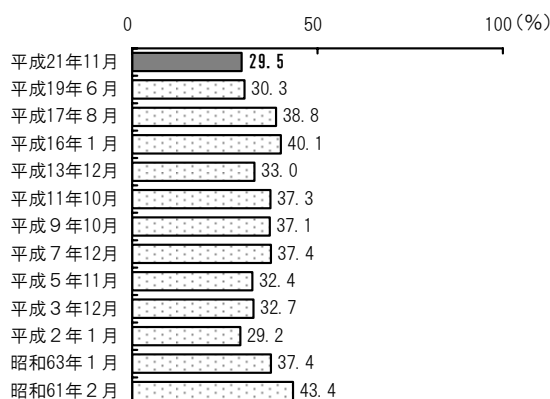
救急医療品、常備薬



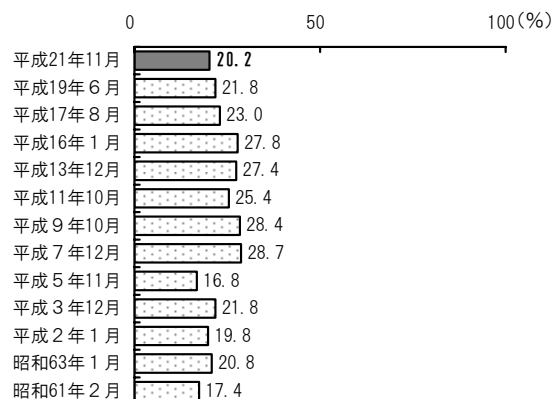
現金



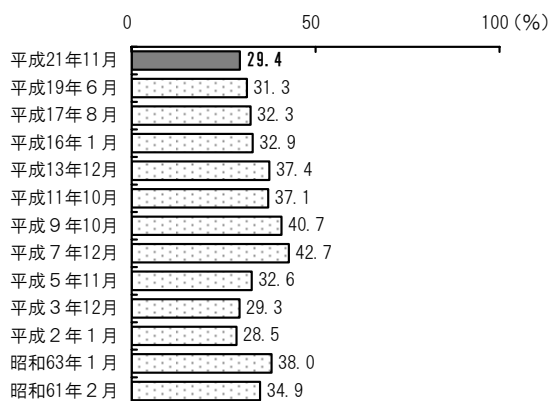
ナイフ、缶切り、ロープ、ひも



毛布又は寝袋



下着類



平均準備品目数

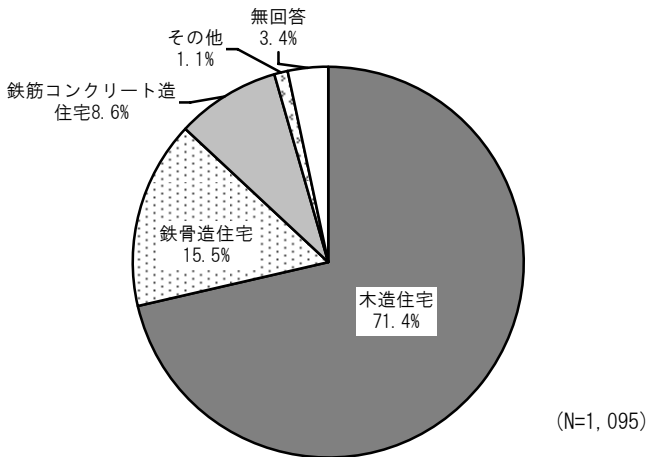
経年比較

平成 21 年 11 月	9.3	(23 項目中)
平成 19 年 6 月	9.5	(23 項目中)
平成 17 年 8 月	10.1	(23 項目中)
平成 16 年 1 月	6.2	(14 項目中)
平成 13 年 12 月	6.0	(14 項目中)
平成 11 年 10 月	6.2	(14 項目中)
平成 9 年 10 月	6.4	(14 項目中)
平成 7 年 12 月	6.6	(13 項目中)
平成 5 年 11 月	5.9	(13 項目中)
平成 3 年 12 月	5.7	(12 項目中)
平成 2 年 1 月	5.5	(12 項目中)
昭和 63 年 1 月	6.0	(12 項目中)
昭和 61 年 2 月	6.2	(12 項目中)

3 住宅の耐震補強について

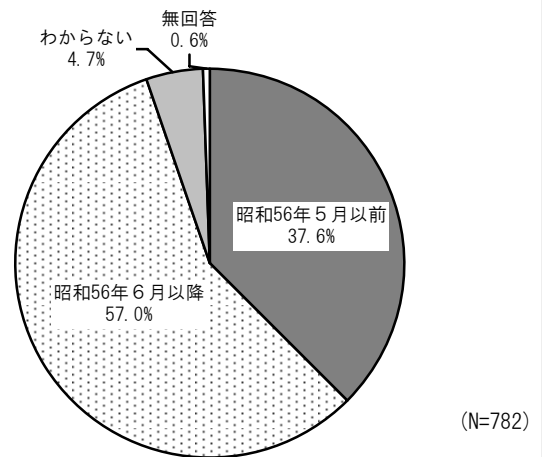
3-1 家屋の構造と耐震診断

問12 あなたのお住まいの家は、次のどれにあたり
ますか。



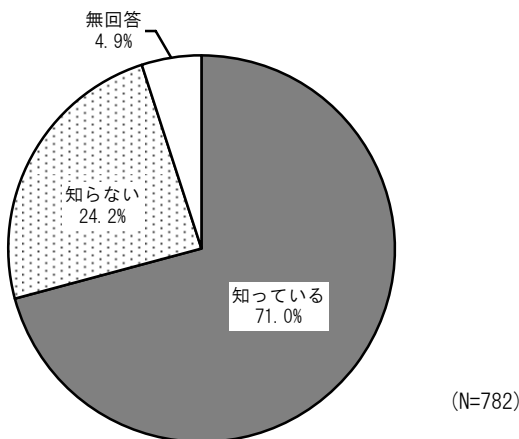
問12-1 <問12で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺
いします。>

あなたのお住まいの「木造住宅」は、い
つ建てられた住宅ですか。



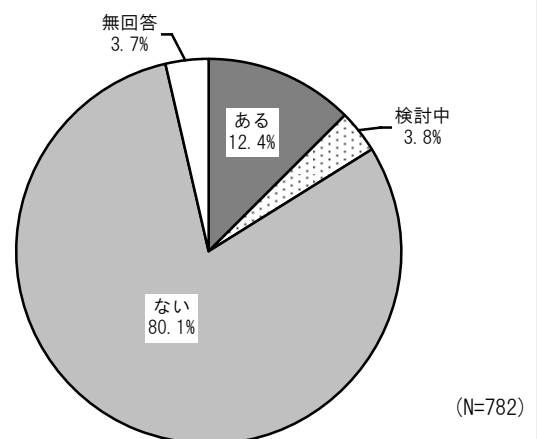
問12-2 <問12で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺
いします。>

市町では、昭和56年5月以前に建てられ
た木造住宅の耐震診断を無料で実施して
いることを知っていますか。



問12-3 <問12で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺
いします。>

耐震診断をしたことがありますか。

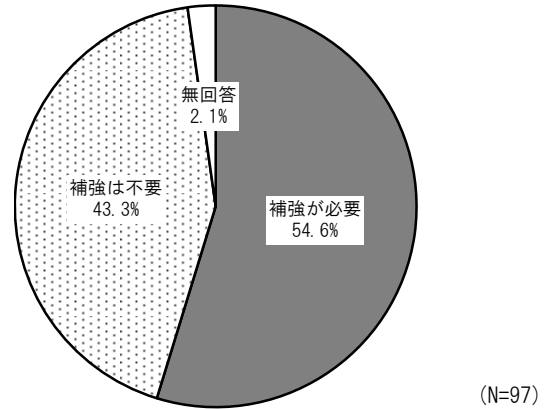
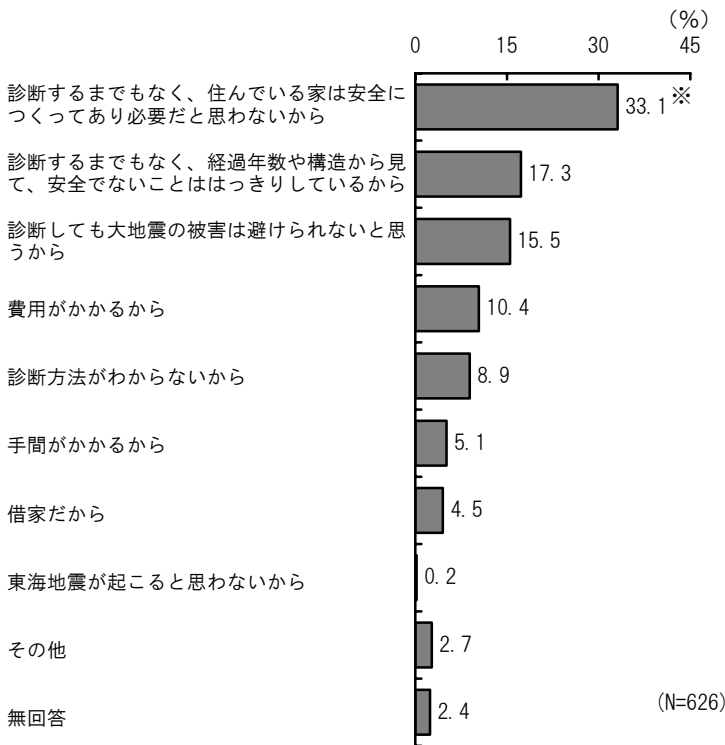


家屋の構造をたずねたところ、「木造住宅」(71.4%)の割合が最も高く、次いで「鉄骨造住宅」(15.5%)、「鉄筋コンクリート造住宅」(8.6%)の順となっている。

問12で「木造住宅」と回答した人の建築時期については、建築基準法が改正された『昭和56年6月以降』(57.0%)が過半数を超えている。また、耐震診断の有無については、耐震診断をしたことが「ない」(80.1%)が最も高く、次いで「ある」(12.4%)、「検討中」(3.8%)の順となっており、耐震診断をしたことが「ない」という人が8割を占めている。

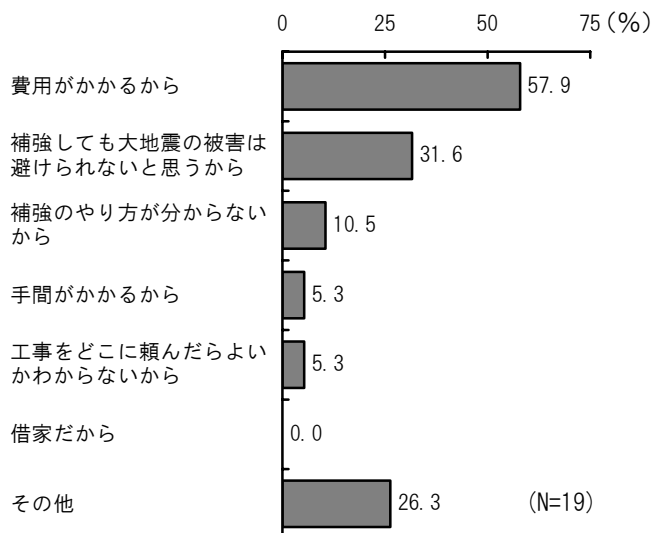
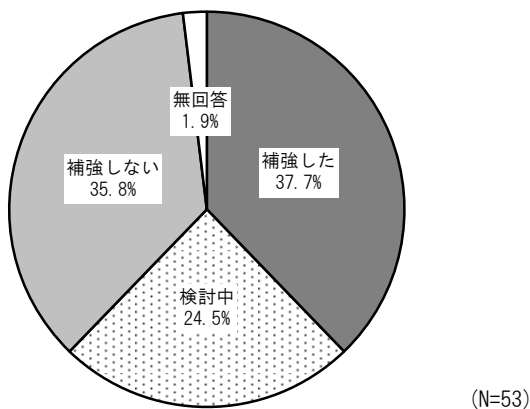
問12-3-1 <問12-3で「3 ない」を選んだ方にお伺いします。>
耐震診断をしないのはなぜですか。

問12-3-2 <問12-3で「1 ある」を選んだ方にお伺いします。>
結果はいかがでしたか。



問12-3-3 <問12-3-2で「1 補強が必要」を選んだ方にお伺いします。>
診断後、補強しましたか。

問12-3-4 <問12-3-3で「3 しない」を選んだ方にお伺いします。>
補強をしないのはなぜですか。
(M. A.)



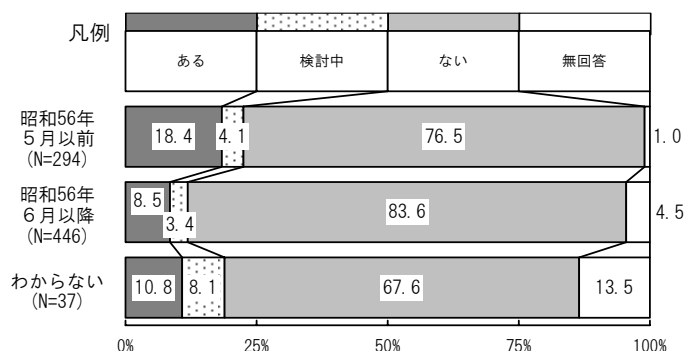
※問12-3-1で「その他」と回答した意見のうち、「耐震診断が必要な年数は経っていない」、「大工さんにみてもらった」及び「新築したばかりだから」といった「耐震診断は必要ない」という趣旨の回答49人分は、「診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくってあり必要だと思わない」に含めている。

問12-3で耐震診断をしたことが「ある」と回答した人に診断結果をたずねたところ、「補強が必要」(54.6%)、「補強は不要」(43.3%)の順となっており、「補強が必要」が過半数を超えている。また、問12-3-2で「補強が必要」と回答した人が診断後、補強をしたかについては、補強を「した」(37.7%)が最も高いものの、「検討中」(24.5%)、「補強しない」(35.8%)は合わせて60.3%で、耐震補強はなかなか進んでいない。

問12-3-3で補強を「しない」と回答した人の理由については、「費用がかかるから」(57.9%)が最も高くなっている。次いで、「補強しても大地震の被害は避けられないと思うから」(31.6%)、「補強のやり方が分からないから」(10.5%)の順となっている。

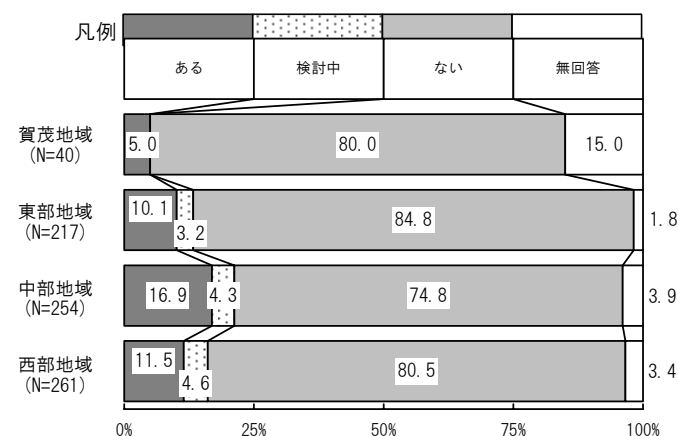
耐震診断の実施率 ＜木造住宅建築時期別＞

木造住宅建築時期別でみると、「ある」は、『昭和56年5月以前』(18.4%)が、『昭和56年6月以降』(8.5%)を9.9ポイント上回っている。



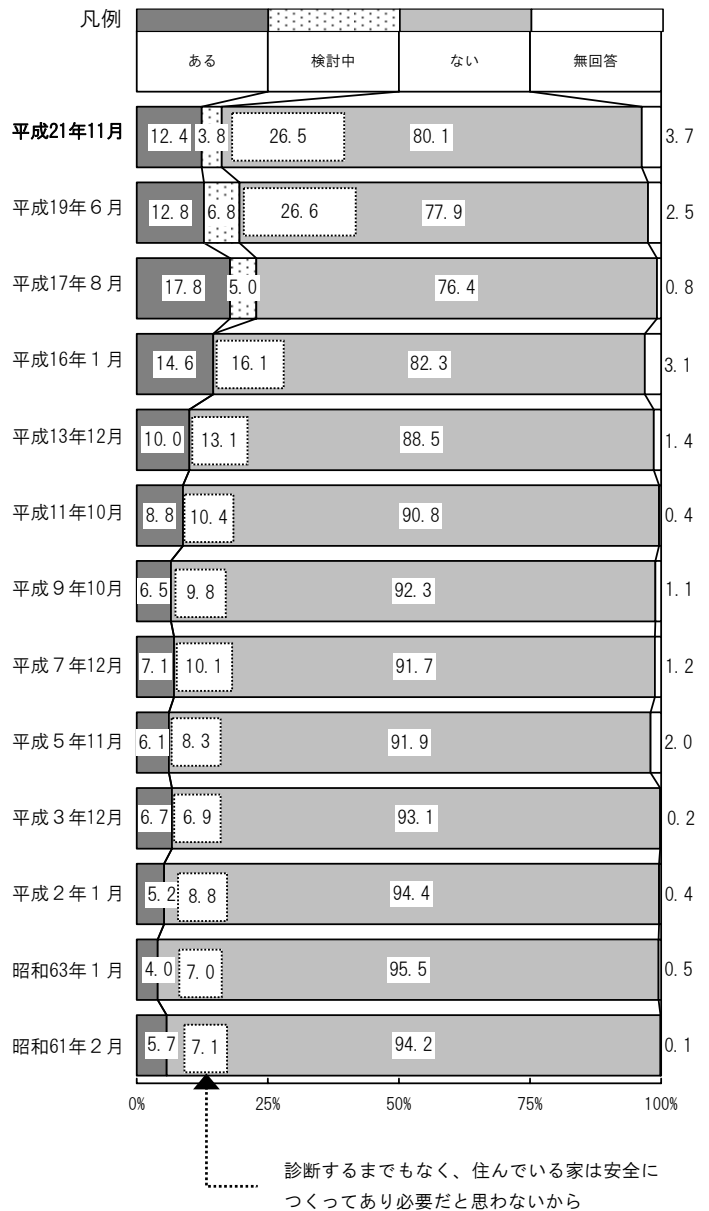
＜地域別＞

地域別でみると、「ある」は、最も高い『中部』(16.9%)と最も低い『賀茂』(5.0%)では11.9ポイントの差が見られる。



耐震診断の実施率 <経年比較>

経年比較でみると、耐震診断の実施率は今回調査（12.4%）と、前回調査（12.8%）でほぼ同様の結果となっている。

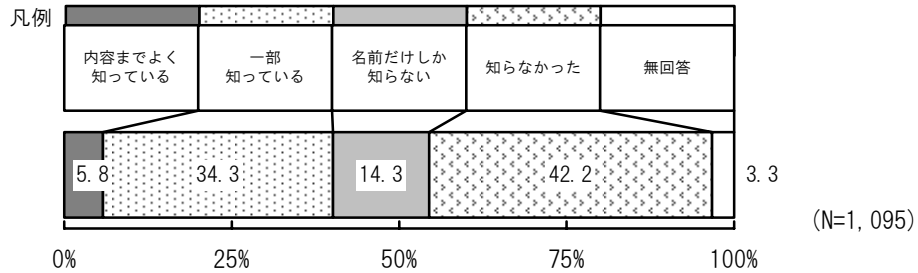


※「検討中」の項目は、平成17年度から設定した。

※耐震診断していない理由（「診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくってあり必要だと思わないから」）について、平成17年度は未調査。

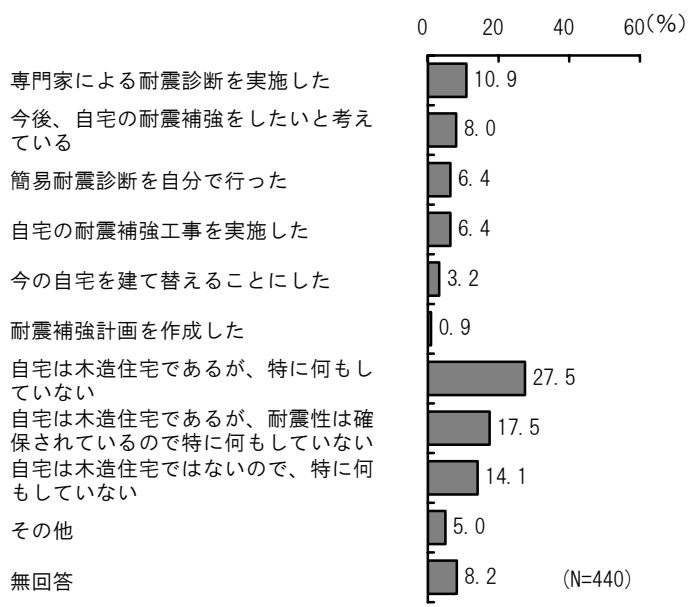
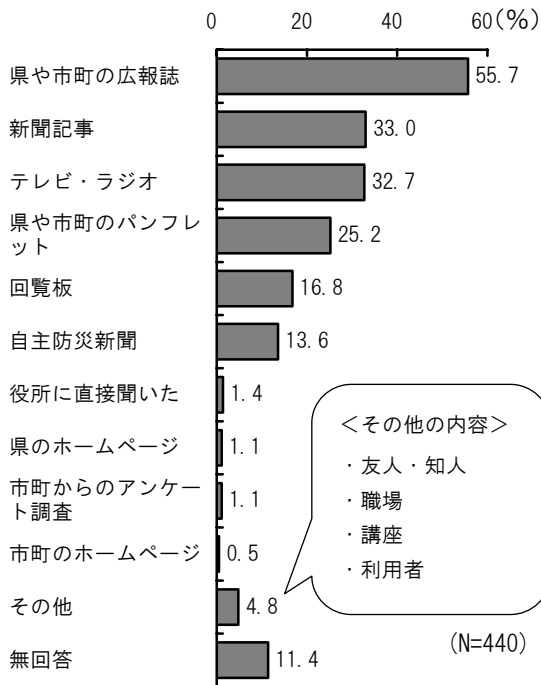
<参考>「診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくってあり必要だと思わないから」は、木造住宅かつ耐震診断非実施者が回答する問12-3-1（P57）で33.1%（626人中207人）である。本グラフの問12-2（P56）は木造住宅者が回答する項目であることから、木造住宅者数で除した26.5%（782人中207人）で掲載し、経年比較を可能にしている。

問13 現在、静岡県では木造住宅の耐震化促進事業プロジェクト「TOUKAI（東海・倒壊）-0（ゼロ）」を推進しています。この事業の内容は、①専門家による無料耐震診断 ②耐震補強計画策定への補助 ③耐震補強工事への補助の3つの項目からなっています。あなたは、このことをご存知でしたか。



問13-1 <問13で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>
あなたはプロジェクト「TOUKAI（東海・倒壊）-0（ゼロ）」をどのようにして知りましたか。（M. A.）

問13-2 <問13で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>
あなたはプロジェクト「TOUKAI（東海・倒壊）-0（ゼロ）」を知って、どのような行動をされましたか。（M. A.）



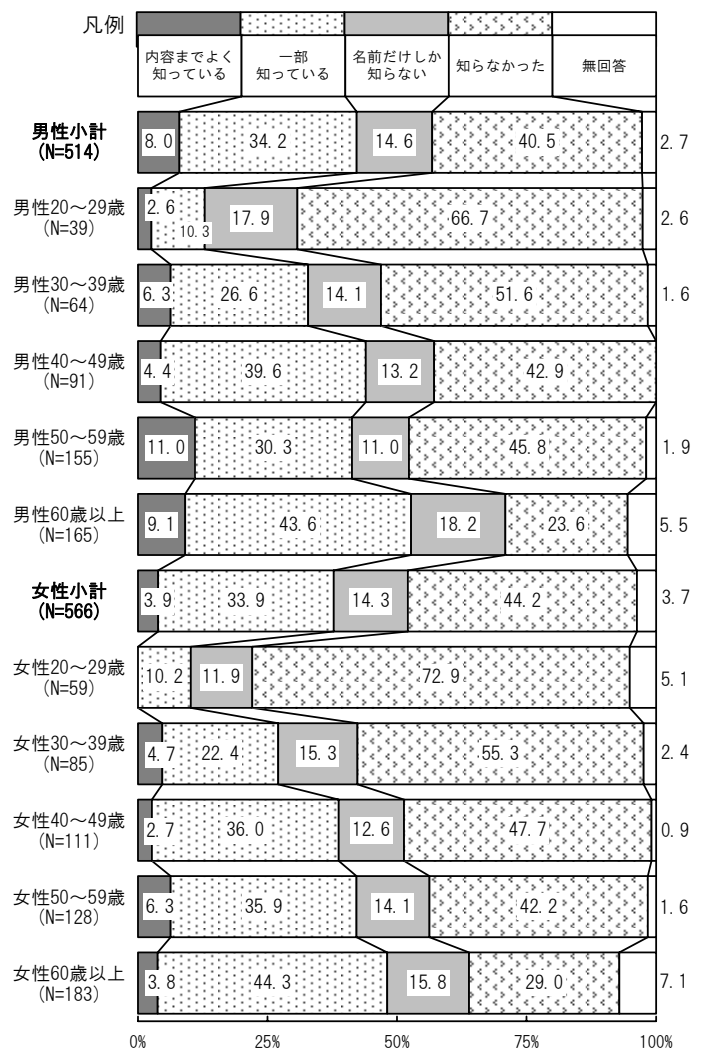
プロジェクト「TOUKAI（東海・倒壊）ー0（ゼロ）」の認知についてたずねたところ、「知らなかった」（42.2%）の割合が最も高く、次いで「一部知っている」（34.3%）、「名前だけしか知らない」（14.3%）、「内容までよく知っている」（5.8%）の順となっており、内容を知らない人（「名前だけしか知らない」＋「知らなかった」）（56.5%）が過半数を超えている。

ある程度内容を理解していた人（「内容までよく知っている」＋「一部知っている」）の認知方法については、「県や市町の広報誌」（55.7%）が最も高く、次いで「新聞記事」（33.0%）、「テレビ・ラジオ」（32.7%）、「県や市町のパンフレット」（25.2%）の順となっている。

また、認知後の行動については、「自宅は木造住宅であるが、特に何もしていない」（27.5%）が最も高く、次いで「自宅は木造住宅であるが、耐震性は確保されているので特に何もしていない」（17.5%）、「自宅は木造住宅ではないので、特に何もしていない」（14.1%）の順となっている。具体的にとった行動としては、「専門家による耐震診断を実施した」（10.9%）、「今後、自宅の耐震補強をしたいと考えている」（8.0%）が高くなっている。

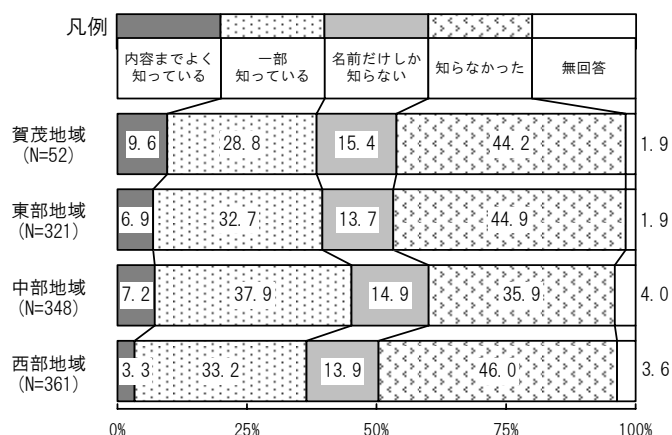
プロジェクト「TOUKAIー0」の 認知率 <性・年代別>

性・年代別で見ると、「知らなかった」は、男女とも『20代』で他の年代に比べ高くなっており、男性は6割、女性は7割を超えている。年代が上がるほど「知らなかった」の割合は低くなっている。



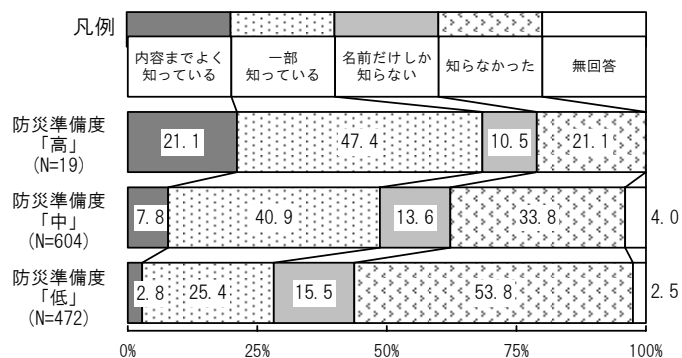
プロジェクト「TOUKAI-0」 の認知率 <地域別>

地域別でみると、「内容までよく知っている」と「一部知っている」は、『中部』(45.1%)で最も高くなっている。最も低い『西部』(36.5%)とは8.6ポイントの差が見られる。



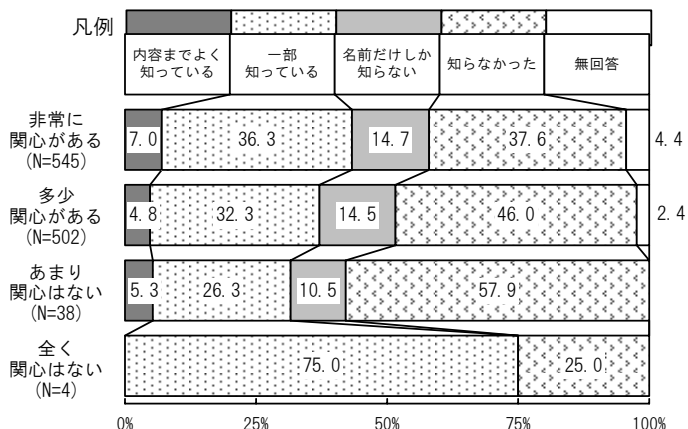
<防災準備度別>

防災準備度別でみると、「内容までよく知っている」と「一部知っている」は、『防災準備度「高」』(68.5%)で最も高くなっている。最も低い『防災準備度「低」』(28.2%)とは40.3ポイントの差が見られ、防災準備度が高い人ほど認知率は高い傾向にある。



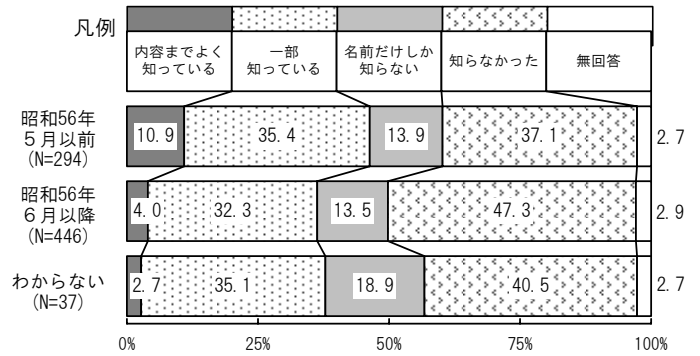
<東海地震への関心度別>

東海地震への関心度別でみると、「内容までよく知っている」と「一部知っている」は、『非常に関心がある』(43.3%)で高くなっている。最も低い『あまり関心はない』(31.6%)とは11.7ポイントの差が見られ、関心が高い人ほど認知率は高い傾向にある。



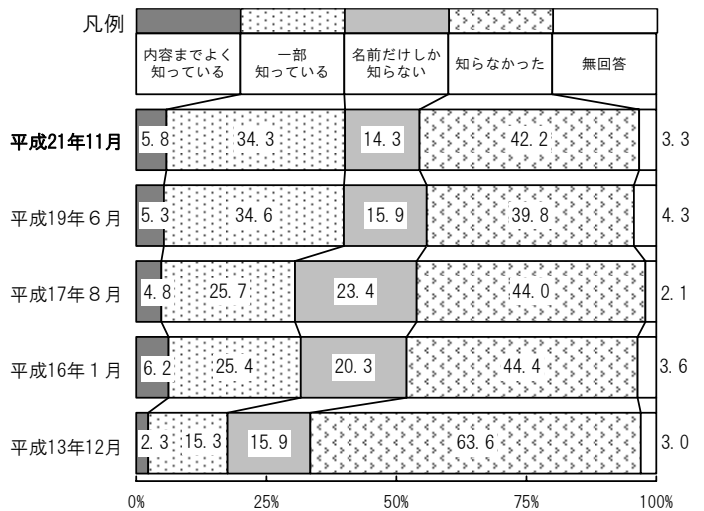
プロジェクト「TOUKAI-0」 の認知率<木造住宅建築時期別>

木造住宅建築時期別で見ると、「内容までよく知っている」と「一部知っている」と答えた人を合わせると、『昭和56年5月以前』（46.3%）と『昭和56年6月以降』（36.3%）では、10.0ポイントの差が見られ、『昭和56年5月以前』の方が認知率は高くなっている。



<経年比較>

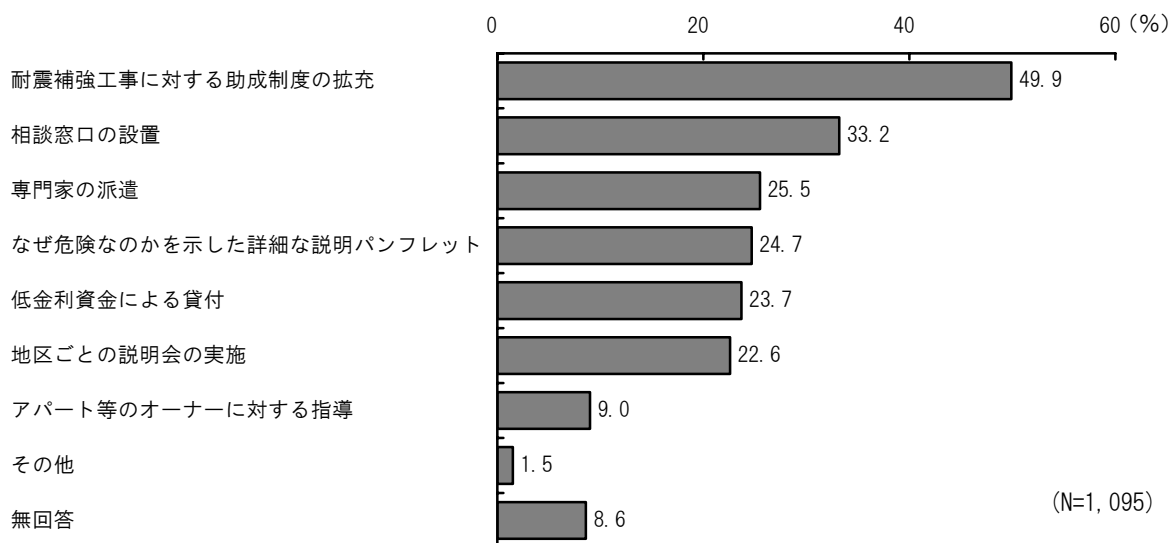
経年比較で見ると、「一部知っている」は、今回調査（34.3%）と前回調査（34.6%）でほぼ同率となっている。「知らなかった」は、今回調査（42.2%）が前回調査（39.8%）よりやや増加している。



この調査項目は平成13年度調査から設定した。

3-3 耐震化に対する行政への要望

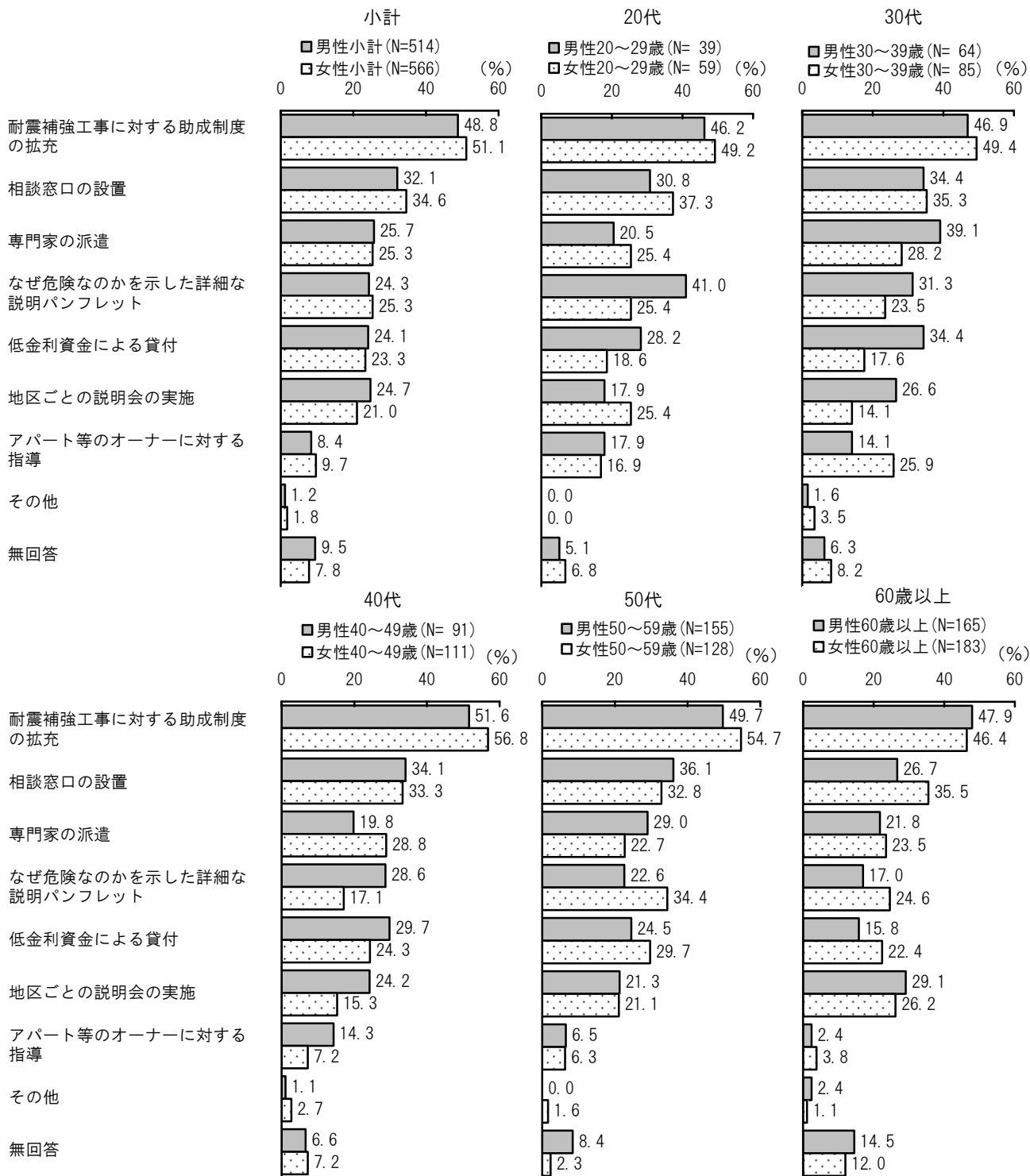
問14 今後、あなたのお住まいの家の耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがあります。次の中からあてはまるものをお選びください。(M. A.)



耐震化に対する行政への要望については、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」(49.9%)の割合が最も高く、次いで「相談窓口の設置」(33.2%)、「専門家の派遣」(25.5%)の順となっている。

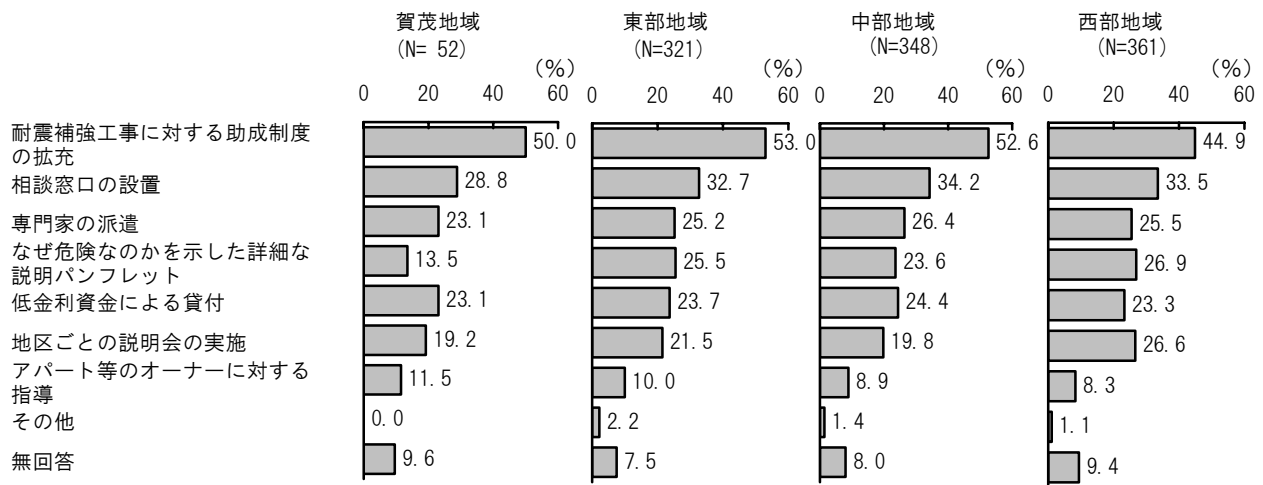
性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」が最も高くなっている。「相談窓口の設置」は、『男性60歳以上』を除いた全ての年齢で3割を超えている。「なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット」は、『男性20代』（41.0%）と、『女性50代』（34.4%）に高い傾向が見られる。

耐震化に対する行政への要望 <性・年代別>



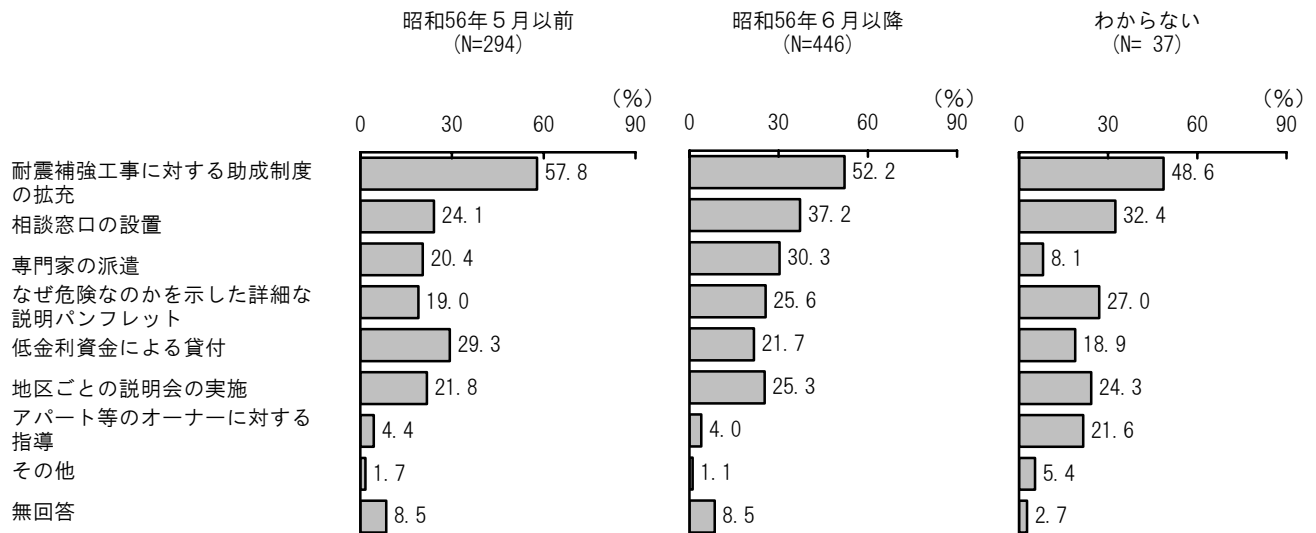
地域別でみると、「なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット」は、最も高い『西部』（26.9%）と最も低い『賀茂』（13.5%）では、13.4ポイントの差が見られる。

耐震化に対する行政への要望 <地域別>



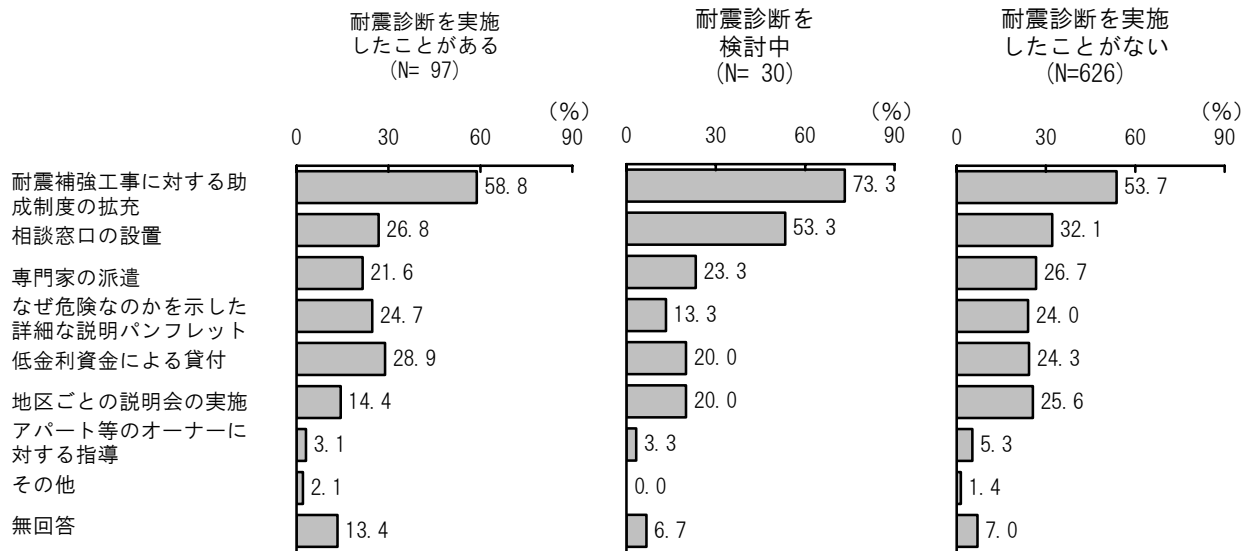
木造住宅建築時期別でみると、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」は、『昭和56年5月以前』（57.8%）も『昭和56年6月以降』（52.2%）も高くなっている。「相談窓口の設置」や「専門家の派遣」は、『昭和56年6月以降』が高くなっている。

耐震化に対する行政への要望 <木造住宅建築時期別>



耐震診断実施別で見ると、『耐震診断を検討中』では、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」（73.3%）と「相談窓口の設置」（53.3%）で他よりも高くなっている。

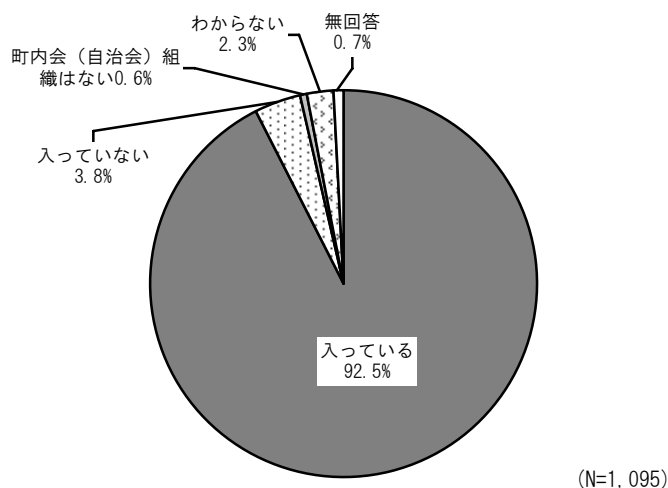
耐震化に対する行政への要望 <耐震診断実施別>



4 自主防災組織・防災訓練について

4-1 町内会への加入

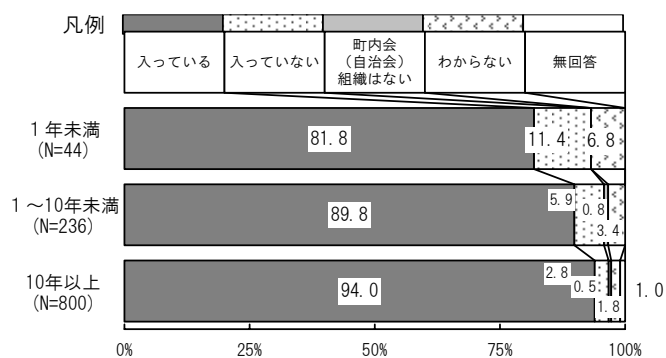
問15 あなたのお宅は、町内会（自治会）組織に入っていますか。



町内会（自治会）への加入についてたずねたところ、「入っている」（92.5%）の割合が最も高く、次いで「入っていない」（3.8%）、「わからない」（2.3%）、「町内会（自治会）組織はない」（0.6%）の順となっている。

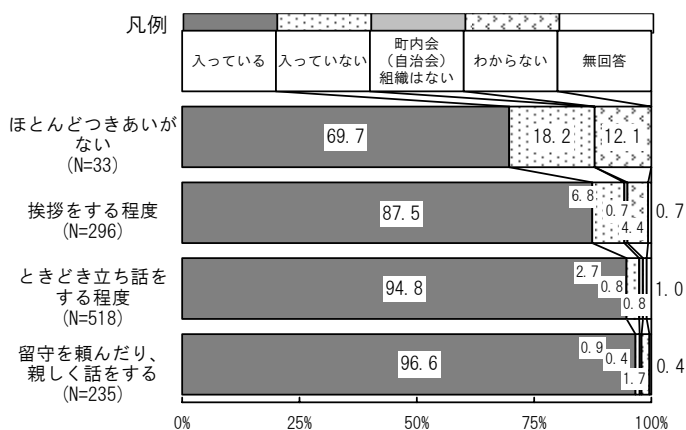
居住年数別でみると、「入っている」は、最も高い『10年以上』（94.0%）と、最も低い『1年未満』（81.8%）では12.2ポイントの差が見られる。

町内会への加入 <居住年数別>



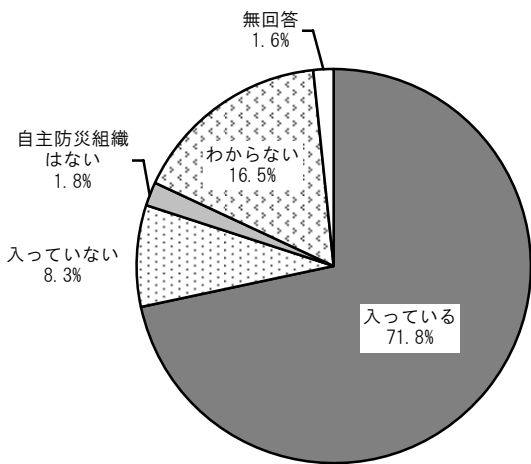
近所づきあいの程度別でみると、「入っている」は、最も高い『留守を頼んだり、親しく話をする』（96.6%）と、最も低い『ほとんどつきあがない』（69.7%）では26.9ポイントの差が見られる。

<近所づきあいの程度別>



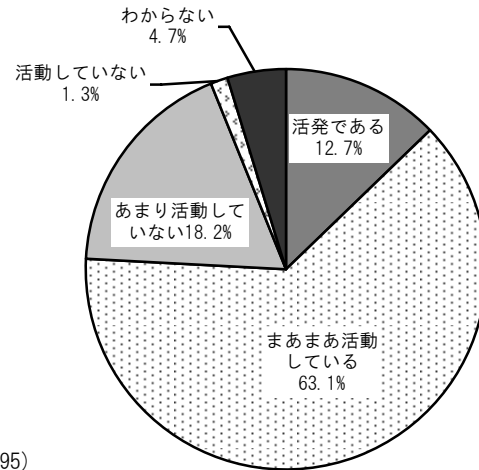
4-2 自主防災組織への加入と活動状況

問16 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。



問16-1 <問16で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

あなたの地区の自主防災組織の活動は活発ですか。

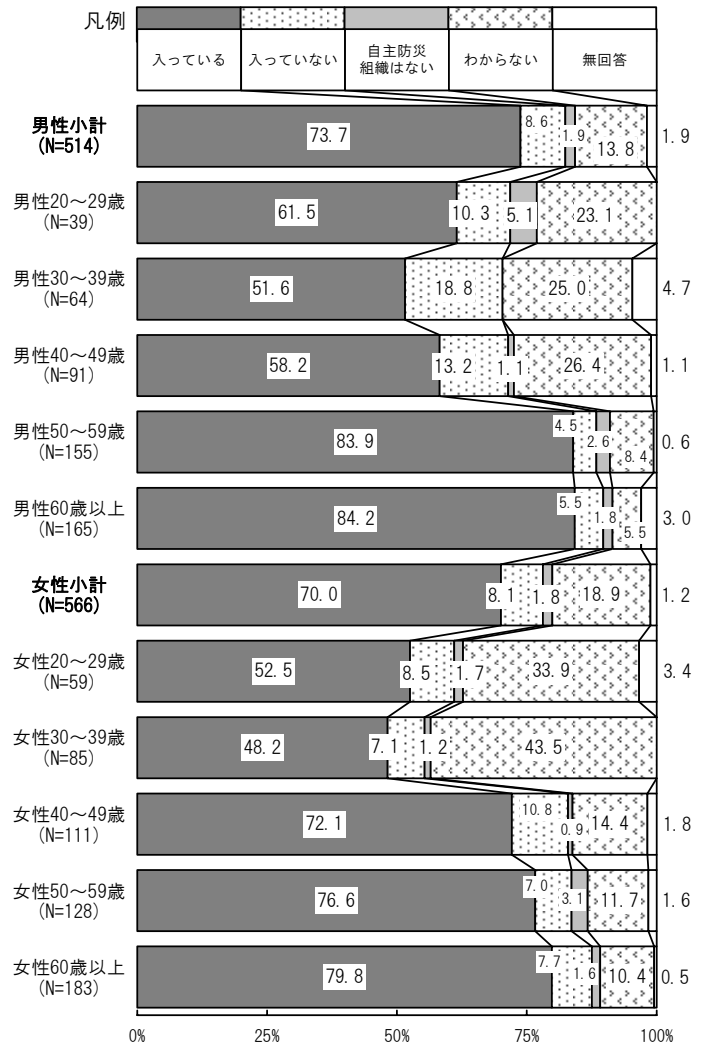


自主防災組織への加入についてたずねたところ、「入っている」(71.8%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(16.5%)、「入っていない」(8.3%)、「自主防災組織はない」(1.8%)の順となっている。

また、問16で自主防災組織に「入っている」と回答した人に自主防災組織の活動状況についてたずねたところ、「活発である」と「まあまあ活動している」を合わせると75.8%となり、7割以上の方が地区の自主防災組織の活動が活発だと感じている。

自主防災組織への加入状況 ＜性・年代別＞

性・年代別でみると、男女ともに年代が上がるほど「入っている」が高くなる傾向が見られ、男性は『60歳以上』（84.2%）と『50代』（83.9%）で8割を超えている。また、「わからない」は女性の『30代』（43.5%）が最も高く、4割を超えている。



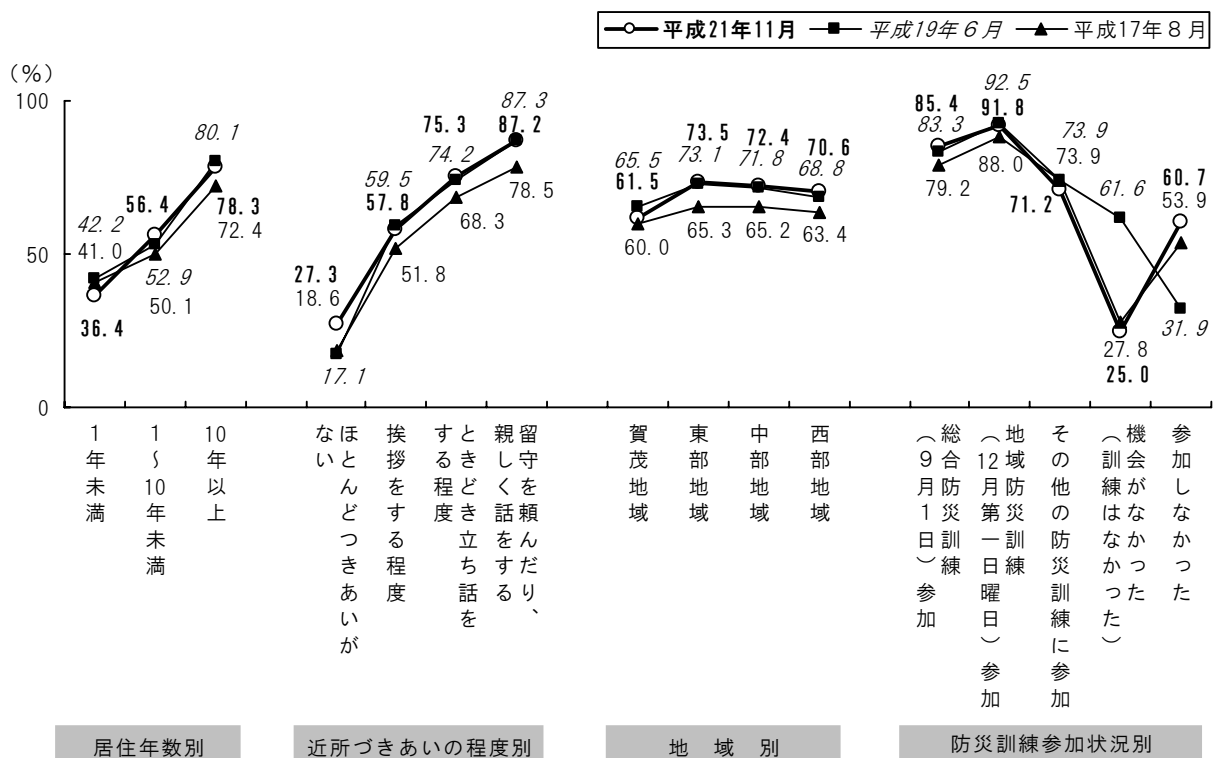
自主防災組織への加入率を属性別でみると、**居住年数別**では、年数が長くなるにつれて加入率が高くなっており、最も高い『10年以上』（78.3%）と最も低い『1年未満』（36.4%）では、41.9ポイントの差が見られる。

近所づきあいの程度別では、親しくなるほど加入率は高くなっており、最も高い『留守を頼んだり、親しく話をする』（87.2%）と、最も低い『ほとんどつきあいが無い』（27.3%）では、59.9ポイントの差が見られる。

地域別では、最も高い『東部』（73.5%）と最も低い『賀茂』（61.5%）では、12.0ポイントの差が見られる。

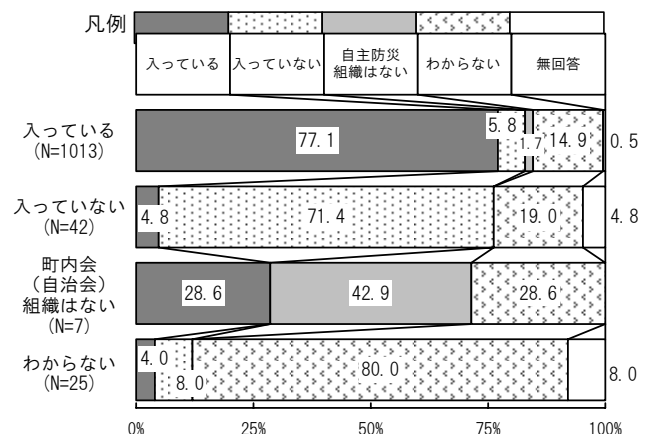
防災訓練参加状況別では、最も高い『地域防災訓練に参加』（91.8%）と、最も低い『機会がなかった（訓練はなかった）』（25.0%）では66.8ポイントの差が見られる。

自主防災組織への加入率 <属性別>



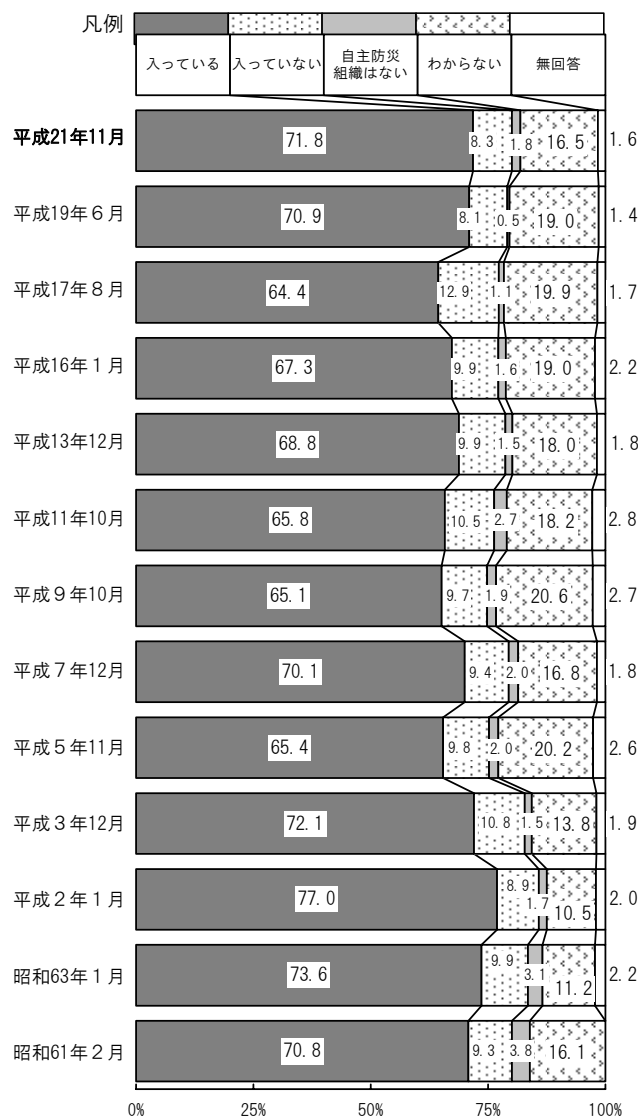
町内会への加入別でみると、町内会に『入っている』人は、自主防災組織へ「入っている」（77.1%）が高く、7割を超えている。

自主防災組織への加入状況 <町内会への加入別>



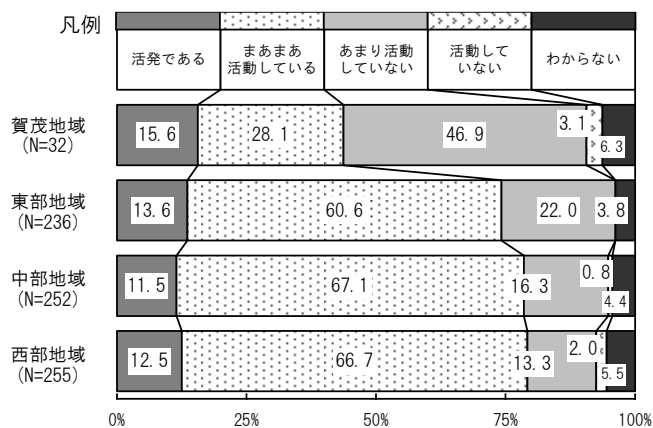
自主防災組織への加入状況 <経年比較>

経年比較でみると、平成2年1月で「入っている」(77.0%)が最も高くなっており、以降は7割を推移している。今回調査(71.8%)は、前回調査(70.9%)より0.9ポイント上回っている。



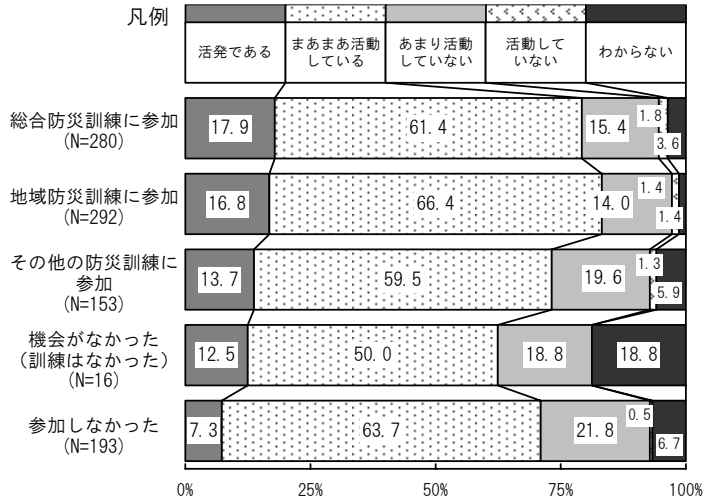
<地域別>

地域別でみると、「活発である」+「まあまあ活動している」は、『賀茂』(43.7%)を除いた全ての地域で7割を超えている。



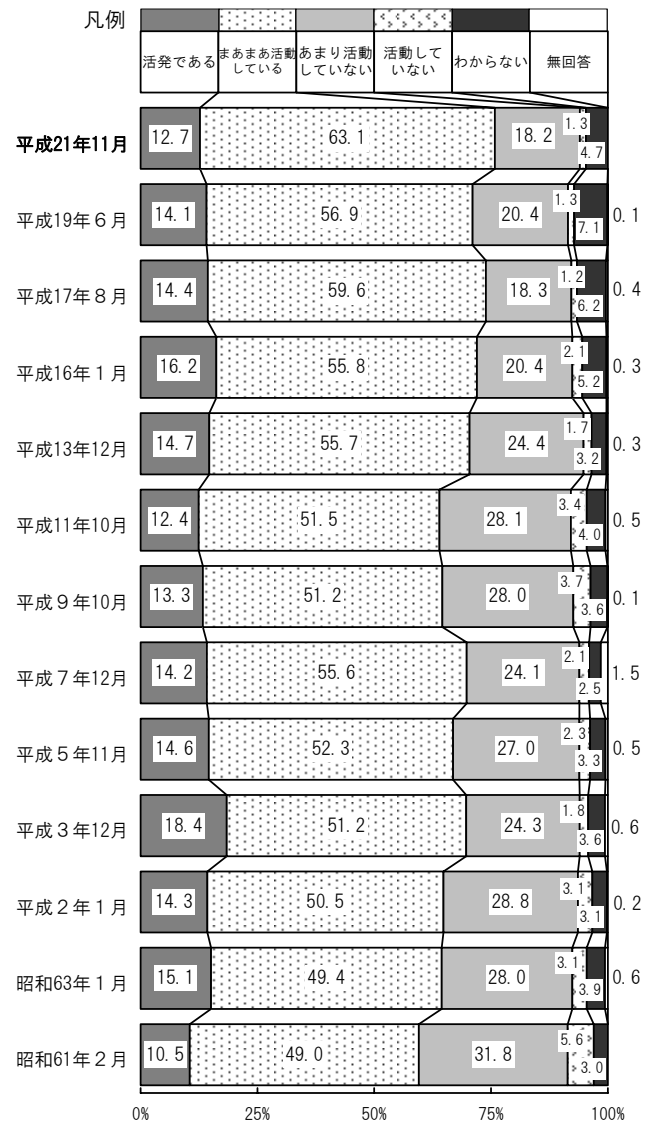
自主防災組織の活動状況 ＜防災訓練参加状況別＞

防災訓練参加状況別で見ると、いずれの参加状況においても「活発である」＋「まあまあ活動している」が6割を超えている。



＜経年比較＞

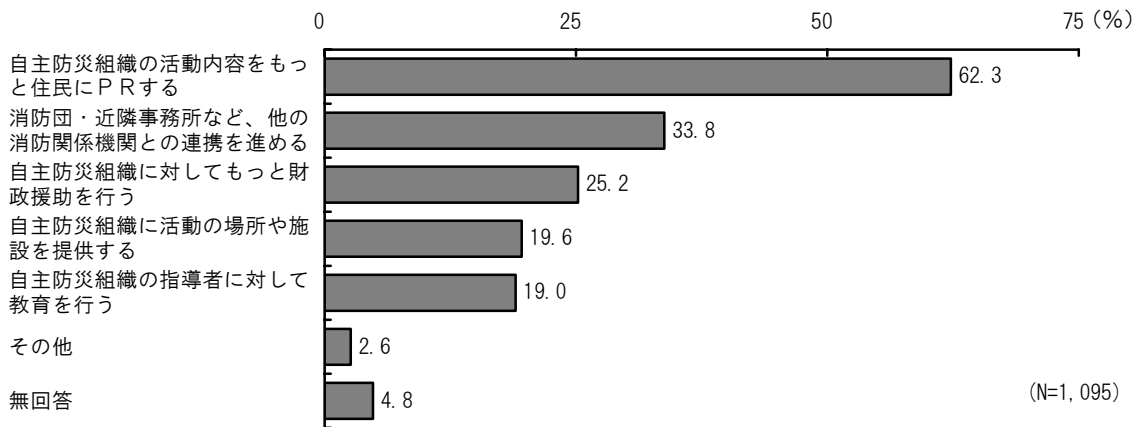
経年比較で見ると、「活発である」＋「まあまあ活動している」は、今回調査（75.8%）が、前回調査（71.0%）より4.8ポイント増加している。



4-3 自主防災組織の活性化のための方策

問17 自主防災組織の活動をさらに高めるには、県や市町はどのようにすればよいと思いますか。

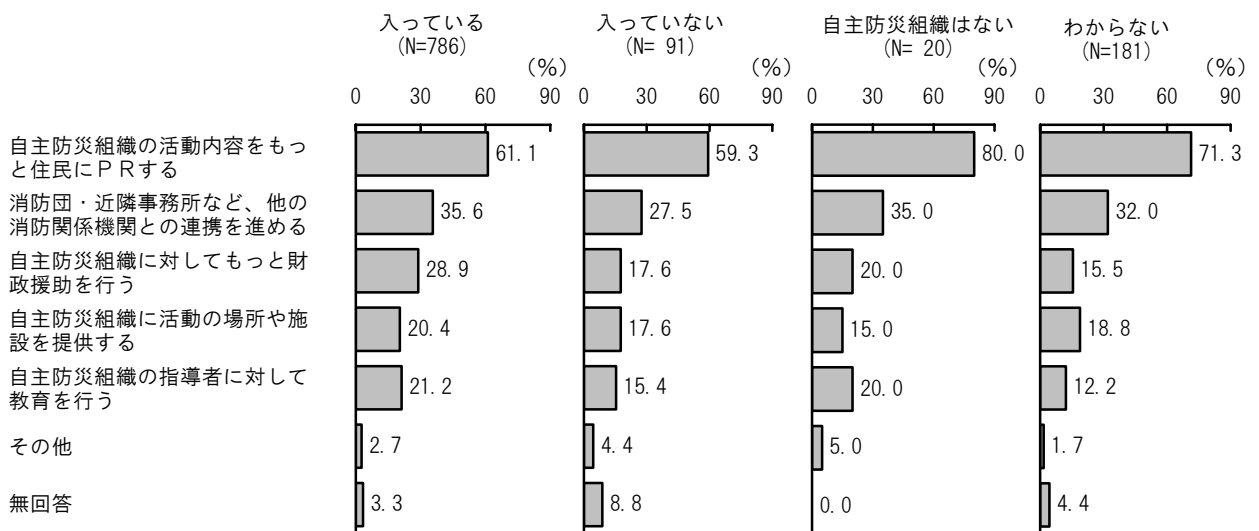
(M. A.)



自主防災組織の活性化のための方策についてたずねたところ、「自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする」(62.3%)の割合が最も高く、次いで「消防団・近隣事務所など、他の消防関係機関との連携を進める」(33.8%)、「自主防災組織に対してもっと財政援助を行う」(25.2%)の順となっている。

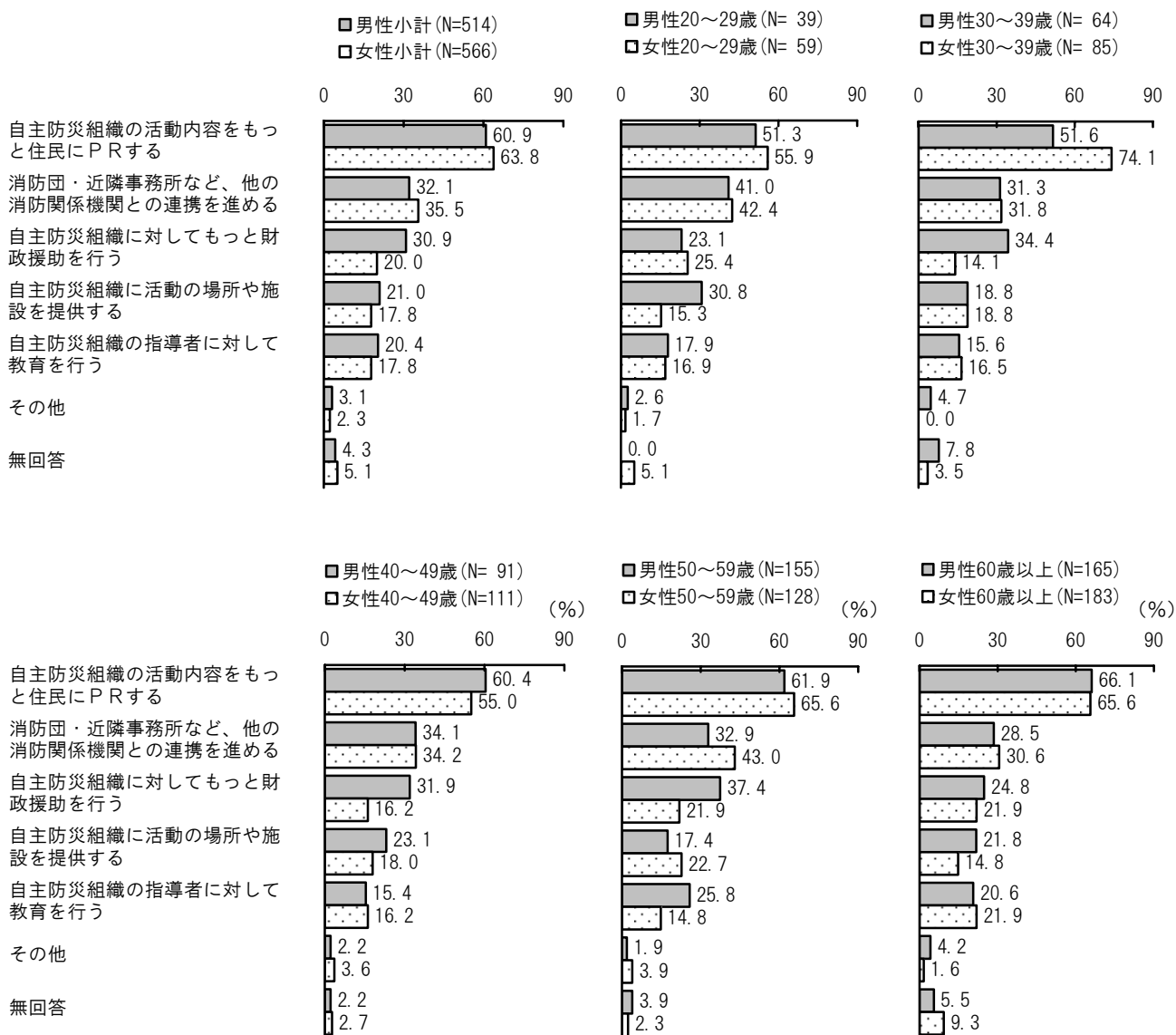
自主防災組織加入別でみると、いずれにおいても「自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする」が最も高く、『自主防災組織はない』、『わからない』と回答した人ほどその傾向が見られる。

自主防災組織の活性化のための方策 <自主防災組織加入別>



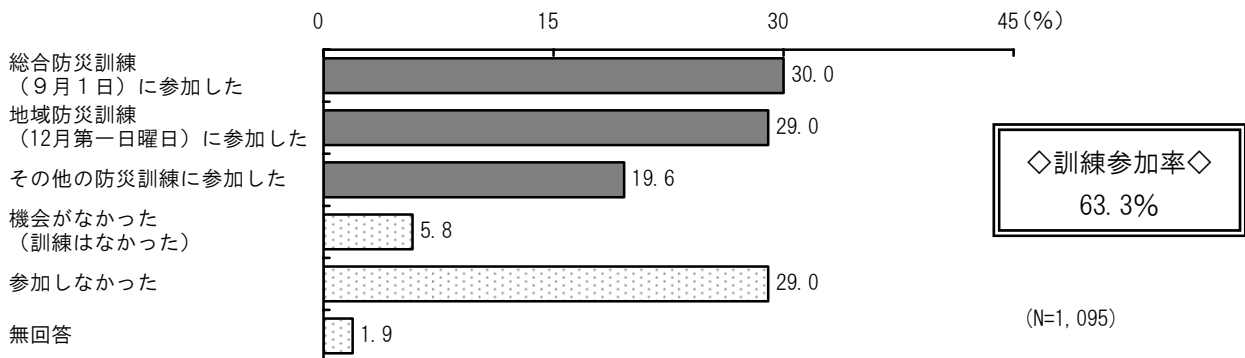
性・年代別でみると、いずれの年代においても「自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする」が最も高くなっている。ほとんどの年代において、性別による差は見られないが、『30代』は大きな差が見られ、『女性30代』（74.1%）と『男性30代』（51.6%）では、22.5ポイントの開きがある。

自主防災組織の活性化のための方策 <性・年代別>

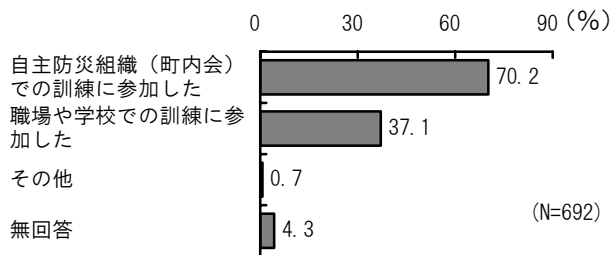


4-4 地震防災訓練への参加状況

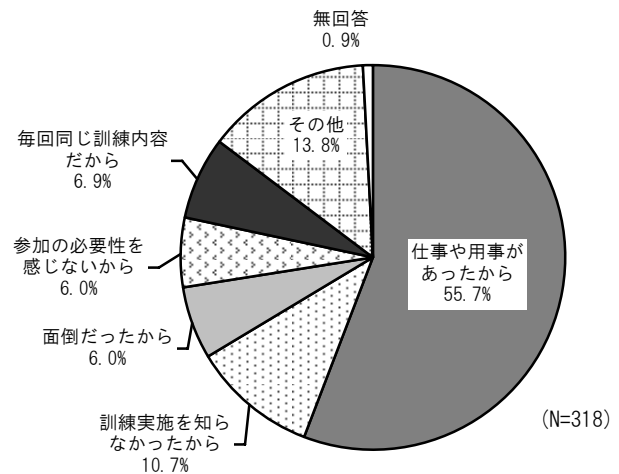
問18 あなたは、過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。(M. A.)



問18-1 <問18で「1 総合防災訓練 (9月1日)に参加した」「2 地域防災訓練 (12月第一日曜日)に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>
その防災訓練はどちらで参加しましたか。(M. A.)



問18-2 <問18で「5 参加しなかった」を選んだ方にお伺いします。>
参加しなかった理由は何ですか。

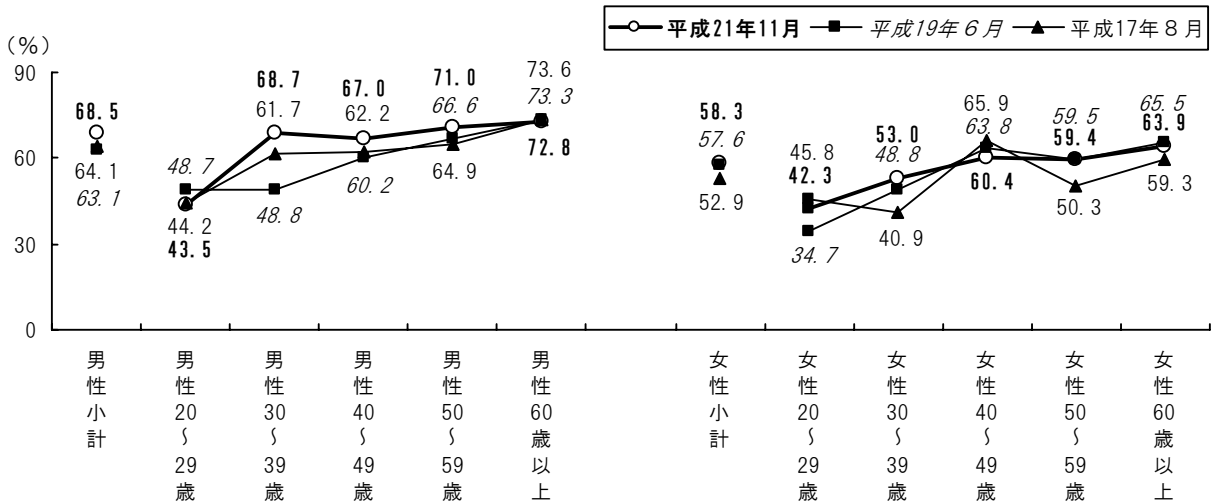


過去1年間の地震防災訓練参加状況についてたずねたところ、「総合防災訓練 (9月1日)に参加した」(30.0%)の割合が最も高く、次いで、「地域防災訓練 (12月第一日曜日)に参加した」・「参加しなかった」(29.0%)、「その他の防災訓練に参加した」(19.6%)、「機会がなかった (訓練はなかった)」(5.8%)の順となっており、いずれかの訓練に参加した人は63.3%となっている。また、問18で地震防災訓練に「参加した」と回答した人の参加形態については、「自主防災組織 (町内会)での訓練に参加した」(70.2%)が最も高く、次いで「職場や学校での訓練に参加した」(37.1%)となっている。

一方、問18で地震防災訓練に「参加しなかった」と回答した人の理由は、「仕事や用事があったから」(55.7%)が最も高く、次いで「訓練実施を知らなかったから」(10.7%)、「毎回同じ訓練内容だから」(6.9%)、「面倒だったから」・「参加の必要性を感じないから」(6.0%)の順となっている。

性別でみると、『男性』（68.5%）と『女性』（58.3%）では、『男性』の防災訓練の参加率が10.2ポイント高くなっている。また、**性・年代別**でみると、最も高い『男性60歳以上』（72.8%）と最も低い『女性20代』（42.3%）では、30.5ポイントの差が見られる。さらに、参加した防災訓練の種類についてみると、『女性20代』では「地域防災訓練」（11.9%）への参加が、他の性・年代と比べ低くなっている。

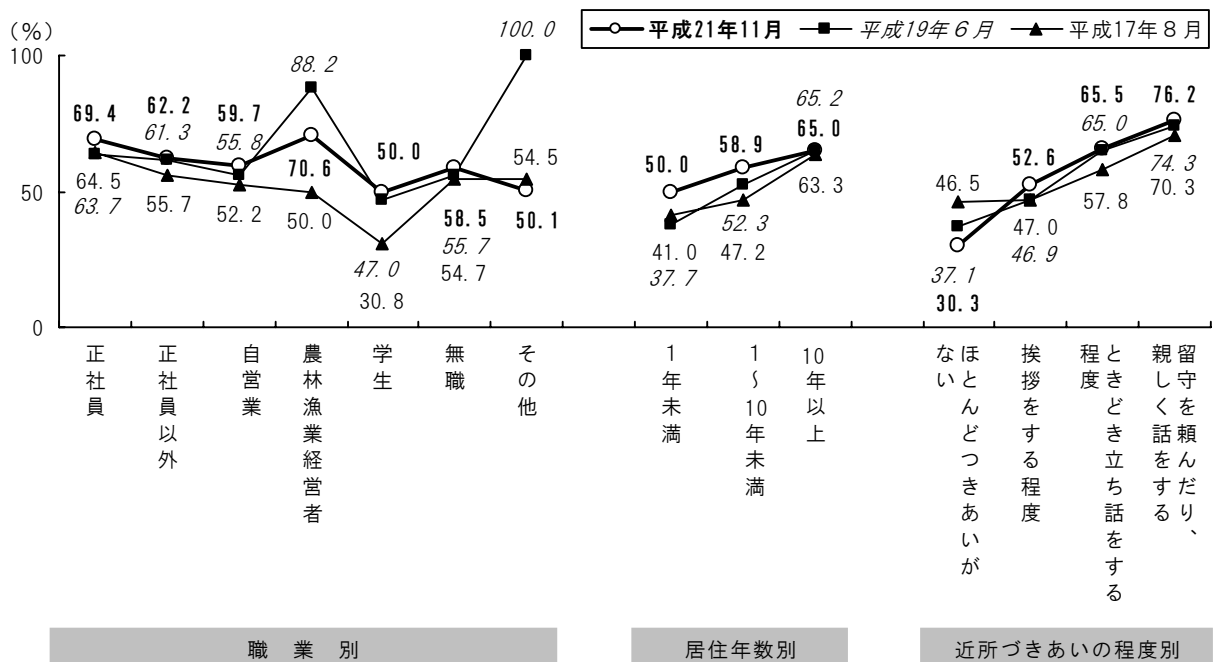
地震防災訓練の参加率 <性・年代別>



職業別では、『農林漁業経営者』（70.6%）が最も高く、次いで『正社員』（69.4%）、『正社員以外』（62.2%）と続いている。居住年数別では、最も高い『10年以上』（65.0%）と、最も低い『1年未満』（50.0%）では、15.0ポイントの差が見られる。

近所づきあいの程度別では、最も高い『留守を頼んだり、親しく話をする』（76.2%）と、最も低い『ほとんどつきあいがなし』（30.3%）では45.9ポイントの差が見られる。

<属性別>

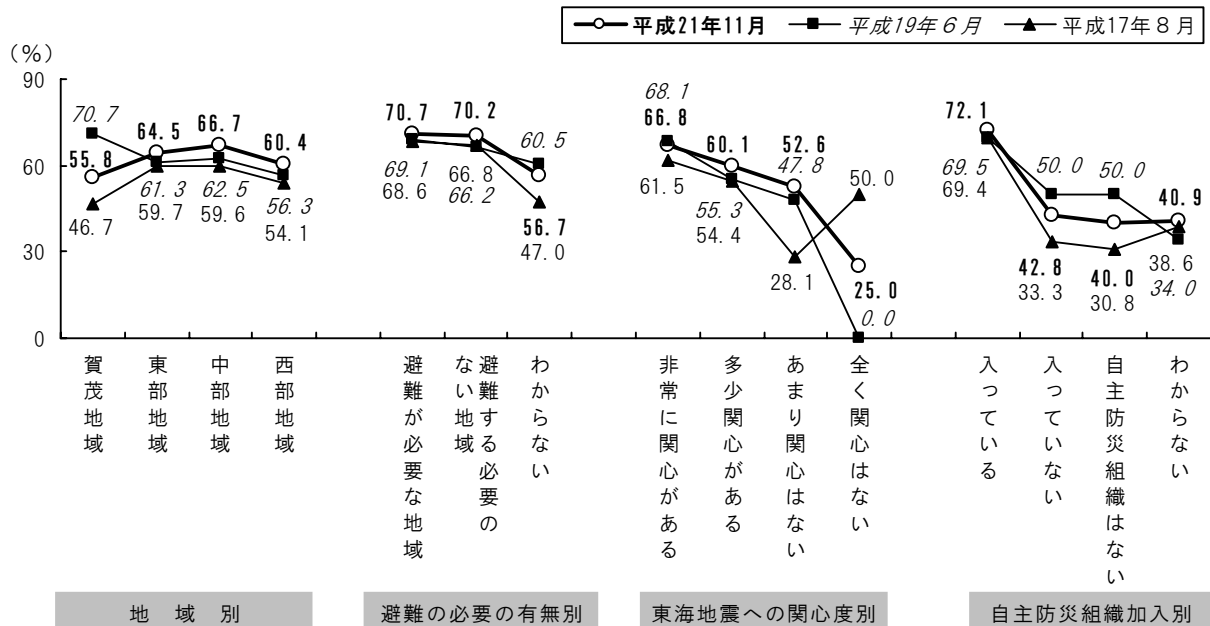


地震防災訓練の参加率を属性別でみると、**地域別**では、最も高い『中部』(66.7%)と最も低い『賀茂』(55.8%)で10.9ポイントの差が見られる。

東海地震への関心度別では、『全く関心はない』(25.0%)が低くなっている。

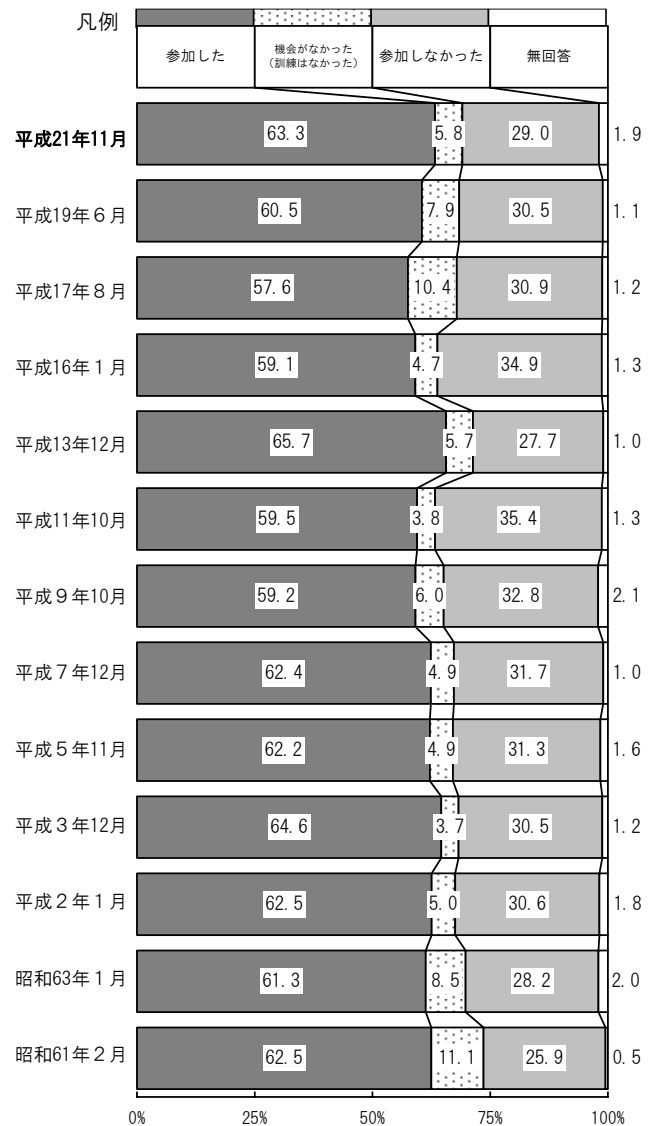
自主防災組織加入別では、『入っている』(72.1%)が高くなっている。

地震防災訓練の参加率 <属性別>



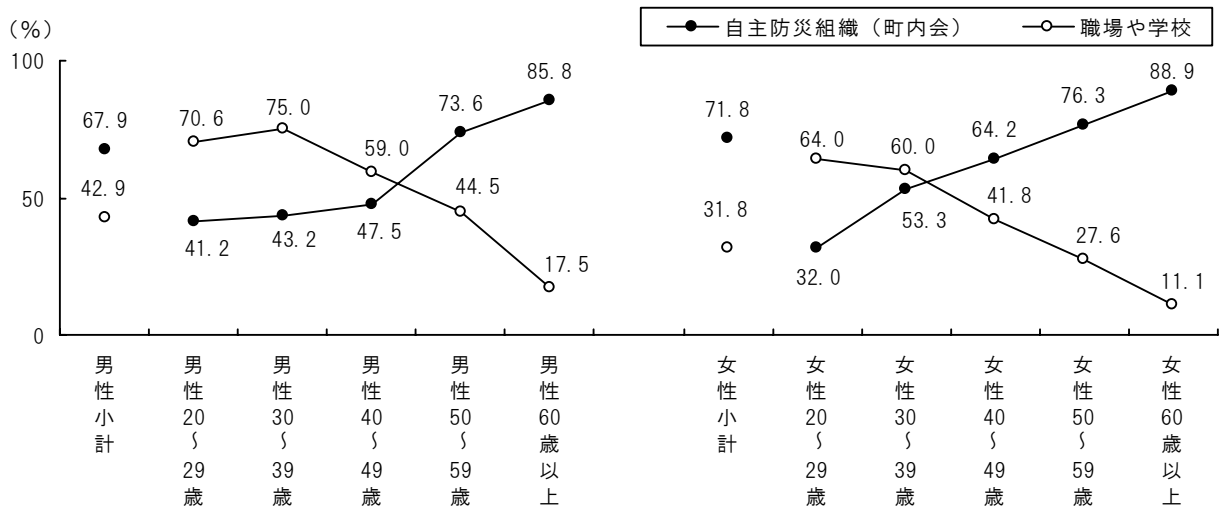
地震防災訓練の参加率 <経年比較>

経年比較でみると、いずれの年度でも「参加した」が6割前後を占めており、今回調査（63.3%）も同様である。「機会がなかった（訓練はなかった）」（5.8%）は、前回調査（7.9%）より2.1ポイント減少している。



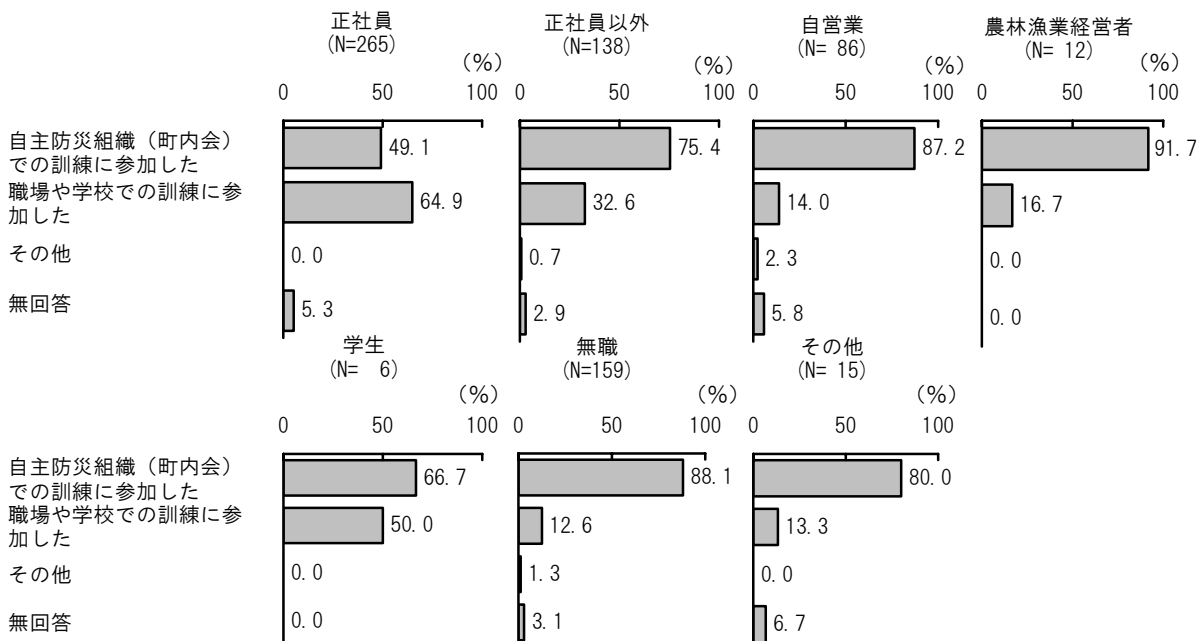
性・年代別でみると、男女ともに年代が上がるほど「自主防災組織（町内会）」での参加率は高くなり、「職場や学校」では低くなっている。

地震防災訓練の参加形態 <性・年代別>



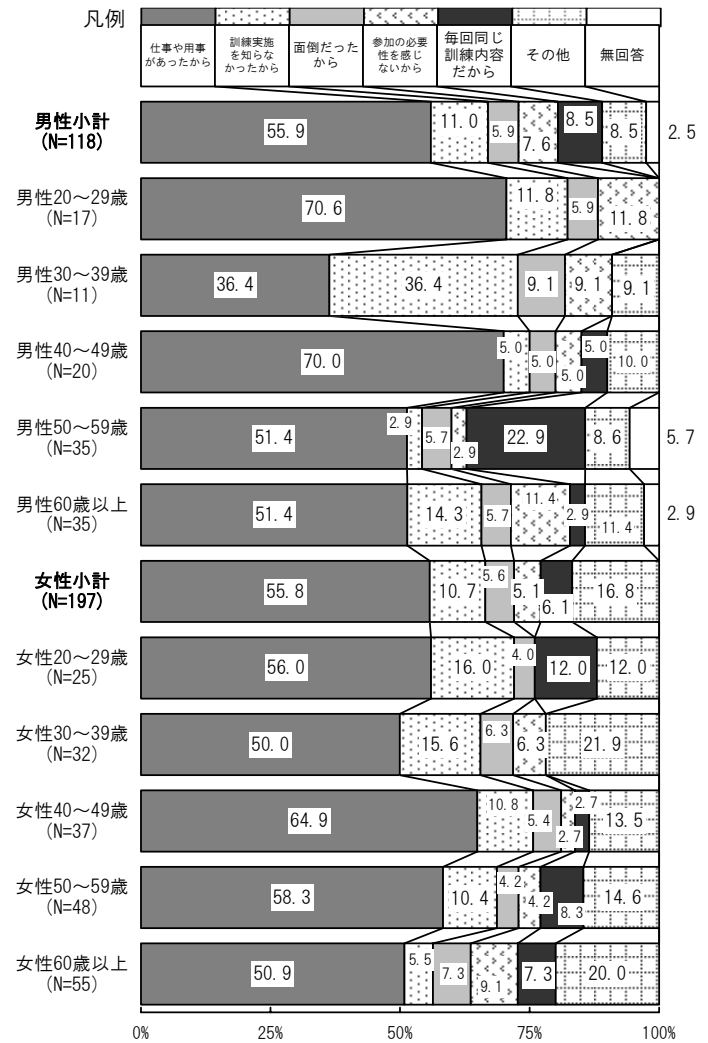
職業別でみると、「自主防災組織（町内会）」での訓練に参加した」が最も高くなっている。また、『正社員』は「職場や学校での訓練に参加した」（64.9%）が他の職業よりも高くなっている。

<職業別>



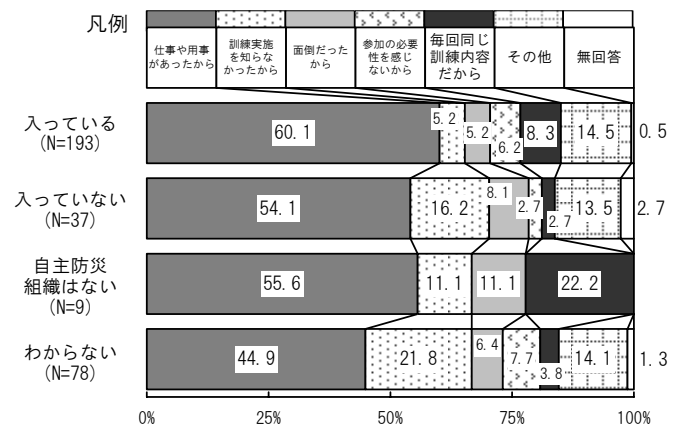
地震防災訓練への不参加理由 ＜性・年代別＞

地震防災訓練へ参加しなかった理由について、性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「仕事や用事があったから」が最も高くなっており、『男性30代』（36.4%）を除くと過半数を超えている。特に『男性20代』（70.6%）、『男性40代』（70.0%）で高くなっている。また、「訓練実施を知らなかったから」は、『男性30代』（36.4%）が他の性・年代と比較すると高くなっている。



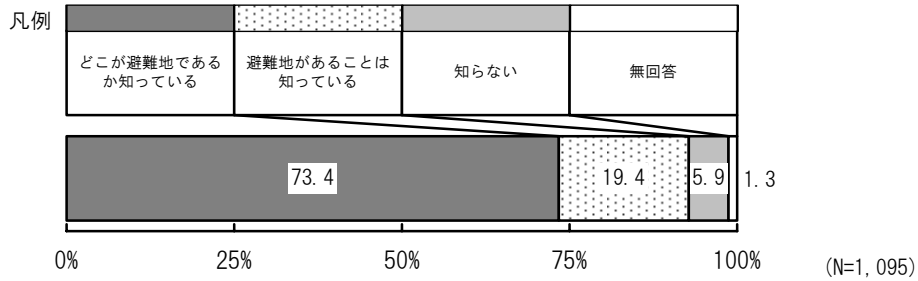
＜自主防災組織加入別＞

自主防災組織加入別でみると、自主防災組織に『入っている』人では、「仕事や用事があったから」(60.1%)が高くなっている。「訓練実施を知らなかったから」では、『入っていない』(16.2%)と『わからない』(21.8%)がやや高くなっている。



4-5 指定避難地の認知

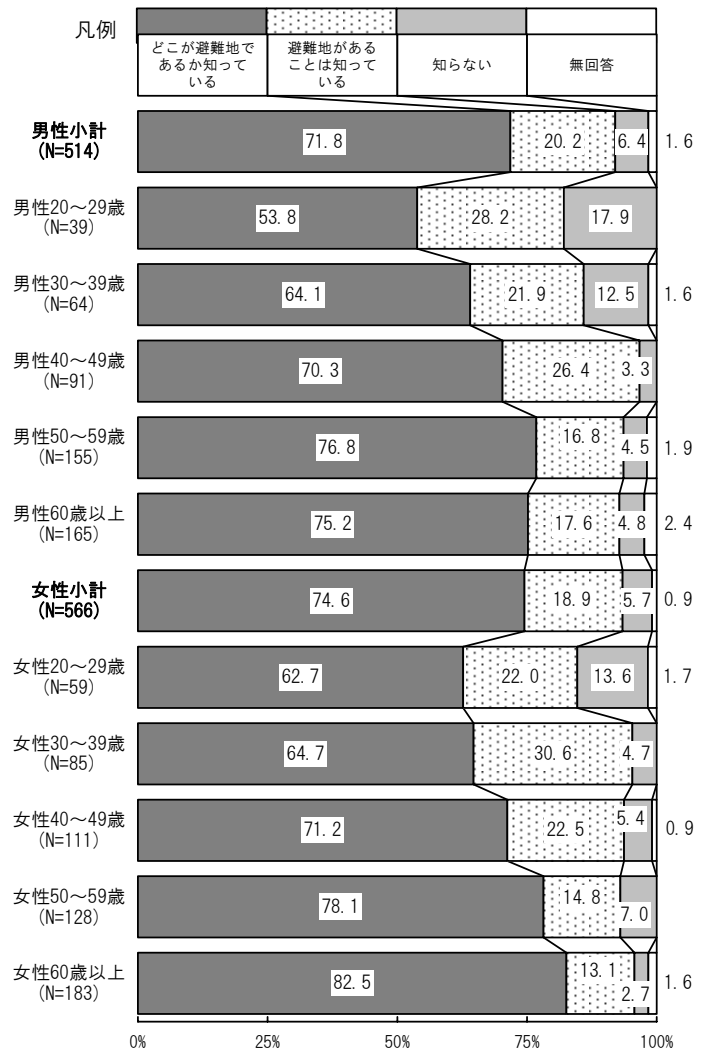
問19 東海地震が予知され警戒宣言が発せられたときや、突然、東海地震が起きたときの避難のため、市町はあらかじめ避難地を指定していますが、あなたはそのことをご存知ですか。



市町の指定避難地の認知については、「どこが避難地であるか知っている」(73.4%)の割合が最も高く、次いで「避難地があることは知っている」(19.4%)、「知らない」(5.9%)の順となっている。

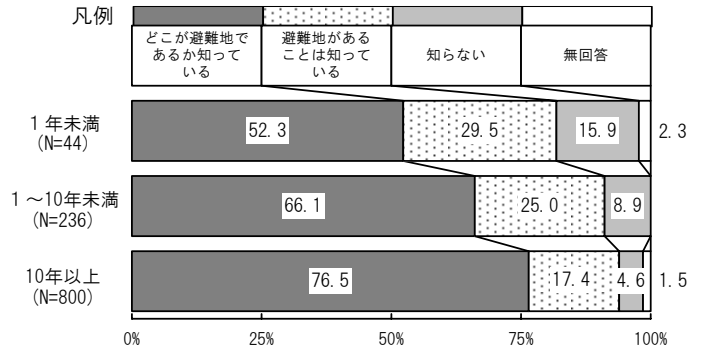
性・年代別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は、『男性』より『女性』が高くなっている。最も高い『女性60歳以上』(82.5%)と、最も低い『男性20代』(53.8%)では、28.7ポイントの差が見られる。

指定避難地の認知 <性・年代別>



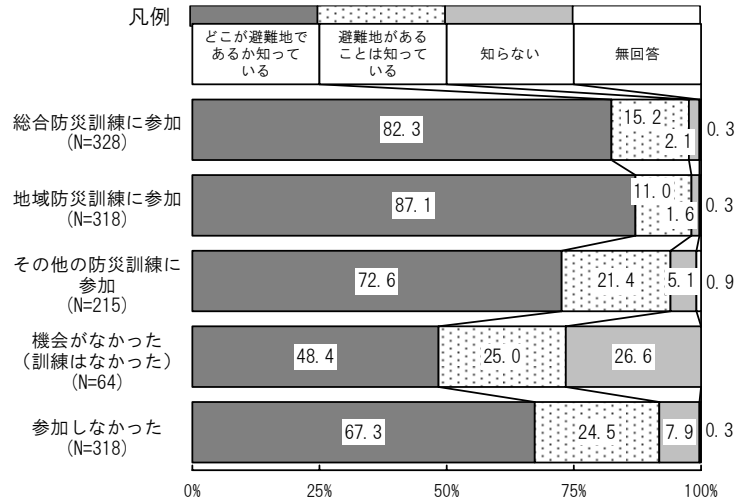
居住年数別でみると、居住年数が長くなるにつれて「どこが避難地であるか知っている」が高くなっている。最も高い『10年以上』（76.5%）と最も低い『1年未満』（52.3%）では、24.2ポイントの差が見られる。

指定避難地の認知 <居住年数別>



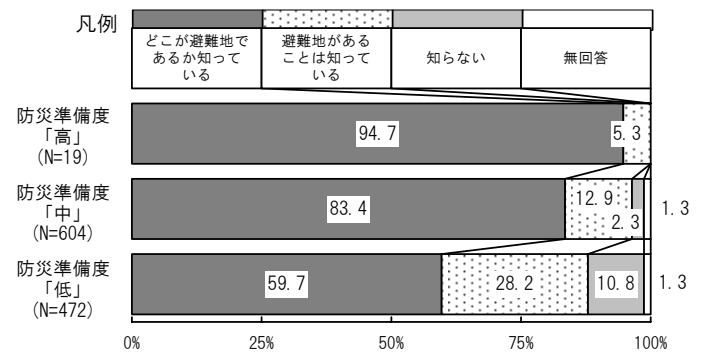
防災訓練参加状況別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は、いずれかの防災訓練に参加している人において高くなっている。最も高い「地域防災訓練に参加」（87.1%）と最も低い「機会がなかった（訓練はなかった）」（48.4%）では、38.7ポイントの差が見られる。

<防災訓練参加状況別>



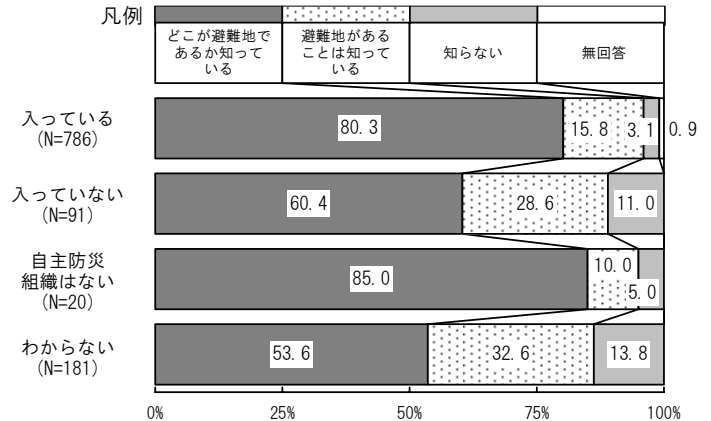
防災準備度別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は、『防災準備度「高」』（94.7%）と、『防災準備度「低」』（59.7%）では、35.0ポイントの差が見られる。

<防災準備度別>



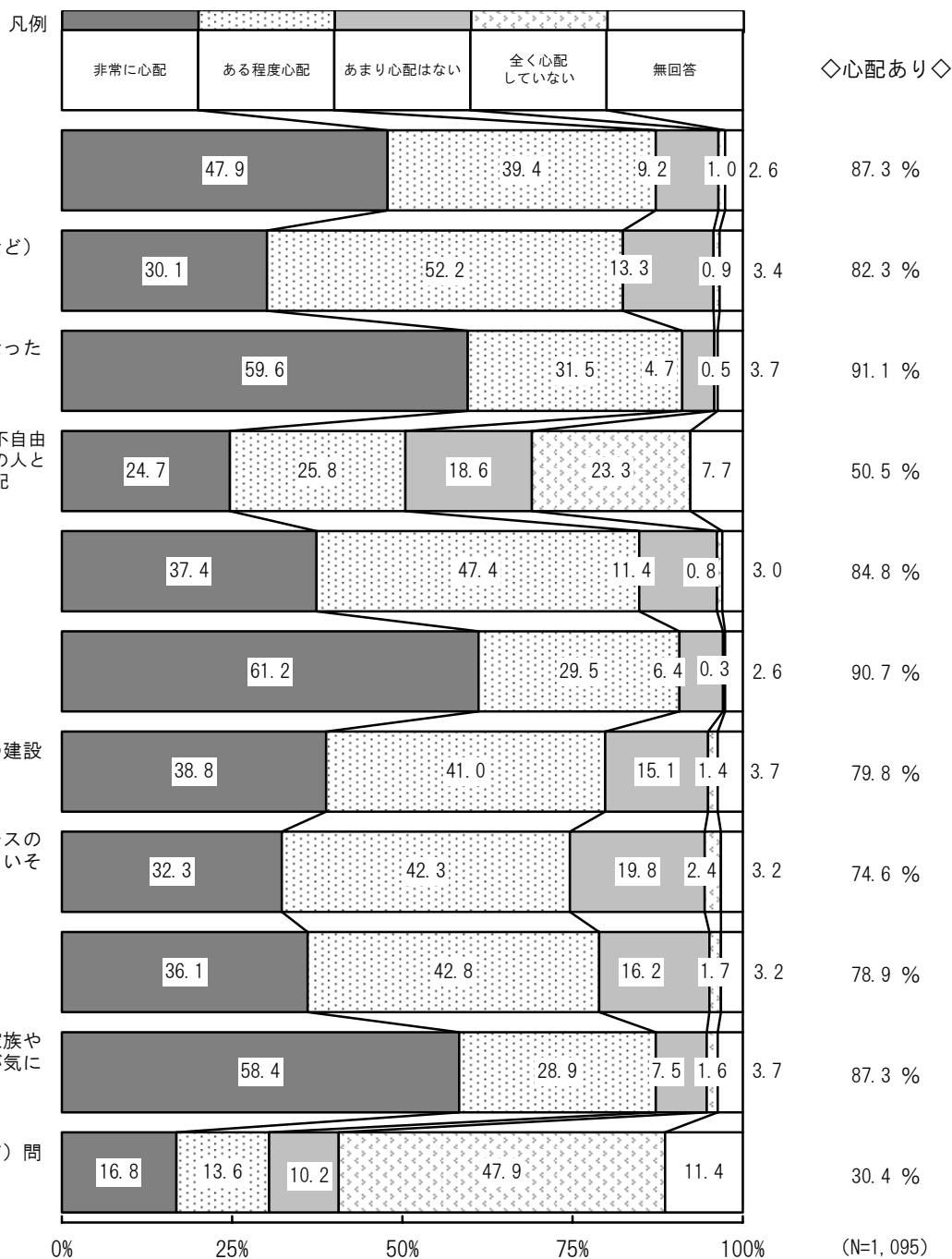
自主防災組織加入別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は、自主防災組織に『入っている』（80.3%）と『入っていない』（60.4%）では、19.9ポイントの差が見られる。

<自主防災組織加入別>



4-6 避難所で避難生活を送る場合の心配ごと

問20 あなたは避難地で避難生活を送る場合、どのようなことが心配ですか。次の1～11について、あてはまる項目にそれぞれ1つずつ○をつけてください。



避難所で避難生活を送る場合の心配ごとについてたずねたところ、「非常に心配」との回答については、『トイレの問題』（61.2%）、『自分や家族が病気になったときの医療問題』（59.6%）、『離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる』（58.4%）の3つの割合が高くなっている。また、心配ありと答えた項目（「非常に心配」と「ある程度心配」と答えた人を合わせた項目）の上位5項目をみると、『自分や家族が病気になったときの医療問題』（91.1%）が最も高く、次いで、『トイレの問題』（90.7%）、『食料や水の問題』・『離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる』（87.3%）、『洗濯や入浴の問題』（84.8%）、『日用品（毛布や下着など）の問題』（82.3%）の順となっており、いずれも8割以上となっている。

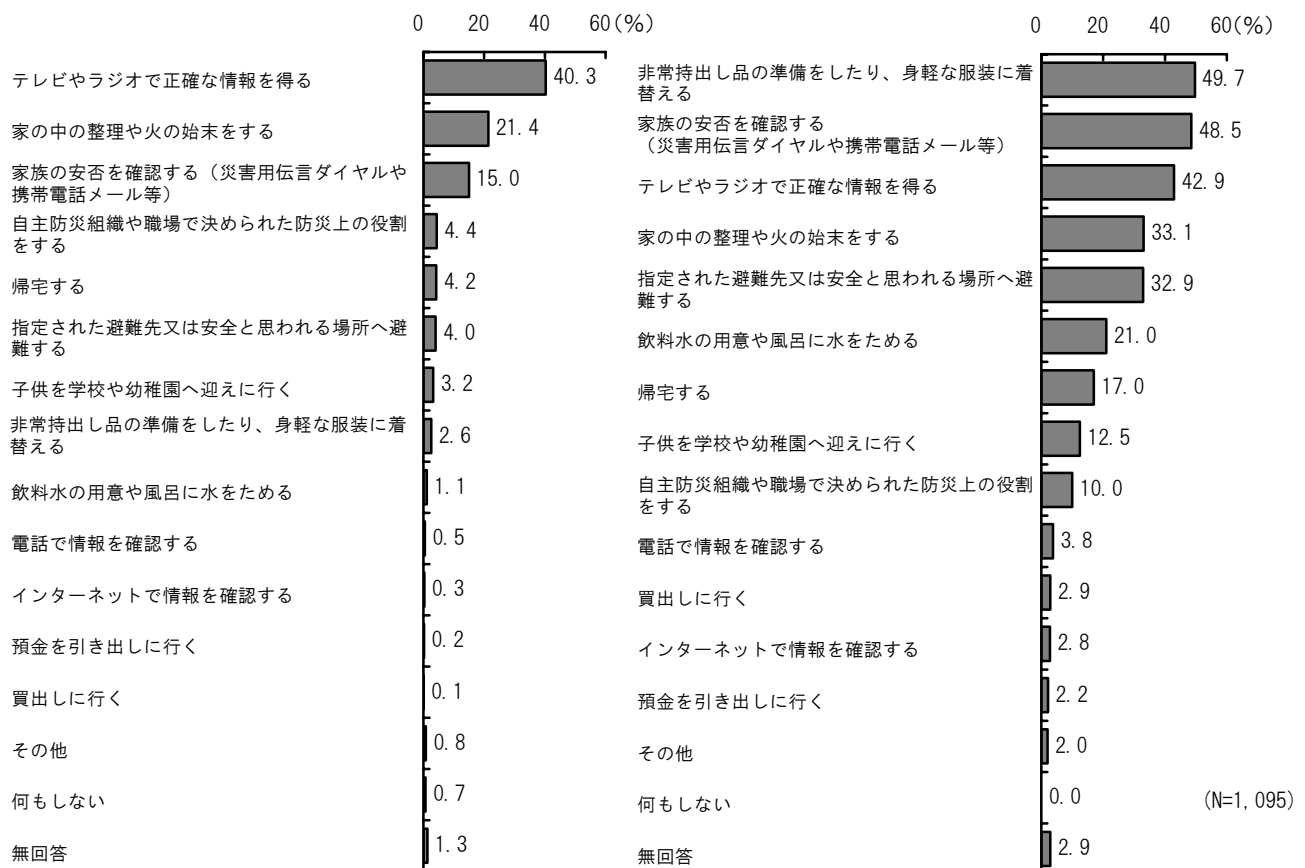
5 東海地震が突然発生したときの行動について

5-1 突然地震が発生したときの行動

問21 平日の午前11時頃に突然地震が起こった場合、あなたがまず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に○をつけてください。

◇ 最初にすること ◇

◇ 次にすること (M. A.) ◇

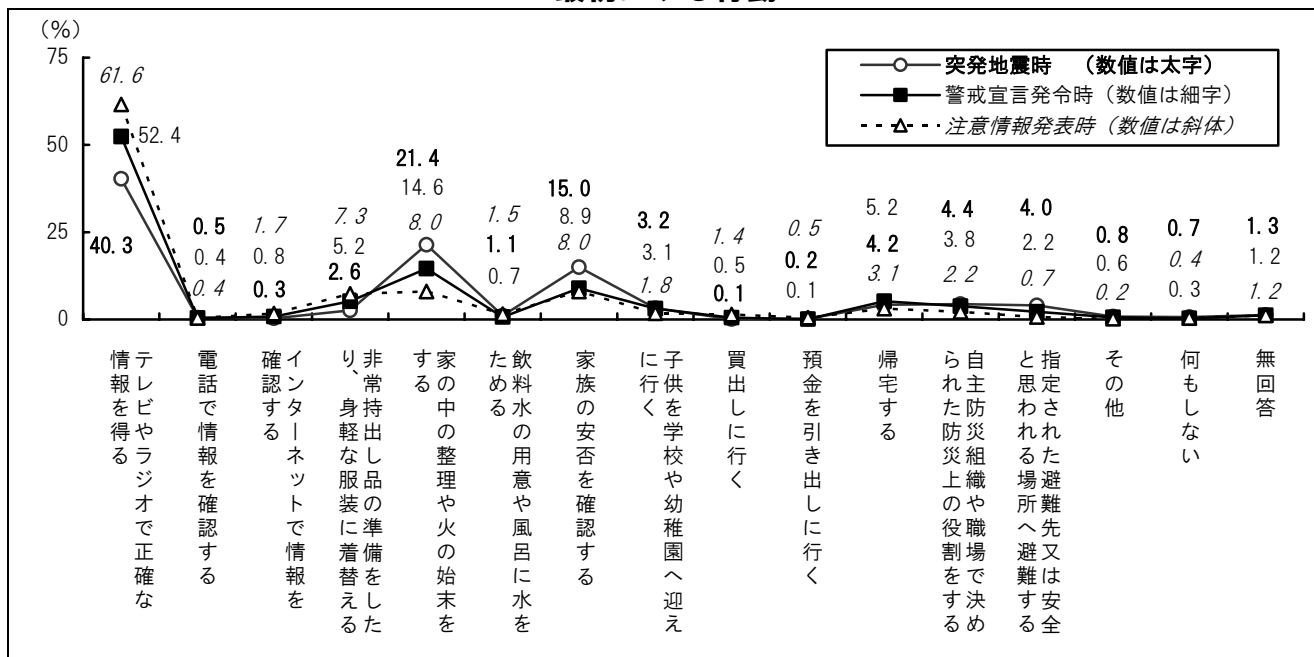


突然地震が発生したときにまず最初にすることについてたずねたところ、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(40.3%)と「家の中の整理や火の始末をする」(21.4%)の割合が高く、この2つが主な行動となっている。

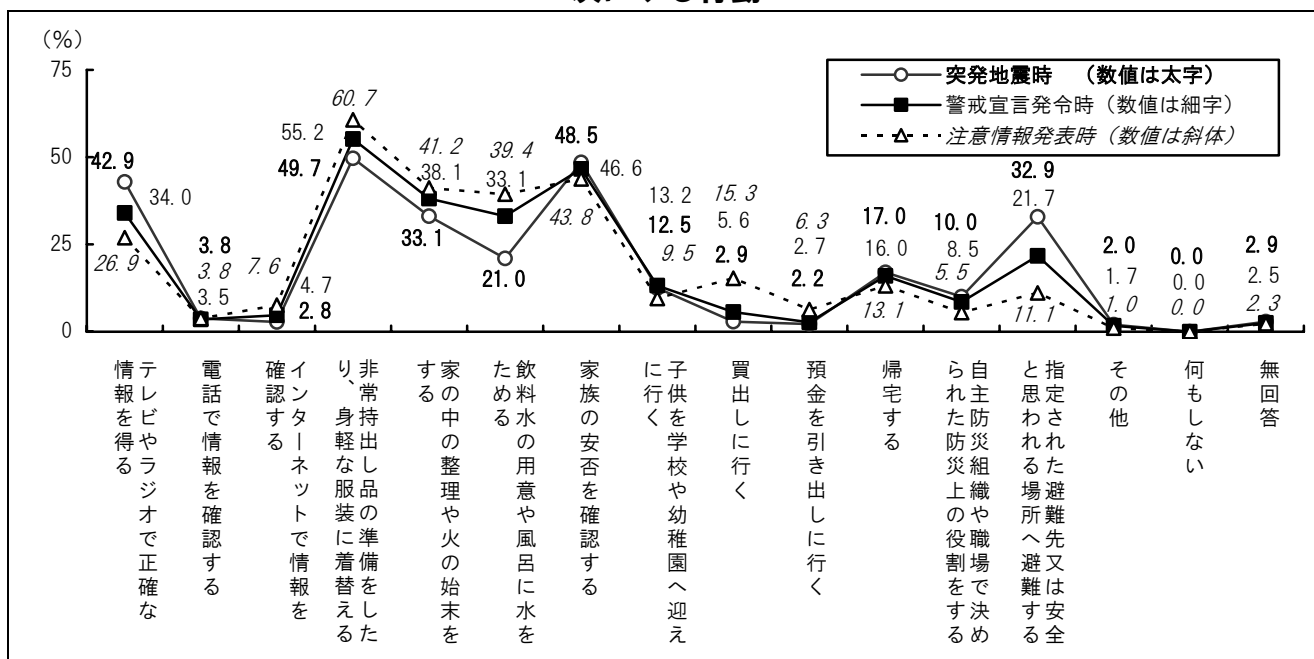
次にすることについては、「非常持出し品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(49.7%)が最も高く、次いで「家族の安否を確認する(災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等)」(48.5%)「テレビやラジオで正確な情報を得る」(42.9%)、「家の中の整理や火の始末をする」(33.1%)、「指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する」(32.9%)の順となっている。

突発地震時 警戒宣言発令時 注意情報発表時の行動比較

— 最初にする行動 —



— 次にする行動 —

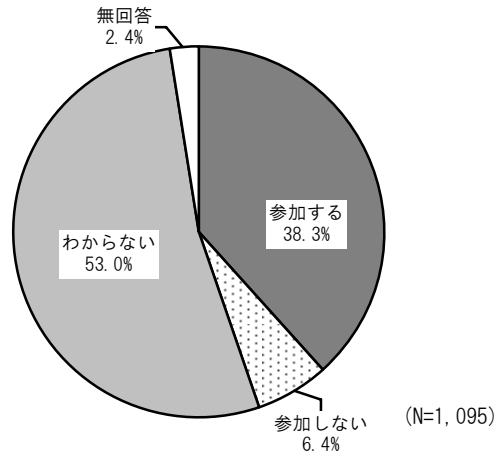


※警戒宣言発令時の行動は問25にて、注意情報発表時の行動は問30にて調査した項目

※「家族の安否を確認する」は、問25警戒宣言発令時・問30注意情報発表時の項目では、「家族と電話で連絡をとる」となっている。

5-2 地震発生後の防災活動への参加

問22 突然、地震が起こった場合、あなたは自主的に地域の防災活動に参加しますか。

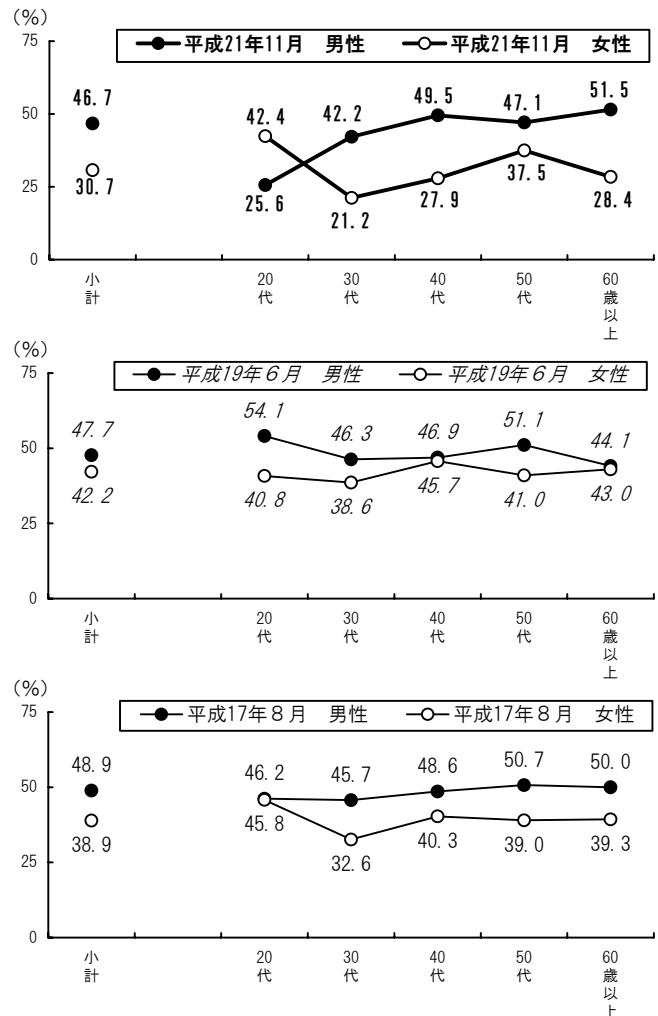


地震発生後の防災活動についてたずねたところ、「わからない」（53.0％）の割合が最も高く、次いで「参加する」（38.3％）、「参加しない」（6.4％）の順となっている。

地震発生後の防災活動「参加する」 ＜性・年代別＞

性・年代別で見ると、地震発生後の防災活動に「参加する」は、『男性』が46.7％、『女性』が30.7％となっており、年代別においても『20代』を除いて『男性』が『女性』よりも高くなっている。特に『60歳以上』で23.1ポイント、『40代』で21.6ポイントの差が見られる。また、「参加する」は、最も高い『男性60歳以上』（51.5％）と、最も低い『女性30代』（21.2％）では30.3ポイントの差が見られる。

また、過去2回の調査と比較すると、『女性』の参加意向の減少傾向が見られる。



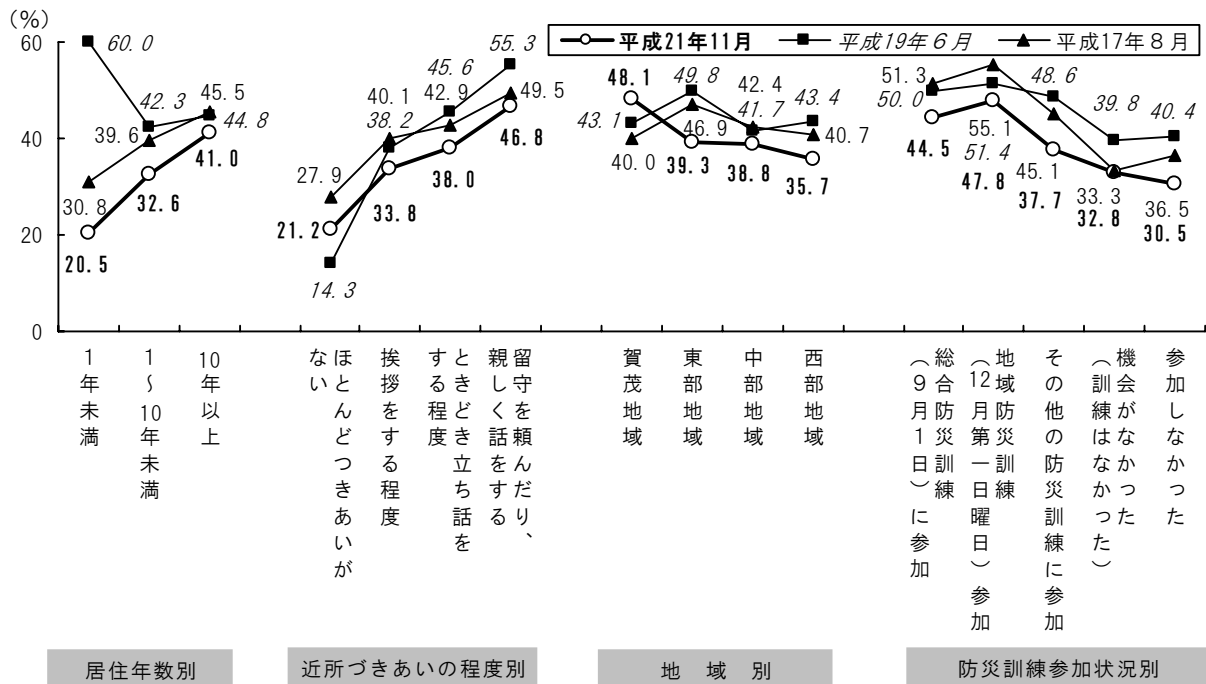
地震発生後の防災活動へ「参加する」意向の割合を属性別にみると、**居住年数別**では、最も高い『10年以上』(41.0%)と最も低い『1年未満』(20.5%)では20.5ポイントの差が見られる。

地域別では、最も高い『賀茂』(48.1%)と最も低い『西部』(35.7%)では、12.4ポイントの差が見られる。

防災訓練参加状況別では、最も高い『地域防災訓練に参加した』(47.8%)と最も低い『参加しなかった』(30.5%)では、17.3ポイントの差が見られる。

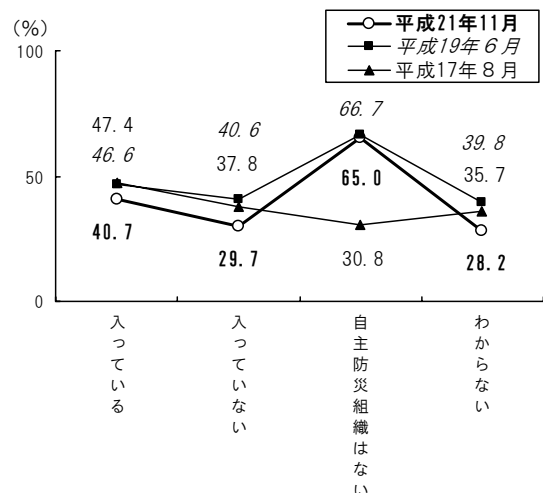
また、**過去2回の調査と比較すると**、居住年数『1年未満』において参加状況の低下傾向が見られる。

地震発生後の防災活動「参加する」 <属性別>



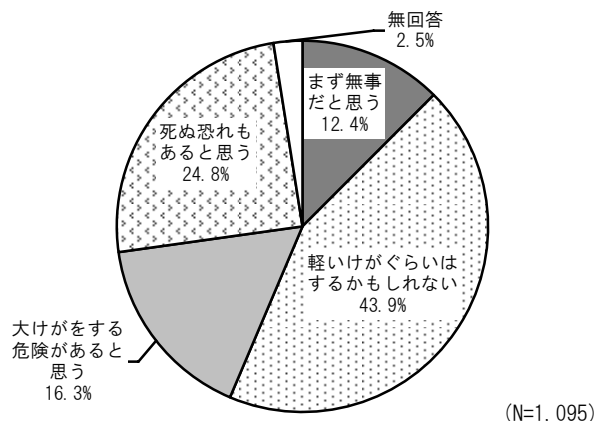
自主防災組織加入別でみると、『自主防災組織はない』(65.0%)で最も高くなっている。また、自主防災組織に『入っている』(40.7%)と『入っていない』(29.7%)では、11.0ポイントの差が見られる。

<自主防災組織加入別>



5-3 突然地震が発生したときの自分自身の安全性

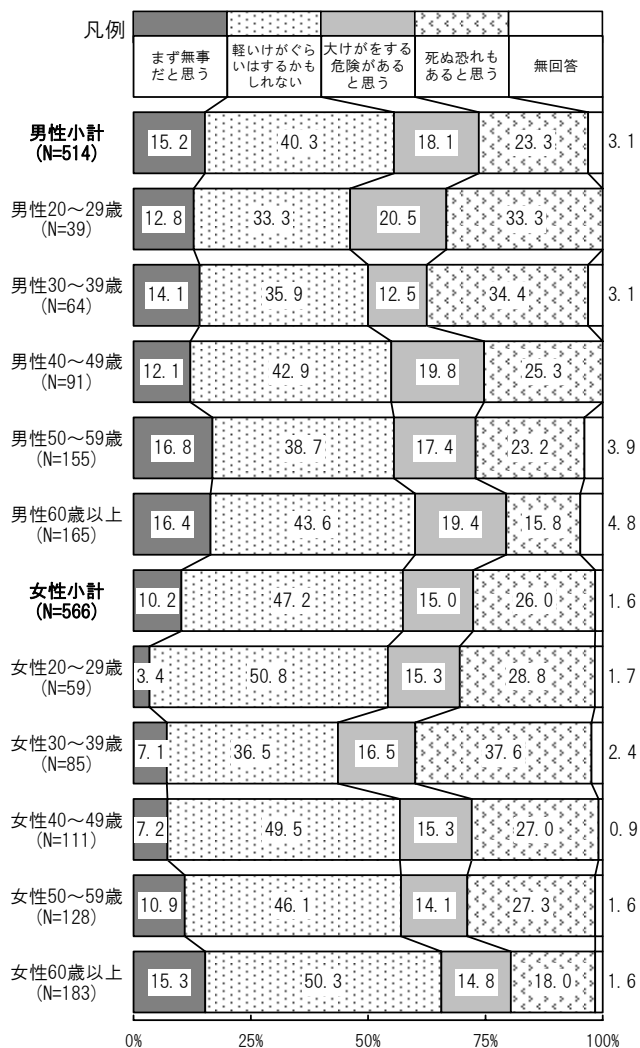
問23 突然、地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。



突然地震が発生したときの自分自身の安全性についてたずねたところ、「軽いけがぐらいはするかもしれない」(43.9%)の割合が最も高く、次いで「死ぬ恐れもあると思う」(24.8%)、「大けがをする危険があると思う」(16.3%)、「まず無事だと思う」(12.4%)の順となっている。

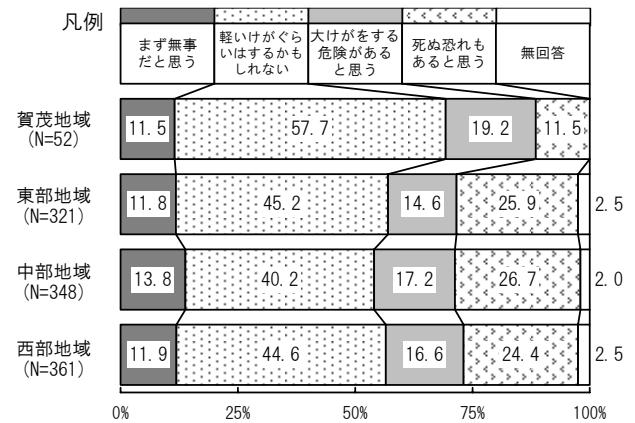
突然地震が発生したときの自分自身の安全性 <性・年代別>

性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「軽いけがぐらいはするかもしれない」が最も高くなっている。「死ぬ恐れもあると思う」は、男性では『20代』(33.3%)と『30代』(34.4%)、女性では『30代』(37.6%)でやや高くなっている。



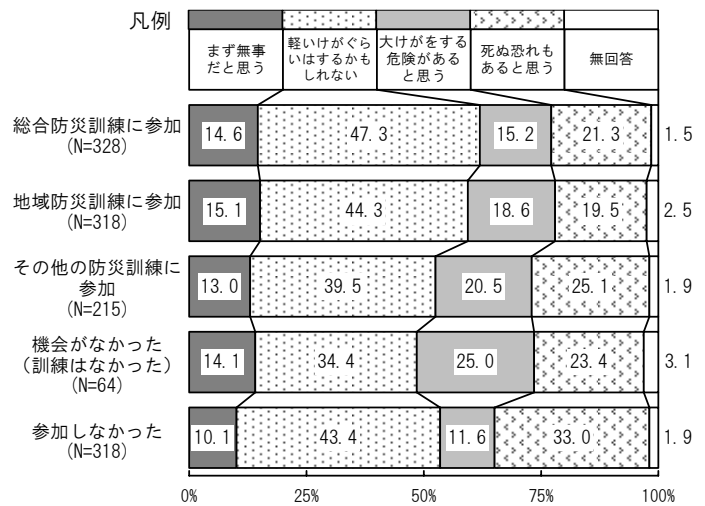
突然地震が発生したときの自分自身の安全性 <地域別>

地域別でみると、『東部』、『中部』、『西部』では大きな差は見られない。『賀茂』では、「軽いけがぐらいはするかもしれない」(57.7%)が他より高くなっている。



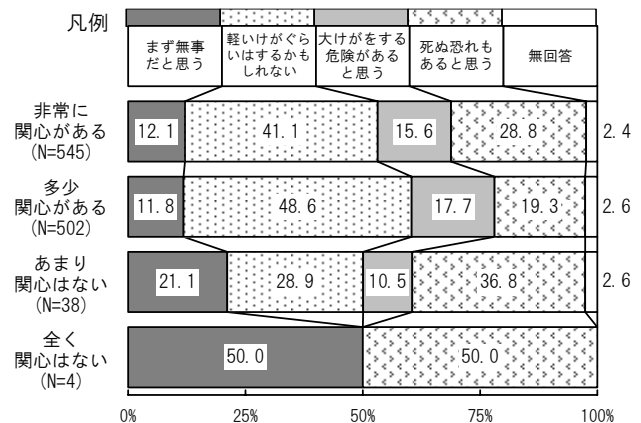
<防災訓練参加状況別>

防災訓練参加状況別でみると、いずれの参加状況においても「軽いけがぐらいはするかもしれない」が最も高くなっている。「大けがをする危険があると思う」は『機会がなかった(訓練はなかった)』(25.0%)で、「死ぬ恐れもあると思う」は『参加しなかった』(33.0%)でやや高めとなっている。



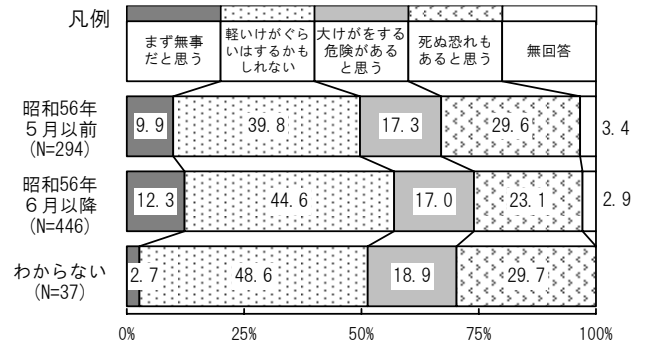
<東海地震への関心度別>

東海地震への関心度別でみると、「軽いけがぐらいはするかもしれない」の割合が高くなっている。最も高い『多少関心がある』(48.6%)と最も低い『あまり関心はない』(28.9%)では、19.7ポイントの差が見られる。また、「死ぬ恐れもあると思う」は、最も高い『あまり関心はない』(36.8%)と最も低い『多少関心がある』(19.3%)では、17.5ポイントの差が見られる。



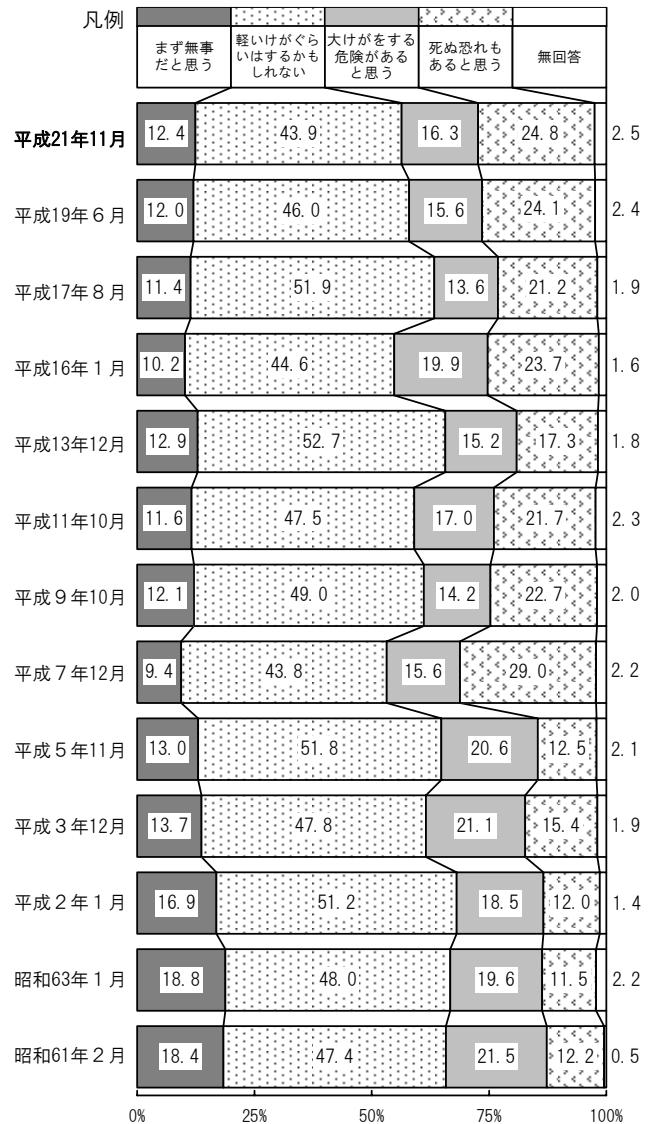
突然地震が発生したときの自分自身の 安全性 <木造住宅建築時期別>

木造住宅建築時期別でみると、いずれの時期においても「軽いけがぐらいはするかもしれない」が最も高くなっている。「死ぬ恐れもあると思う」は、『昭和56年6月以降』(23.1%)が他と比較してやや低くなっている。

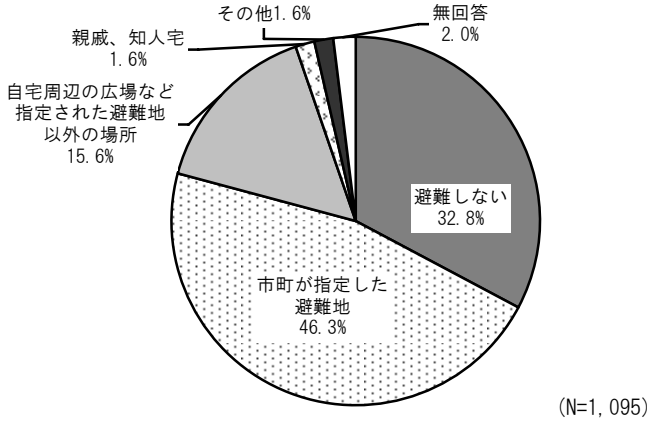


<経年比較>

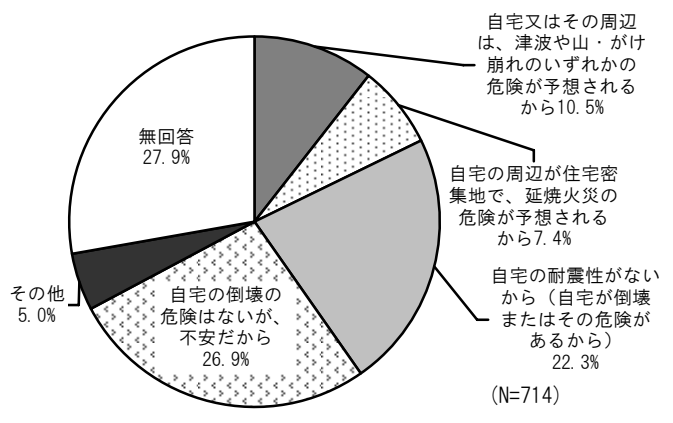
経年比較でみると、「死ぬ恐れもあると思う」が、阪神・淡路大震災（平成7年1月）の起きた年の調査（平成7年12月）(29.0%)において過去最高になったのち、2割前後を推移している。今回調査（24.8%）では、前回調査（24.1%）よりも0.7ポイントの増加となったが、おおむね前回調査と同じ結果となっている。



問24 あなたがご自宅にいるときに、突然地震が起こった場合、あなたやご家族は避難しますか。また、避難する場合はどこに避難しますか。



問24-1 <問24で「1 避難しない」以外を選んだ方にお伺いします。> 避難する理由は何ですか。

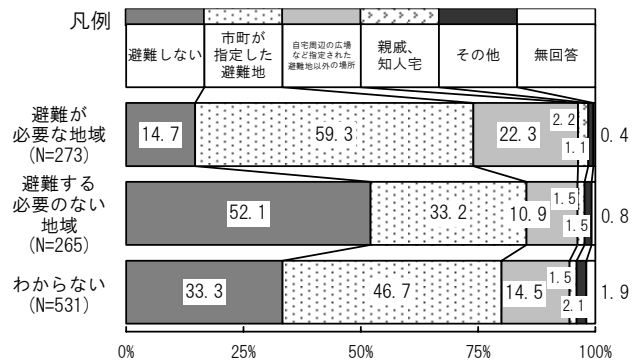


突然地震が発生したときの避難行動についてたずねたところ、「市町が指定した避難地」（46.3%）の割合が最も高く、次いで「避難しない」（32.8%）、「自宅周辺の広場など指定された避難地以外の場所」（15.6%）、「親戚、知人宅」（1.6%）の順となっている。屋外である「市町が指定した避難地」と「自宅周辺の広場など指定された避難地以外の場所」への避難は61.9%となっている。

また、問24で「避難しない」以外を回答した人の避難する理由については、「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」（26.9%）が最も高く、次いで「自宅の耐震性がないから（自宅が倒壊またはその危険があるから）」（22.3%）、「自宅又はその周辺は、津波や山・がけ崩れのいずれかの危険が予想されるから」（10.5%）、「自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから」（7.4%）の順となっている。

突然地震が発生したときの避難行動
<避難該当地域であるかの認識別>

避難該当地域であるかの認識別でみると、「市町が指定した避難地」は、『避難が必要な地域』（59.3%）が最も高くなっている。「避難しない」は、『避難する必要のない地域』（52.1%）が最も高くなっている。一方、『避難が必要な地域』においても14.7%が「避難しない」としている。

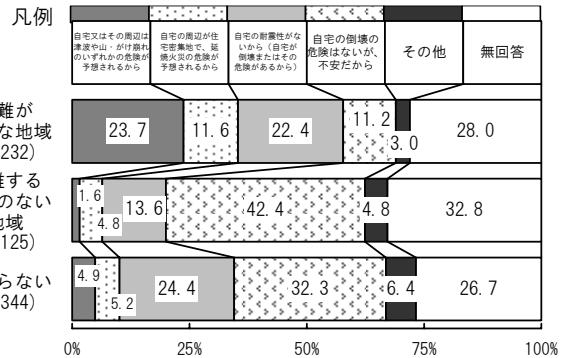


避難する理由

<避難該当地域であるかの認識別>

問24で、「避難しない」以外を回答した人の避難する理由について、**避難該当地域であるかの認識別**で見ると、「自宅又はその周辺は、津波や山・がけ崩れのいずれかの危険が予想されるから」は、『避難が必要な地域』(23.7%)で高くなっている。

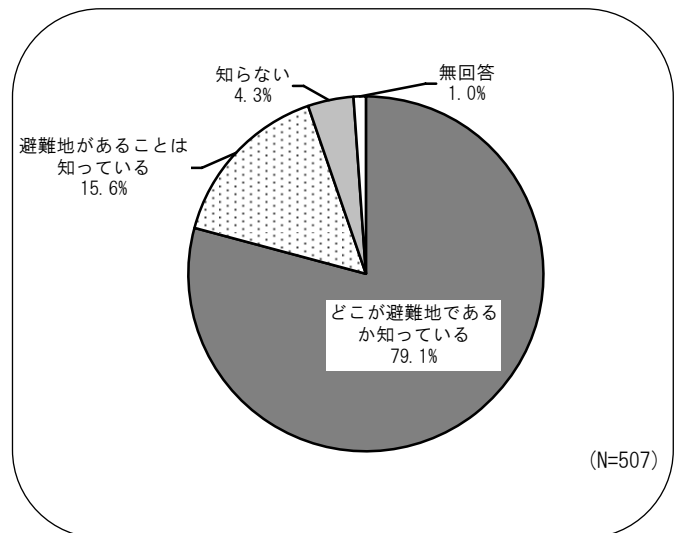
『避難する必要のない地域』では、「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」(42.4%)が他より高くなっている。



避難指定地の認知度

<「市町が指定した避難地」と回答した人の内訳>

避難指定地の認知度を「市町が指定した避難地」と回答した人のみで見ると、「どこが避難地であるか知っている」(79.1%)が最も高く、次いで「避難地があることは知っている」(15.6%)、「知らない」(4.3%)の順となっている。



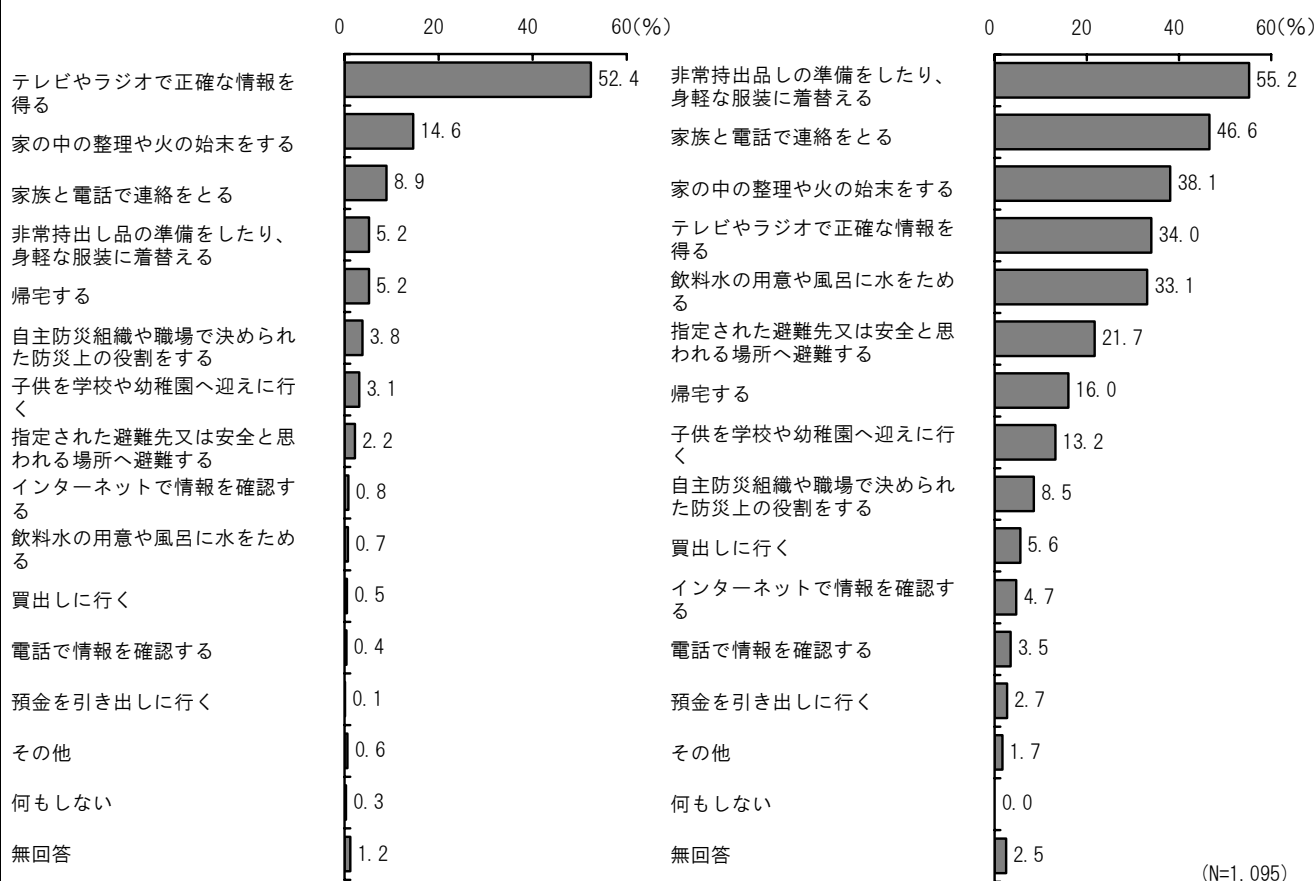
6 警戒宣言が発せられたときの行動について

6-1 警戒宣言発令時の行動

問25 あなたが平日の午前11時頃に警戒宣言が発せられたと仮定して、まず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に○をつけてください。

◇ 最初にすること ◇

◇ 次にすること (M. A.) ◇



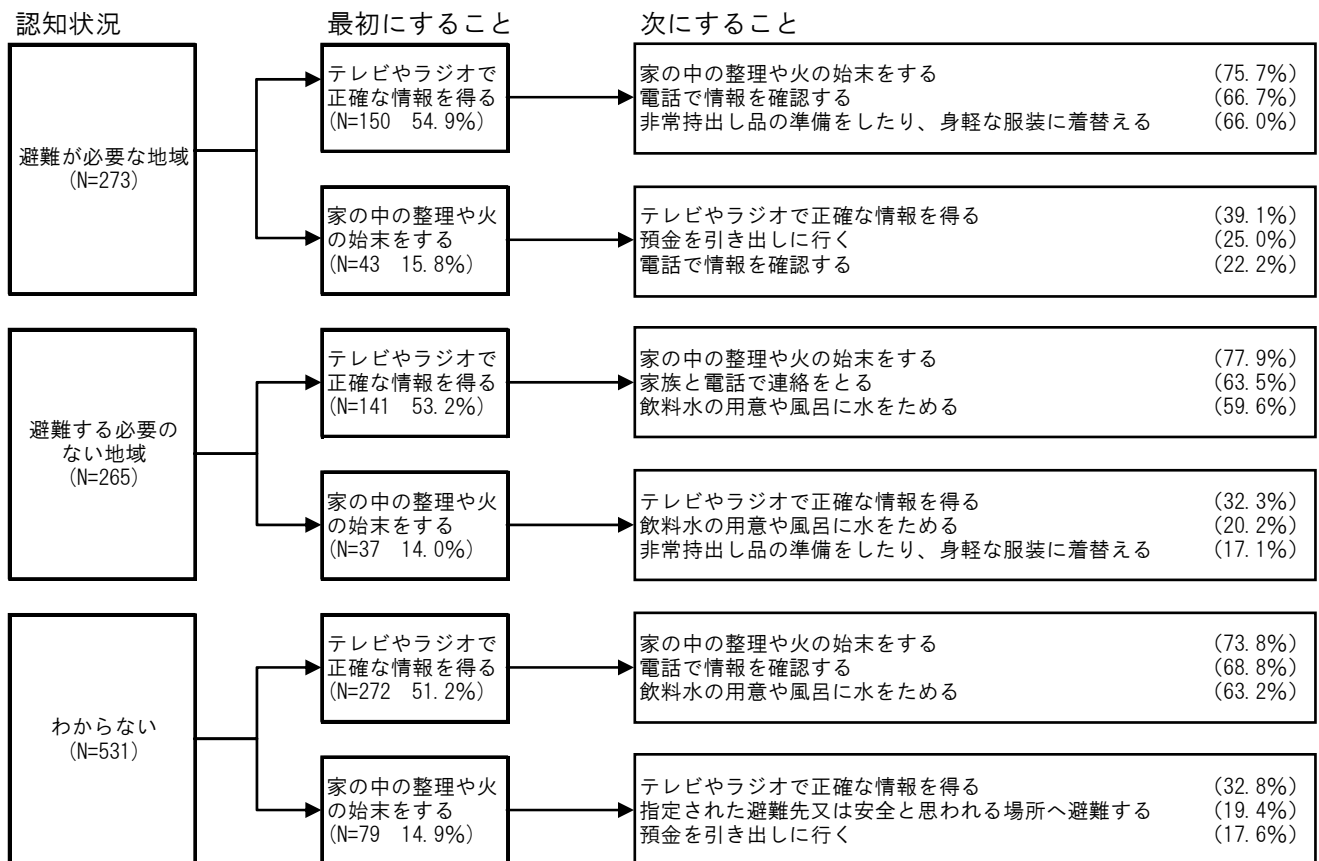
警戒宣言発令時の行動についてたずねたところ、まず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(52.4%)の割合が最も高く、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(14.6%)、「家族と電話で連絡をとる」(8.9%)の順となっている。

次にすることについては、「非常持出し品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(55.2%)が最も高く、次いで「家族と電話で連絡をとる」(46.6%)、「家の中の整理や火の始末をする」(38.1%)、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(34.0%)、「飲料水の用意や風呂に水をためる」(33.1%)の順となっており、以上が3割以上となっている。

警戒宣言発令時の行動の流れを避難該当地域であるかの認知状況別で見ると、避難該当地域か否かに関わらず、「テレビやラジオで正確な情報を得る」、「家の中の整理や火の始末をする」がまず最初にとすることとして挙げている。

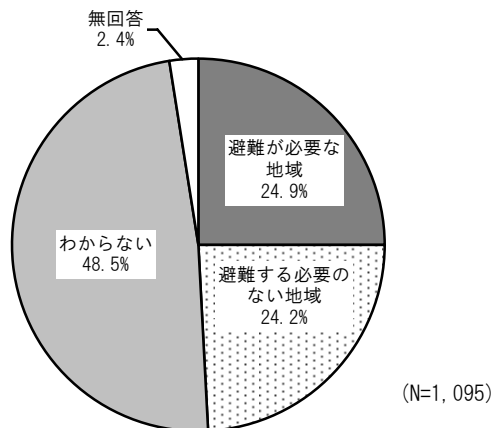
まず最初にとすることで「テレビやラジオで正確な情報を得る」を選んだ人は、次にすることでは「家の中の整理や火の始末をする」、「家族と電話で連絡を取る」を挙げている。また、「家の中の整理や火の始末をする」を選んだ人は、次にすることでは「テレビやラジオで正確な情報を得る」、「指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する」、「預金を引き出しに行く」を挙げている。

警戒宣言発令時の行動の流れ <避難該当地域であるかの認知状況別>



6-2 避難該当地域であるかの認識

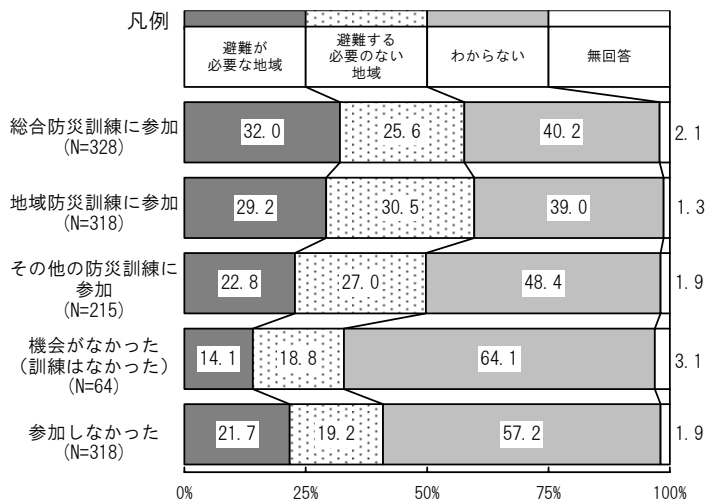
問26 あなたのお宅は、警戒宣言が発せられたとき、避難が必要な地域ですか。



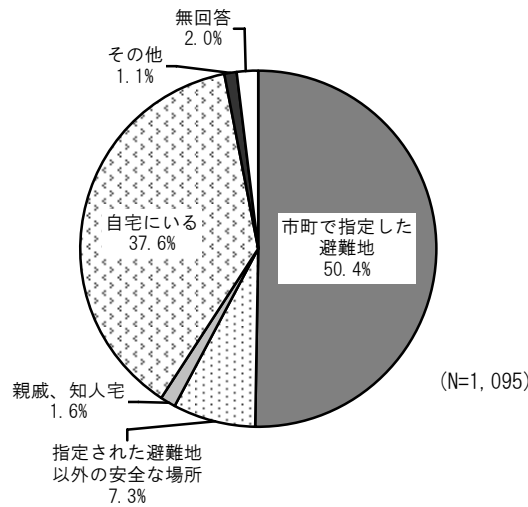
自宅が避難該当地域であるかの認識についてたずねたところ、「わからない」（48.5%）の割合が最も高く、次いで「避難が必要な地域」（24.9%）、「避難する必要のない地域」（24.2%）の順となっている。

避難該当地域であるかの認識 ＜防災訓練参加状況別＞

防災訓練参加状況別でみると、「避難が必要な地域」では、最も高い『総合防災訓練に参加』（32.0%）と、最も低い『機会がなかった（訓練はなかった）』（14.1%）では17.9ポイントの差が見られ、いずれかの防災訓練に参加している人は、自宅が避難該当地域であるという認識が高い傾向が見られる。



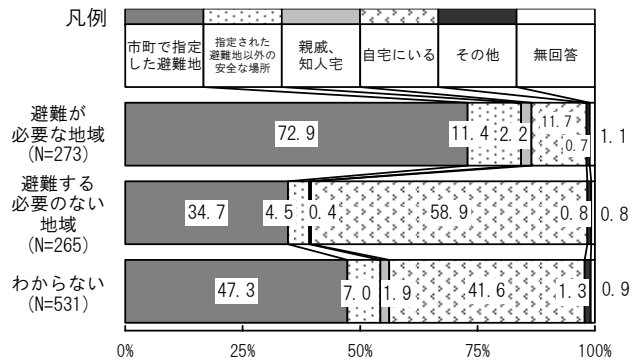
問27 あなたやご家族は、自宅において警戒宣言が発せられた場合、避難しますか。



自宅において警戒宣言が発せられた場合の避難行動についてたずねたところ、「市町で指定した避難地」(50.4%)の割合が最も高く、次いで「自宅にいる」(37.6%)、「指定された避難地以外の安全な場所」(7.3%)、「親戚、知人宅」(1.6%)の順となっている。

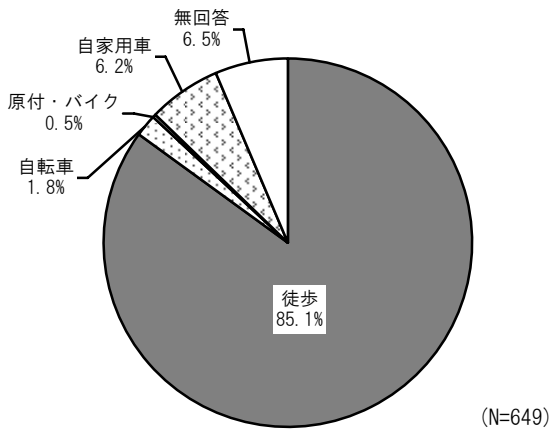
警戒宣言発令時の避難行動
 <避難該当地域であるかの認知状況別>

避難該当地域であるかの認知状況で見ると、『避難が必要な地域』では、「市町で指定した避難地」(72.9%)が7割を超えている。また『避難する必要のない地域』では、「自宅にいる」(58.9%)が約6割となっている。

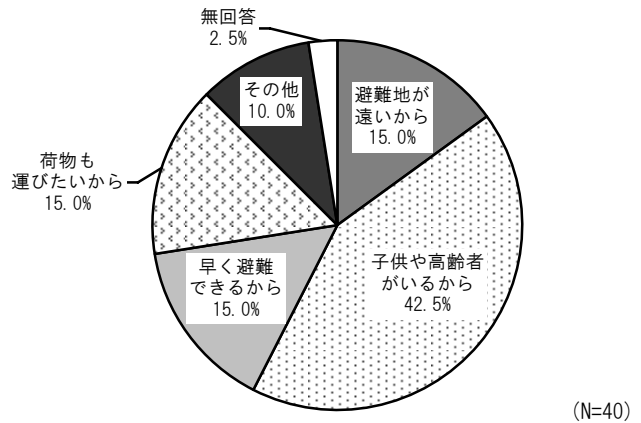


問27-1 <問27で「1 市町で指定した避難地」「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

避難するときの交通手段は何ですか。

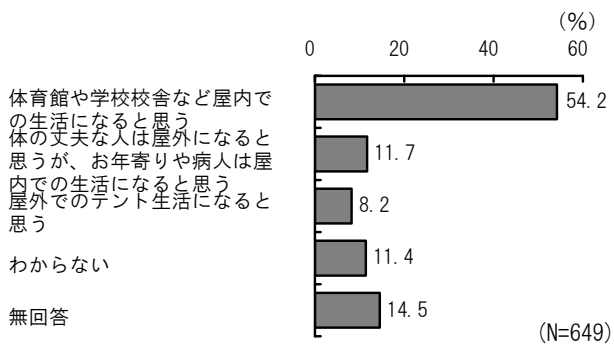


問27-1-1 <問27-1で「4 自家用車」を選んだ方にお伺いします。>
なぜ自家用車で避難するのですか。



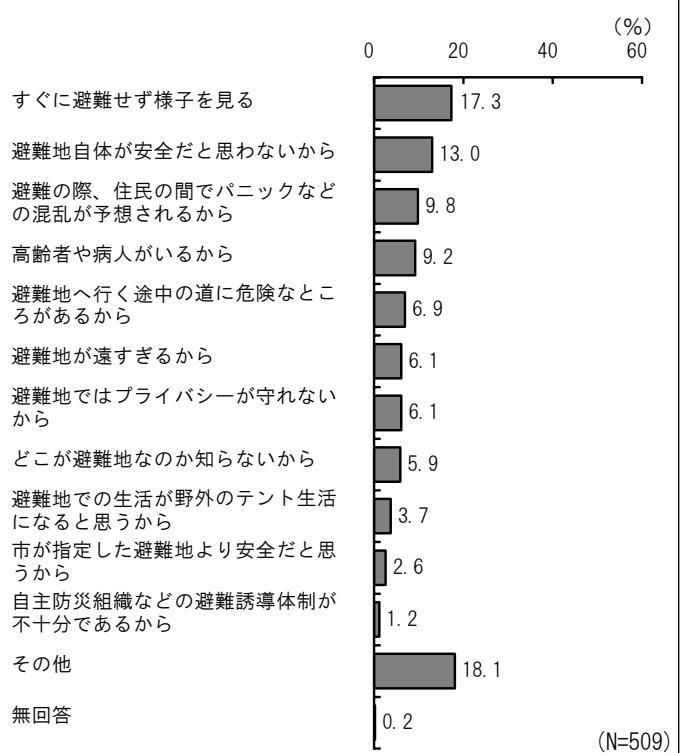
問27-2 <問27で「1 市町で指定した避難地」を選んだ方のみにお伺いします。>

避難地での生活はどのようになると思いますか。(屋外・屋内など)



問27-3 <問27で「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」「4 自宅にいる」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

市町で指定した避難地へ避難しない理由は何ですか。



問27で避難すると回答した人の避難時の交通手段については、「徒歩」（85.1%）の割合が最も高く、次いで「自家用車」（6.2%）、「自転車」（1.8%）の順となっている。

また、問27-1で「自家用車」で避難すると回答した人の理由については、「子供や高齢者がいるから」（42.5%）が最も高く、「避難地が遠いから」・「早く避難できるから」・「荷物も運びたいから」（15.0%）は同率となっている。

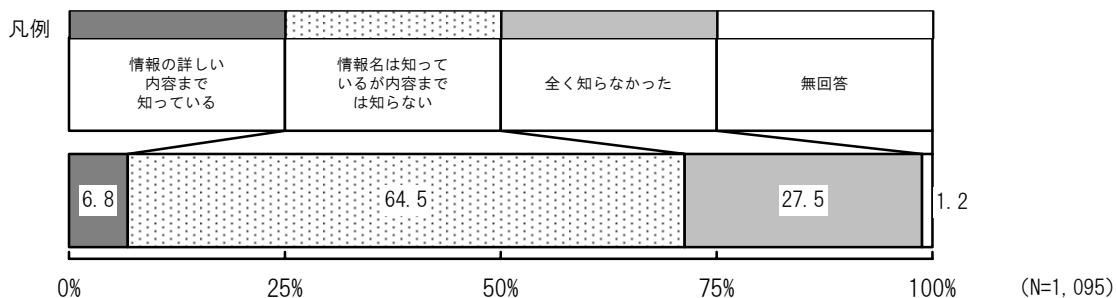
問27で「市町で指定した避難地」と回答した人に避難生活についてたずねたところ、「体育館や学校校舎など屋内での生活になると思う」（54.2%）が最も高く、次いで「体の丈夫な人は屋外になると思うが、お年寄りや病人は屋内での生活になると思う」（11.7%）、「屋外でのテント生活になると思う」（8.2%）の順となっている。

問27で「指定された避難地以外の安全な場所」、「親戚、知人宅」、「自宅にいる」と回答した人に、市町で指定した避難地へ避難しない理由をたずねたところ、「すぐに避難せず様子を見る」（17.3%）、「避難地自体が安全だと思わないから」（13.0%）が高くなっている。

7 地震に関する情報について

7-1 情報体系の認知

問28 東海地震に関連する情報として「東海地震観測情報」「東海地震注意情報」「東海地震予知情報（警戒宣言）」の3つがあります。あなたは、このことをご存知でしたか。



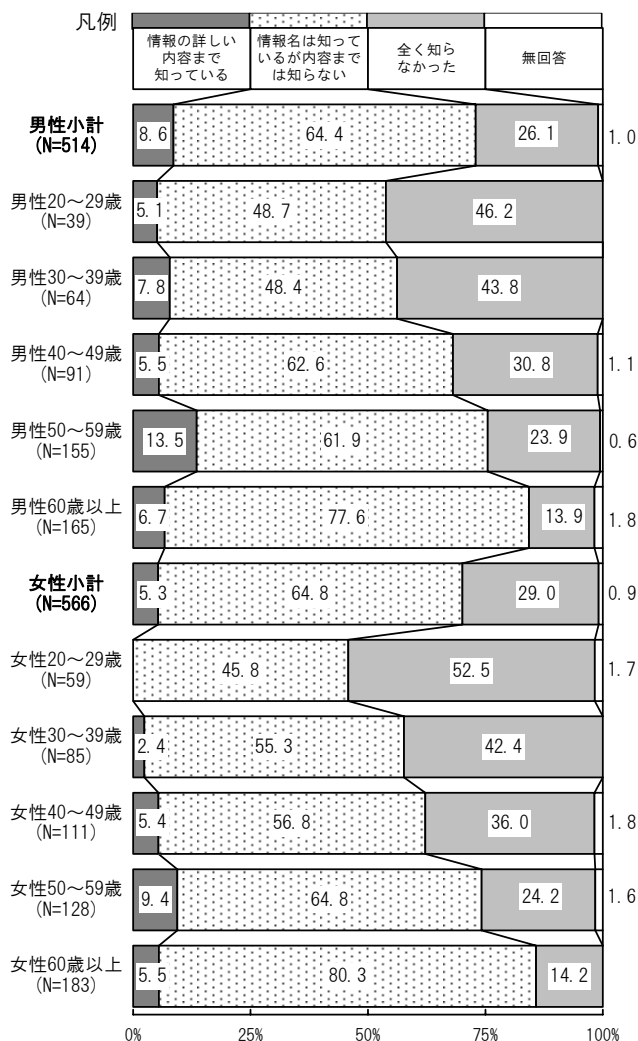
東海地震に関連する情報体系の認知についてたずねたところ、「情報は知っているが内容までは知らない」（64.5%）の割合が最も高く、次いで「全く知らなかった」（27.5%）、「情報の詳しい内容まで知っている」（6.8%）の順となっている。

「情報は知っているが内容までは知らない」、「全く知らなかった」を合わせた情報の内容を知らない人は92.0%となっている。

情報体系の認知 <性・年代別>

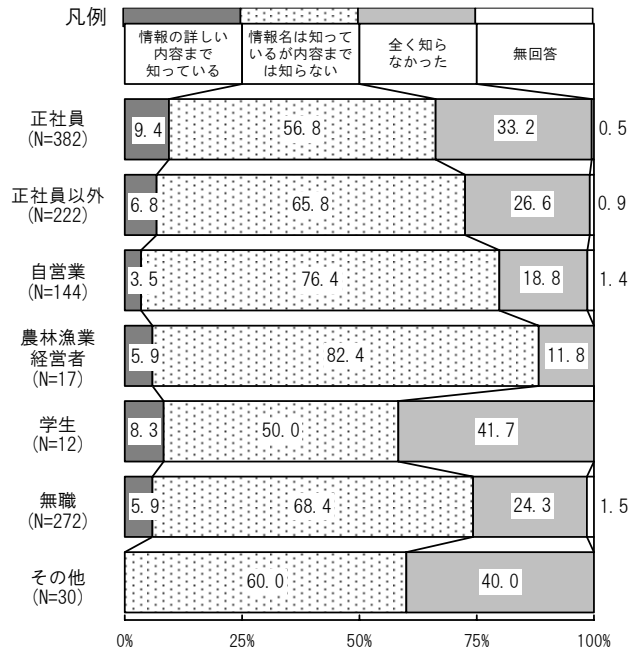
性・年代別でみると、「全く知らなかった」は『女性20代』(52.5%)で最も高く、次いで『男性20代』(46.2%)、『男性30代』(43.8%)、『女性30代』(42.4%)の順となっており、以上が4割を超えている。

また、「情報名は知っているが内容までは知らない」は、年代が上がるほど高くなる傾向が見られ、最も高い『女性60歳以上』(80.3%)と、最も低い『女性20代』(45.8%)では34.5ポイントの差が見られる。



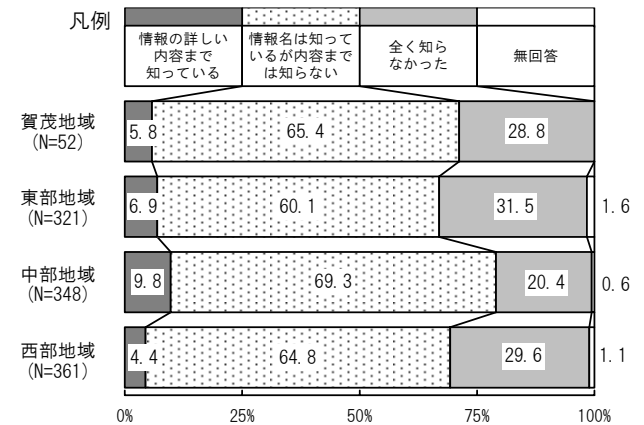
情報体系の認知 <職業別>

職業別でみると、「情報は知っているが内容までは知らない」は『農林漁業経営者』（82.4%）で最も高く、次いで『自営業』（76.4%）、『無職』（68.4%）、『正社員以外』（65.8%）、『正社員』（56.8%）の順となっている。



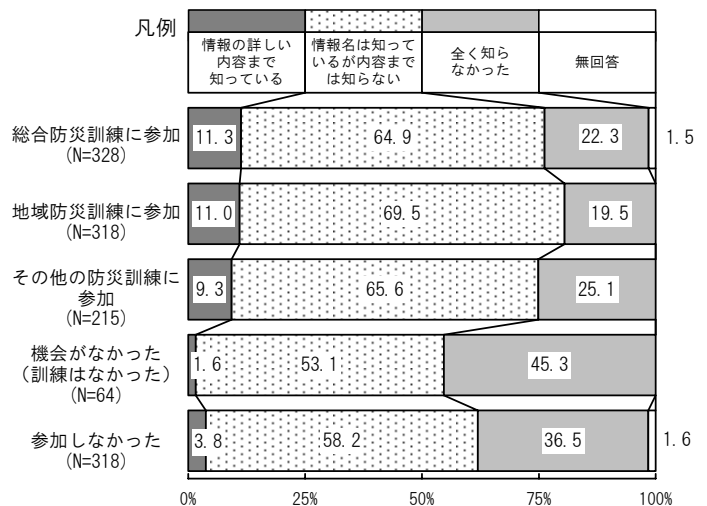
<地域別>

地域別でみると、情報体系の認知で地域による大きな差は見られない。



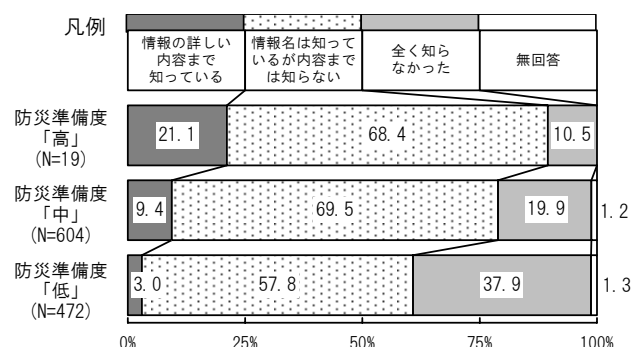
<防災訓練参加状況別>

防災訓練参加状況別でみると、いずれかの防災訓練に参加した人の認知は高い傾向が見られる。



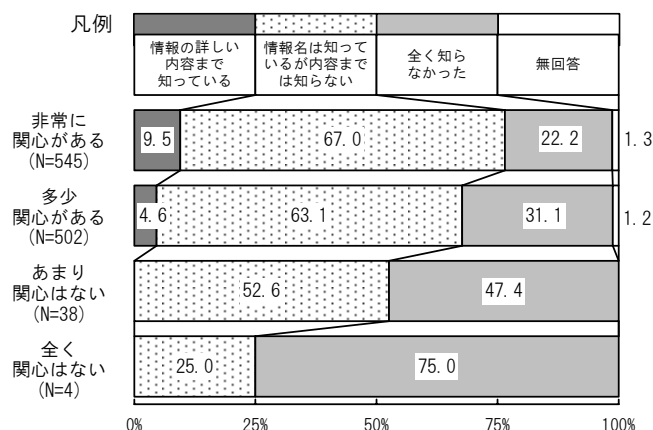
情報体系の認知 ＜防災準備度別＞

防災準備度別で見ると、防災準備度が高くなるにつれて、「情報の詳しい内容まで知っている」と答えた人は高くなっている。また、『防災準備度「低」』では、「全く知らなかった」(37.9%)が3割を超えている。



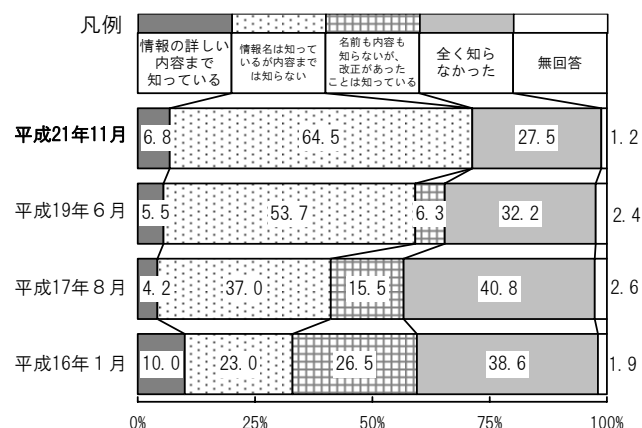
＜東海地震への関心度別＞

東海地震への関心度別で見ると、関心が高くなるにつれて「情報の詳しい内容まで知っている」及び「情報名は知っているが内容までは知らない」は高くなっており、情報体系の認知度は、東海地震への関心度と関連している。



＜経年比較＞

経年比較で見ると、「情報名は知っているが内容までは知らない」(64.5%)が前回調査(53.7%)より10.8ポイント増加している。また、「全く知らなかった」(27.5%)は、前回調査(32.2%)より4.7ポイント減少しており、情報体系の認知度は年々高くなっている。

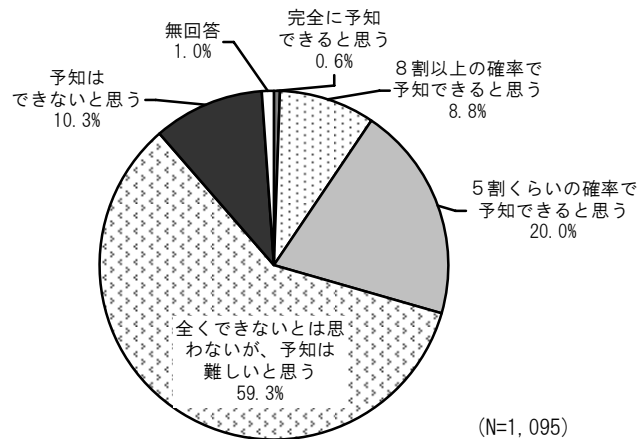


この調査項目は平成15年度調査から設定した。

※「名前も内容も知らないが、改正があったことは知っている」という項目は、平成21年度にはない。

7-2 東海地震予知の可能性

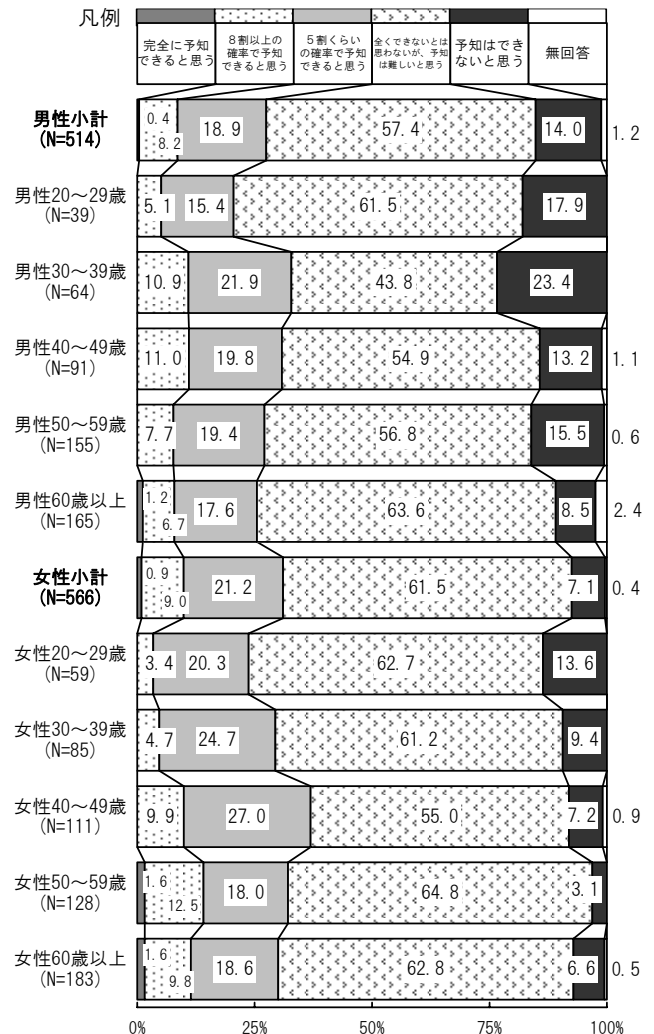
問29 あなたは、現時点で東海地震は予知できると思いますか。



東海地震の予知の可能性についてたずねたところ、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」（59.3%）の割合が最も高く、次いで「5割くらいの確率で予知できると思う」（20.0%）、「予知はできないと思う」（10.3%）、「8割以上の確率で予知できると思う」（8.8%）、「完全に予知できると思う」（0.6%）の順となっている。

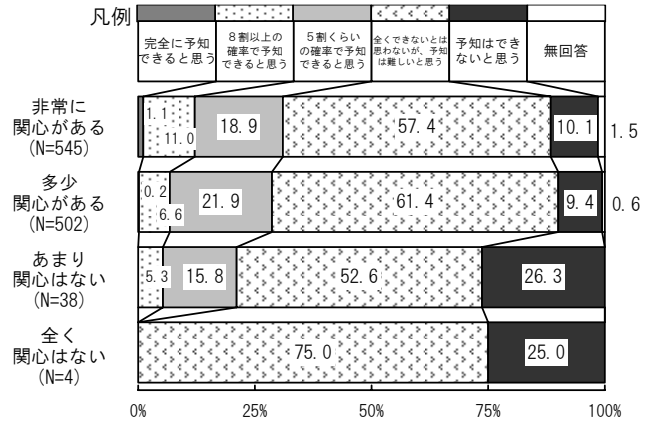
性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」が最も高くなっている。

東海地震予知の可能性 <性・年代別>



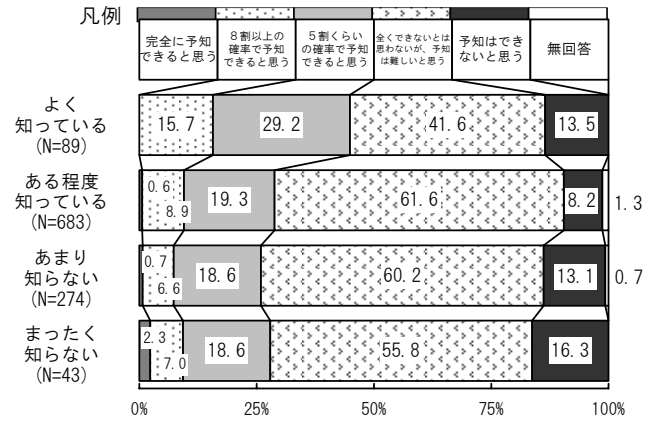
東海地震予知の可能性 ＜東海地震への関心度別＞

東海地震への関心度別で見ると、関心が高い人ほど、予知できると考えている人は多く、『非常に関心がある』や『多少関心がある』という人で「予知はできないと思う」と答えた人は、1割程度となっている。



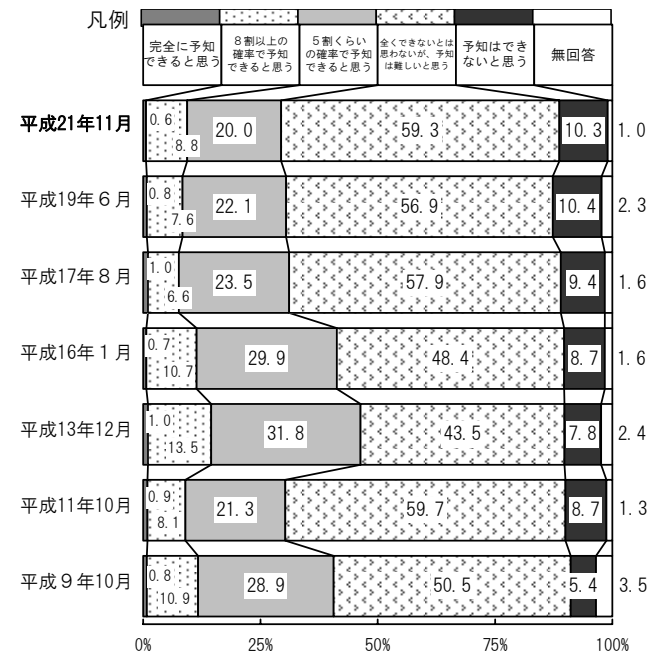
＜地震メカニズム認知別＞

地震メカニズム認知別で見ると、『よく知っている』で予知できるとする人が他よりも多くなっている。



＜経年比較＞

経年比較で見ると、今回調査は前回調査とおおむね変わらない。



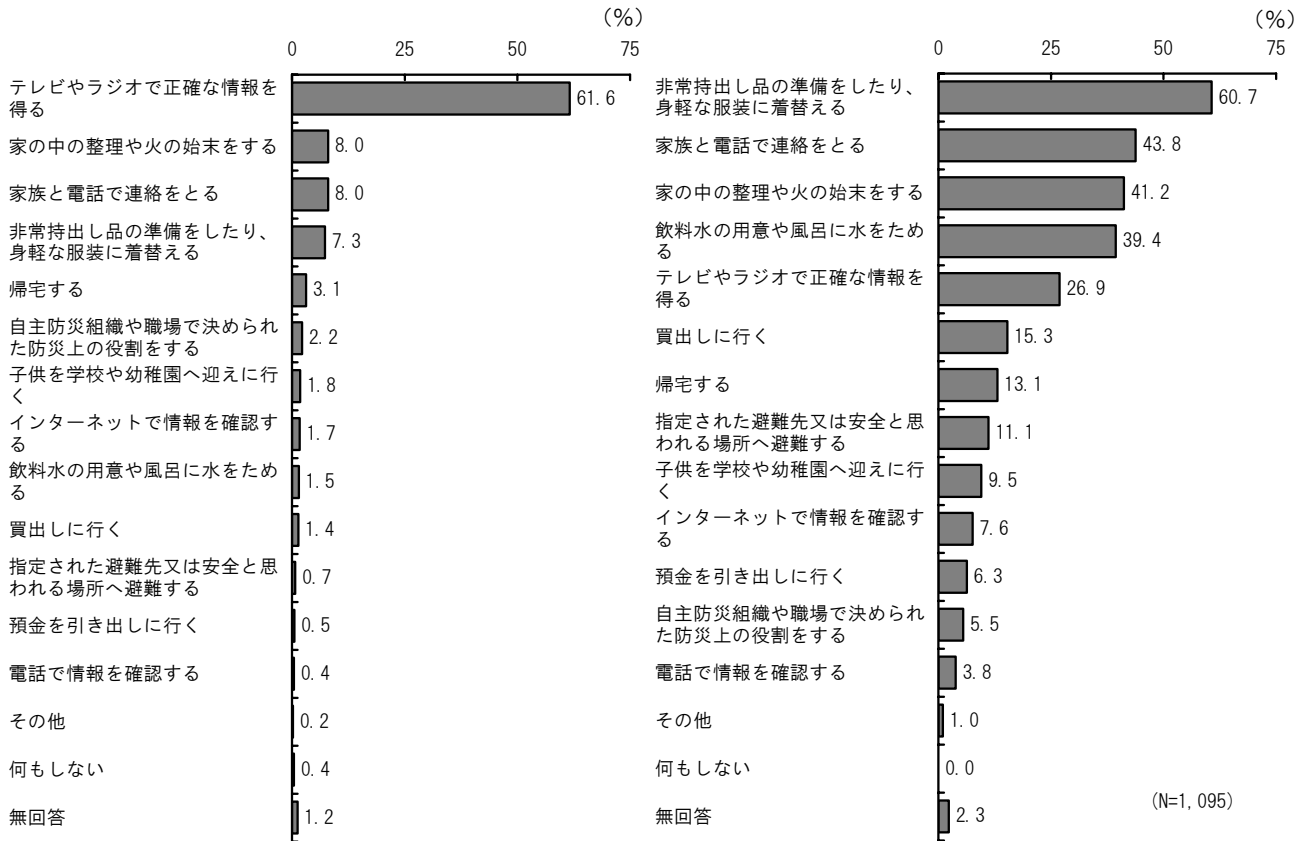
この調査項目は平成9年度調査から設定した。

7-3 注意情報発表時の行動

問30 「警戒宣言」を発するには至らないが、東海地震の前兆現象が起きている可能性が高いと認められたとき、気象庁から「東海地震注意情報」が発表されます。このような場合に、まず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に○をつけてください。

◇ 最初にすること ◇

◇ 次にすること (M. A.) ◇

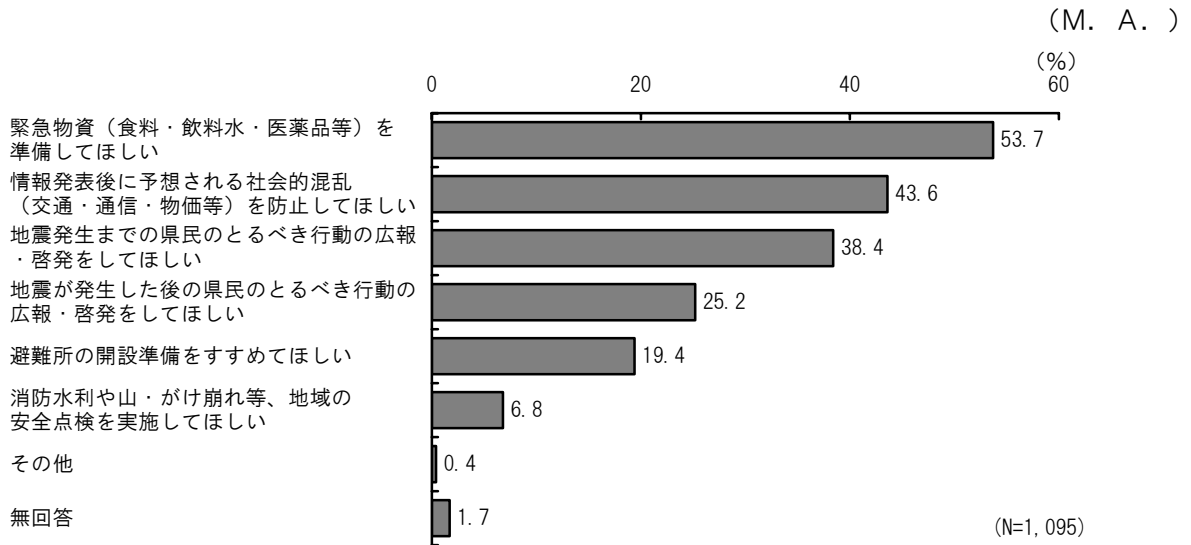


「東海地震注意情報」が発表された場合の行動についてたずねたところ、にまず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(61.6%)の割合が最も高くなっている。

次にすることについては、「非常持出し品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(60.7%)が最も高く、次いで「家族と電話で連絡をとる」(43.8%)、「家の中の整理や火の始末をする」(41.2%)、「飲料水の用意や風呂に水をためる」(39.4%)の順となっており、以上が3割を超えている。

7-4 注意情報発表時の行政への要望

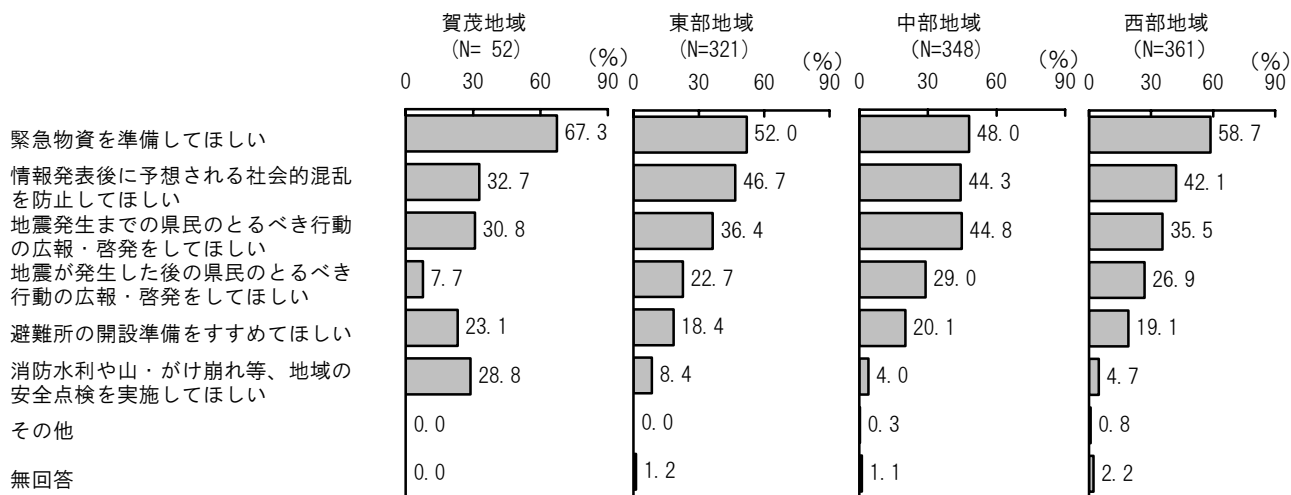
問31 「東海地震注意情報」が発表された場合、県や市町にどのような対応を望みますか。



「東海地震注意情報」発表時の行政への要望についてたずねたところ、「緊急物資（食料・飲料水・医薬品等）を準備してほしい」（53.7%）の割合が最も高く、次いで「情報発表後に予想される社会的混乱（交通・通信・物価等）を防止してほしい」（43.6%）、「地震発生までの県民のとりべき行動の広報・啓発をしてほしい」（38.4%）の順となっている。

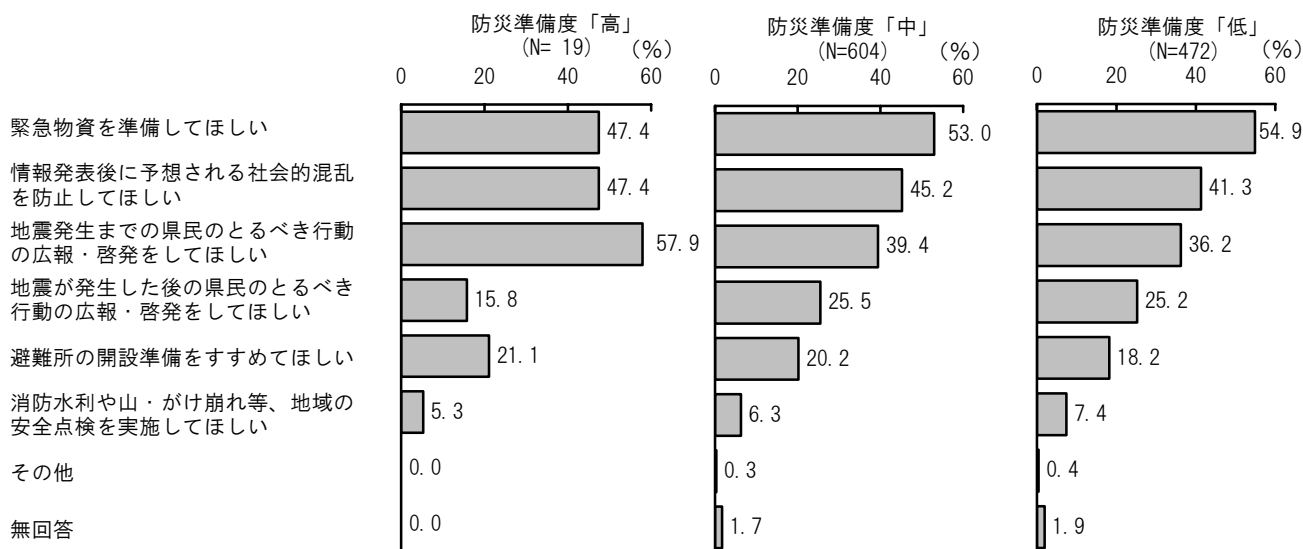
地域別でみると、いずれの地域においても「緊急物資（食料・飲料水・医薬品等）を準備してほしい」、
「情報発表後に予想される社会的混乱（交通・通信・物価等）を防止してほしい」が高くなっており、地域
による大きな差は見られない。

注意情報発表時の行政への要望 <地域別>



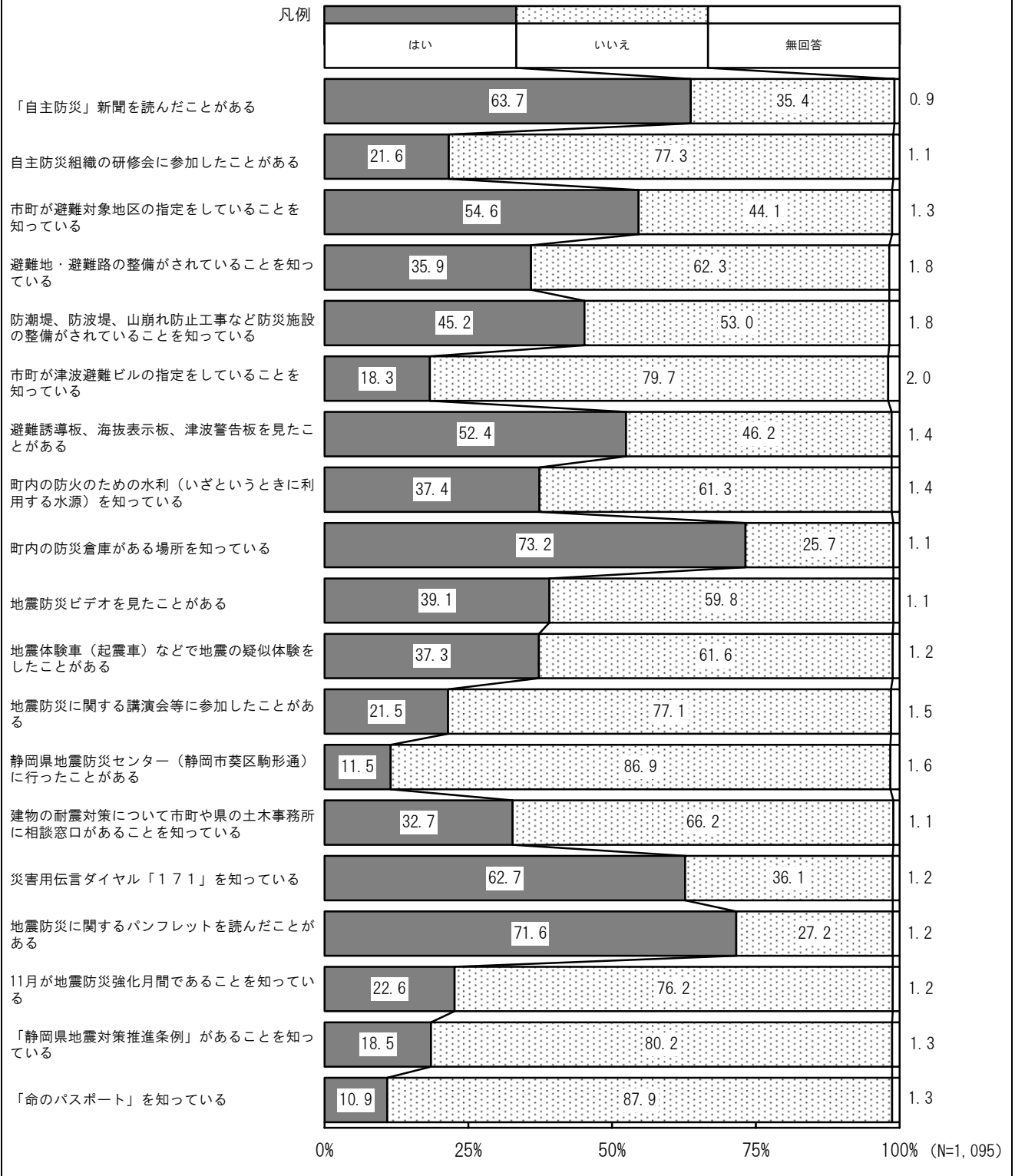
防災準備度別でみると、『防災準備度「高」』では「地震発生までの県民のとりべき行動の広報・啓発をしてほしい」（57.9%）が最も高くなっている。

<防災準備度別>



7-5 地震防災情報の入手

問32 次の1～19の項目について「はい」「いいえ」の欄に○をつけてください。



地震防災情報の入手については、「町内の防災倉庫がある場所を知っている」（73.2%）の割合が最も高く、次いで「地震防災に関するパンフレットを読んだことがある」（71.6%）、「「自主防災」新聞を読んだことがある」（63.7%）、「災害用伝言ダイヤル「171」を知っている」（62.7%）、「市町が避難対象地区の指定をしていることを知っている」（54.6%）「避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある」（52.4%）の順となっており、以上は過半数の人が認知している項目となっている。しかしながら、全体的にみると、知らない情報の方が多くなっている。

経年比較でみると、「町内の防災倉庫がある場所を知っている」、「地震防災に関するパンフレットを読んだことがある」、「「自主防災」新聞を読んだことがある」については順位の変動はあるものの、いずれの調査においても上位3項目となっている。また、「地震体験車（起震車）などで地震の疑似体験をしたことがある」が、今回調査（37.3%）は前回調査（32.3%）を5.0ポイント上回っており、「災害用伝言ダイヤル「171」を知っている」とともに認知率が高まってきている。

地震防災情報の入手（認知率） <経年比較>

順位	地震防災情報	認知率（%）					
		平成21年11月	平成19年6月	平成17年8月	平成16年1月	平成13年12月	平成11年10月
1	町内の防災倉庫がある場所を知っている	73.2	70.3	65.5	69.4	56.0	54.5
2	地震防災に関するパンフレットを読んだことがある	71.6	75.0	72.5	69.4	68.3	72.3
3	「自主防災」新聞を読んだことがある	63.7	68.5	60.2	61.8	62.8	61.5
4	災害用伝言ダイヤル「171」を知っている	62.7	62.3	58.0	42.5	24.0	19.5
5	市町が避難対象地区の指定をしていることを知っている	54.6	54.6	49.1	56.6	50.8	52.3
6	避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある	52.4	54.4	50.8	46.6	45.4	48.3
7	防潮堤、防波堤、山崩れ防止工事など防災施設の整備がされていることを知っている	45.2	45.6	41.4	44.2	39.8	40.1
8	地震防災ビデオを見たことがある	39.1	38.8	39.5	41.9	32.9	36.1
9	町内の防火のための水利（いざというときに利用する水源）を知っている	37.4	37.6	35.9	39.6	44.8	44.9
10	地震体験車（起震車）などで地震の疑似体験をしたことがある	37.3	32.3	33.4	30.8	29.1	30.6
11	避難地・避難路の整備がされていることを知っている	35.9	36.5	33.0	32.1	31.1	34.2
12	建物の耐震対策について市町や県の土木事務所に相談窓口があることを知っている	32.7	33.1	37.9	38.7	25.7	21.4
13	11月が地震防災強化月間であることを知っている	22.6	26.7	22.2	29.8	27.7	24.3
14	自主防災組織の研修会に参加したことがある	21.6	20.4	17.7	18.8	19.2	19.2
15	地震防災に関する講演会等に参加したことがある	21.5	21.6	20.5	20.6	18.0	17.4
16	「静岡県地震対策推進条例」があることを知っている	18.5	20.4	20.8	24.5	26.2	27.1
17	市町が津波避難ビルの指定をしていることを知っている	18.3	19.5	18.1	12.4	12.9	12.6
18	静岡県地震防災センター（静岡市葵区駒形通）に行ったことがある	11.5	14.7	13.2	13.2	11.9	11.6
19	「命のパスポート」を知っている	10.9	12.4	12.2	11.3	12.6	10.1

地震防災情報の入手を認知数（19項目のうち知っている、したことがある数で1項目は1ポイント）で各属性別でみると、性・年代別では、『男性』（7.9ポイント）が『女性』（7.1ポイント）を0.8ポイント上回っている。また、年代が上がるほど認知数は高くなる傾向が見られ、最も高い『男性60歳以上』（9.0ポイント）と、最も低い『女性20代』（5.5ポイント）では3.5ポイントの差が見られる。

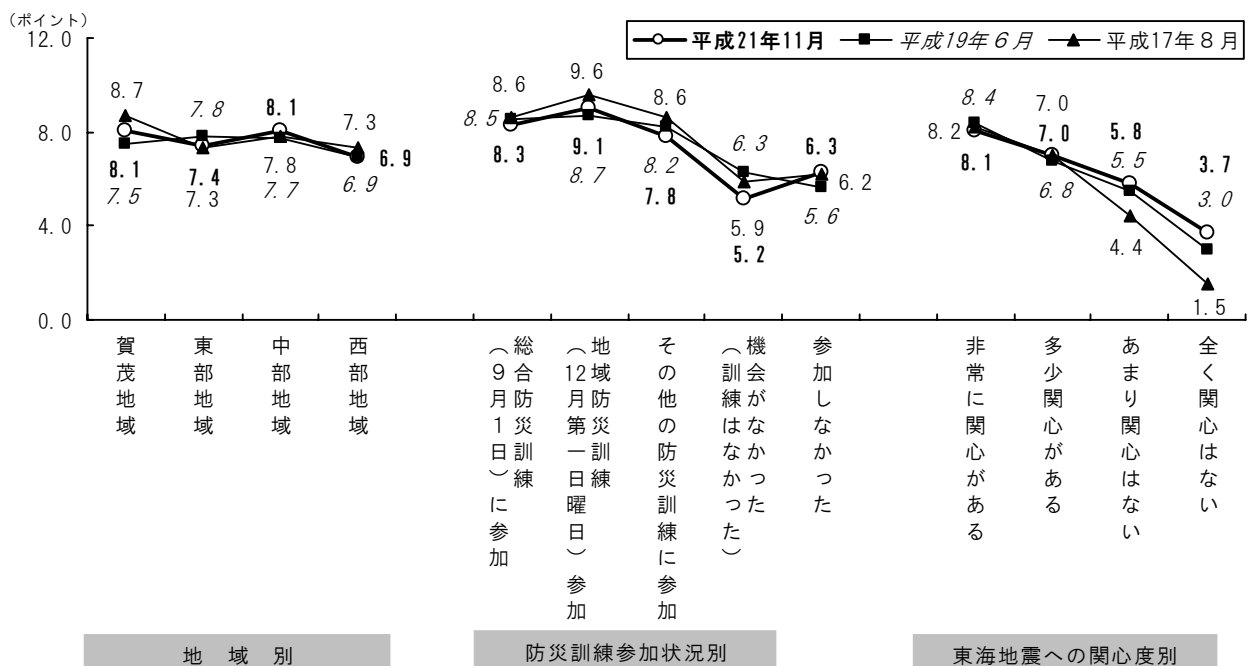
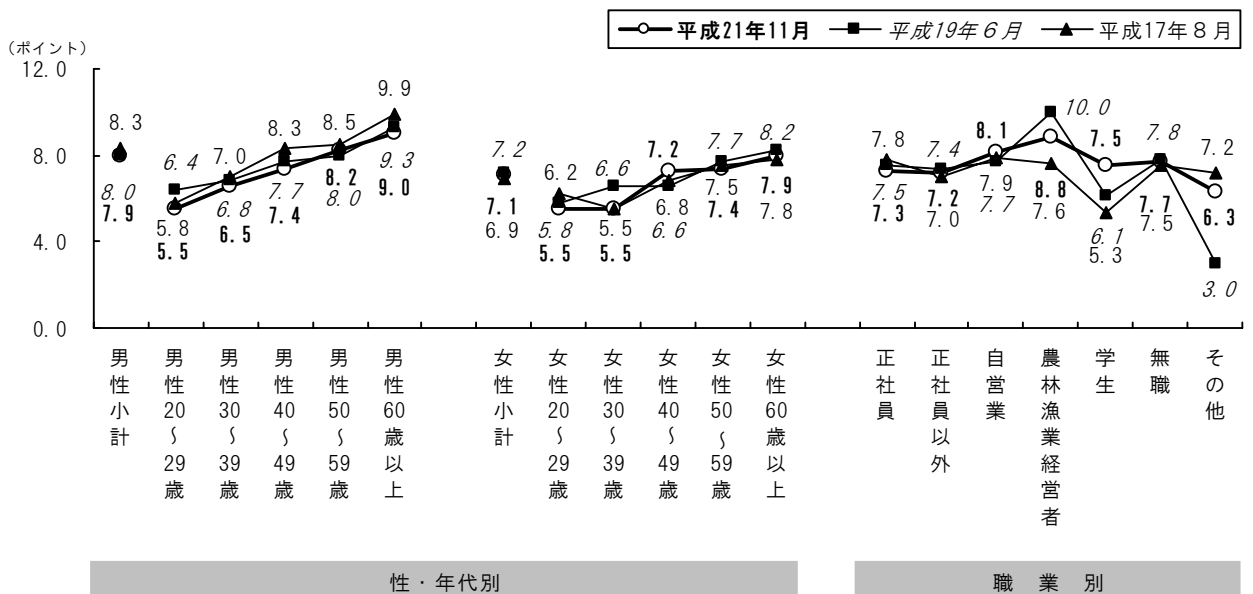
職業別でみると、『農林漁業経営者』（8.8ポイント）、『自営業』（8.1ポイント）が他よりも高くなっている。

地域別でみると、『賀茂』（8.1ポイント）が他よりも高くなっている。

防災訓練参加状況別でみると、いずれかの防災訓練に参加している人は、8ポイント前後であるが、『機会がなかった（訓練はなかった）』（5.2ポイント）と『参加しなかった』（6.3ポイント）は、ポイント数が低くなっている。

東海地震への関心度別でみると、関心度が高い人ほど認知数は高い傾向が見られ、『非常に興味がある』では、8.1ポイントを超えている。

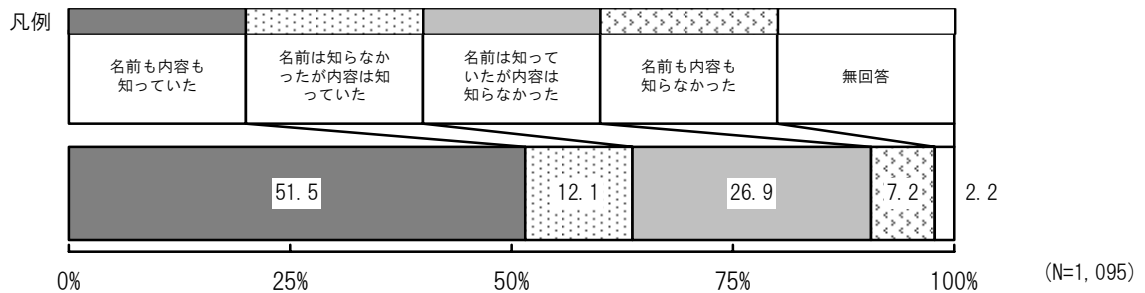
地震防災情報の入手（認知数平均）＜属性別＞ 全体平均 7.5



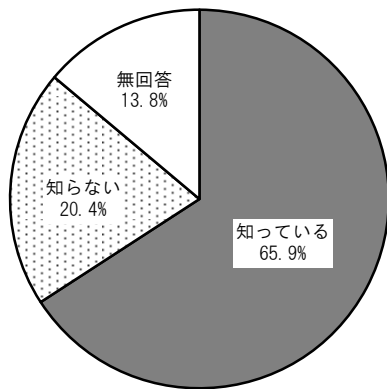
8 緊急地震速報について

8-1 緊急地震速報についての認知

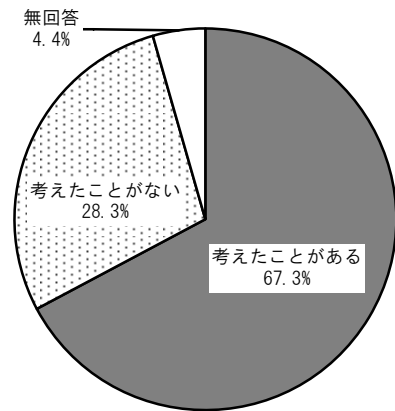
問33 あなたは、緊急地震速報について知っていましたか。



問33-1 <問33で「1 名前も内容も知っていた」「2 名前は知らなかったが内容は知っていた」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>
緊急地震速報は、揺れの大きさの予想などに誤差が含まれる情報であることをご存知ですか。



問33-2 <問33で「1 名前も内容も知っていた」「2 名前は知らなかったが内容は知っていた」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>
あなたは、緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良いか考えたことはありますか。



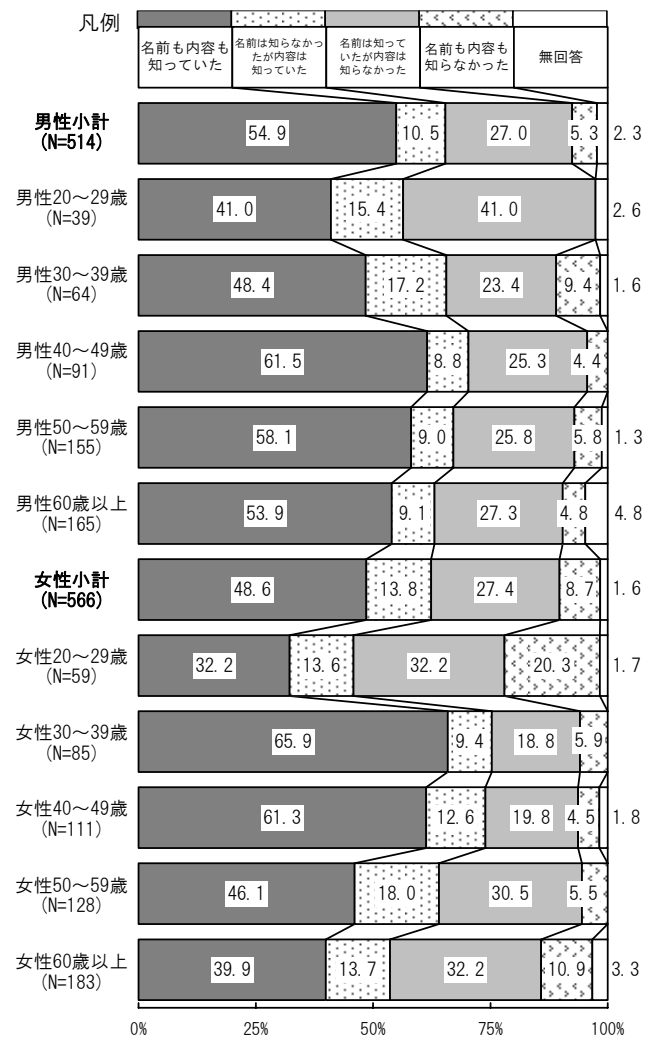
緊急地震速報の認知についてたずねたところ、「名前も内容も知っていた」(51.5%)の割合が最も高く、次いで「名前は知っていたが内容は知らなかった」(26.9%)、「名前は知らなかったが内容は知っていた」(12.1%)の順となっている。

緊急地震速報は、揺れの大きさの予測などに誤差が含まれる情報であることの認知度については、「知っている」(65.9%)が6割以上を超えており、「知らない」(20.4%)は2割程となっている。

緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良いか考えたことはあるかについては、「考えたことがある」(67.3%)が6割を超えており、「考えたことがない」(28.3%)を大きく上回っている。

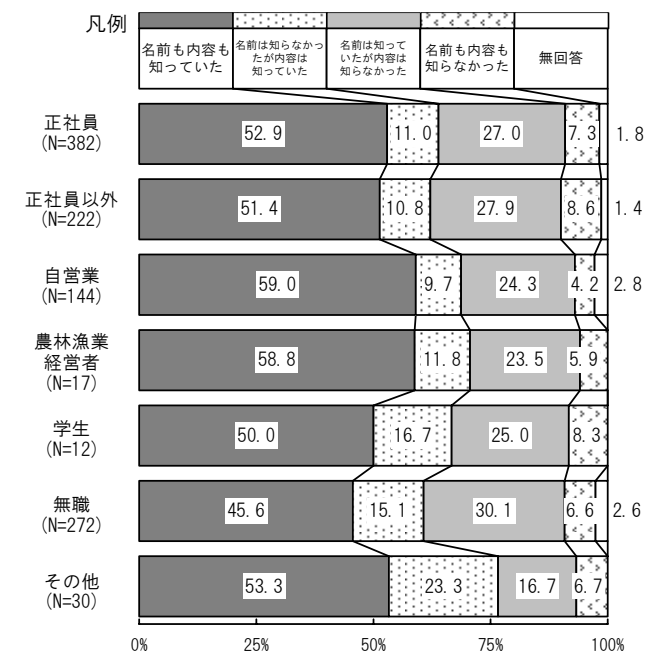
緊急地震速報についての認知 <性・年代別>

性・年代別でみると、「名前も内容も知っていた」は、『女性20代』（32.2%）、『女性60歳以上』（39.9%）、『男性20代』（41.0%）がやや低くなっている。



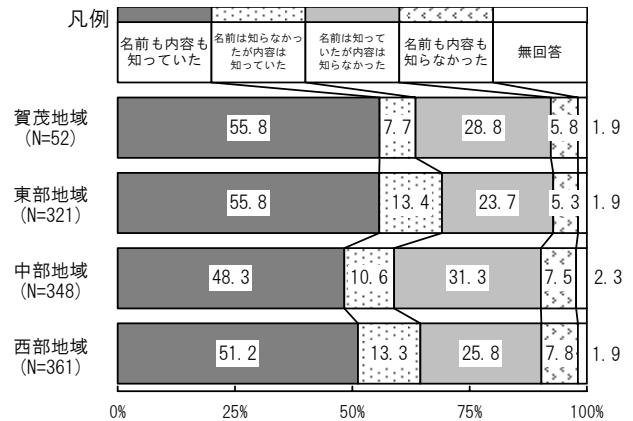
<職業別>

職業別でみると、緊急地震速報の認知に大きな差は見られない。



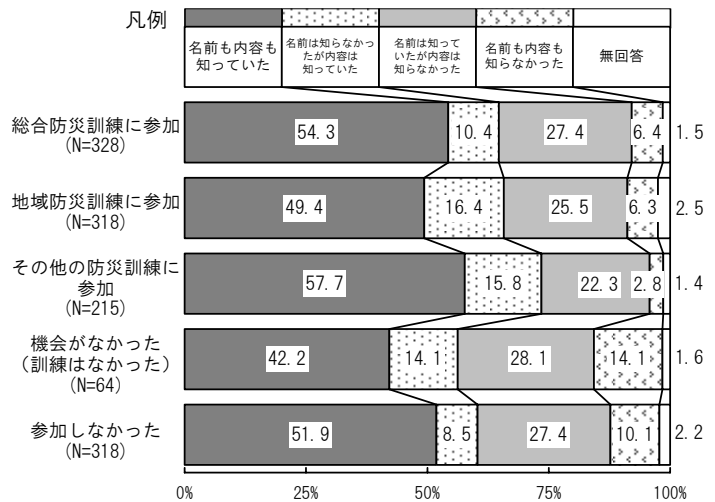
緊急地震速報についての認知 ＜地域別＞

地域別でみると、「名前も内容も知っていた」は、『中部』(48.3%)がやや低くなっている。



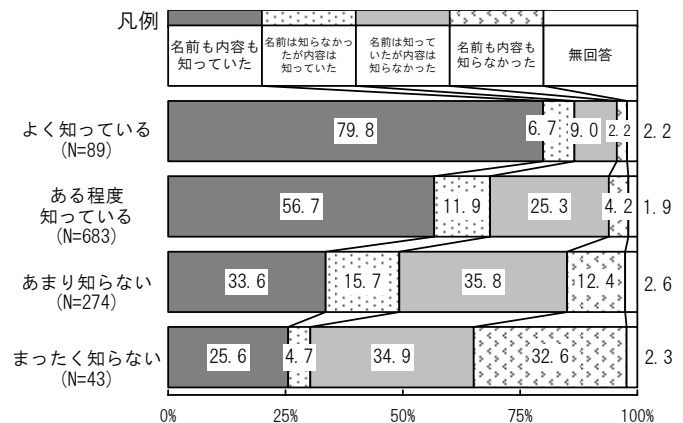
防災訓練参加状況別でみると、いずれかの防災訓練に参加しなかった人は、「名前も内容も知らなかった」が1割を超えている。

＜防災訓練参加状況別＞



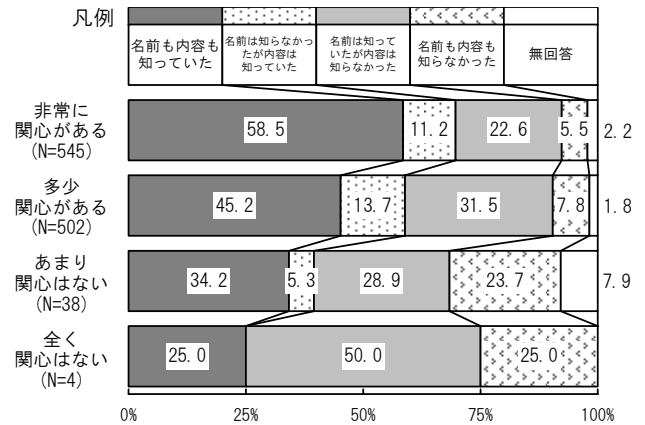
地震メカニズム認知別でみると、地震メカニズムをよく知っているほど、「名前も内容も知っていた」が高くなっており、最も高い『よく知っている』(79.8%)と、最も低い『まったく知らない』(25.6%)では54.2ポイントの差が見られる。

＜地震メカニズム認知別＞



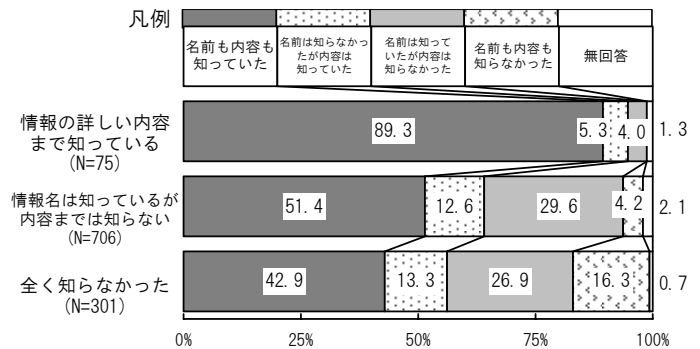
緊急地震速報についての認知 ＜東海地震への関心度別＞

東海地震への関心度別で見ると、関心が高くなるにつれて「名前も内容も知っていた」は高くなっており、緊急地震速報についての認知と東海地震への関心度は関連している。



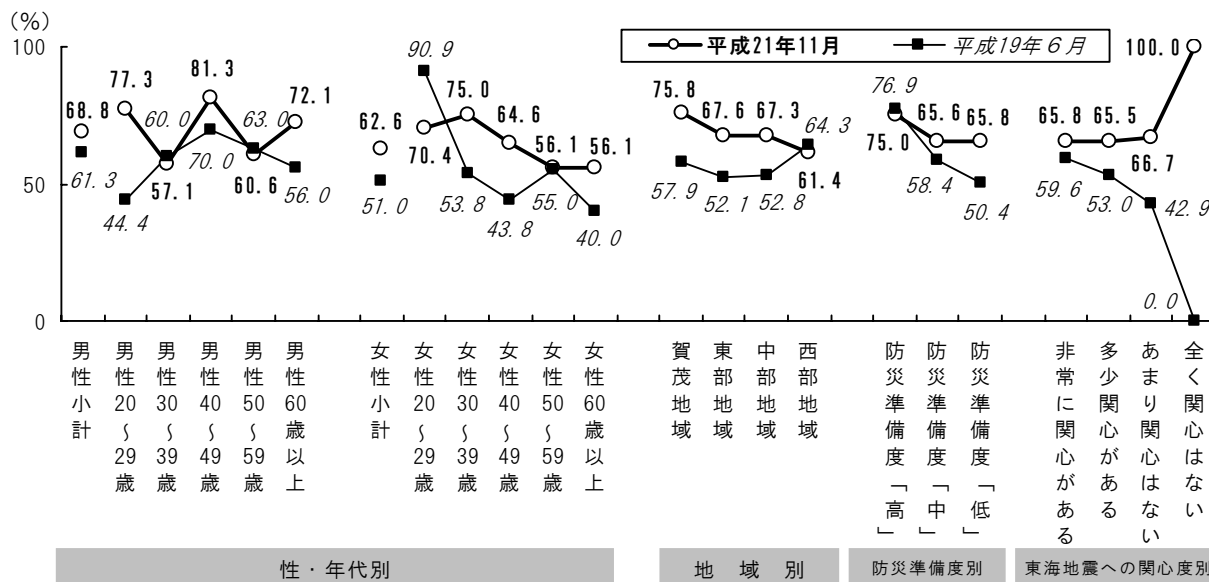
＜情報体系の認知別＞

情報体系の認知別で見ると、「名前も内容も知っていた」は、認知度が高くなるにつれて、緊急地震速報についての認知度も高くなっており、『情報の詳しい内容まで知っている』（89.3%）では大半を占めている。



緊急地震速報は、揺れの大きさの予測などに誤差が含まれる情報であることの認知度について地域別で見ると、最も高い『賀茂』（75.8%）と、最も低い『西部』（61.4%）では14.4ポイントの差が見られる。

緊急地震速報は、揺れの大きさの予測などに誤差が含まれる情報であることの認知度＜属性別＞

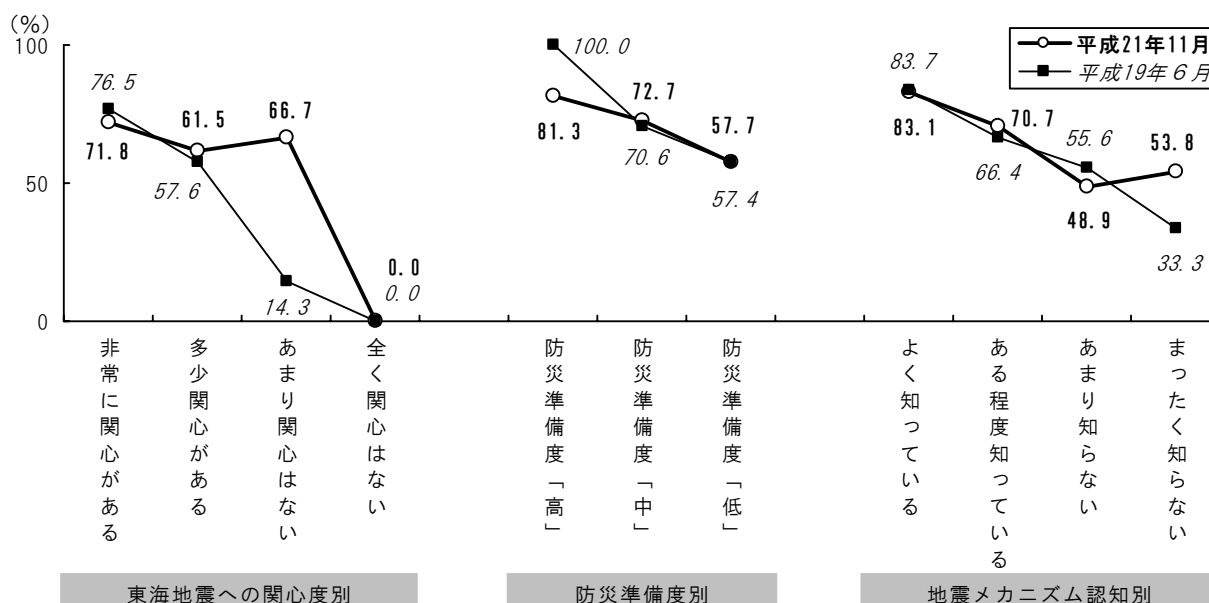


緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良いか考えたことのあるかについて属性別で見ると、東海地震への関心度別では、関心があるほど「考えたことがある」が高くなっている。

防災準備度別で見ると、『防災準備度「高」』ほど「考えたことがある」が高くなっている。

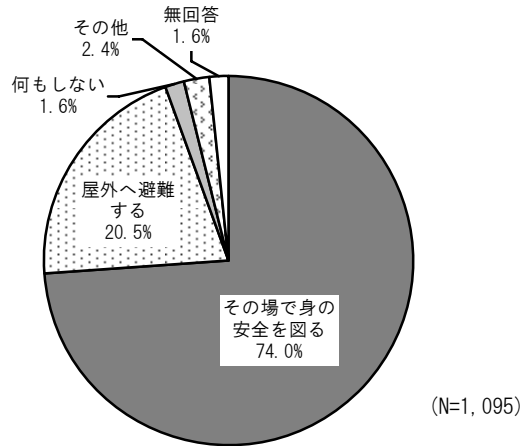
地震メカニズム認知別で見ると、最も高い『よく知っている』ほど「考えたことがある」が高くなっている。

どのように行動すれば良いか考えたことがあるか＜属性別＞



8-2 緊急地震速報入手時の行動

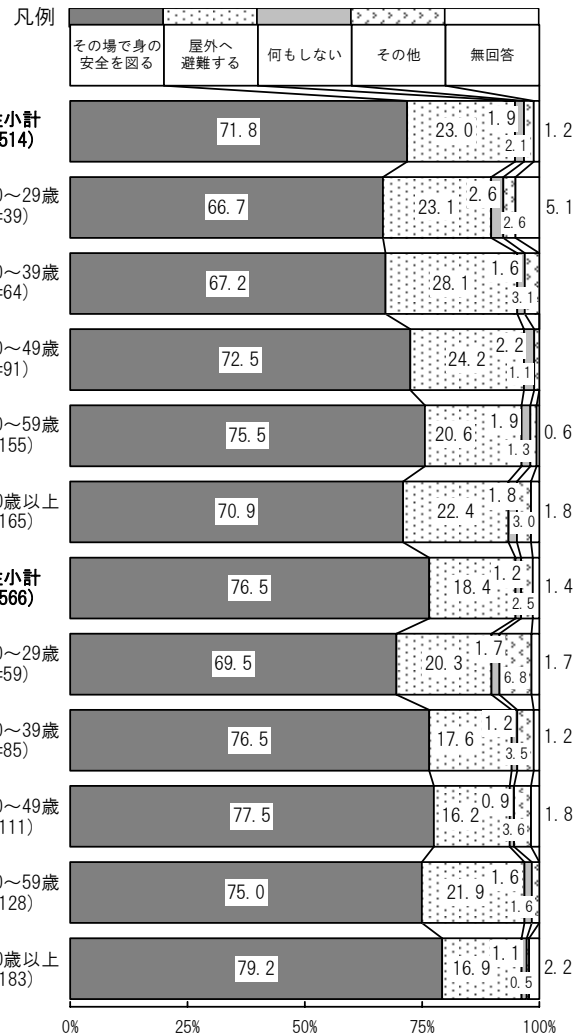
問34 あなたは、屋内で緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動しますか。



緊急地震速報入手時の行動についてたずねたところ、「その場で身の安全を図る」（74.0%）の割合が最も高く、次いで「屋外へ避難する」（20.5%）、「何もしない」（1.6%）の順となっている。

緊急地震速報入手時の行動 ＜性・年代別＞

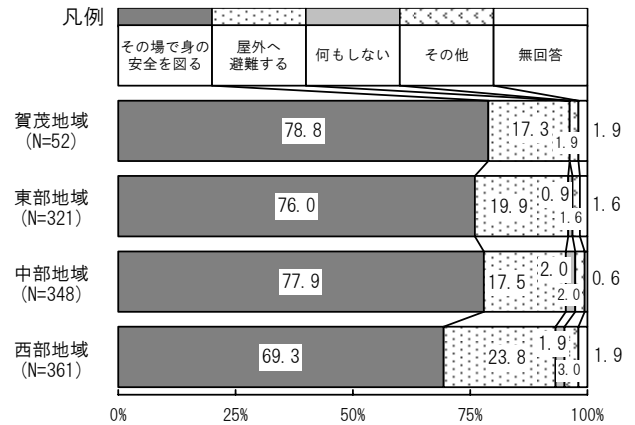
性・年代別で見ると、いずれの性・年代においても「その場で身の安全を図る」が過半数を超えている。



緊急地震速報入手時の行動

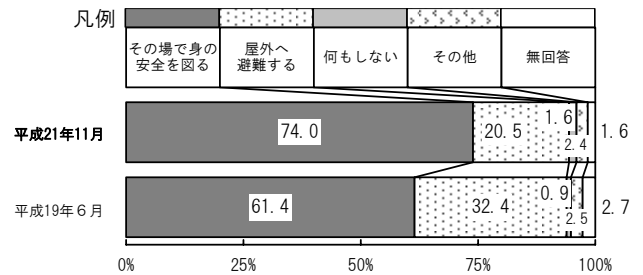
<地域別>

地域別で見ると、「屋外へ避難する」は、『西部』(23.8%)で最も高くなっている。



<経年比較>

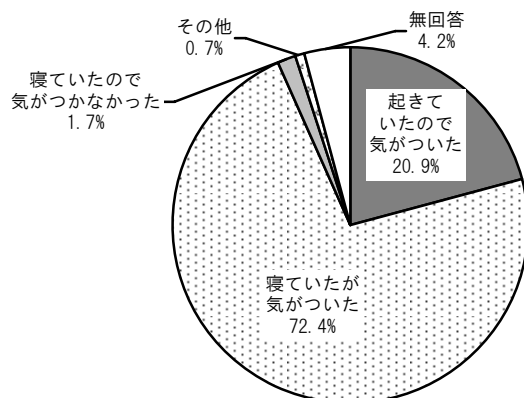
経年比較で見ると、「その場で身の安全を図る」は、今回調査(74.0%)と前回調査(61.4%)では12.6ポイントの差が見られる。



9 8月11日に発生した駿河湾を震源とする地震について

9-1 地震発生時の状況

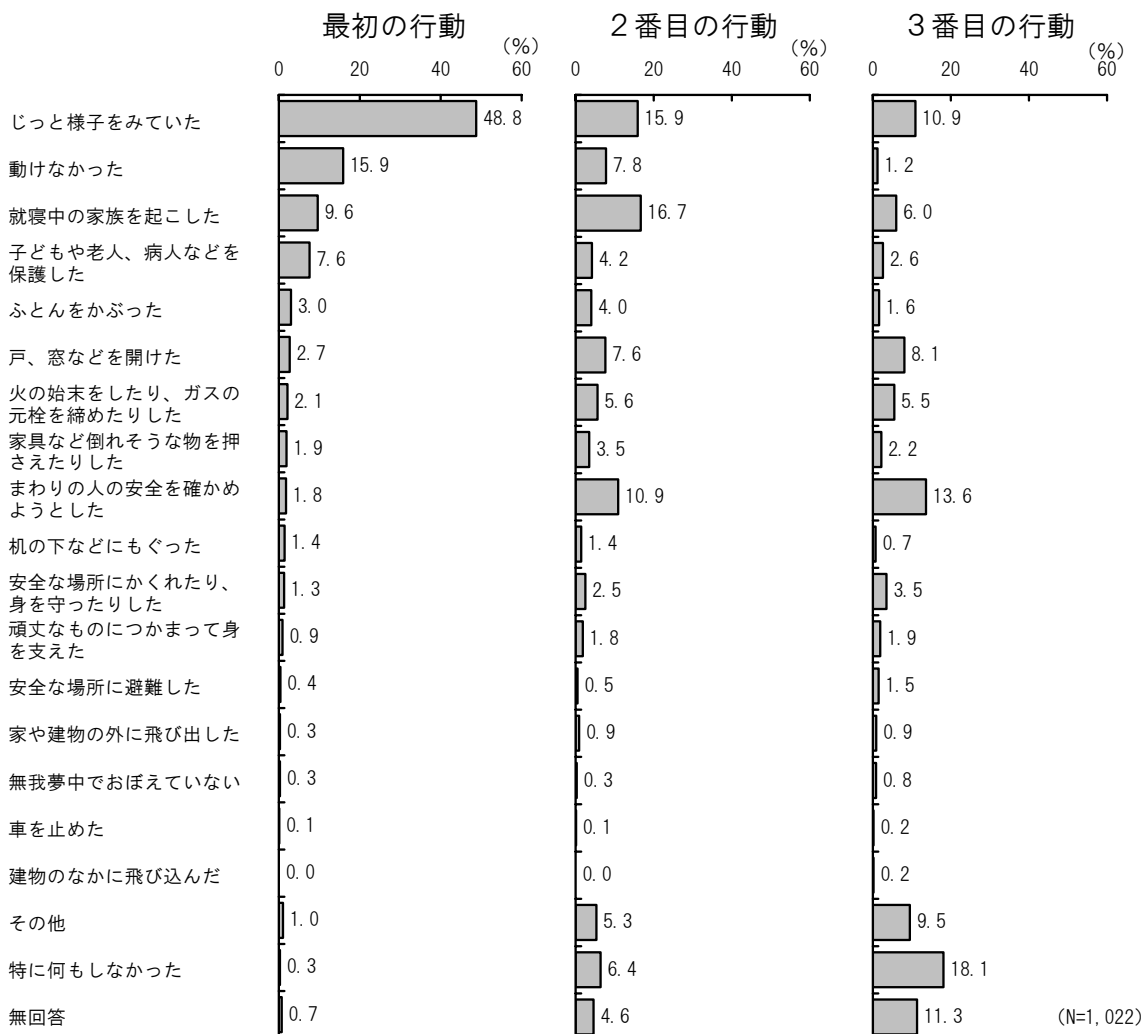
問35 あなたは、その地震に気がつきましたか。



(N=1,095)

問35-1 <問35で「1 起きていたので気がついた」「2 寝ていたが気がついた」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、あなたはとっさにどんなことができましたか。あなたがとった行動を、最初にしたものから順に3つまでお答えください。



(N=1,022)

8月11日に発生した駿河湾を震源とする地震に気がついたかたずねたところ、「寝ていたが気がついた」(72.4%)の割合が最も高く、次いで「起きていたので気がついた」(20.9%)、「寝ていたので気がつかなかった」(1.7%)の順となっている。

また、「起きていたので気がついた」、「寝ていたが気がついた」と回答した人の、地震発生時の最初の行動については、「じっと様子をみていた」(48.8%)が最も高く、次いで「動けなかった」(15.9%)、「就寝中の家族を起こした」(9.6%)の順となっている。

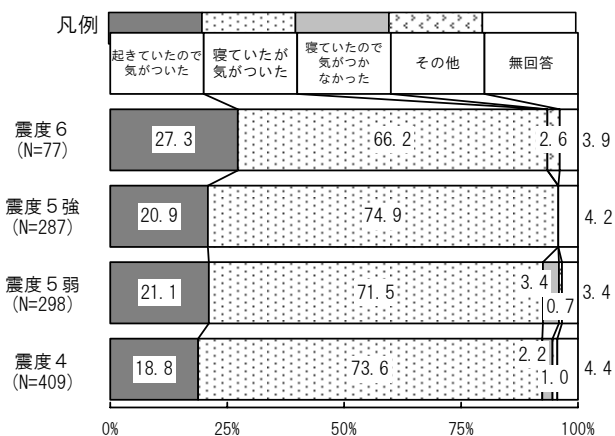
2番目の行動については、「就寝中の家族を起こした」(16.7%)、「じっと様子をみていた」(15.9%)、「まわりの人の安全を確かめようとした」(10.9%)が1割を超えている。

3番目の行動については、「特に何もしなかった」(18.1%)が最も高く、次いで「まわりの人の安全を確かめようとした」(13.6%)、「じっと様子をみていた」(10.9%)の順となっている。

地震発生時の状況 <8月11日の震度別>

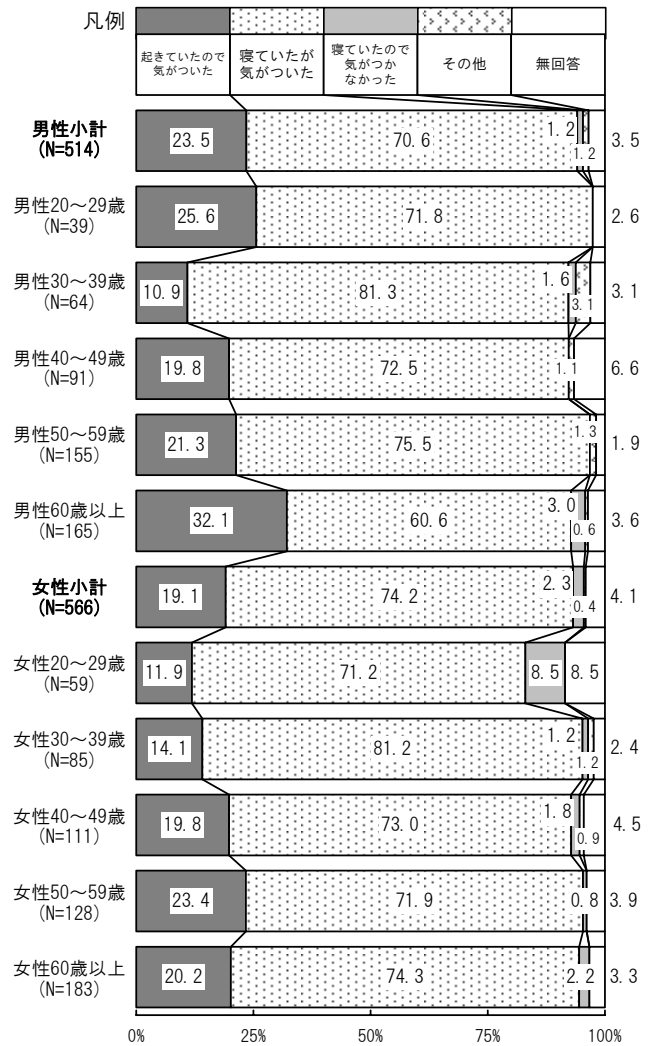
震度別で見ると、「起きていたので気がついた」は、最も高い『震度6』(27.3%)と、最も低い『震度4』(18.8%)では8.5ポイントの差が見られる。

また、「起きていたので気がついた」と「寝ていたが気がついた」を合わせた気がついた人は、いずれの震度でも9割を超えている。



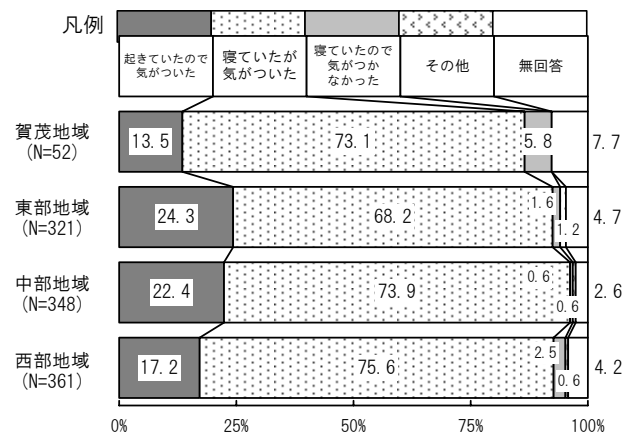
地震発生時の状況 <性・年代別>

性・年代別で見ると、「寝ていたので気がつかなかった」は『女性20代』(8.5%)でやや高くなっている。



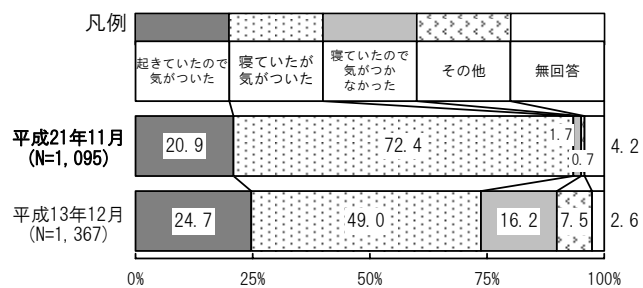
<地域別>

地域別で見ると、「寝ていたので気がつかなかった」は『賀茂』(5.8%)でやや高くなっている。



地震発生時の状況 <経年比較>

経年比較でみると、「寝ていたが気がついた」は、『平成21年11月』（72.4%）と、『平成13年12月』（49.0%）では23.4ポイントの差が見られる。



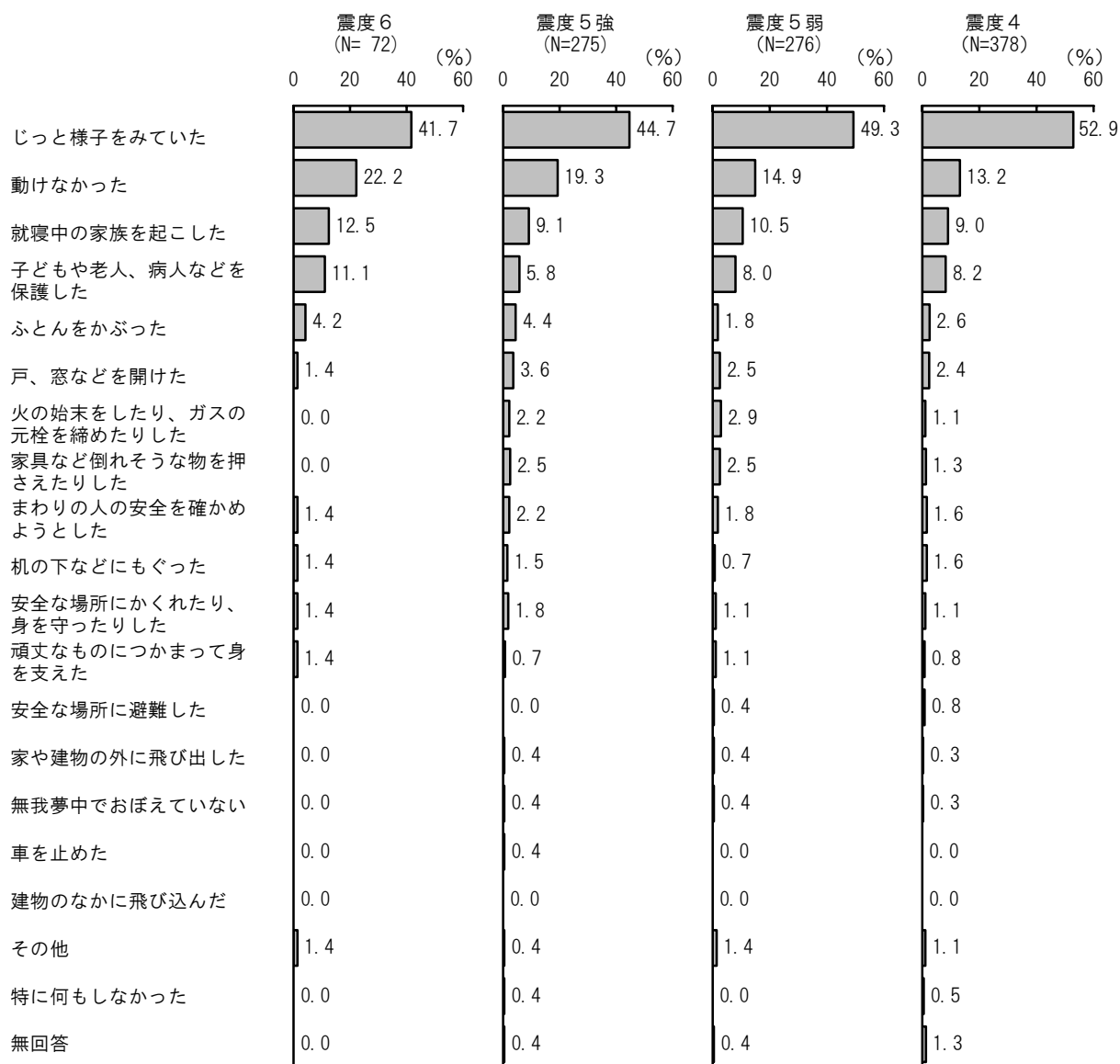
※平成21年は、8月11日（火）05：07分頃、駿河湾を震源（深さ23km）M6.5の地震

平成13年は、4月3日（火）23：57分頃、静岡県中部を震源（深さ33km）M5.1の地震

この調査項目は平成13年度調査のみ設定した。

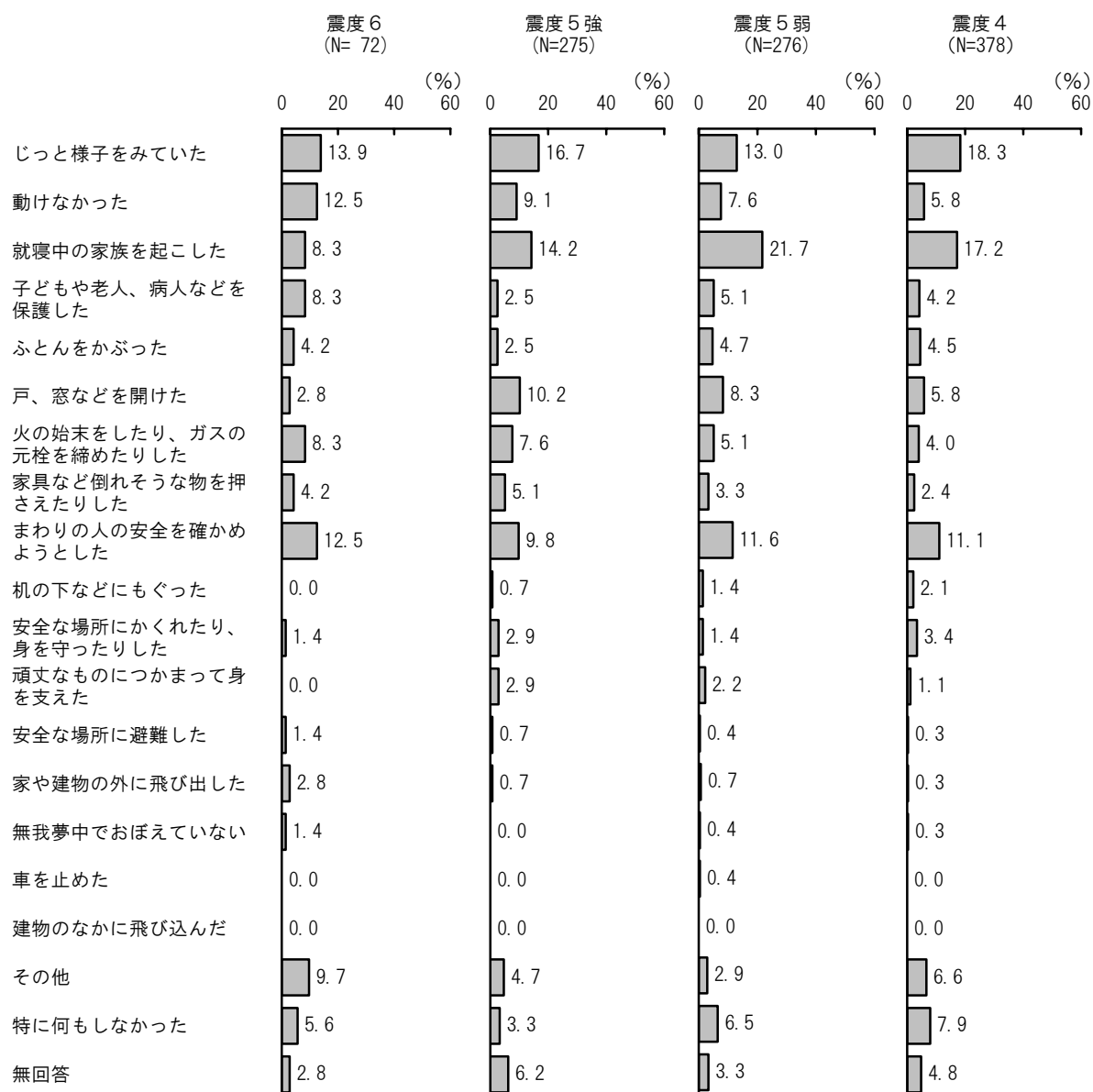
問35で「起きていたので気がついた」または「寝ていたが気がついた」と回答した人にたずねた、地震が起こってから揺れがおさまるまでの間にとった最初の行動を震度別にみると、「じっと様子を見ていた」は、最も高い『震度4』(52.9%)と、最も低い『震度6』(41.7%)では11.2ポイントの差が見られ、震度が小さいほど高い傾向にある。また、「動けなかった」は、最も高い『震度6』(22.2%)と、最も低い『震度4』(13.2%)では9.0ポイントの差が見られ、震度が大きいほど高い傾向にある。

地震が起こってから揺れがおさまるまでの間にとった最初の行動 < 8月11日の震度別 >



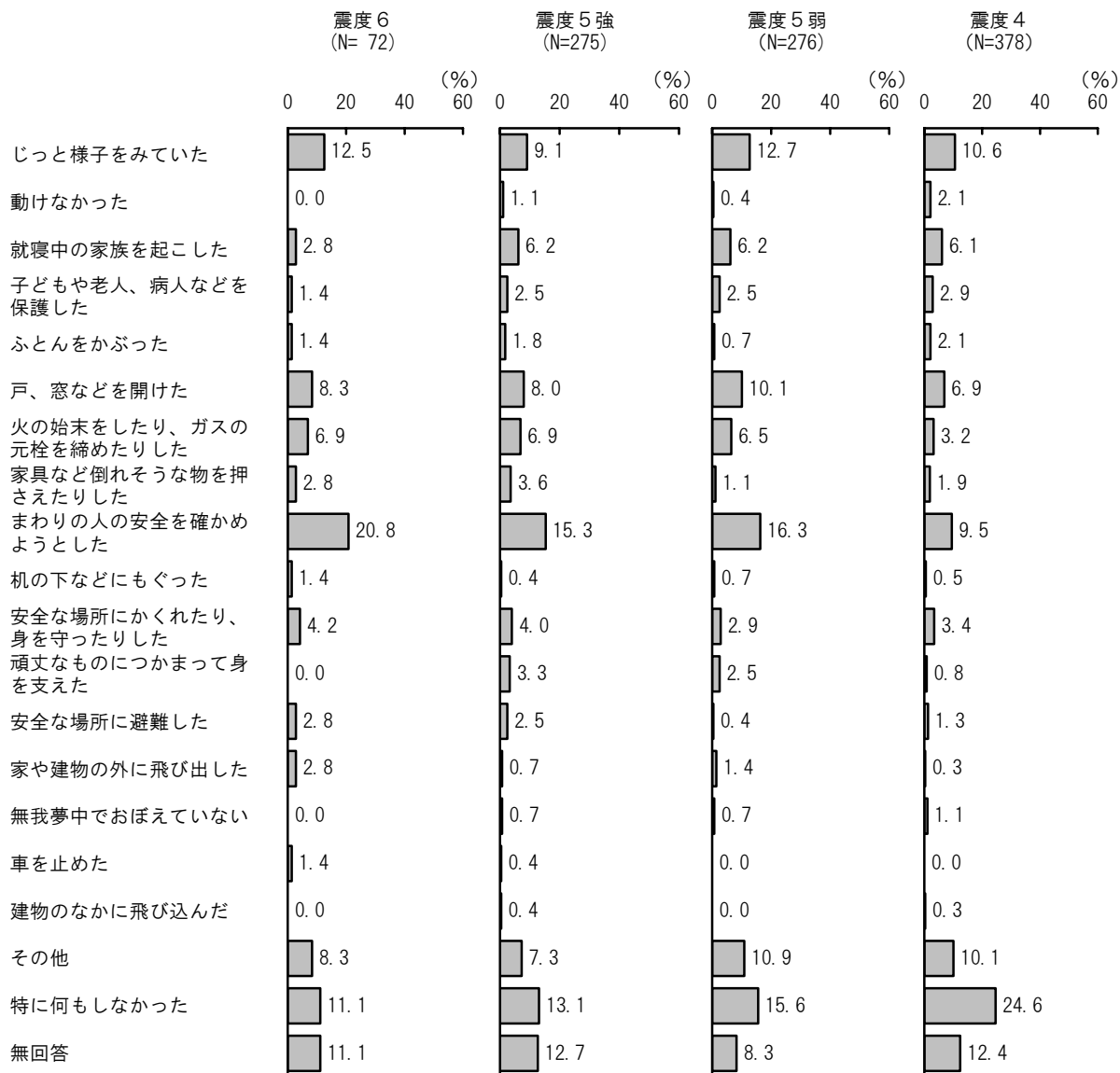
地震が起こってから揺れがおさまるまでの間にとった2番目の行動を震度別にみると、「じっと様子を見ていた」は、『震度6』（13.9%）、『震度5強』（16.7%）、『震度4』（18.3%）で高く、「就寝中の家族を起こした」は、『震度5弱』（21.7%）で最も高くなっている。

地震が起こってから揺れがおさまるまでの間にとった2番目の行動 <8月11日の震度別>



地震が起こってから揺れがおさまるまでの間にとった3番目の行動を震度別にみると、「特に何もしなかった」は、最も高い『震度4』（24.6%）と、最も低い『震度6』（11.1%）では13.5ポイントの差が見られ、震度が小さいほど高い傾向にある。

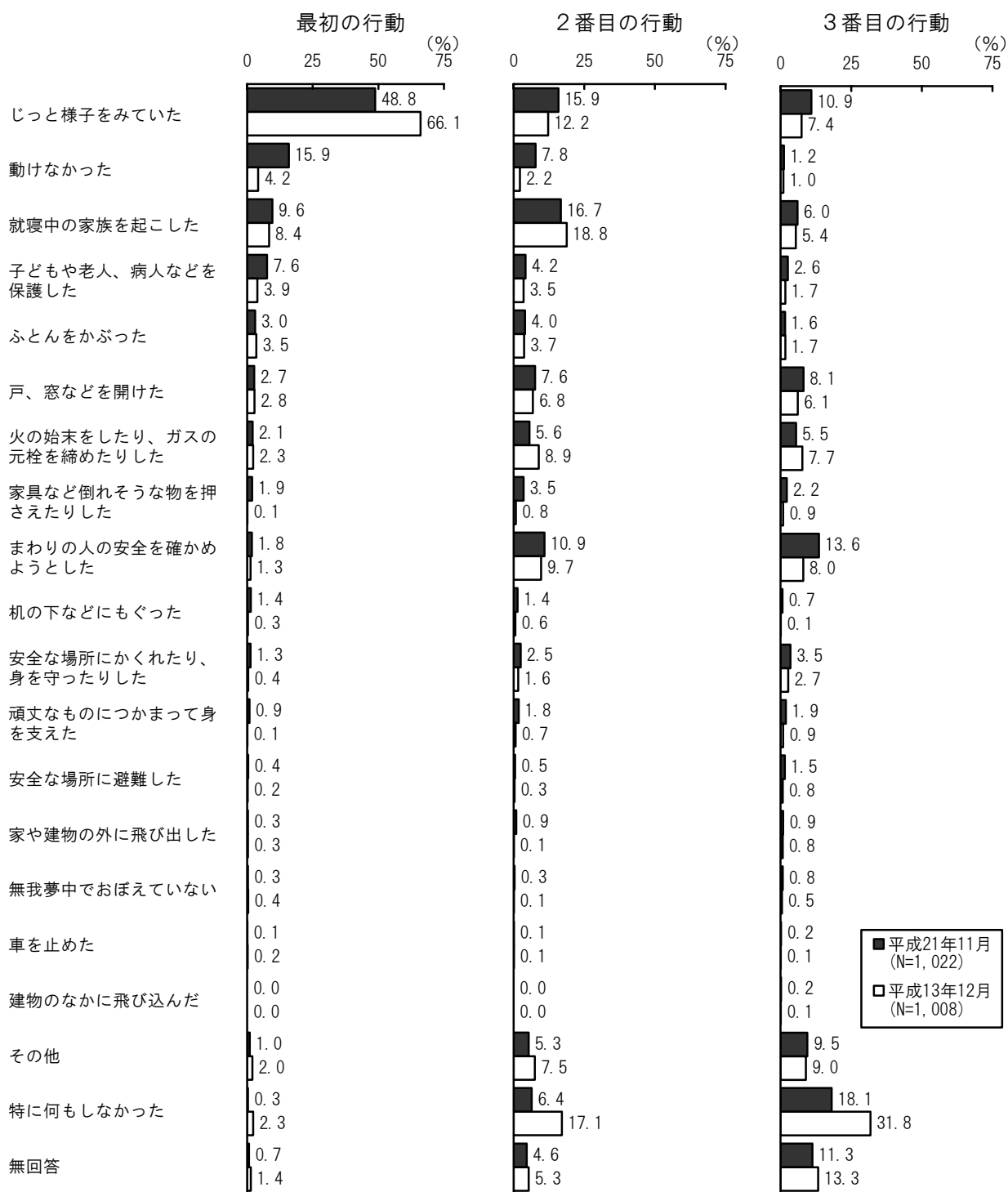
地震が起こってから揺れがおさまるまでの間にとった3番目の行動 <8月11日の震度別>



経年比較でみると、最初の行動については、「じっと様子をみていた」が、『平成13年12月』（66.1%）、『平成21年11月』（48.8%）で高くなっている。2番目の行動については、「就寝中の家族を起こした」が、『平成13年12月』（18.8%）、『平成21年11月』（16.7%）で高くなっている。

3番目の行動については、「まわりの人の安全を確かめようとした」が、『平成21年11月』（13.6%）で高くなっており、『平成13年12月』は、「特に何もしなかった」（31.8%）が3割を超えている。

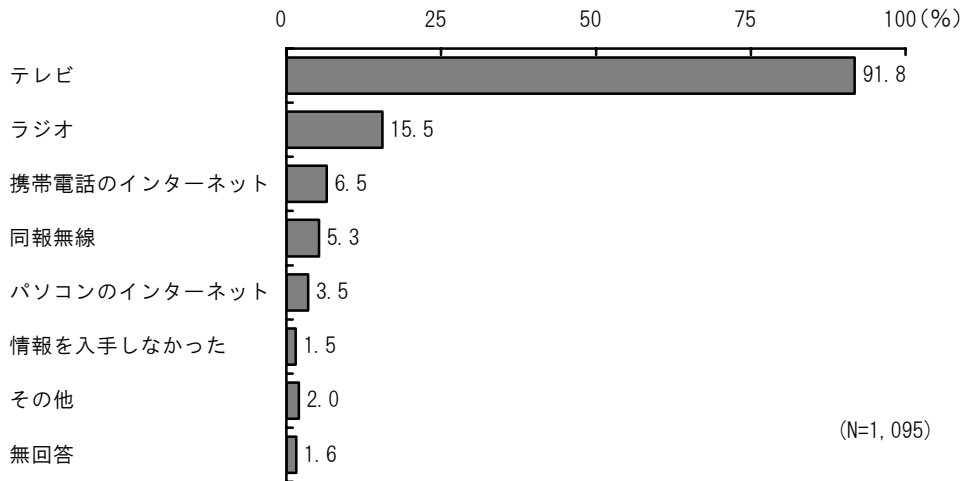
地震が起こってから揺れがおさまるまでの間にとった行動 <経年比較>



この調査項目は平成13年度調査のみ設定した。

9-2 地震直後の情報入手手段

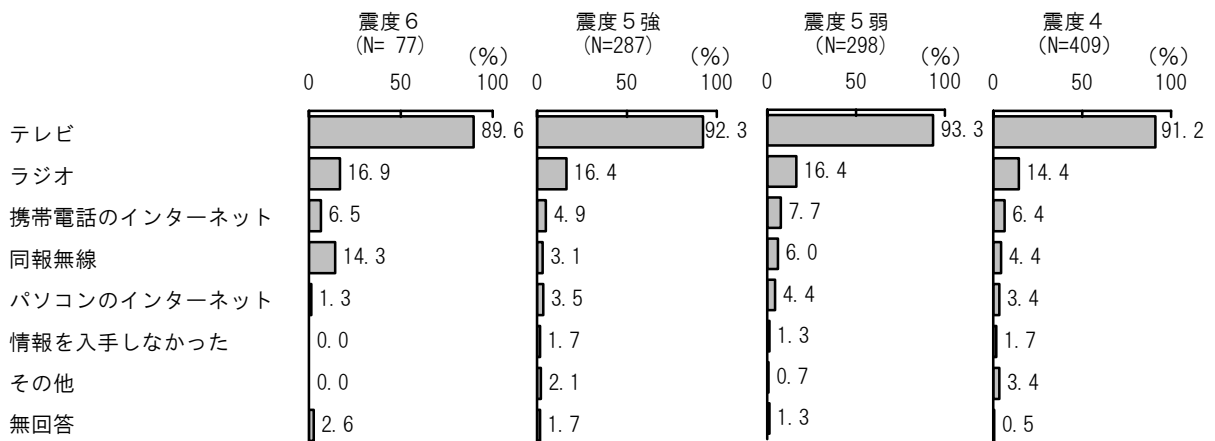
問36 地震直後、あなたはどのような手段で地震の情報を入手しましたか。次の中からあてはまるものをいくつかでもお答えください。(M. A.)



地震直後の情報の入手手段についてたずねたところ、「テレビ」(91.8%)の割合が最も高く、次いで「ラジオ」(15.5%)、「携帯電話のインターネット」(6.5%)の順となっている。

震度別にみると、いずれの震度でも「テレビ」が最も高く、次いで「ラジオ」の順となっている。「同報無線」は、『震度6』(14.3%)で他よりも高くなっている。

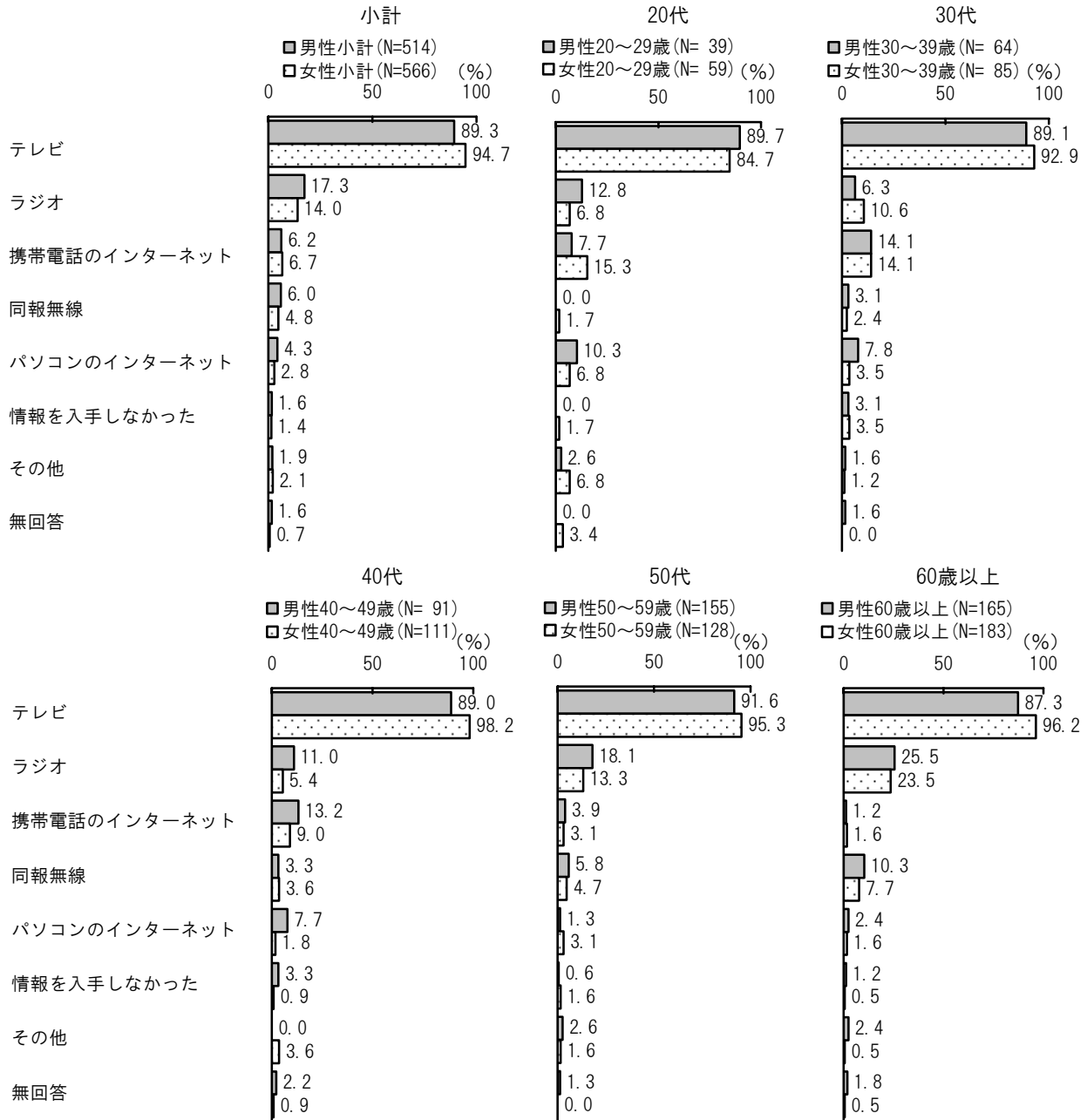
地震直後の情報入手手段 < 8月11日の震度別 >



性・年代別で見ると、いずれにおいても「テレビ」が最も高くなっている。

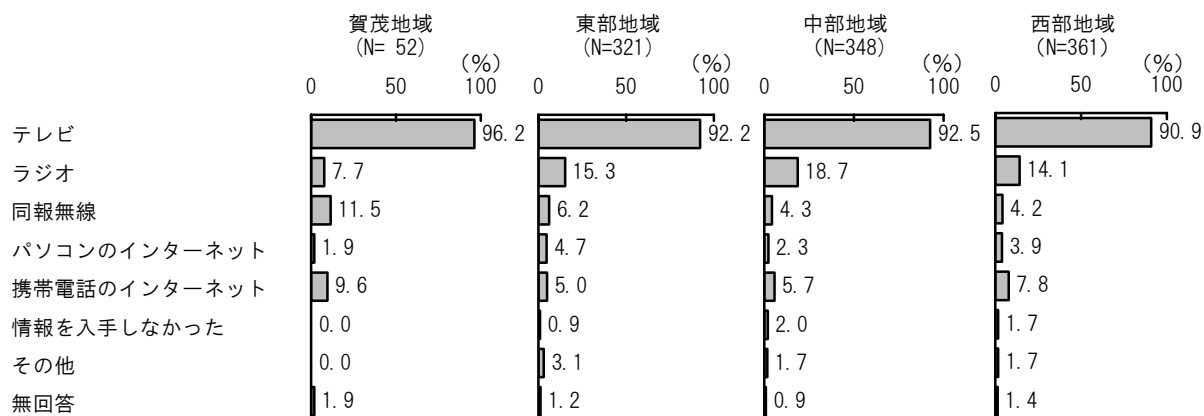
「ラジオ」は、男女ともに『60歳以上』が2割を超えており、最も高い『男性60歳以上』（25.5%）と、最も低い『女性40代』（5.4%）では20.1ポイントの差が見られる。

地震直後の情報入手手段 <性・年代別>



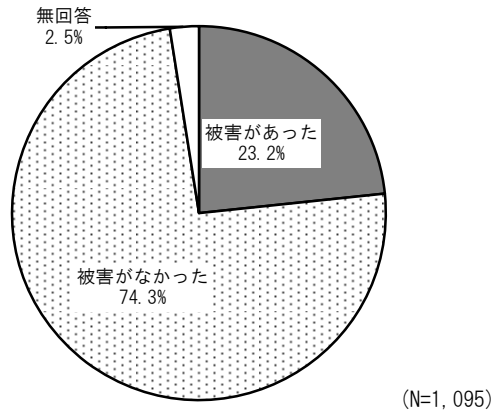
地域別でみると、「ラジオ」は、最も高い『中部』(18.7%)と、最も低い『賀茂』(7.7%)では11.0ポイントの差が見られる。「同報無線」は、最も高い『賀茂』(11.5%)と、最も低い『西部』(4.2%)では7.3ポイントの差が見られる。

地震直後の情報入手手段 <地域別>



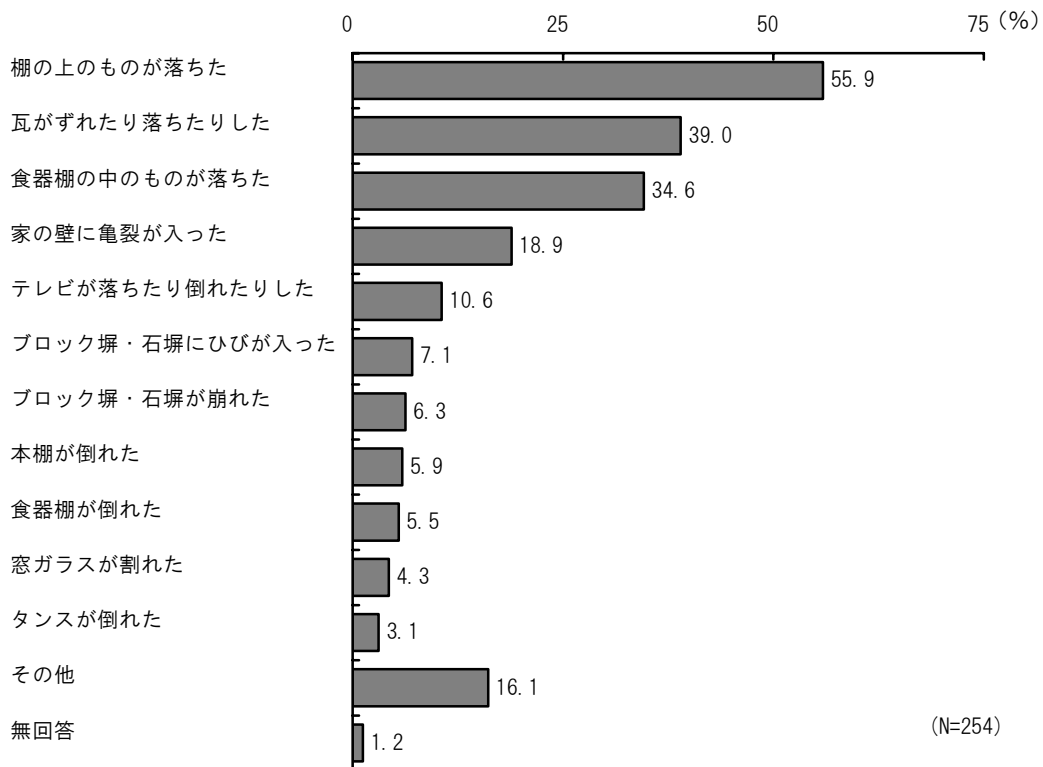
9-3 地震の被害状況

問37 あなたのお宅やまわりで被害がありましたか。



問37-1 <問37で「1 被害があった」を選んだ方にお伺いします。>

どのような被害が発生しましたか。次の中からあてはまるものをいくつでもお答えください。
(M. A.)

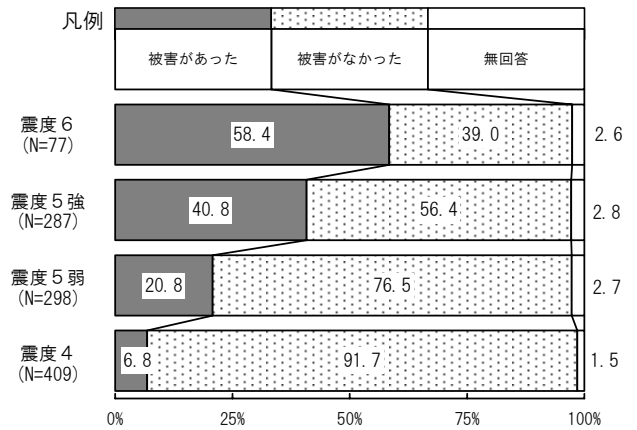


地震の被害状況の有無についてたずねたところ、「被害がなかった」(74.3%)の割合が最も高く、次いで「被害があった」(23.2%)となっている。

問37で「被害があった」と回答した人に、どのような被害が発生したかについてたずねたところ、「棚の上のものが落ちた」(55.9%)が半数を超え、次いで「瓦がずれたり落ちたりした」(39.0%)、「食器棚の中のものが落ちた」(34.6%)の順となっている。

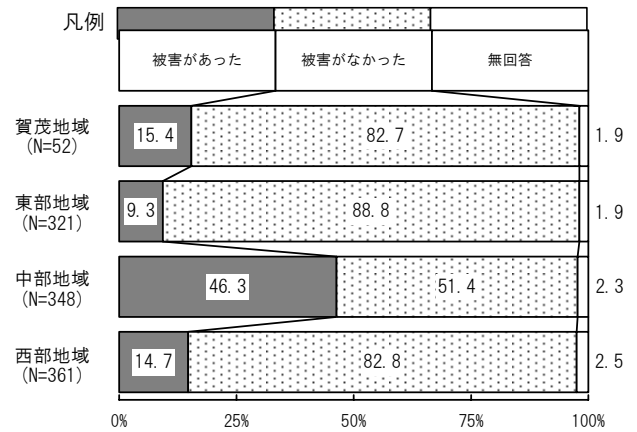
地震の被害状況 < 8月11日の震度別 >

地震の被害状況の有無を震度別にみると、最も高い『震度6』（58.4%）と、最も低い『震度4』（6.8%）では51.6ポイントの差が見られ、震度が大きいほど被害が出ている。



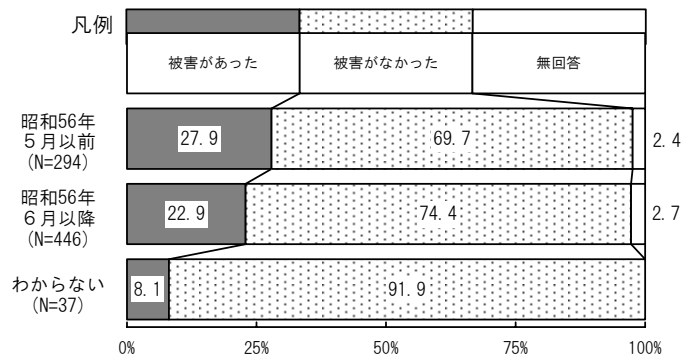
< 地域別 >

地域別でみると、「被害があった」は、『中部』（46.3%）で4割を超えている。



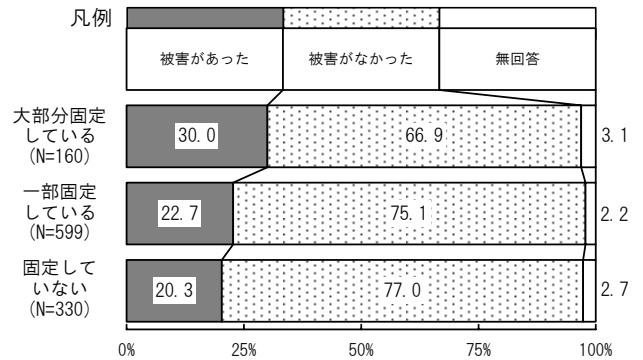
< 木造住宅建築時期別 >

木造住宅建築時期別でみると、「被害があった」は、『昭和56年5月以前』（27.9%）が『昭和56年6月以降』（22.9%）をやや上回っている。



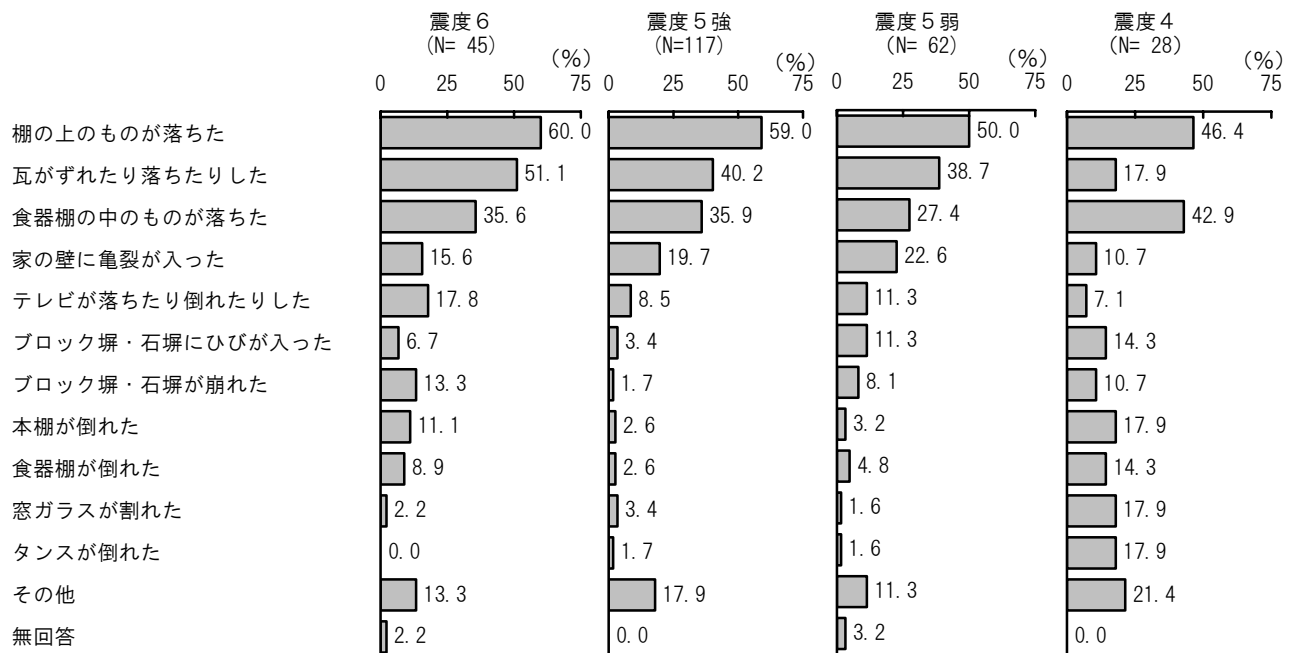
地震の被害状況 ＜家具類の固定実施状況別＞

家具類の固定実施状況別でみると、「被害がなかった」は、最も高い『固定していない』（77.0%）と、最も低い『大部分固定している』（66.9%）では10.1ポイントの差が見られる。



問37で「被害があった」と回答した人に、被害内容についてたずねたところ、震度別でみるといずれの震度でも「棚の上のものが落ちた」が最も高く、最も高い『震度6』（60.0%）と、最も低い『震度4』（46.4%）では13.6ポイントの差が見られる。また、「瓦がずれたり落ちたりした」は、『震度6』（51.1%）で半数を超え、最も低い『震度4』（17.9%）とは33.2ポイントの差が見られる。

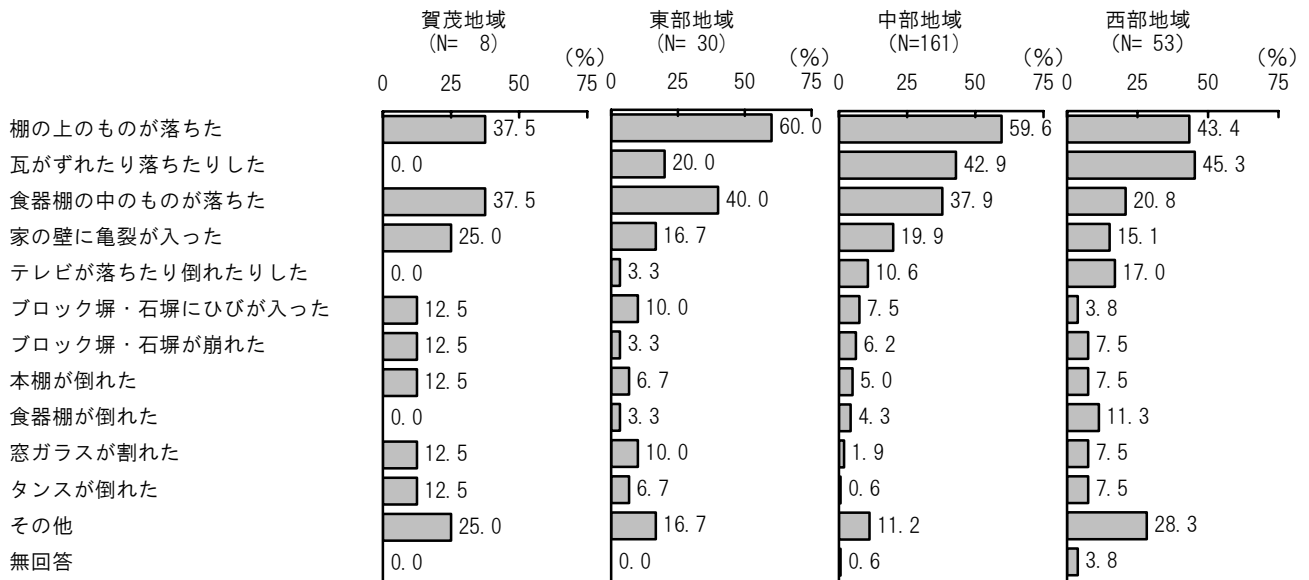
地震の被害内容 ＜8月11日の震度別＞



地域別でみると、「棚の上のものが落ちた」は、最も高い『東部』(60.0%)と、最も低い『賀茂』(37.5%)では22.5ポイントの差が見られる。

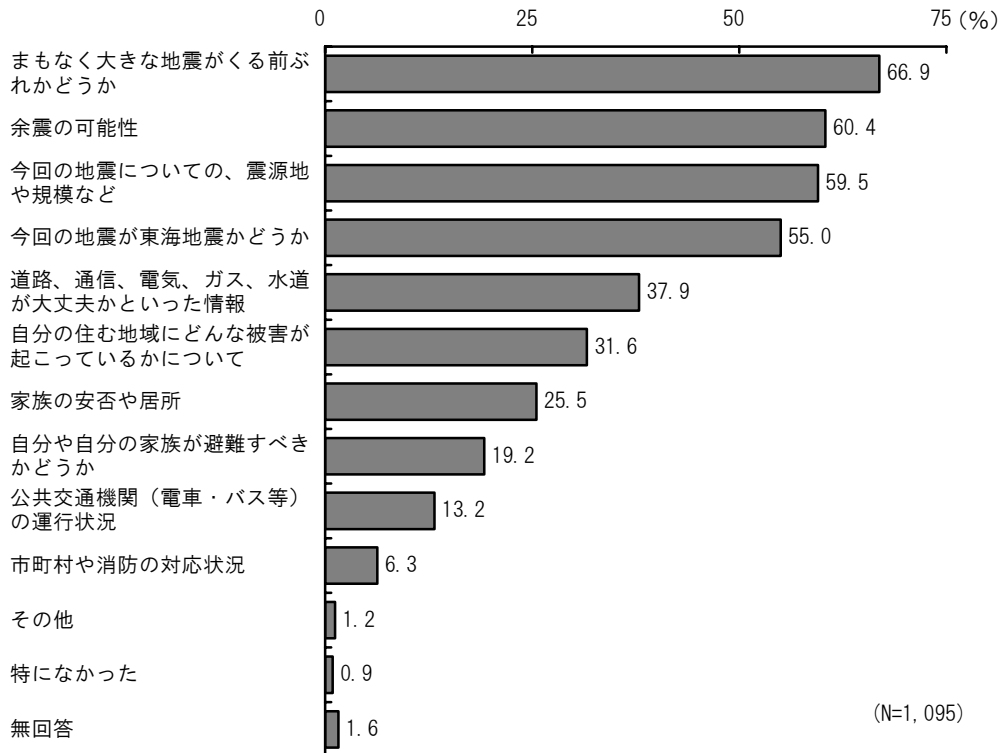
また、「瓦がずれたり落ちたりした」は、最も高い『西部』(45.3%)と、最も低い『賀茂』(0.0%)では45.3ポイントの差が見られる。

<地域別>



9-4 地震直後に入手したい情報

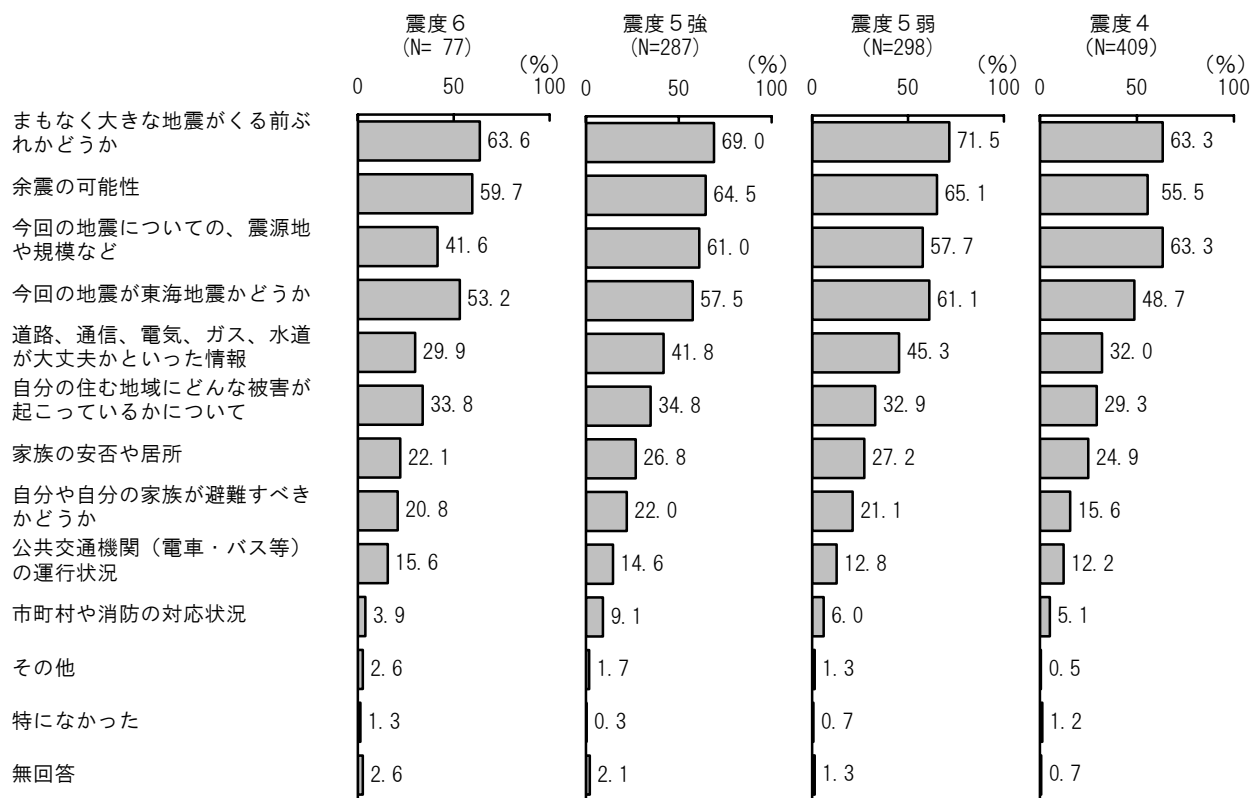
問38 地震直後、あなたはどのようなことを知りたかったですか。次の中からあてはまるものをいくつかもお答えください。(M. A.)



地震直後に知りたいと感じた情報についてたずねたところ、「まもなく大きな地震がくる前ぶれかどうか」(66.9%)の割合が最も高く、次いで「余震の可能性」(60.4%)、「今回の地震についての、震源地や規模など」(59.5%)、「今回の地震が東海地震かどうか」(55.0%)の順となっている。

震度別でみると、「まもなく大きな地震がくる前ぶれかどうか」は、いずれの震度でも最も高く6割を超えている。また、「今回の地震についての、震源地や規模など」は、最も高い『震度4』（63.3%）と、最も低い『震度6』（41.6%）では21.7ポイントの差が見られる。

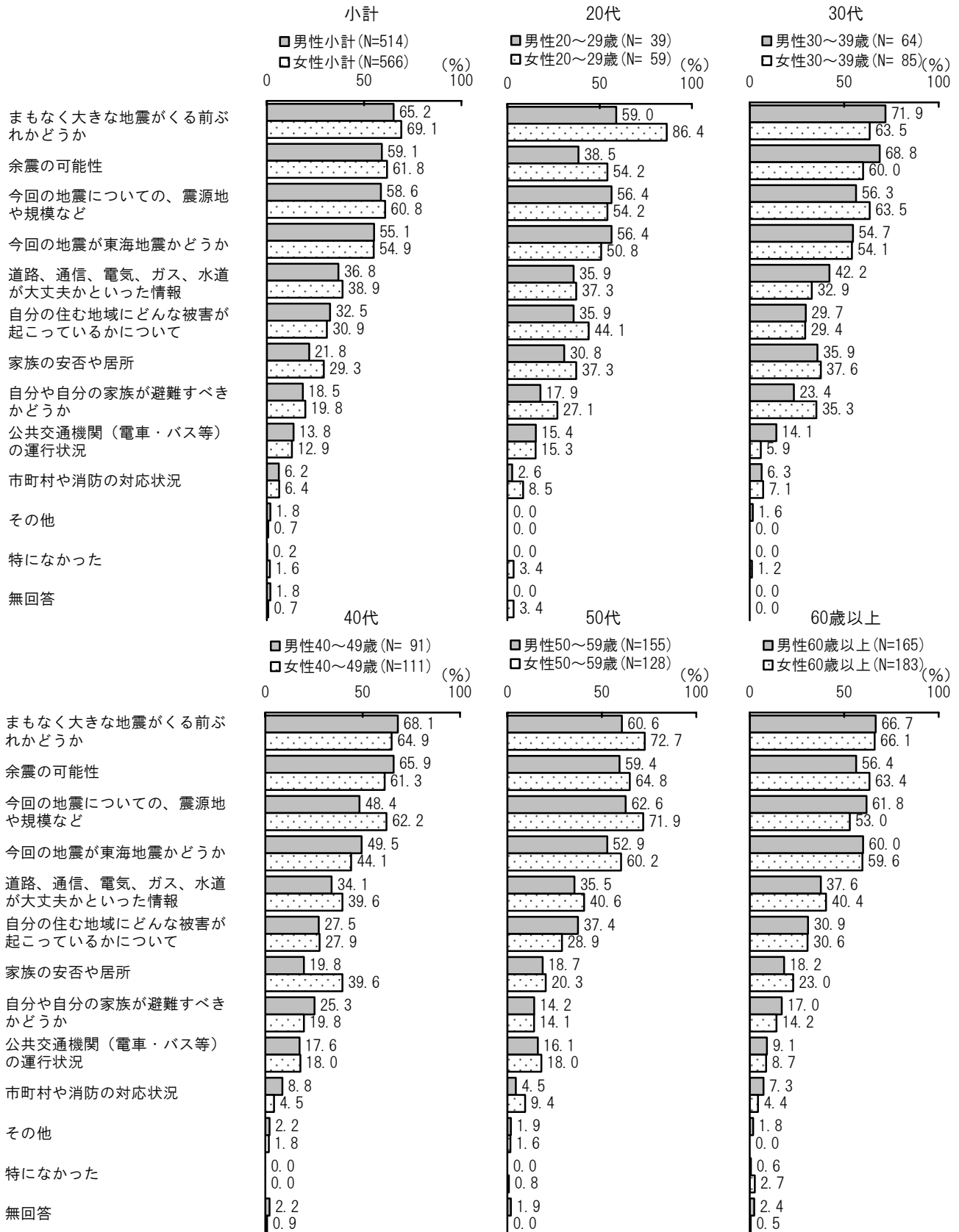
地震直後に入手したい情報 <8月11日の震度別>



性・年代別でみると、「まもなく大きな地震がくる前ぶれかどうか」は、『女性20代』（86.4%）が最も高く、次いで『女性50代』（72.7%）、『男性30代』（71.9%）の順となっている。

「家族の安否や居所」は、『女性40代』（39.6%）が最も高く、次いで『女性30代』（37.6%）、『女性20代』（37.3%）となっている。

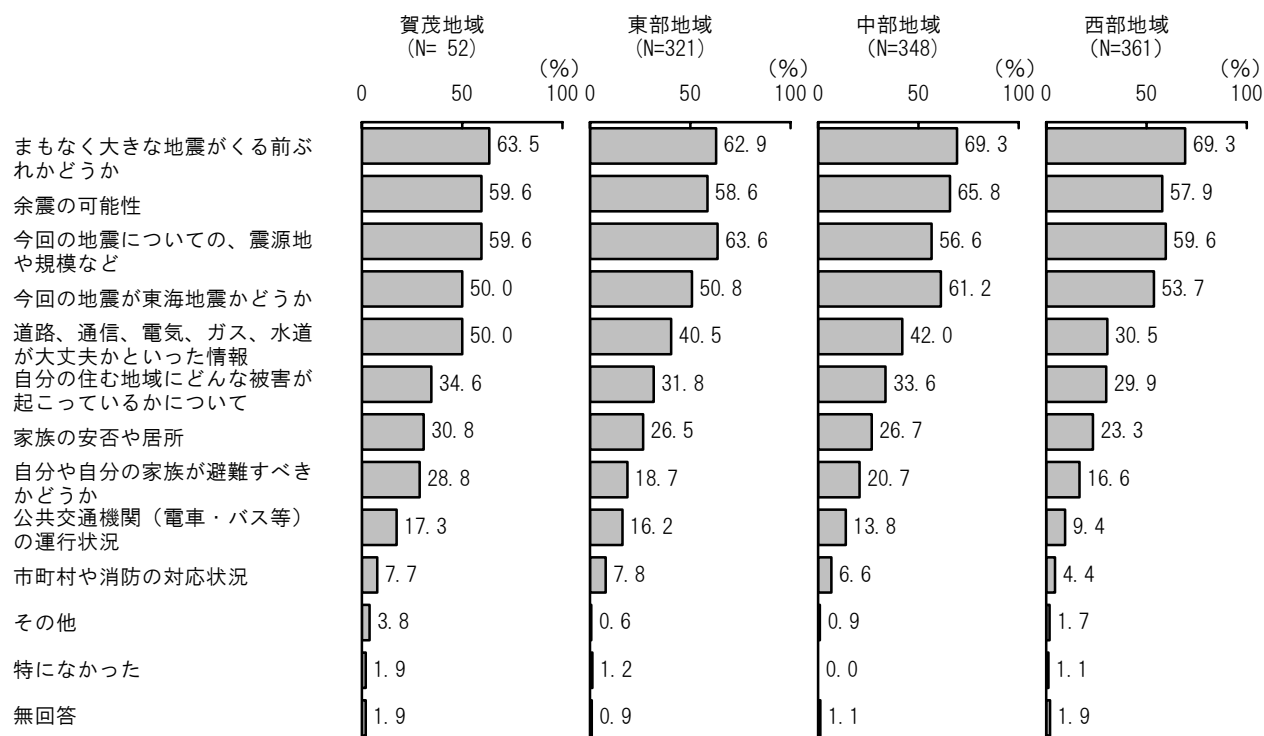
地震直後に入手したい情報 <性・年代別>



地域別でみると、「今回の地震が東海地震かどうか」は、最も高い『中部』(61.2%)と、最も低い『賀茂』(50.0%)では11.2ポイントの差が見られる。

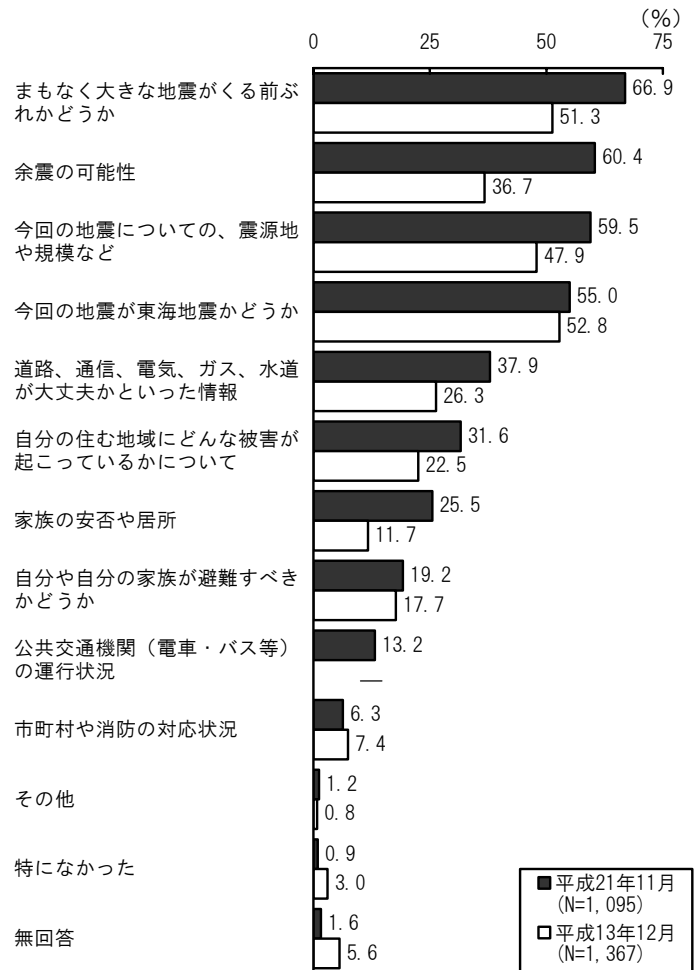
また、「道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫かといった情報」は、最も高い『賀茂』(50.0%)と、最も低い『西部』(30.5%)では19.5ポイントの差が見られる。

地震直後に入手したい情報 <地域別>



地震直後に入手したい情報 <経年比較>

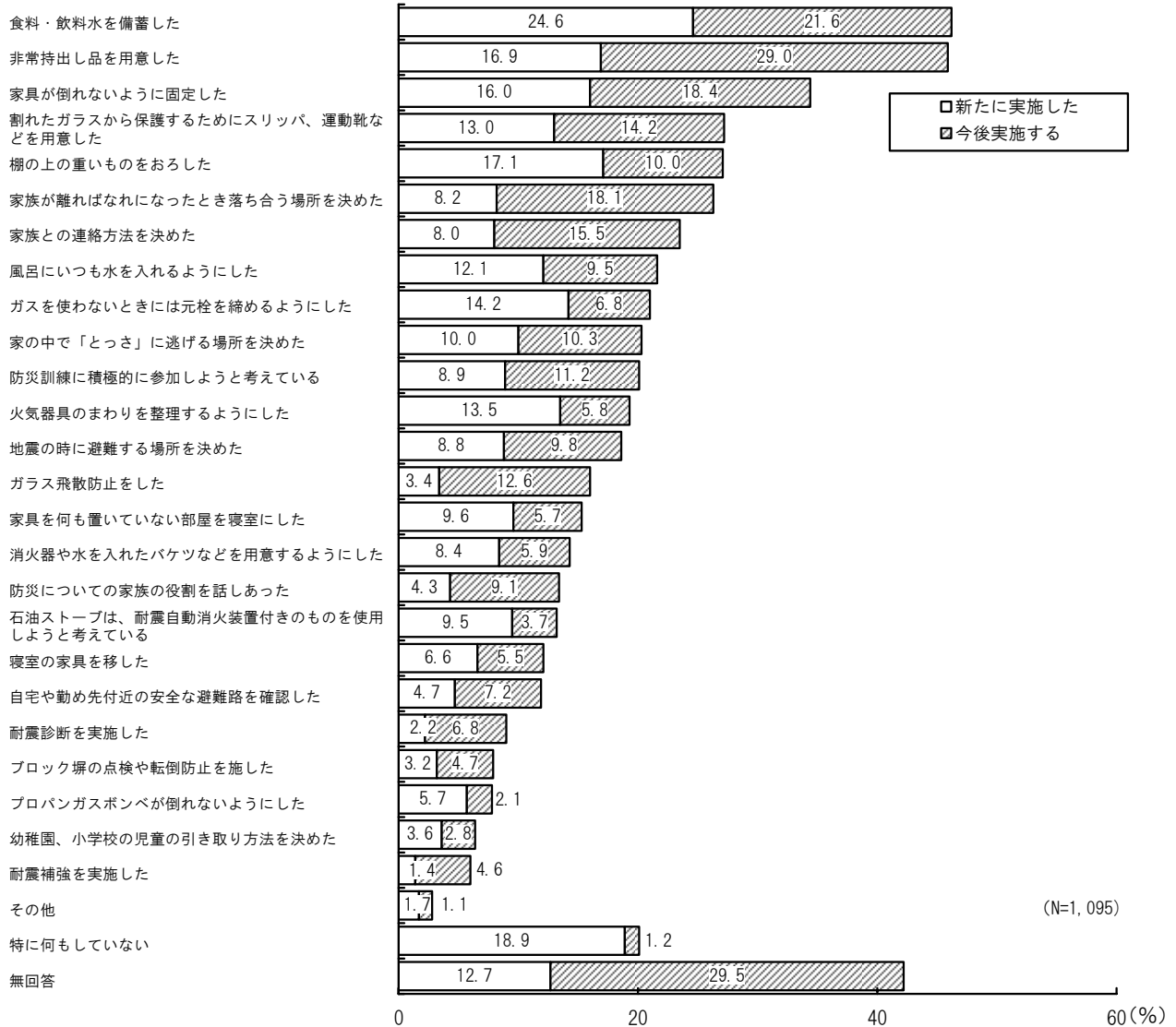
経年比較でみると、「まもなく大きな地震がくる前ぶれかどうか」は、『平成21年11月』（66.9%）と『平成13年12月』（51.3%）では15.6ポイントの差が見られる。「余震の可能性」は、『平成21年11月』（60.4%）と『平成13年12月』（36.7%）では23.7ポイントの差が見られる。



この調査項目は平成13年度調査のみ設定した。

9-5 地震経験後に新たに実施した準備や行動

問39 あなたは、駿河湾を震源とする地震を経験した直後に、防災対策に対する準備や行動で新たに実施したことがありますか。次の中からあてはまるものをA欄にいくつでもお答えください。また、今後、1年間以内（平成22年8月まで）に防災対策に対する準備や行動であらためて実施しようと考えているものがありますか。次の中からあてはまるものをB欄にいくつでもお答えください。（M. A.）



地震経験後に新たに実施した準備や行動について、「新たに実施した」上位5項目をみると、「食料・飲料水を備蓄した」（24.6%）の割合が最も高く、次いで「棚の上の重いものをおろした」（17.1%）、「非常持出し品を用意した」（16.9%）、「家具が倒れないように固定した」（16.0%）、「ガスを使わないときには元栓を締めるようにした」（14.2%）の順となっている。

また、「今後実施する」の上位5項目をみると、「非常持出し品を用意した」（29.0%）が最も高く、次いで「食料・飲料水を備蓄した」（21.6%）、「家具が倒れないように固定した」（18.4%）、「家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた」（18.1%）、「家族との連絡方法を決めた」（15.5%）の順となっている。

「新たに実施した」と「今後実施する」の数字を合わせた項目では、「食料・飲料水を備蓄した」（46.2%）、「非常持出し品を用意した」（45.9%）の2項目が4割を超えている。

新たに実施した準備や行動を震度別で見ると、いずれの震度でも「食料・飲料水を備蓄した」が最も高く、最も高い『震度5弱』（29.2%）と、最も低い『震度4』（21.8%）では7.4ポイントの差が見られる。また、「棚の上の重いものをおろした」は、『震度5強』（21.6%）、「家具が倒れないように固定した」は、『震度6』（22.1%）で2割を超え、他よりもやや高くなっている。

今後実施する予定の準備や行動を震度別で見ると、いずれの震度でも「非常持出し品を用意した」が最も高くなっている。

新たに実施した準備や行動 上位5位 <8月11日の震度別>

	震度6	震度5強	震度5弱	震度4
1位 食料・飲料水を備蓄した	26.0	24.4	29.2	21.8
2位 棚の上の重いものをおろした	16.9	21.6	16.8	13.9
3位 非常持出し品を用意した	16.9	16.0	15.1	19.3
4位 家具が倒れないように固定した	22.1	18.1	13.4	15.9
5位 ガスを使わないときには元栓を締めるようにした	11.7	14.6	14.1	14.7

今後実施する予定の準備や行動 上位5位 <8月11日の震度別>

	震度6	震度5強	震度5弱	震度4
1位 非常持出し品を用意した	27.3	25.1	33.2	29.3
2位 食料・飲料水を備蓄した	14.3	21.3	21.5	23.0
3位 家具が倒れないように固定した	16.9	18.5	20.5	17.4
4位 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	15.6	15.0	24.2	16.9
5位 家族との連絡方法を決めた	11.7	11.8	20.8	15.6

性・年代別でみると、新たに実施した準備や行動の中で、「食料・飲料水を備蓄した」は、全年代を通して『女性』のほうが高い傾向にあり、最も高い『女性30代』（32.9%）と、最も低い『男性50代』（12.9%）では20.0ポイントの差が見られる。また、「ガスを使わないときには元栓を締めるようにした」は、『女性60歳以上』（26.2%）が最も高く、2割を超えている。

一方、今度実施する予定の準備や行動の中で、「非常持出し品を用意した」は、全年代を通して『女性』は3割を超えており、最も高い『女性30代』（44.7%）と、最も低い『男性50代』（19.4%）では25.3ポイントの差が見られる。また、「食料・飲料水を備蓄した」は、最も高い『女性30代』（35.3%）と、最も低い『男性60歳以上』（17.0%）では18.3ポイントの差が見られる。

新たに実施した準備や行動 上位5位 <性・年代別>

	男性小計	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60歳以上
	女性小計	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60歳以上
1位 食料・飲料水を備蓄した	18.7	17.9	23.4	17.6	12.9	23.0
	30.6	27.1	32.9	26.1	32.0	32.2
2位 棚の上の重いものをおろした	15.4	12.8	6.3	18.7	14.2	18.8
	18.9	16.9	10.6	11.7	24.2	24.0
3位 非常持出し品を用意した	13.8	12.8	14.1	15.4	11.0	15.8
	20.1	15.3	18.8	15.3	13.3	30.1
4位 家具が倒れないように固定した	15.6	10.3	10.9	11.0	13.5	23.0
	16.8	23.7	17.6	14.4	14.1	17.5
5位 ガスを使わないときには元栓を締めるようにした	10.3	10.3	6.3	5.5	9.7	15.2
	18.2	16.9	12.9	13.5	14.8	26.2

今後実施する予定の準備や行動 上位5位 <性・年代別>

	男性小計	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60歳以上
	女性小計	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60歳以上
1位 非常持出し品を用意した	23.7	23.1	35.9	24.2	19.4	23.0
	34.6	33.9	44.7	32.4	36.7	30.1
2位 食料・飲料水を備蓄した	20.4	20.5	23.4	26.4	19.4	17.0
	23.3	20.3	35.3	25.2	18.0	21.3
3位 家具が倒れないように固定した	19.8	20.5	17.2	24.2	21.9	16.4
	17.3	16.9	14.1	13.5	21.1	18.6
4位 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	17.1	12.8	25.0	19.8	14.8	15.8
	19.4	13.6	24.7	21.6	14.8	20.8
5位 家族との連絡方法を決めた	15.2	17.9	23.4	14.3	14.8	12.1
	16.3	11.9	21.2	19.8	18.8	11.5

地域別でみると、新たに実施した準備や行動の中で、「棚の上の重いものをおろした」は、最も高い『中部』（22.1%）と、最も低い『賀茂』（11.5%）では10.6ポイントの差が見られる。また、「非常持出し品を用意した」は、最も高い『西部』（19.9%）と、最も低い『賀茂』（5.8%）では14.1ポイントの差が見られる。

一方、今後実施する予定の準備や行動の中で、「家具が倒れないように固定した」は、最も高い『賀茂』（26.9%）と、最も低い『東部』（15.0%）では11.9ポイントの差が見られる。

新たに実施した準備や行動 上位5位 <地域別>

	賀茂	東部	中部	西部
1位 食料・飲料水を備蓄した	23.1	23.1	24.4	26.6
2位 棚の上の重いものをおろした	11.5	14.3	22.1	15.5
3位 非常持出し品を用意した	5.8	16.2	16.7	19.9
4位 家具が倒れないように固定した	11.5	17.1	20.1	12.2
5位 ガスを使わないときには元栓を締めるようにした	19.2	16.8	12.6	13.0

今後実施する予定の準備や行動 上位5位 <地域別>

	賀茂	東部	中部	西部
1位 非常持出し品を用意した	28.8	31.8	28.2	28.0
2位 食料・飲料水を備蓄した	21.2	22.1	19.0	23.8
3位 家具が倒れないように固定した	26.9	15.0	16.7	22.2
4位 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	23.1	18.4	16.1	19.7
5位 家族との連絡方法を決めた	21.2	16.2	11.5	18.6

新たに実施した準備や行動 上位5位 <経年比較>

経年比較でみると、「ガスを使わないときには元栓を締めるようにした」は、『平成13年12月』（17.8%）と『平成21年11月』（14.2%）では、3.6ポイントの差が見られる。

また、「家具が倒れないように固定した」は、『平成21年11月』（16.0%）と『平成13年12月』（9.4%）では6.6ポイントの差が見られる。

今回調査と平成13年12月の調査では選択肢が異なっており、上位5位も結果が異なっている。

平成21年11月調査 上位5位	平成21年 11月	平成13年 12月
1位 食料・飲料水を備蓄した	24.6	-
2位 棚の上の重いものをおろした	17.1	-
3位 非常持出し品を用意した	16.9	14.4
4位 家具が倒れないように固定した	16.0	9.4
5位 ガスを使わないときには元栓を締めるようにした	14.2	17.8

平成13年12月調査 上位5位	平成21年 11月	平成13年 12月
1位 ガスを使わないときには元栓を締めるようにした	14.2	17.8
2位 非常持出し品を用意した	16.9	14.4
3位 風呂にいつも水を入れるようにした	12.1	11.2
4位 火気器具のまわりを整理するようにした	13.5	11.1
5位 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	8.2	11.0

この調査項目は平成13年度調査のみ設定した。

付. 調査票（単純集計入り）

東海地震についての県民意識調査

ご記入にあたってのお願い

- ※ ご記入は、あなた様ご自身がなさるようお願いいたします。
- ※ 全体で20分程度かかります。記入へのご協力をお願いいたします。
- ※ ご記入は、鉛筆又は黒のボールペンでお願いします。
- ※ 回答項目が用意されている質問では、当てはまる回答項目の番号を○で囲んでください。
また、「その他（ ）」に当てはまる場合には、ご面倒でも詳しくご記入ください。
- ※ 回答によっては、次の質問をとばしていくところがありますので、ご注意ください。
- ※ 回答は、すべてコンピューターにより集計・解析しますので、ご回答いただいた方に迷惑をかけることは決してありません。
- ※ ご回答は、誠に恐縮ですが 11月30日(月)までに、ご記入のうえ同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにご返送ください。
- ※ 調査についてのお問い合わせは、次のところをお願いします。

静岡県危機管理局危機情報室（担当：八木、松岡）
静岡市葵区追手町9番6号
054-221-2644

1 東海地震について

※「無回答」は枠外に示しています。

<全ての方にお伺いします。>

問1 あなたは現在、東海地震にどの程度の関心を持っていますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 非常に関心がある 49.8% | 2 多少関心がある 45.8% |
| 3 あまり関心はない 3.5% | 4 全く関心はない 0.4% |

0.5%

<全ての方にお伺いします。>

問2 あなたは、東海地震に対して、2～3年前に比べて関心を持つようになりましたか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------------|---------------|
| 1 2～3年前よりも関心を持つようになった 58.0% | 2 変わらない 38.0% |
| 3 2～3年前よりも関心が薄くなった 2.9% | 4 わからない 0.7% |

0.4%

<全ての方にお伺いします。>

問3 あなたは、東海地震が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。（〇は1つ）

1 よく知っている	8.1%	2 ある程度知っている	62.4%
3 あまり知らない	25.0%	4 まったく知らない	3.9%

0.5%

<問3で「1 よく知っている」「2 ある程度知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問3-1 その知識はどこから入手しましたか。（〇はいくつでも）

1 テレビ・ラジオ	89.8%	2 新聞	53.9%	3 雑誌・本	16.3%
4 自主防災組織	11.0%	5 事業所	2.5%	6 学校	5.1%
7 県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等	25.5%	8 県・市町の講演会	1.8%		
9 県地震防災センター	5.1%	10 県のホームページ	0.8%	11 インターネット	5.4%
12 その他（具体的に					1.0%

0.6%

<全ての方にお伺いします。>

問4 東海地震が起きた場合、あなたのお住まいの家は、どのような被害を受けるとお考えですか。（〇は1つ）

1 被害はほとんどない	6.9%	2 家の一部が壊れる	42.6%
3 家のほとんどが壊れる	26.4%	4 わからない	23.6%

0.5%

<全ての方にお伺いします。>

問5 駿河湾内で東海地震が発生した場合、津波は、一番はやいところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来ると思いますか。（〇は1つ）

1 5分以内	49.7%	2 10分以内	25.9%	3 20分以内	7.5%
4 30分以内	5.7%	5 1時間以内	1.6%	6 わからない	9.2%

0.5%

<全ての方にお伺いします。>

問6 東海地震を中心とした情報を定期的に皆様へ提供する方法について、確実に情報が手に入る方法は次のどれですか。（〇は3つまで）

1 新聞記事	50.8%	2 パンフレットの全戸配布	34.2%	3 新聞の折り込みチラシ	11.3%
4 インターネット	10.4%	5 Eメール（パソコン）での受信	4.1%	6 Eメール（携帯電話）での受信	16.3%
7 県や市町の広報誌	31.2%	8 テレビによる報道	71.9%	9 ラジオによる報道	21.6%
10 「自主防災」新聞	8.3%	11 その他（具体的に			0.6%

0.4%

2 日ごろの防災対策について

<全ての方にお伺いします。>

問7 あなたのお宅では、非常持ち出し用を含めて家族の何日分の食料を用意していますか。(〇は1つ)

1	1日分	16.0%	2	2日分	21.3%	3	3日分	26.0%	4	4日分	0.9%
5	5日分	3.0%	6	6日分	0.7%	7	7日以上	4.3%	8	用意していない	27.1%
											0.6%

<問7で「8 用意していない」を選んだ方にお伺いします。>

問7-1 食料はどのようにして確保するつもりですか。(〇は1つ) ←

1	地震が起きてから準備する	4.4%	2	東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する	18.2%
3	自主防災組織からもらう	7.7%	4	市町役場からもらう	7.7%
5	考えていない	44.8%	6	その他(具体的に)	15.2%
					2.0%

<全ての方にお伺いします。>

問8 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。(〇は1つ)

1	1日分	19.2%	2	2日分	24.0%	3	3日分	21.0%
4	4日分	3.3%	5	5日以上	8.8%	6	備蓄していない	23.2%
								0.5%

<問8で「6 備蓄していない」を選んだ方にお伺いします。>

問8-1 飲料水はどのようにして確保するつもりですか。(〇は1つ) ←

1	地震が起きてから準備する	5.1%	2	東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する	18.1%
3	自主防災組織からもらう	7.9%	4	市町役場からもらう	7.1%
5	考えていない	43.7%	6	その他(具体的に)	15.7%
					2.4%

<全ての方にお伺いします。>

問9 あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。(〇は1つ)

1	大部分固定している	14.6%	2	一部固定している	54.7%	3	固定していない	30.1%
								0.5%

<問9で「3 固定していない」を選んだ方にお伺いします。>

問9-1 なぜですか。(〇は1つ) ←

1	建物や家具を傷めるから	6.4%	2	手間がかかるから	20.0%
3	費用がかかるから	8.2%	4	家具類を置いていない安全な部屋があるから	18.5%
5	固定しなくても大丈夫だと思うから	7.3%	6	固定をしても被害は出ると思うから	15.2%
7	東海地震が起こると思わないから	0.9%	8	借家だから	12.4%
9	その他(具体的に)				8.8%
					2.4%

<全ての方にお伺いします。>

問10 あなたのお宅では、ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。(〇は1つ)

1 点検した	20.7%	2 点検していない	31.8%
3 ブロック塀や門柱などはない	45.8%	4 以前はあったが、危険なので取り壊した	1.2%
		0.5%	

<問10で「1 点検した」を選んだ方にお伺いします。>

問10-1 点検結果はいかがでしたか。(〇は1つ)

1 安全	62.1%	2 安全ではない	22.0%	3 わからない	14.5%
1.3%					

<問10で「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。>

問10-2 どのような理由からですか。(〇は1つ)

1 点検するまでもなく危険だから	4.6%	2 点検方法が分からないから	25.6%
3 費用がかかるから	11.8%	4 借家だから	11.2%
5 手間がかかるから	6.3%	6 点検しなくても大丈夫だと思うから	23.6%
7 防災対策をしても被害が出ると思うから	6.3%	8 東海地震が起こるとは思わないから	0.6%
9 その他(具体的に			6.0%)
4.0%			

<全ての方にお伺いします。>

問11 次にあげるものの中で、東海地震に備えてあなたのお宅で行っているものについて、いくつでもお答えください。(〇はいくつでも)

1 防災についての家族の役割を決めている	2.5%
2 家族との連絡方法を決めている	23.9%
3 警戒宣言が発せられた時の家族の行動を決めている	8.7%
4 警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている	32.4%
5 家族が離ればなれになった時の落ち合う場所を決めている	21.9%
6 ガスを使わないときにはガス栓を閉めている	26.3%
7 火気器具の周りを整理している	21.2%
8 風呂にいつも水を入れている	27.1%
9 消火器などを用意している	42.1%
10 幼稚園や小学校と園児・児童の引き取り方法を決めている	13.1%
11 ガラス飛散防止をしている	8.1%
12 ガスボンベが倒れないようにしている	19.1%
13 非常持出品を用意している	49.8%
14 その他(具体的に	1.5%)
15 特に備えていない	10.0%

問11-1 (5ページ)へ進んでください。

0.8%

<問11で「13 非常持出品を用意している」を選んだ方にお伺いします。>

問11-1 非常持出品として何を用意していますか。(〇はいくつでも)

1 携帯ラジオ	71.2%	2 懐中電灯	92.5%	3 予備の乾電池	33.9%
4 ヘルメット・防災頭巾	40.7%	5 非常食	67.9%	6 飲料水	69.4%
7 ライター・マッチ	48.3%	8 ティッシュペーパー・トイレトペーパー			50.8%
9 ナイフ・かんきり	29.5%	10 スプーン・はし・カップ	28.8%	11 下着・くつ下	29.4%
12 救急薬品・常備薬	41.1%	13 現金	20.6%	14 タオル	47.3%
15 手ぶくろ	47.7%	16 筆記用具・ノート	18.9%	17 雨具	21.1%
18 毛布又は寝袋	20.2%	19 ビニール袋	40.6%	20 リュックサック	53.2%
21 生理用品・おむつ	15.6%	22 くつ・スリッパ	26.6%		
23 その他(具体的に)					6.8%
					0.6%

3 住宅の耐震補強について

昭和56年以前の木造住宅は、古い耐震基準の建物で、予想される東海地震が発生した場合には、立地する地盤等にもよりますが、大きな被害が起こる可能性があります。このことを踏まえた上でお答えください。

<全ての方にお伺いします。>

問12 あなたのお住まいの家は、次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

1 木造住宅	71.4%	2 鉄骨造住宅	15.5%
3 鉄筋コンクリート造住宅	8.6%	4 その他(具体的に)	1.1%
			3.4%

→木造住宅以外の方は、問13(7ページ)へ進んでください。

<問12で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

問12-1 あなたのお住まいの「木造住宅」は、いつ建てられた住宅ですか。(〇は1つ)

1 昭和56年5月以前	37.6%	2 昭和56年6月以降	57.0%	3 わからない	4.7%
					0.6%

<問12で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

問12-2 市町では、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料で実施していることを知っていますか。(〇は1つ)

1 知っている	71.0%	2 知らない	24.2%
			4.9%

問12-3(6ページ)へ進んでください。

<問12で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

問12-3 耐震診断をしたことがありますか。(〇は1つ)

1 ある 12.4%	2 検討中 3.8%	3 ない 80.1%
------------	------------	------------

問13 (7ページ) へ進んでください。

<問12-3で「3 ない」を選んだ方にお伺いします。>

問12-3-1 耐震診断をしないのはなぜですか。(〇は1つ)

1 診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくってあり必要だと思わないから	33.1%		
2 診断するまでもなく、経過年数や構造から見て、安全でないことははっきりしているから	17.3%		
3 診断方法がわからないから	8.9%		
4 手間がかかるから	5.1%	5 費用がかかるから	10.4%
6 診断しても大地震の被害は避けられないと思うから	15.5%		
7 東海地震が起こると思わないから	0.2%		
8 借家だから	4.5%		
9 その他(具体的に	2.7%)		

回答後、問13 (7ページ) へ進んでください。

<問12-3で「1 ある」を選んだ方にお伺いします。>

問12-3-2 結果はいかがでしたか。(〇は1つ)

1 補強が必要 54.6%	2 補強は不要 43.3%
---------------	---------------

問13 (7ページ) へ進んでください。

<問12-3-2で「1 補強が必要」を選んだ方にお伺いします。>

問12-3-3 診断後、補強しましたか。(〇は1つ)

1 した 37.7%	2 検討中 24.5%	3 しない 35.8%
------------	-------------	-------------

問13 (7ページ) へ進んでください。

<問12-3-3で「3 しない」を選んだ方にお伺いします。>

問12-3-4 補強をしないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

1 補強のやり方がわからないから	10.5%	2 費用がかかるから	57.9%
3 手間がかかるから	5.3%	4 工事をどこに頼んだらよいかわからないから	5.3%
5 補強しても大地震の被害は避けられないと思うから	31.6%		
6 借家だから	0.0%		
7 その他(具体的に	26.3%)		

26.3%

<全ての方にお伺いします。>

問13 現在、静岡県では木造住宅の耐震化促進事業『プロジェクト“^{トウカイ}TOUKAI（東海・倒壊）-0（ゼロ）”』を推進しています。この事業の内容は、①専門家による無料耐震診断 ②耐震補強計画策定への補助 ③耐震補強工事への補助の3つの項目からなっています。あなたは、このことをご存知でしたか。（○は1つ）

1 内容までよく知っている	5.8%	2 一部知っている	34.3%
3 名前だけしか知らない	14.3%	4 知らなかった	42.2%

---▶ 問14へ進んでください。

3.3%

<問13で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問13-1 あなたは『プロジェクト“^{トウカイ}TOUKAI（東海・倒壊）-0（ゼロ）”』をどのようにして知りましたか。（○はいくつでも）

1 新聞記事	33.0%	2 県や市町の広報誌	55.7%	3 県や市町のパンフレット	25.2%
4 役所に直接聞いた	1.4%	5 自主防災新聞	13.6%	6 テレビ・ラジオ	32.7%
7 回覧板	16.8%	8 県のホームページ	1.1%	9 市町のホームページ	0.5%
10 市町からのアンケート調査			1.1%	11 その他（具体的に	4.8%

11.4%

<問13で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問13-2 あなたは『プロジェクト“^{トウカイ}TOUKAI（東海・倒壊）-0（ゼロ）”』を知って、どのような行動をされましたか。（○はいくつでも）

1 簡易耐震診断を自分で行った	6.4%	2 専門家による耐震診断を実施した	10.9%
3 耐震補強計画を作成した	0.9%	4 自宅の耐震補強工事を実施した	6.4%
5 今後、自宅の耐震補強をしたいと考えている	8.0%	6 今の自宅を建て替えることにした	3.2%
7 その他（具体的に			5.0%
8 自宅は木造住宅であるが、特に何もしていない			27.5%
9 自宅は木造住宅であるが、耐震性は確保されているので特に何もしていない			17.5%
10 自宅は木造住宅ではないので、特に何もしていない			14.1%

8.2%

<全ての方にお伺いします。>

問14 今後、あなたのお住まいの家の耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがありますか。次の中からあてはまるものをお選びください。（○はいくつでも）

1 相談窓口の設置	33.2%	2 地区ごとの説明会の実施	22.6%
3 専門家の派遣	25.5%	4 耐震補強工事に対する助成制度の拡充	49.9%
5 低金利資金による貸付	23.7%	6 アパート等のオーナーに対する指導	9.0%
7 なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット	24.7%	8 その他（具体的に	1.5%

8.6%

4 自主防災組織・防災訓練について

<全ての方にお伺いします。>

問15 あなたのお宅は、町内会（自治会）組織に入っていますか。（〇は1つ）

1 入っている	92.5%	2 入っていない	3.8%
3 町内会（自治会）組織はない	0.6%	4 わからない	2.3%
0.7%			

<全ての方にお伺いします。>

問16 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。（〇は1つ）

1 入っている	71.8%	2 入っていない	8.3%
3 自主防災組織はない	1.8%	4 わからない	16.5%
1.6%			

<問16で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

問16-1 あなたの地区の自主防災組織の活動は活発ですか。（〇は1つ）

1 活発である	12.7%	2 まあまあ活動している	63.1%	3 あまり活動していない	18.2%
4 活動していない	1.3%	5 わからない	4.7%		
4.7%					

<全ての方にお伺いします。>

問17 自主防災組織の活動をさらに高めるには、県や市町はどのようにすればよいと思いますか。（〇はいくつでも）

1 自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする	62.3%		
2 自主防災組織に活動の場所や施設を提供する	19.6%		
3 自主防災組織の指導者に対して教育を行う	19.0%	4 自主防災組織に対してもっと財政援助を行う	25.2%
5 消防団・近隣事務所など、他の消防関係機関との連携を進める	33.8%		
6 その他（具体的に	2.6%		
4.8%			

<全ての方にお伺いします。>

問18 あなたは、過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。（〇はいくつでも）

1 総合防災訓練（9月1日）に参加した	30.0%	2 地域防災訓練（12月第一日曜日）に参加した	29.0%
3 その他の防災訓練に参加した	19.6%	4 機会がなかった（訓練はなかった）	5.8%
5 参加しなかった	29.0%		
1.9%			

<問18で「1 総合防災訓練（9月1日）に参加した」「2 地域防災訓練（12月第一日曜日）に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問18-1 その防災訓練はどちらで参加しましたか。（〇はいくつでも）

1 自主防災組織（町内会）での訓練に参加した	70.2%	2 職場や学校での訓練に参加した	37.1%
3 その他（具体的に			0.7%
4.3%			

問18-2（9ページ）へ進んでください。

<問18で「5 参加しなかった」を選んだ方にお伺いします。>

問18-2 参加しなかった理由は何ですか。(〇は1つ)

1 仕事や用事があったから	55.7%	2 訓練実施を知らなかったから	10.7%
3 面倒だったから	6.0%	4 参加の必要性を感じないから	6.0%
5 毎回同じ訓練内容だから	6.9%	6 その他(具体的に	13.8%)

0.9%

<全ての方にお伺いします。>

問19 東海地震が予知され警戒宣言が発せられたときや、突然、東海地震が起きたときの避難のため、市町はあらかじめ避難地を指定していますが、あなたはそのことをご存知ですか。(〇は1つ)

1 どこが避難地であるか知っている	73.4%	2 避難地があることは知っている	19.4%
3 知らない	5.9%		

1.3%

<全ての方にお伺いします。>

問20 あなたは避難地で避難生活を送る場合、どのようなことが心配ですか。次の1～11について、あてはまる項目にそれぞれ1つずつ〇をつけてください。

質 問 項 目	非常に心配	ある程度心配	あまり心配はない	全く心配していない (該当しない)	
1 食料や水の問題	47.9%	39.4%	9.2%	1.0%	2.6%
2 日用品(毛布や下着など)の問題	30.1%	52.2%	13.3%	0.9%	3.4%
3 自分や家族が病気になったときの医療問題	59.6%	31.5%	4.7%	0.5%	3.7%
4 乳幼児、高齢者、体の不自由な者がいるので、一般の人と一緒に生活できるか心配	24.7%	25.8%	18.6%	23.3%	7.7%
5 洗濯や入浴の問題	37.4%	47.4%	11.4%	0.8%	3.0%
6 トイレの問題	61.2%	29.5%	6.4%	0.3%	2.6%
7 応急の仮設住宅がいつ建設されるか心配	38.8%	41.0%	15.1%	1.4%	3.7%
8 不安や精神的なストレスのため体調を崩してしまいそうで心配	32.3%	42.3%	19.8%	2.4%	3.2%
9 プライバシーの問題	36.1%	42.8%	16.2%	1.7%	3.2%
10 離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる	58.4%	28.9%	7.5%	1.6%	3.7%
11 ペット(犬や小鳥など)問題	16.8%	13.6%	10.2%	47.9%	11.4%
その他、心配なことがありましたら具体的にお書きください。					

5 東海地震が突然発生したときの行動について

以下の質問は、突然、震度6強（固定していない家具類はほとんど倒れ、足元がさらわれ、立っていることができない状態）以上の地震が起こった場合を想定しておたずねします。

<全ての方にお伺いします。>

問21 平日の午前 11 時頃に突然地震が起こった場合、あなたがまず最初にすることを下記の項目の中から**1つ**選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを**3つ**選んでB欄に○をつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初にすること (○は1つ)	B欄 その次にすること (○は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	40.3%	42.9%
2 電話で情報を確認する	0.5%	3.8%
3 インターネットで情報を確認する	0.3%	2.8%
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える	2.6%	49.7%
5 家の中の整理や火の始末をする	21.4%	33.1%
6 飲料水の用意や風呂に水をためる	1.1%	21.0%
7 家族の安否を確認する（災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等）	15.0%	48.5%
8 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	3.2%	12.5%
9 買出しに行く	0.1%	2.9%
10 預金を引き出しに行く	0.2%	2.2%
11 帰宅する	4.2%	17.0%
12 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	4.4%	10.0%
13 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	4.0%	32.9%
14 その他	0.8%	2.0%
15 何もしない	0.7%	0.0%
	1.3%	2.9%

<全ての方にお伺いします。>

問22 突然、地震が起こった場合、あなたは自主的に地域の防災活動に参加しますか。(○は1つ)

1 参加する 38.3%	2 参加しない 6.4%	3 わからない 53.0%
		2.4%

<全ての方にお伺いします。>

問23 突然、地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。(○は1つ)

1 まず無事だと思う 12.4%	2 軽いけががぐらいはするかもしれない 43.9%
3 大けがをする危険があると思う 16.3%	4 死ぬ恐れもあると思う 24.8%
2.5%	

<全ての方にお伺いします。>

問24 あなたがご自宅にいるときに、突然地震が起こった場合、あなたやご家族は避難しますか。また、避難する場合はどこに避難しますか。(〇は1つ)

1 避難しない	32.8%	2 市町が指定した避難地	46.3%
3 自宅周辺の広場など指定された避難地以外の場所	15.6%	4 親戚、知人宅	1.6%
5 その他(具体的に			1.6%)
			2.0%

<問24で「1 避難しない」以外を選んだ方にお伺いします。>

問24-1 避難する理由は何ですか。(〇は1つ)

1 自宅又はその周辺は、津波や山・がけ崩れのいずれかの危険が予想されるから	10.5%
2 自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから	7.4%
3 自宅の耐震性がないから(自宅が倒壊またはその危険があるから)	22.3%
4 自宅の倒壊の危険はないが、不安だから	26.9%
5 その他(具体的に	5.0%)
	27.9%

6 警戒宣言が発せられたときの行動について

<全ての方にお伺いします。>

問25 あなたが平日の午前11時頃に警戒宣言が発せられたと仮定して、まず最初にすることを下記の項目の中から**1つ**選び、A欄に〇をつけてください。また、その次にすることを**3つ**選んでB欄に〇をつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初にすること (〇は1つ)	B欄 その次にすること (〇は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	52.4%	34.0%
2 電話で情報を確認する	0.4%	3.5%
3 インターネットで情報を確認する	0.8%	4.7%
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える	5.2%	55.2%
5 家の中の整理や火の始末をする	14.6%	38.1%
6 飲料水の用意や風呂に水をためる	0.7%	33.1%
7 家族と電話で連絡をとる	8.9%	46.6%
8 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	3.1%	13.2%
9 買出しに行く	0.5%	5.6%
10 預金を引き出しに行く	0.1%	2.7%
11 帰宅する	5.2%	16.0%
12 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	3.8%	8.5%
13 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	2.2%	21.7%
14 その他	0.6%	1.7%
15 何もしない	0.3%	0.0%
	1.2%	2.5%

<全ての方にお伺いします。>

問26 あなたのお宅は、警戒宣言が発せられたとき、避難が必要な地域ですか。(〇は1つ)

1 避難が必要な地域	24.9%	2 避難する必要のない地域	24.2%	3 わからない	48.5%
					2.4%

<全ての方にお伺いします。>

問27 あなたやご家族は、自宅にいて警戒宣言が発せられた場合、避難しますか。(〇は1つ)

1 市町で指定した避難地	50.4%	2 指定された避難地以外の安全な場所	7.3%		
3 親戚、知人宅	1.6%	4 自宅にいる	37.6%	5 その他(具体的に	1.1%
					2.0%

<問27で「1 市町で指定した避難地」「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問27-1 避難するときの交通手段は何ですか。(〇は1つ)

1 徒歩	85.1%	2 自転車	1.8%	3 原付・バイク	0.5%	4 自家用車	6.2%
5 公共交通機関(電車・バス・タクシー等)	0.0%	6 その他(具体的に	0.0%				6.5%

<問27-1で「4 自家用車」を選んだ方にお伺いします。>

問27-1-1 なぜ自家用車で避難するのですか。(〇は1つ)

1 避難地が遠いから	15.0%	2 子供や高齢者がいるから	42.5%	3 早く避難できるから	15.0%
4 荷物も運びたいから	15.0%	5 その他(具体的に	10.0%		
					2.5%

<問27で「1 市町で指定した避難地」を選んだ方のみにお伺いします。>

問27-2 避難地での生活はどのようになると感じますか。(屋外・屋内など)(〇は1つ)

1 屋外でのテント生活になると思う	8.2%	
2 体の丈夫な人は屋外になると思うが、お年寄りや病人は屋内での生活になると思う	11.7%	
3 体育館や学校校舎など屋内での生活になると思う	54.2%	
4 わからない	11.4%	
		14.5%

<問27で「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」「4 自宅にいる」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問27-3 市町で指定した避難地へ避難しない理由は何ですか。(〇は1つ)

1 避難地が遠すぎるから	6.1%	2 避難地へ行く途中の道に危険なところがあるから	6.9%
3 避難地自体が安全だと思わないから	13.0%	4 避難地での生活が野外のテント生活になると思うから	3.7%
5 どこが避難地なのか知らないから	5.9%		
6 避難の際、住民の間でパニックなどの混乱が予想されるから	9.8%		
7 高齢者や病人がいるから	9.2%	8 自主防災組織などの避難誘導體制が不十分であるから	1.2%
9 避難地ではプライバシーが守れないから	6.1%		
10 その他(具体的に	18.1%	0.2%	

7 地震に関する情報について

<全ての方にお伺いします。>

問28 東海地震に関連する情報として「東海地震観測情報」「東海地震注意情報」「東海地震予知情報（警戒宣言）」の3つがあります。あなたは、このことをご存知でしたか。（○は1つ）

1 情報の詳しい内容まで知っている	6.8%	2 情報名は知っているが内容までは知らない	64.5%
3 全く知らなかった	27.5%		
			1.2%

<全ての方にお伺いします。>

問29 あなたは、現時点で東海地震は予知できると思いますか。（○は1つ）

1 完全に予知できると思う	0.6%	2 8割以上の確率で予知できると思う	8.8%
3 5割くらいの確率で予知できると思う	20.0%	4 全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う	59.3%
5 予知はできないと思う	10.3%		
			1.0%

<全ての方にお伺いします。>

問30 「警戒宣言」を発するには至らないが、東海地震の前兆現象が起きている可能性が高いと認められたとき、気象庁から「東海地震注意情報」が発表されます。このような場合に、まず最初にすることを下記の項目の中から**1つ**選び、A欄に○をつけてください。また、その次にすることを**3つ**選んでB欄に○をつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初にすること (○は1つ)	B欄 その次にすること (○は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	61.6%	26.9%
2 電話で情報を確認する	0.4%	3.8%
3 インターネットで情報を確認する	1.7%	7.6%
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える	7.3%	60.7%
5 家の中の整理や火の始末をする	8.0%	41.2%
6 飲料水の用意や風呂に水をためる	1.5%	39.4%
7 家族と電話で連絡をとる	8.0%	43.8%
8 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	1.8%	9.5%
9 買出しに行く	1.4%	15.3%
10 預金を引き出しに行く	0.5%	6.3%
11 帰宅する	3.1%	13.1%
12 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	2.2%	5.5%
13 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	0.7%	11.1%
14 その他	0.2%	1.0%
15 何もしない	0.4%	0.0%
	1.2%	2.3%

<全ての方にお伺いします。>

問31 「東海地震注意情報」が発表された場合、県や市町にどのような対応を望みますか。(〇は2つまで)

1 情報発表後に予想される社会的混乱(交通・通信・物価等)を防止してほしい	43.6%
2 地震発生までの県民のとるべき行動の広報・啓発をしてほしい	38.4%
3 地震が発生した後の県民のとるべき行動の広報・啓発をしてほしい	25.2%
4 避難所の開設準備をすすめてほしい	19.4%
5 緊急物資(食料・飲料水・医薬品等)を準備してほしい	53.7%
6 消防水利や山・がけ崩れ等、地域の安全点検を実施してほしい	6.8%
7 その他(具体的に	0.4%)
	1.7%

<全ての方にお伺いします。>

問32 次の1~19の項目について「はい」「いいえ」の欄に〇をつけてください。

質 問 項 目	はい	いいえ	
1 「自主防災」新聞を読んだことがある	63.7%	35.4%	0.9%
2 自主防災組織の研修会に参加したことがある	21.6%	77.3%	1.1%
3 市町が避難対象地区の指定をしていることを知っている	54.6%	44.1%	1.3%
4 避難地・避難路の整備がされていることを知っている	35.9%	62.3%	1.8%
5 防潮堤、防波堤、山崩れ防止工事など防災施設の整備がされていることを知っている	45.2%	53.0%	1.8%
6 市町が津波避難ビルの指定をしていることを知っている	18.3%	79.7%	2.0%
7 避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある	52.4%	46.2%	1.4%
8 町内の防火のための水利(いざというときに利用する水源)を知っている	37.4%	61.3%	1.4%
9 町内の防災倉庫がある場所を知っている	73.2%	25.7%	1.1%
10 地震防災ビデオを見たことがある	39.1%	59.8%	1.1%
11 地震体験車(起震車)などで地震の疑似体験をしたことがある	37.3%	61.6%	1.2%
12 地震防災に関する講演会等に参加したことがある	21.5%	77.1%	1.5%
13 静岡県地震防災センター(静岡市葵区駒形通)に行ったことがある	11.5%	86.9%	1.6%
14 建物の耐震対策について市町や県の土木事務所に相談窓口があることを知っている	32.7%	66.2%	1.1%
15 災害用伝言ダイヤル「171」を知っている	62.7%	36.1%	1.2%
16 地震防災に関するパンフレットを読んだことがある	71.6%	27.2%	1.2%
17 11月が地震防災強化月間であることを知っている	22.6%	76.2%	1.2%
18 「静岡県地震対策推進条例」があることを知っている	18.5%	80.2%	1.3%
19 「命のパスポート」を知っている	10.9%	87.9%	1.3%

8 緊急地震速報について

緊急地震速報とは、地震の強い揺れが来ることを、揺れる前にお知らせする情報です。
平成19年10月1日から、気象庁からテレビなどを通じて提供されています。

<全ての方にお伺いします。>

問33 あなたは、緊急地震速報について知っていましたか。(〇は1つ)

1 名前も内容も知っていた	51.5%	2 名前は知らなかったが内容は知っていた	12.1%
3 名前は知っていたが内容は知らなかった	26.9%	4 名前も内容も知らなかった	7.2%

2.2%

<問33で「1 名前も内容も知っていた」「2 名前は知らなかったが内容は知っていた」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問33-1 緊急地震速報は、揺れの大きさの予想などに誤差が含まれる情報であることをご存知ですか。(〇は1つ)

1 知っている	65.9%	2 知らない	20.4%
---------	-------	--------	-------

13.8%

<問33で「1 名前も内容も知っていた」「2 名前は知らなかったが内容は知っていた」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問33-2 あなたは、緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良いか考えたことはありますか。(〇は1つ)

1 考えたことがある	67.3%	2 考えたことがない	28.3%
------------	-------	------------	-------

4.4%

<全ての方にお伺いします。>

問34 あなたは、屋内で緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動しますか。(〇は1つ)

1 その場で身の安全を図る	74.0%	2 屋外へ避難する	20.5%
3 何もしない	1.6%	4 その他(具体的に)	2.4%

1.6%

9 8月11日に発生した駿河湾を震源とする地震について

平成21年8月11日(火)05:07分頃、駿河湾を震源(深さ23km)とするマグニチュード6.5の地震が発生しました。
その地震についておたずねします。

<全ての方にお伺いします。>

問35 あなたは、その地震に気がつきましたか。(〇は1つ)

1 起きていたので気がついた	20.9%	2 寝ていたが気がついた	72.4%
3 寝ていたので気がつかなかった	1.7%	4 その他()	0.7%
			4.2%

<問35で「1 起きていたので気がついた」「2 寝ていたが気がついた」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

▶ 問35-1 地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、あなたはとっさにどんなことができましたか。

あなたがとった行動を、最初にしたものから順に3つまでお答えください。

(〇はA・B・Cの欄にそれぞれの項目ごとに1つづつ)

選 択 項 目	A欄 最初の行動	B欄 2番目の行動	C欄 3番目の行動
1 じっと様子をみていた	48.8%	15.9%	10.9%
2 動けなかった	15.9%	7.8%	1.2%
3 ふとんをかぶった	3.0%	4.0%	1.6%
4 机の下などにもぐった	1.4%	1.4%	0.7%
5 就寝中の家族を起こした	9.6%	16.7%	6.0%
6 火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした	2.1%	5.6%	5.5%
7 家具など倒れそうな物を押さえたりした	1.9%	3.5%	2.2%
8 安全な場所にかくれたり、身を守ったりした	1.3%	2.5%	3.5%
9 頑丈なものにつかまって身を支えた	0.9%	1.8%	1.9%
10 子どもや老人、病人などを保護した	7.6%	4.2%	2.6%
11 戸、窓などを開けた	2.7%	7.6%	8.1%
12 家や建物の外に飛び出した	0.3%	0.9%	0.9%
13 建物のなかに飛び込んだ	0.0%	0.0%	0.2%
14 安全な場所に避難した	0.4%	0.5%	1.5%
15 車を止めた	0.1%	0.1%	0.2%
16 まわりの人の安全を確かめようとした	1.8%	10.9%	13.6%
17 無我夢中でおぼえていない	0.3%	0.3%	0.8%
18 その他(具体的に:)	1.0%	5.3%	9.5%
19 特に何もしなかった	0.3%	6.4%	18.1%
	0.7%	4.6%	11.3%

<全ての方にお伺いします。>

問36 地震直後、あなたはどのような手段で地震の情報を入手しましたか。

次のなかからあてはまるものをいくつでもお答えください。(〇はいくつでも)

1 テレビ	91.8%	2 ラジオ	15.5%
3 同報無線	5.3%	4 パソコンのインターネット	3.5%
5 携帯電話のインターネット	6.5%	6 情報を入手しなかった	1.5%
7 その他(具体的に			2.0%)
			1.6%

<全ての方にお伺いします。>

問37 あなたのお宅やまわりで被害がありましたか。(〇は1つ)

1 被害があった	23.2%	2 被害がなかった	74.3%
			2.5%

<問37で「1 被害があった」を選んだ方にお伺いします。>

問37-1 どのような被害が発生しましたか。

次のなかからあてはまるものをいくつでもお答えください。(〇はいくつでも)

1 ブロック塀・石塀が崩れた	6.3%	2 ブロック塀・石塀にひびが入った	7.1%
2 瓦がずれたり落ちたりした	39.0%	3 家の壁に亀裂が入った	18.9%
4 窓ガラスが割れた	4.3%	5 タンスが倒れた	3.1%
6 食器棚が倒れた	5.5%	7 食器棚の中のもの落ちた	34.6%
8 テレビが落ちたり倒れたりした	10.6%	9 本棚が倒れた	5.9%
10 棚の上のものが落ちた	55.9%		
11 その他の被害(具体的に:			16.1%)
			1.2%

<全ての方にお伺いします。>

問38 地震直後、あなたはどのようなことを知りたかったですか。

次のなかからあてはまるものをいくつでもお答えください。(〇はいくつでも)

1 今回の地震が東海地震かどうか	55.0%
2 まもなく大きな地震がくる前ぶれかどうか	66.9%
3 今回の地震についての、震源地や規模など	59.5%
4 余震の可能性	60.4%
5 自分や自分の家族が避難すべきかどうか	19.2%
6 自分の住む地域にどんな被害が起こっているかについて	31.6%
7 家族の安否や居所	25.5%
8 市町村や消防の対応状況	6.3%
9 道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫かといった情報	37.9%
10 公共交通機関(電車・バス等)の運行状況	13.2%
11 その他(具体的に:	1.2%)
12 特になかった	0.9%
	1.6%

<全ての方にお伺いします。>

問 39 あなたは、駿河湾を震源とする地震を経験した直後に、防災対策に対する準備や行動で新たに実施したことがありますか。次の中からあてはまるものをA欄にいくつでもお答えください。

また、今後、1年間以内（平成 22 年8月まで）に防災対策に対する準備や行動であらためて実施しようと考えているものがありますか。次の中からあてはまるものをB欄にいくつでもお答えください。（〇はA・Bの欄にいくつでも）

質 問 項 目	A欄 実施した	B欄 今後実施する予定
1 家具を何も置いていない部屋を寝室にした	9.6%	5.7%
2 寝室の家具を移した	6.6%	5.5%
3 ガスを使わないときには元栓を締めるようにした	14.2%	6.8%
4 火気器具のまわりを整理するようにした	13.5%	5.8%
5 石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものを使用しようと考えている	9.5%	3.7%
6 風呂にいつも水を入れるようにした	12.1%	9.5%
7 消火器や水を入れたバケツなどを用意するようにした	8.4%	5.9%
8 ガラス飛散防止をした	3.4%	12.6%
9 プロパンガスボンベが倒れないようにした	5.7%	2.1%
10 家具が倒れないように固定した	16.0%	18.4%
11 ブロック塀の点検や転倒防止を施した	3.2%	4.7%
12 防災訓練に積極的に参加しようと考えている	8.9%	11.2%
13 非常持出品を用意した	16.9%	29.0%
14 耐震診断を実施した	2.2%	6.8%
15 耐震補強を実施した	1.4%	4.6%
16 棚の上の重いものをおろした	17.1%	10.0%
17 食料・飲料水を備蓄した	24.6%	21.6%
18 割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意した	13.0%	14.2%
19 防災についての家族の役割を話しあった	4.3%	9.1%
20 家の中で「とっさ」に逃げる場所を決めた	10.0%	10.3%
21 家族との連絡方法を決めた	8.0%	15.5%
22 地震の時に避難する場所を決めた	8.8%	9.8%
23 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	8.2%	18.1%
24 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認した	4.7%	7.2%
25 幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めた	3.6%	2.8%
26 その他（具体的に：)	1.7%	1.1%
27 特に何もしていない	18.9%	1.2%
	12.7%	29.5%

10 あなたやお宅のことについて

<全ての方にお伺いします。>

F 1 性別 (○は1つ)

1 男性	46.9%	2 女性	51.7%
------	-------	------	-------

1.4%

<全ての方にお伺いします。>

F 2 年齢 (○は1つ)

1 20~29歳	8.9%	2 30~39歳	13.6%	3 40~49歳	18.4%
4 50~59歳	25.8%	5 60歳以上	31.8%		

1.4%

<全ての方にお伺いします。>

F 3 職業 (○は1つ)

1 正社員として勤務 (会社員、公務員、医療関係を含む)	34.9%		
2 正社員以外として勤務 (パート、フリーターを含む)	20.3%		
3 自営業 13.2%	4 農林漁業経営者 1.6%	5 学生 1.1%	6 無職 24.8%
7 その他 (具体的に	2.7%)		

1.5%

<全ての方にお伺いします。>

F 4 あなたは、現在のところにお住みになって何年くらいになりますか。(○は1つ)

1 1年未満 4.0%	2 1~10年未満 21.6%	3 10年以上 73.1%
-------------	-----------------	---------------

1.4%

<全ての方にお伺いします。>

F 5 あなたのお宅は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 持家 86.5%	2 借家 4.3%	3 分譲マンション 1.6%
4 賃貸マンション・アパート 5.4%	5 その他 (具体的に	0.8%)

1.5%

<全ての方にお伺いします。>

F 6 あなたのお宅はどのような建物や家財に関わる保険に加入していますか。(○はいくつでも)

1 火災保険 67.7%	2 地震保険 36.0%	3 農協の建物更生共済 (建更) 22.6%
4 家財等の保険 28.5%	5 加入していない 6.2%	6 わからない 6.8%

1.7%

<全ての方にお伺いします。>

F 7 あなたのお宅には次に該当する方がおられますか。(○はいくつでも)

1 小学校に入学する前の子供 14.7%	2 小学生 15.5%	3 65歳以上の方 49.6%
4 日常生活に介護を必要とする方 6.1%	5 妊産婦 1.4%	6 いない 28.3%

5.1%

<全ての方にお伺いします。>

F8 あなたは、近所づきあいをどのようにしていますか。(〇は1つ)

1	ほとんどつきあいが無い	3.0%	2	挨拶をする程度	27.0%
3	ときどき立ち話をする程度	47.3%	4	留守を頼んだり、親しく話をする	21.5%
					1.2%

<全ての方にお伺いします。>

F9 あなたのお住まいの市町はどちらですか。(〇は1つ)

1	下田市	2.8%	2	東伊豆町	0.0%	3	河津町	0.9%			
4	南伊豆町	1.0%	5	松崎町	0.0%	6	西伊豆町	0.0%			
7	沼津市	5.7%	8	熱海市	0.9%	9	三島市	2.9%	10	富士宮市	2.9%
11	伊東市	1.9%	12	富士市	6.1%	13	御殿場市	2.6%	14	裾野市	1.3%
15	伊豆市	1.1%	16	伊豆の国市	1.3%	17	函南町	0.0%	18	清水町	1.2%
19	長泉町	0.7%	20	小山町	0.6%	21	芝川町	0.0%			
22	静岡市	18.8%	23	島田市	2.6%	24	焼津市	3.6%	25	藤枝市	3.9%
26	牧之原市	1.6%	27	吉田町	1.2%	28	川根本町	0.0%			
29	浜松市	19.2%	30	磐田市	5.4%	31	掛川市	2.9%	32	袋井市	1.8%
33	湖西市	1.0%	34	御前崎市	0.7%	35	菊川市	1.4%	36	森町	0.5%
37	新居町	0.0%									

1.2%

質問は以上で終了です。 ご協力ありがとうございました。

**平成21年度 東海地震についての県民意識調査
報告書**

印刷・発行 平成22年1月

発行：静岡県危機管理局危機情報室
静岡県葵区追手町9番6号
TEL (054) 221-2644

分析：(株)サーベイリサーチセンター静岡事務所
静岡県葵区追手町8番1号
TEL (054) 251-3661
